

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第210集

# 宮下遺跡・下懸遺跡Ⅱ・五反田遺跡・惣作遺跡Ⅲ

2018

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第210集

みやした いせき

しもかけ いせき

ご たん だ いせき

そうさく いせき

# 宮下遺跡・下懸遺跡Ⅱ・五反田遺跡・惣作遺跡Ⅲ

2018

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー





# 序

安城市を流れる鹿乗川流域一帯は、碧海台地の縁辺部を中心に、堀内貝塚や姫小川古墳・二子古墳、寺領廃寺など多くの遺跡が存在しており、東海道や矢作川などの交通路を通じ古代より栄えた地域であったことがわかります。特に亀塚遺跡で出土した古墳時代初頭の人面文土器は、当時の習俗を知る上で重要な資料となっております。

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターでは、平成 21 年から 27 年にかけて、鹿乗川の河川改良工事や床上浸水対策特別緊急事業に伴う事前調査として、安城市桜井町・小川町・木戸町に所在する宮下遺跡・下懸遺跡・五反田遺跡・惣作遺跡の発掘調査を行いました。その結果、古墳時代初頭から室町時代にかけての竪穴建物や、河道、方形周溝墓などが見つかりました。また遺物としては人面文が施された線刻土器や、古代の文書木簡や墨書土器、刀把装具やなどの多量の木製品が出土して注目されました。

本書はこれらの成果をまとめたものであり、今後学術的な資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に対して御理解、御協力を賜った関係諸機関並びに地元の皆様、発掘調査や資料整理に参加協力していただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成 30 年 3 月

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

理事長 中野 幹也

## 例 言

1 宮下（みやした）遺跡（遺跡番号 540105：安城市桜井町小社）、下懸（しもかけ）遺跡（遺跡番号 540127：安城市小川町向田ほか）、五反田（ごたんだ）遺跡（遺跡番号 540130：安城市小川町五反田・岩根下）、惣作（そうさく）遺跡（遺跡番号 540132：安城市木戸町惣作）所在する遺跡である。（『愛知県遺跡分布地図Ⅱ（知多・西三河地区）』1995 による）

2 本書は、愛知県建設部河川課が計画する鹿乗川河川改良工事及び床上浸水対策特別緊急事業、交付金事業に伴う事前調査にかかる発掘調査報告書である。発掘調査は愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査対象面積は 10000 m<sup>2</sup>である。

3 発掘調査及び遺物水洗作業は平成 21 年～平成 27 年の 6 カ年に分けて行われ、その後報告書のための整理作業を平成 28・29 年度に実施している。なお出土遺物は、コンテナ総数 143 箱を数える。

4 現地での発掘調査は業務支援を受けて行っている。調査スタッフについては下記のとおりである。

宮下遺跡平成 23 年度調査：株式会社ユニオン

現場代理人 大野哲也、調査補助員 石川郁、測量技師 高橋政伸

宮下遺跡平成 25 年度調査：株式会社アコード

現場代理人 大倉崇、調査補助員 中村毅、測量技師 星英司

下懸遺跡平成 21 年度調査：シン技術コンサル

現場代理人 光松章、調査補助員 安生素明、測量技師 半浦聖

下懸遺跡平成 25 年度 A 区・B 区調査：日本海航測株式会社

現場代理人 徳田光政、調査補助員 村上裕也、測量技師 橋下崇史

下懸遺跡平成 25 年度 C 区調査：株式会社アコード

現場代理人 原田幹夫、調査補助員 西村匡広、測量技師 田村和久

下懸遺跡平成 26 年度調査：株式会社ユニオン

現場代理人 今井規雄、調査補助員 小川幹太、測量技師 沖村高志

下懸遺跡平成 27 年度調査：波多野組

現場代理人 初澤和博、調査補助員 平山優、測量技師 山本竜輔

五反田遺跡平成 22 年度調査：日本海航測株式会社

現場代理人 小林講治、調査補助員 村上裕也、測量技師 菟原雄大

五反田遺跡平成 25 年度調査：日本海航測株式会社

現場代理人 徳田光政、調査補助員 村上裕也、測量技師 橋下崇史

惣作遺跡平成 23 年度調査：日本海航測株式会社

現場代理人 小林講治、調査補助員 竹中庸介、測量技師 橋下崇史

惣作遺跡平成 23 年度調査：国際文化財株式会社

現場代理人 星野賢一、調査補助員 西野順二、測量技師 内田恭司

5 調査にあたっては本センター理事・専門員をはじめ次の各関係機関のご指導とご協力を得た。

愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、安城市教育委員会、安城市埋蔵文化財センター、愛知県建設部河川課

6 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標 VII 系に準拠した。表記は世界測地系を用いている。

7 遺構は以下の分類記号を用い、原則調査時の番号をそのまま使用したが、検討の結果、遺構の種類・性格の変更が必要と認めた場合は、SX (SI) というように新種別を前に、調査時の種別を括弧内に記した。

SA：柵、SB：掘立柱建物、SD：溝、SE：井戸、SK：土坑、SI：竪穴建物、SM：盛り土

SN：水田・畑、SP：ピット、SU：遺物集積、SX：その他の遺構、SZ：方形周溝墓、NR：自然流路、

8 本書の執筆は下記のとおりである。

第2章遺構、第3節下懸遺跡、平成21年度調査(09区) 永井邦仁

第2章遺構、第3節下懸遺跡、平成27年度調査(15区) 松田訓

第3章遺物、第5節木製品 樋上昇

その他は宮腰健司が執筆している。また全体の編集も宮腰が行った。

9 発掘調査及び報告書作成に際して、下記の各氏をはじめ多くの皆様のご協力・ご教示を得た。

浅野啓介、桑田訓也、城ヶ谷和広、中村一郎、西宮秀紀、福岡猛志、古尾谷知浩、山田昌久  
渡辺晃宏(敬称略)

10 写真撮影については写真工房 遊に委託した。

11 発掘調査及び整理については、多数の発掘作業員・整理補助員の皆様のご協力を得た。記して感謝する次第である。

12 調査記録(図面・写真資料・日誌等)は、本センターにて保管している。

13 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

14 添付のCDには本報告書PDF、遺構一覧、遺物一覧、と下記の自然科学分析データを添付している。

下懸遺跡09区流路出土の大型植物遺体：「下懸遺跡から出土した大型植物遺体」

下懸遺跡13C区・15区出土遺物：「放射性炭素年代測定」

惣作遺跡11A区出土の刀把装具：「放射性炭素年代測定」「惣作遺跡出土木製品の樹種同定」

自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボに委託した。

## 目 次

### 第1章 序章

- 第1節 調査の経緯 1
- 第2節 調査の概要 1
- 第3節 遺跡の概要 4

### 第2章 遺構

- 第1節 遺構の記述 6
- 第2節 宮下遺跡 6

#### 平成23年度調査(11区) 6

- 1 調査の概要 6
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 6 (2) 第2面 7

#### 平成25年度調査(13A・13B・13C区) 9

- 1 調査の概要 9
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 9 (2) 第2面 13

#### 第3節 下懸遺跡 14

##### 平成21年度調査(09区)

###### 09A・09B区 14

- 1 調査の概要 14
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 14 (2) 第2面 15

##### 平成21年度調査(09区)

###### 09C区 20

- 1 調査の概要 20
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 21 (2) 第2面 22 (3) 第3面 23

###### 09D区 23

- 1 調査の概要 23
- 2 遺構の概要 (1) 第2・3・4面 23 (2) 第5面 46

#### 平成25年度調査(13A・13B区) 47

- 1 調査の概要
- 2 遺構の概要

#### 平成25年度調査(13C区) 56

- 1 調査の概要 56
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 56 (2) 第2面 59

#### 平成26年度調査(14A区・14B区・14C区・14D区) 65

- 1 調査の概要 65
- 2 遺構の概要 66

#### 平成27年度調査(15区) 69

- 1 調査の概要 69
- 2 遺構の概要 69

#### 第4節 五反田遺跡 74

##### 平成22年度調査(10A区・10B区) 74

- 1 調査の概要 74
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 74 (2) 第2面 74

##### 平成25年度調査(13区) 89

- 1 調査と遺構の概要 89

#### 第5節 惣作遺跡 93

##### 平成23年度調査(11A区・11B区) 93

- 1 調査の概要 93
- 2 遺構の概要 (1) 第1面 93 (2) 第2面 93 (3) 第3面 93

|                                      |           |                                |                             |
|--------------------------------------|-----------|--------------------------------|-----------------------------|
| 平成 24 年度調査 (12 区)                    | 114       |                                |                             |
| 1 調査の概要                              | 114       |                                |                             |
| 2 遺構の概要                              | (1) 第 1 面 | 114                            | (2) 第 2 面 114 (3) 第 3 面 114 |
| 第 3 章 遺物                             |           |                                |                             |
| 第 1 節 遺物の記述                          | 119       |                                |                             |
| 第 2 節 土器・土製品                         | 119       |                                |                             |
| 1 宮下遺跡                               | 119       |                                |                             |
| 平成 23 年度調査 (11 区)                    | 119       | 平成 25 年度調査 (13A 区・13B 区・13C 区) | 121                         |
| 2 下懸遺跡                               | 122       |                                |                             |
| 平成 21 年度調査 (09A 区・09B 区・09C 区・09D 区) | 122       |                                |                             |
| 平成 25 年度調査 (13A 区・13B 区)             | 130       |                                |                             |
| 平成 25 年度調査 (13C 区)                   | 135       |                                |                             |
| 平成 26 年度調査 (14A 区・14B・14C 区・14D 区)   | 146       |                                |                             |
| 平成 27 年度調査 (15 区)                    | 148       |                                |                             |
| 3 五反田遺跡                              | 153       |                                |                             |
| 平成 22 年度調査 (10A 区・10B 区)             | 153       | 平成 25 年度調査 (13 区)              | 156                         |
| 4 惣作遺跡                               | 156       |                                |                             |
| 平成 23 年度調査 (11A 区・11B 区)             | 156       | 平成 24 年度調査 (12 区)              | 157                         |
| 第 3 節 石製品                            | 158       |                                |                             |
| 下懸遺跡平成 21 年度調査 (09C 区)               | 158       | 下懸遺跡平成 25 年度調査 (13C 区)         | 158                         |
| 五反田遺跡平成 22 年度調査 (10A 区・10BC 区)       | 158       |                                |                             |
| 第 4 節 金属製品                           | 158       |                                |                             |
| 下懸遺跡平成 25 年度調査 (13A 区)               | 158       |                                |                             |
| 惣作遺跡平成 24 年度調査 (11A・11B 区)           | 158       |                                |                             |
| 第 5 節 木製品                            | 159       |                                |                             |
| 1 下懸遺跡                               | 159       |                                |                             |
| 平成 21 年度調査 (09A 区)                   | 159       | 平成 21 年度調査 (09B 区)             | 173                         |
| 平成 21 年度調査 (09C 区)                   | 196       | 平成 21 年度調査 (09D 区)             | 206                         |
| 平成 25 年度調査 (13B 区)                   | 206       |                                |                             |
| 2 五反田遺跡                              | 207       |                                |                             |
| 平成 22 年度調査 (10A 区・10B 区)             | 207       | 平成 25 年度調査 (13 区)              | 207                         |
| 3 惣作遺跡                               | 208       |                                |                             |
| 平成 23 年度調査 (11A 区)                   | 208       | 平成 24 年度調査 (12 区)              | 208                         |
| 第 4 章 総括                             | 212       |                                |                             |
| 報告書抄録                                |           |                                |                             |
| 写真図版 (遺構)                            | 1 ～ 20    |                                |                             |
| 写真図版 (遺物)                            | 21 ～ 40   |                                |                             |

挿 図

|        |                                                  |    |
|--------|--------------------------------------------------|----|
| 第1図    | 遺跡位置図                                            | 1  |
| 第2図    | 調査区位置図1 (S = 1/2500)                             | 2  |
| 第3図    | 調査区位置図2 (S = 1/2500)                             | 3  |
| 第4図    | 周辺の遺跡 (S = 1/2500)                               | 5  |
| 第5図    | 宮下遺跡11区 005SD・012SD・013SK・021SK (S = 1/50)       | 7  |
| 第6図    | 宮下遺跡11区 016SI・023SI (S = 1/50)                   | 8  |
| 第7図    | 宮下遺跡13A区 020SD 土器出土状況 (S = 1/50)                 | 9  |
| 第8図    | 宮下遺跡11区・13区平面図 (S = 1/250)                       | 10 |
| 第9図    | 宮下遺跡11区西壁・南壁土層断面図 (S = 1/80)                     | 11 |
| 第10図   | 宮下遺跡13A区西壁・南壁土層断面図 (S = 1/80)                    | 12 |
| 第11図   | 宮下遺跡13B区西壁・C区西壁土層断面図 (S = 1/80)                  | 13 |
| 第12図   | 下懸遺跡09AB区019SI (S = 1/50)                        | 15 |
| 第13図   | 下懸遺跡09AB区018SI (S = 1/50)                        | 16 |
| 第14図   | 下懸遺跡09AB区026NR (S = 1/200)                       | 18 |
| 第15図   | 下懸遺跡09D区035SI (S = 1/50)                         | 24 |
| 第16図   | 下懸遺跡09D区041SI (S = 1/50)                         | 25 |
| 第17図   | 下懸遺跡09D区124SD (S = 1/50)                         | 27 |
| 第18図   | 下懸遺跡09D区152・153・154・170SD (S = 1/50)             | 28 |
| 第19図   | 下懸遺跡09D区152・154・175SD (S = 1/50)                 | 29 |
| 第20図   | 下懸遺跡09C区第1面平面図1 (S = 1/250)                      | 30 |
| 第21図   | 下懸遺跡09C区第1面平面図2 (S = 1/250)                      | 31 |
| 第22図   | 下懸遺跡09A・B区第1面平面図 (S = 1/250)                     | 32 |
| 第23図   | 下懸遺跡09D区第2面平面図 (S = 1/250)                       | 33 |
| 第24図   | 下懸遺跡09C区第2面平面図1 (S = 1/250)                      | 34 |
| 第25図   | 下懸遺跡09C区第2面平面図2 (S = 1/250)                      | 35 |
| 第26図   | 下懸遺跡09A・B区第2面平面図 (S = 1/250)                     | 36 |
| 第27図   | 下懸遺跡09D区第3面平面図 (S = 1/250)                       | 37 |
| 第28図   | 下懸遺跡09C区第3面平面図 (S = 1/250)                       | 38 |
| 第29図   | 下懸遺跡09D区第4面・第5面平面図 (S = 1/250)                   | 39 |
| 第30-1図 | 下懸遺跡09D区西壁土層断面図 (S = 1/80)                       | 40 |
| 第30-2図 | 下懸遺跡09D区西壁土層断面図土色                                | 41 |
| 第31図   | 下懸遺跡09C区西壁土層断面図1 (S = 1/80)                      | 42 |
| 第32図   | 下懸遺跡09C区西壁土層断面図2 (S = 1/80)                      | 43 |
| 第33図   | 下懸遺跡09C区北壁土層断面図 (S = 1/80)                       | 44 |
| 第34-1図 | 下懸遺跡09A・B区北壁土層断面図土色                              | 44 |
| 第34-2図 | 下懸遺跡09A・B区北壁土層断面図 (S = 1/80)                     | 45 |
| 第35図   | 下懸遺跡09A区南壁土層断面図 (S = 1/80)                       | 46 |
| 第36図   | 下懸遺跡13A・B区平面図 (S = 1/250)                        | 48 |
| 第37図   | 下懸遺跡13A・B区平面図2 (S = 1/250)                       | 49 |
| 第38図   | 下懸遺跡13A区土層断面図1 (S = 1/80)                        | 50 |
| 第39-1図 | 下懸遺跡13A区土層断面図2 (S = 1/80)                        | 51 |
| 第39-2図 | 下懸遺跡13A区土層断面図土色                                  | 52 |
| 第40図   | 下懸遺跡13B区土層断面図1 (S = 1/80)                        | 53 |
| 第41-1図 | 下懸遺跡13B区土層断面図2 (S = 1/80)                        | 54 |
| 第41-2図 | 下懸遺跡13B区土層断面図2土色                                 | 55 |
| 第42図   | 下懸遺跡13A区土層断面図1 (S = 1/80)                        | 55 |
| 第43図   | 下懸遺跡13C区005SI・011SI・017SI・021SI・068SX (S = 1/80) | 57 |
| 第44図   | 下懸遺跡13C区001SI (SX) (S = 1/50)                    | 58 |
| 第45図   | 下懸遺跡13C0620・69SD (S = 1/50)                      | 59 |
| 第46図   | 下懸遺跡13C区第1面平面図 (S = 1/250)                       | 60 |
| 第47図   | 下懸遺跡13C区第2面平面図 (S = 1/250)                       | 61 |

|        |                                          |     |
|--------|------------------------------------------|-----|
| 第48図   | 下懸遺跡13C区西壁土層断面図1 (S = 1/80)              | 62  |
| 第49図   | 下懸遺跡13C区西壁土層断面図2 (S = 1/80)              | 63  |
| 第50図   | 下懸遺跡13C区北壁土層断面図 (S = 1/80)               | 64  |
| 第51図   | 下懸遺跡14C・D区平面図 (S = 1/250)                | 65  |
| 第52図   | 下懸遺跡14A・B区平面図 (S = 1/250)                | 66  |
| 第53図   | 下懸遺跡14A・B区土層断面図 (S = 1/80)               | 67  |
| 第54図   | 下懸遺跡14C・D区土層断面図 (S = 1/80)               | 68  |
| 第55図   | 下懸遺跡15区210SI (S = 1/50)                  | 69  |
| 第56図   | 下懸遺跡15区204SX・207SD・208SXXSI (S = 1/50)   | 70  |
| 第57図   | 下懸遺跡15区東壁土層断面図 (S = 1/80)                | 71  |
| 第58図   | 下懸遺跡15区平面図 (S = 1/250)                   | 72  |
| 第59図   | 下懸遺跡15区南壁土層断面図 (S = 1/80)                | 73  |
| 第60図   | 五反田遺跡10区A区112SZ 1 (S = 1/50・1/80)        | 74  |
| 第61図   | 五反田遺跡10区A区112SZ 2 (S = 1/50・1/80)        | 75  |
| 第62図   | 五反田遺跡10区A区113SZ (S = 1/50・1/80)          | 76  |
| 第63図   | 五反田遺跡10区A区114・115SZ (S = 1/50・1/80)      | 77  |
| 第64図   | 五反田遺跡10区A区116SZ (S = 1/50・1/80)          | 78  |
| 第65図   | 五反田遺跡10区A区第1面平面図 (S = 1/250)             | 80  |
| 第66図   | 五反田遺跡10区B区第1面平面図 (S = 1/250)             | 81  |
| 第67図   | 五反田遺跡10区A区第1面平面図 (S = 1/250)             | 82  |
| 第68図   | 五反田遺跡10区B区第2面平面図 (S = 1/250)             | 83  |
| 第69図   | 五反田遺跡10区A区東壁土層断面図1 (S = 1/80)            | 84  |
| 第70図   | 五反田遺跡10区A区東壁土層断面図2 (S = 1/80)            | 85  |
| 第71図   | 五反田遺跡10区A区南壁土層断面図 (S = 1/80)             | 86  |
| 第72図   | 五反田遺跡10区B区北壁土層断面図 (S = 1/80)             | 87  |
| 第73図   | 五反田遺跡10区B区東壁土層断面図 (S = 1/80)             | 88  |
| 第74図   | 五反田遺跡13区北壁土層断面図 (S = 1/80)               | 89  |
| 第75図   | 五反田遺跡13区西壁土層断面図1 (S = 1/80)              | 90  |
| 第76図   | 五反田遺跡13区西壁土層断面図2 (S = 1/80)              | 91  |
| 第77図   | 五反田遺跡13区平面図 (S = 1/250)                  | 92  |
| 第78図   | 惣作遺跡11A・B区057・058・046・049SI1 (S = 1/50)  | 94  |
| 第79図   | 惣作遺跡11A・B区057・058・046・049SI 2 (S = 1/50) | 95  |
| 第80図   | 惣作遺跡11A・B区069SI (S = 1/50)               | 96  |
| 第81図   | 惣作遺跡11A・B区070SI (S = 1/50)               | 97  |
| 第82図   | 惣作遺跡11A・B区145SI (S = 1/50)               | 98  |
| 第83図   | 惣作遺跡11A・B区001NR (S = 1/250)              | 99  |
| 第84図   | 惣作遺跡11A・B区第1面平面図1 (S = 1/250)            | 100 |
| 第85図   | 惣作遺跡11A・B区第1面平面図2 (S = 1/250)            | 101 |
| 第86図   | 惣作遺跡11A・B区第1面平面図3 (S = 1/250)            | 102 |
| 第87図   | 惣作遺跡11A・B区第2面平面図1 (S = 1/250)            | 103 |
| 第88図   | 惣作遺跡11A・B区第2面平面図2 (S = 1/250)            | 104 |
| 第89図   | 惣作遺跡11A・B区第2面平面図3 (S = 1/250)            | 105 |
| 第90図   | 惣作遺跡11A・B区第3面平面図1 (S = 1/250)            | 106 |
| 第91図   | 惣作遺跡11A・B区第3面平面図2 (S = 1/250)            | 107 |
| 第92図   | 惣作遺跡11A・B区第3面平面図3 (S = 1/250)            | 108 |
| 第93図   | 惣作遺跡11A区南壁土層断面図 (S = 1/80)               | 109 |
| 第94図   | 惣作遺跡11A区西壁土層断面図1 (S = 1/80)              | 110 |
| 第95図   | 惣作遺跡11A区西壁土層断面図2 (S = 1/80)              | 111 |
| 第96図   | 惣作遺跡11B区西壁土層断面図1 (S = 1/80)              | 112 |
| 第97図   | 惣作遺跡11B区西壁土層断面図2 (S = 1/80)              | 113 |
| 第98図   | 惣作遺跡12区第1面・第2面平面図 (S = 1/250)            | 115 |
| 第99-1図 | 惣作遺跡12区西壁土層断面図 (S = 1/80)                | 116 |



|          |                                               |     |         |                                      |     |
|----------|-----------------------------------------------|-----|---------|--------------------------------------|-----|
| 第 99-2 図 | 惣作遺跡 12 区西壁土層断面図土色                            | 117 | 第 146 図 | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 11 (S = 1/6)         | 171 |
| 第 100 図  | 惣作遺跡 12 区第 3 面平面図 (S = 1/250)                 | 118 | 第 147 図 | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 12 (S = 1/10)        | 172 |
| 第 101 図  | 宮下遺跡 11 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)                 | 120 | 第 148 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 1 (S = 1/6)          | 175 |
| 第 102 図  | 宮下遺跡 11 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)                 | 121 | 第 149 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 2 (S = 1/10)         | 176 |
| 第 103 図  | 宮下遺跡 13A 区・B 区・C 区出土土器・土製品 (S = 1/4)          | 122 | 第 150 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 3 (S = 1/6)          | 177 |
| 第 104 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)                 | 123 | 第 151 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 4 (S = 1/6)          | 178 |
| 第 105 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)                 | 124 | 第 152 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 5 (S = 1/10)         | 179 |
| 第 106 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)                 | 125 | 第 153 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 6 (S = 1/12)         | 180 |
| 第 107 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 4 (S = 1/4)                 | 126 | 第 154 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 7 (S = 1/10)         | 181 |
| 第 108 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 5、石製品 (S = 1/4、1/3)         | 127 | 第 155 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 8 (S = 1/6)          | 182 |
| 第 109 図  | 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 6 (S = 1/4)                 | 128 | 第 156 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 9 (S = 1/10)         | 183 |
| 第 110 図  | 下懸遺跡 13A・B 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)              | 131 | 第 157 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 10 (S = 1/10)        | 184 |
| 第 111 図  | 下懸遺跡 13A・B 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)              | 132 | 第 158 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 11 (S = 1/6)         | 185 |
| 第 112 図  | 下懸遺跡 13A・B 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)              | 133 | 第 159 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 12 (S = 1/6)         | 186 |
| 第 113 図  | 下懸遺跡 13A・B 区出土土器・土製品 4 (S = 1/4)              | 134 | 第 160 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 13 (S = 1/6)         | 187 |
| 第 114 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)                | 136 | 第 161 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 14 (S = 1/6)         | 188 |
| 第 115 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)                | 137 | 第 162 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 15 (S = 1/10)        | 189 |
| 第 116 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)                | 138 | 第 163 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 16 (S = 1/6)         | 190 |
| 第 117 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 4 (S = 1/4)                | 139 | 第 164 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 17 (S = 1/6)         | 191 |
| 第 118 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 5 (S = 1/4)                | 141 | 第 165 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 18 (S = 1/6、1/2)     | 192 |
| 第 119 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 6 (S = 1/4)                | 142 | 第 166 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 19 (S = 1/6)         | 193 |
| 第 120 図  | 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 6、石製品 (S = 1/4)            | 143 | 第 167 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 20 (S = 1/6)         | 194 |
| 第 121 図  | 下懸遺跡 14A・B・C・D 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)          | 144 | 第 168 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 21 (S = 1/10)        | 195 |
| 第 122 図  | 下懸遺跡 14A・B・C・D 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)          | 145 | 第 169 図 | 下懸遺跡 09B 区出土木製品 22 (S = 1/6)         | 196 |
| 第 123 図  | 下懸遺跡 14A・B・C・D 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)          | 146 | 第 170 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 1 (S = 1/10)         | 197 |
| 第 124 図  | 下懸遺跡 15 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)                 | 147 | 第 171 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 2 (S = 1/6)          | 198 |
| 第 125 図  | 下懸遺跡 15 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)                 | 148 | 第 172 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 3 (S = 1/6)          | 199 |
| 第 126 図  | 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)             | 149 | 第 173 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 4 (S = 1/10)         | 200 |
| 第 127 図  | 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)             | 150 | 第 174 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 5 (S = 1/6)          | 201 |
| 第 128 図  | 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)             | 151 | 第 175 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 6 (S = 1/6)          | 202 |
| 第 129 図  | 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 4 (S = 1/2)             | 152 | 第 176 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 7 (S = 1/12)         | 203 |
| 第 130 図  | 五反田遺跡 10A・B 区出土石製品 (S = 1/2、1/3)              | 154 | 第 177 図 | 下懸遺跡 09C 区出土木製品 8、D 区出土木製品 (S = 1/6) | 204 |
| 第 131 図  | 五反田遺跡 13 区出土土器・土製品 (S = 1/4)                  | 154 | 第 178 図 | 下懸遺跡 13B 区出土木製品 (S = 1/6)            | 205 |
| 第 132 図  | 惣作遺跡 11A・B 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)              | 155 | 第 179 図 | 五反田遺跡 10A・B 区、13B 区出土木製品 (S = 1/6)   | 207 |
| 第 133 図  | 惣作遺跡 11A・B 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)              | 156 | 第 180 図 | 惣作遺跡 11A 区出土木製品 (S = 1/2)            | 209 |
| 第 134 図  | 惣作遺跡 12 区出土土器・土製品 (S = 1/4)                   | 157 | 第 181 図 | 惣作遺跡 12 区出土木製品 (S = 1/6)             | 210 |
| 第 135 図  | 下懸遺跡 13A・B 区、惣作遺跡 11A・B 区出土金属製品 (S = 1/1、1/3) | 158 | 第 182 図 | 下懸遺跡・五反田遺跡・惣作遺跡の集落配置図                | 213 |
| 第 136 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 1 (S = 1/6)                   | 160 |         |                                      |     |
| 第 137 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 2 (S = 1/6)                   | 161 |         |                                      |     |
| 第 138 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 3 (S = 1/10)                  | 162 |         |                                      |     |
| 第 139 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 4 (S = 1/10)                  | 163 |         |                                      |     |
| 第 140 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 5 (S = 1/6)                   | 164 |         |                                      |     |
| 第 141 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 6 (S = 1/6)                   | 165 |         |                                      |     |
| 第 142 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 7 (S = 1/6)                   | 167 |         |                                      |     |
| 第 143 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 8 (S = 1/2)                   | 168 |         |                                      |     |
| 第 144 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 9 (S = 1/6)                   | 169 |         |                                      |     |
| 第 145 図  | 下懸遺跡 09A 区出土木製品 10 (S = 1/6)                  | 170 |         |                                      |     |





# 第1章 序章

## 第1節 調査の経緯

本書は宮下遺跡、下懸遺跡、五反田遺跡、惣作遺跡の4遺跡の報告書である。これらの遺跡の調査は、鹿乗川河川改良工事及び床上浸水対策特別緊急事業・交付金事業に伴う事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業として行ったものである。鹿乗川河川改良に伴う工事予定地には『愛知県遺跡分布地図Ⅱ（知多・西三河地区）』（愛知県教育委員会 1995）に記載された遺跡が所在しており、さらに詳細に遺跡の範囲を決定することを目的に、平成12年度以降に愛知県埋蔵文化財センターによって予定地内の範囲確認調査が行われ、調査範囲が設定されている。発掘調査は平成21年から平成27年度にかけて4遺跡計10000㎡、実施され、その後平成28・29年度に報告書のための整理作業を行っている。

## 第2節 調査の概要

4遺跡の調査概要及び担当者は下記のとおりである。

- ・宮下遺跡 平成23年度調査

調査理由 交付金事業（鹿乗川）

調査期間 平成23年9月

調査面積 80㎡

担当者 松田訓・永井邦仁

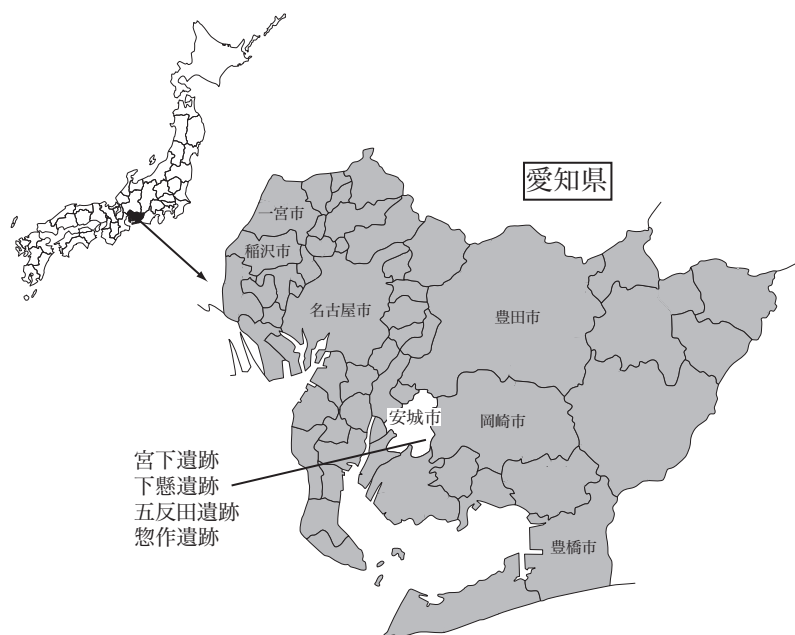
- ・宮下遺跡 平成25年度調査

調査理由 中小河川改良工事（鹿乗川）

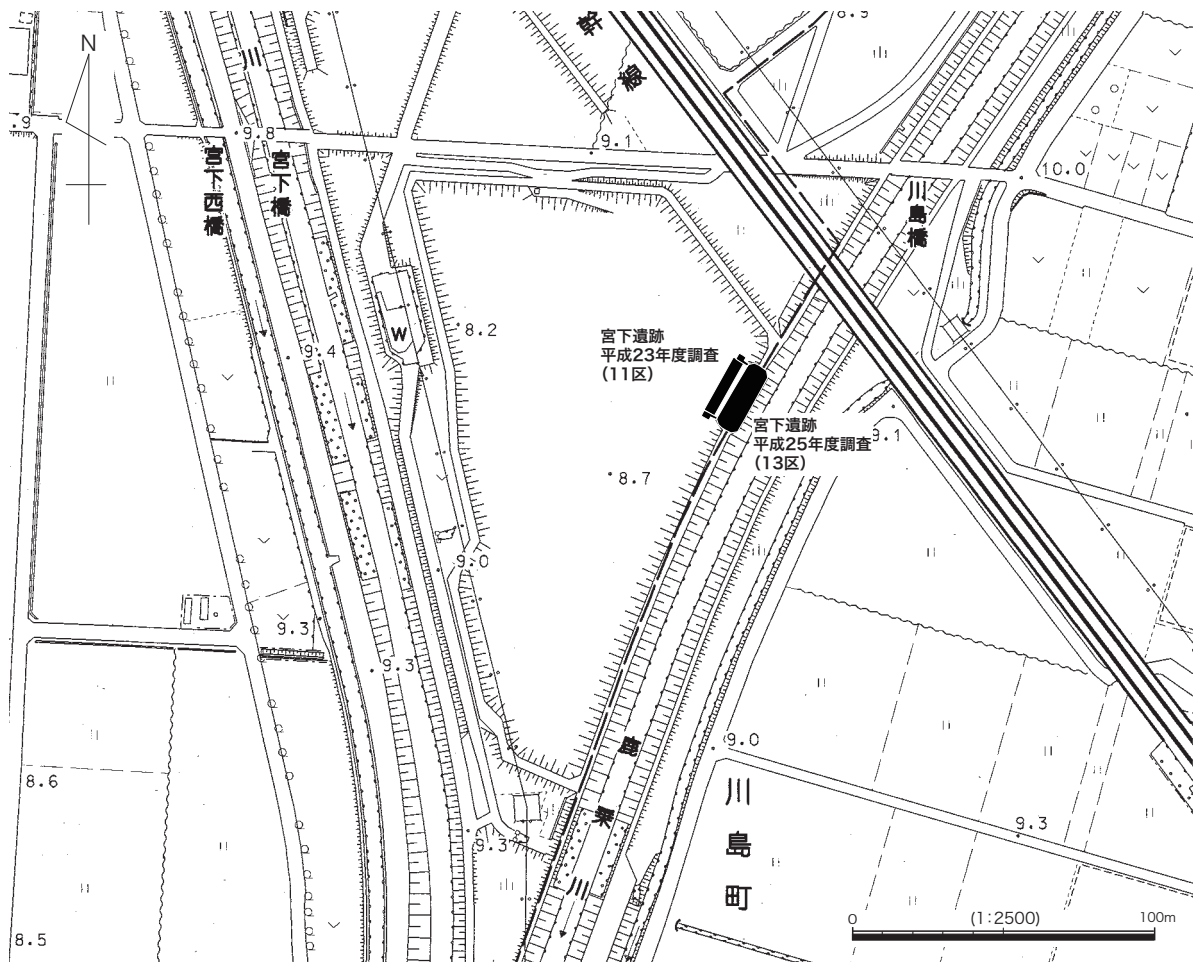
調査期間 平成25年12月～平成26年1月

調査面積 200㎡

担当者 宮腰健司

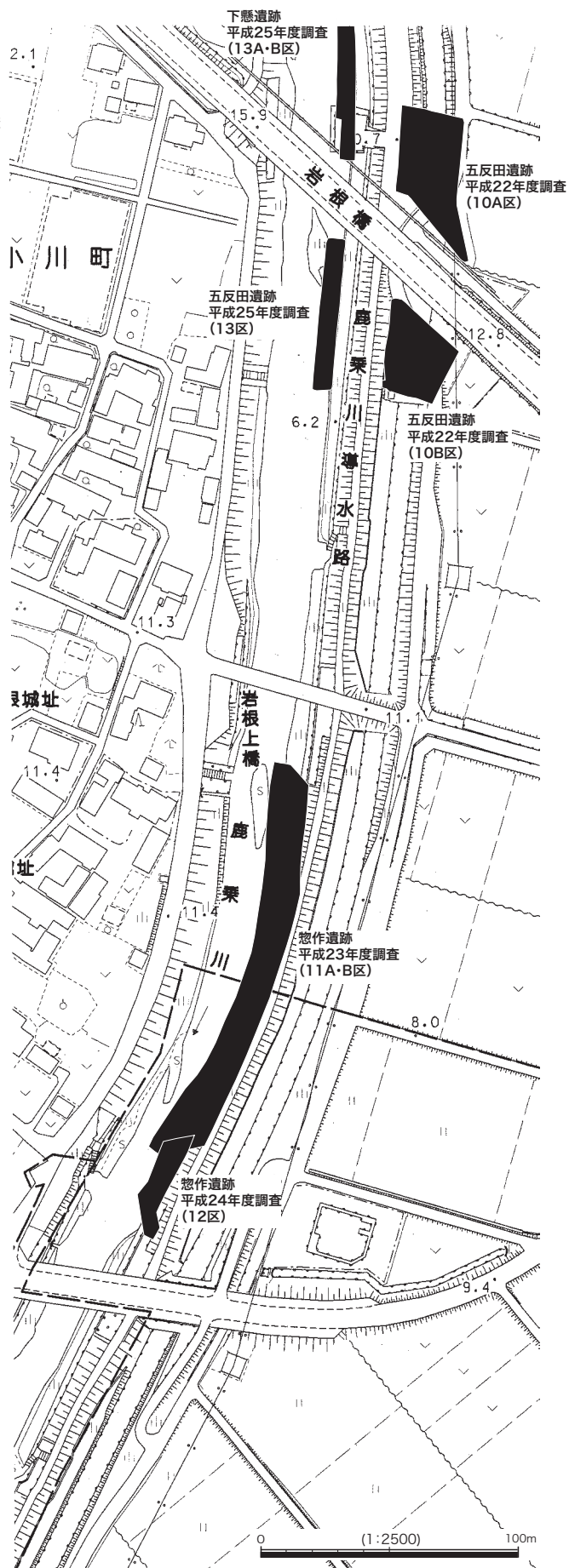
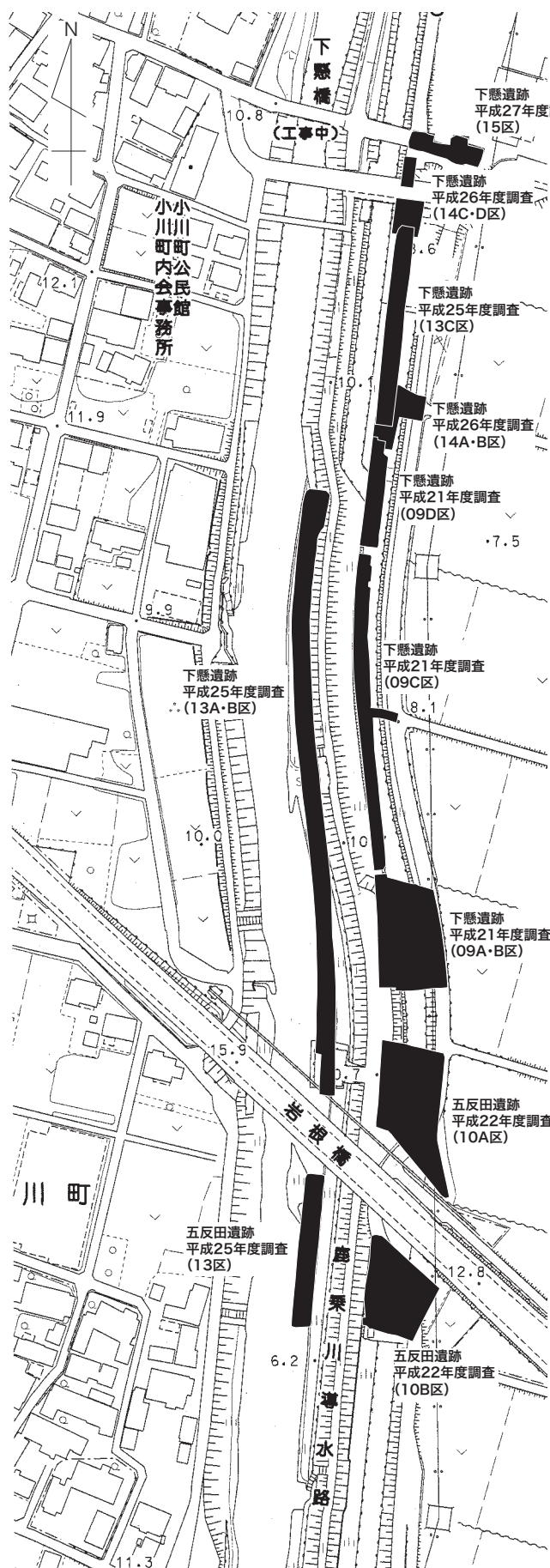


第1図 遺跡位置図



第2図 調査区位置図1 (S = 1/2500)

- ・下懸遺跡 平成 21 年度調査
  - 調査理由 中小河川改良工事（鹿乗川）
  - 調査期間 平成 21 年 11 月～平成 22 年 3 月
  - 調査面積 1850m<sup>2</sup>
  - 担当者 池本正明・永井邦仁
- ・下懸遺跡 平成 25 年度調査
  - 調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）
  - 調査期間 平成 25 年 7 月～平成 25 年 10 月
  - 調査面積 1600m<sup>2</sup>
  - 担当者 酒井俊彦
- ・下懸遺跡 平成 25 年度調査
  - 調査理由 中小河川改良工事（鹿乗川）
  - 調査期間 平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月
  - 調査面積 540m<sup>2</sup>
  - 担当者 宮腰健司
- ・下懸遺跡 平成 26 年度調査
  - 調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）
  - 調査期間 平成 26 年 5 月～平成 26 年 6 月



※安城市都市計画基本図（平成 28 年）を使用

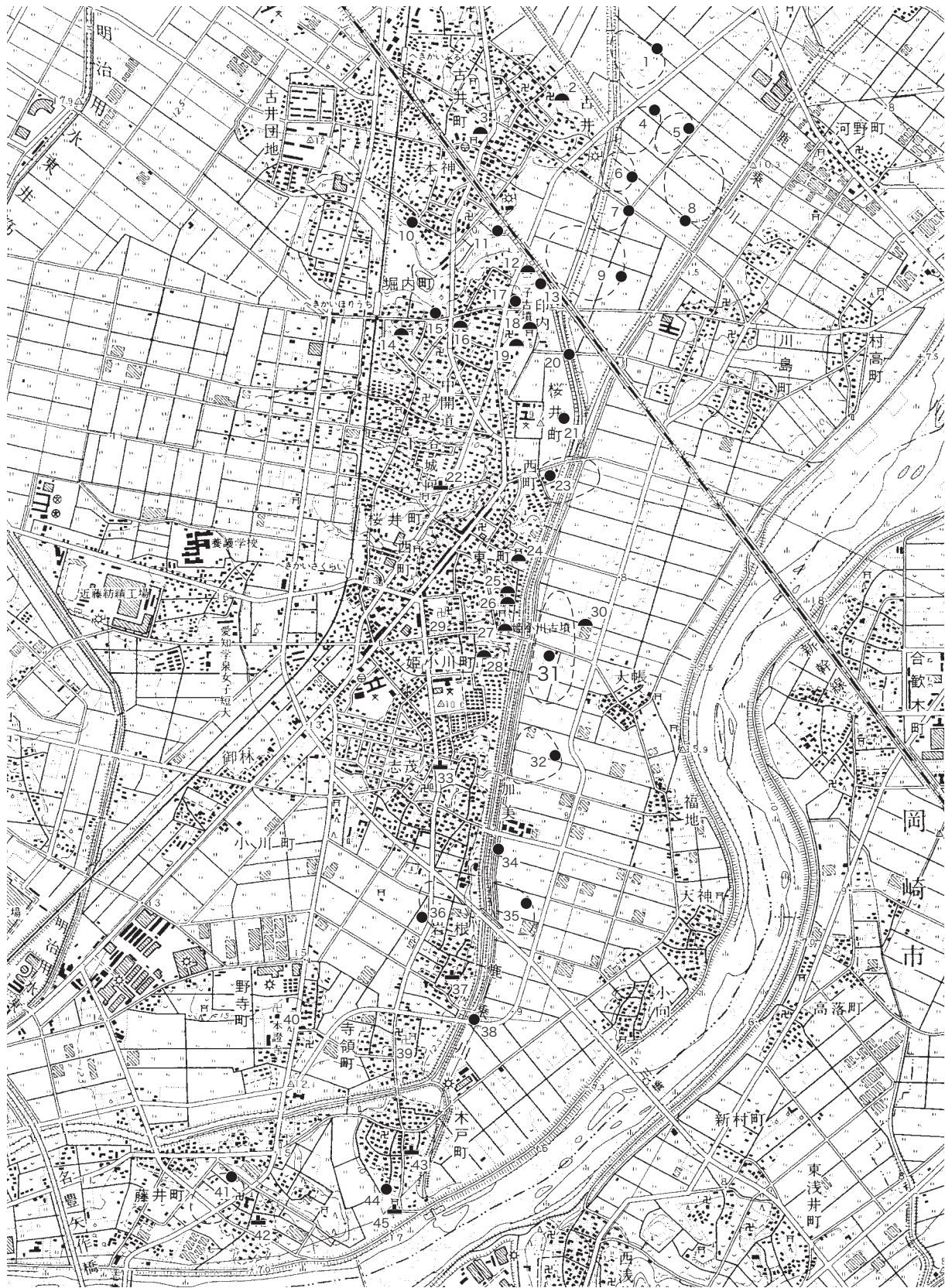
第3図 調査区位置図2 (S = 1/2500)

- 調査面積 210㎡  
担 当 者 酒井俊彦
- ・下懸遺跡 平成 27 年度調査  
調査理由 中小河川改良工事（鹿乗川）  
調査期間 平成 27 年 11 月～平成 27 年 12 月  
調査面積 280㎡  
担 当 者 松田訓
  - ・五反田遺跡 平成 22 年度調査  
調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）  
調査期間 平成 22 年 7 月～平成 22 年 10 月  
調査面積 2260㎡  
担 当 者 池本正明・石井香代子・阿部敬
  - ・五反田遺跡 平成 25 年度調査  
調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）  
調査期間 平成 25 年 5 月～平成 25 年 6 月  
調査面積 450㎡  
担 当 者 酒井俊彦
  - ・惣作遺跡 平成 23 年度調査  
調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）  
調査期間 平成 23 年 11 月～平成 24 年 1 月  
調査面積 2200㎡  
担 当 者 松田訓・永井邦仁
  - ・惣作遺跡 平成 24 年度調査  
調査理由 床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）  
調査期間 平成 24 年 11 月～平成 24 年 12 月  
調査面積 330㎡  
担 当 者 酒井俊彦

### 第 3 節 遺跡の概要

鹿乗川に沿った碧海台地縁辺部には、多くの遺跡が集中する（第 4 図）。最も古い時期の遺跡としては、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての土坑墓・土器棺墓・貝塚が出土した堀内貝塚がある。さらに遺構ははっきりしないがこの時期の遺物が出土している遺跡として、釈迦山遺跡、桜林遺跡、亀塚遺跡があげられる。弥生時代になって遺跡が集中するのは、古井堤遺跡や上橋下遺跡、下橋下遺跡などが近接して存在する一帯で、これらの遺跡を総称して古井遺跡群と呼ばれる場合もある。古井遺跡群は弥生時代から古墳時代初頭まで地点を変えながら連続して営まれる集落遺跡で、弥生時代中期後半期に最盛期を迎える。また弥生時代中期後半の遺跡としては中狭間遺跡や加美遺跡・下懸遺跡がある。さらに弥生時代後期から古墳時代初頭になると、人面文土器が出土した亀塚遺跡、環濠と思われる溝が検出されている本神遺跡や中狭間遺跡、遺物が大量に出土した桜林遺跡・下懸遺跡・寄島遺跡など多くの遺跡が出現する。この地域の古墳で時期が判明しているものはわずかであるが、全長 69m を測る前方後方墳である二子古墳を中心とした塚越古墳・比蘇山古墳・碧海山古墳などと、全長 69m の前方後円墳姫小川古墳を中心とした獅子塚古墳・姫塚古墳・ハツ塚古墳などのグループに分かれる。奈良時代には寺領廃寺や、多数の墨書土器や木簡出土した惣作遺跡、文書木簡が出土した下懸遺跡がある。





※国土地理院発行 1/25000 地形図  
「安城」「西尾」(H15年発行)を使用

- |         |          |           |           |           |
|---------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 神ノ木遺跡 | 11 釈迦山遺跡 | 21 中狭間遺跡  | 31 姫下遺跡   | 39 寺領廃寺   |
| 2 塚越古墳  | 12 二子古墳  | 22 桜井城跡   | 32 寄島遺跡   | 40 本證寺境内地 |
| 3 愛宕古墳  | 13 二タ子遺跡 | 23 亀塚遺跡   | 33 小川志茂城跡 | 41 大畑遺跡   |
| 4 竹ノ花遺跡 | 14 堀内古墳  | 24 獅子塚古墳  | 34 下懸遺跡   | 42 藤井城跡   |
| 5 上橋下遺跡 | 15 堀内貝塚  | 25 姫塚古墳   | 35 五反田遺跡  | 43 木戸古城遺跡 |
| 6 野辺遺跡  | 16 碧海山古墳 | 26 崖古墳    | 36 加美遺跡   | 44 木戸城遺跡  |
| 7 彼岸田遺跡 | 17 桜林遺跡  | 27 姫小川古墳  | 37 岩根城跡   | 35 木戸城跡   |
| 8 下橋下遺跡 | 18 山伏塚古墳 | 28 王塚古墳   | 38 惣作遺跡   |           |
| 9 古井堤遺跡 | 19 比蘇山古墳 | 29 誓願寺境内地 |           |           |
| 10 本神遺跡 | 20 宮下遺跡  | 30 ハツ塚古墳  |           |           |

第4図 周辺の遺跡 (S = 1/2500)

## 第2章 遺構

### 第1節 遺構の記述

#### 1 記述の方法

北から、宮下遺跡、下懸遺跡、五反田遺跡、惣作遺跡の順で、さらに同一遺跡の中では調査年度が古いものから記述した。遺構は基本的に検出面ごとに分けて、竪穴建物（SI）、掘立柱建物（SB）、土坑（SK）、溝（SD）といったように種類別に並べた。また各種遺構ごとに、番号順に記述している。本報告書では基本的に調査時の番号をそのまま使用したが、検討の結果、遺構の種類・性格の変更が必要と認めた場合は、SX（SI）というように新種別を前に、調査時の種別を括弧内に記した。

### 第2節 宮下遺跡

#### 平成23年度調査（11区）

##### 1 調査の概要

調査区は鹿乗東川堤防に沿うように、南北に長く調査区が設定された。層序は、耕作土の直下に耕地整理時の造成土やそれ以前の耕作土および畦畔があり、その下の灰黄褐色粘質シルト層上面で遺構を検出している。表土からの深さは、約0.8mである。

##### 2 遺構の概要

###### （1）第1面（第8図）

###### A 土坑

###### 004SK

長径0.52m、短径0.45m、深さ0.12mの楕円形を呈する土坑で、褐灰色シルトが埋土となる。

###### 013SK（第5図）

長径0.9m、短径0.62m、深さ0.1mの楕円形を呈する土坑で、上層の褐灰色シルト層より土器が出土する。この土坑から出土した土器については、南西にある007SD・017SD・020SD・015SKや、北東にある018SDなど地点に違う複数の遺構の破片が接合しており、これらの遺構を削平した後、再び掘削されて埋められた土坑と考えられる。

###### 021SK（第5図）

長径0.34m、深さ0.28mの土坑で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。012SDに切られる。

###### B 溝

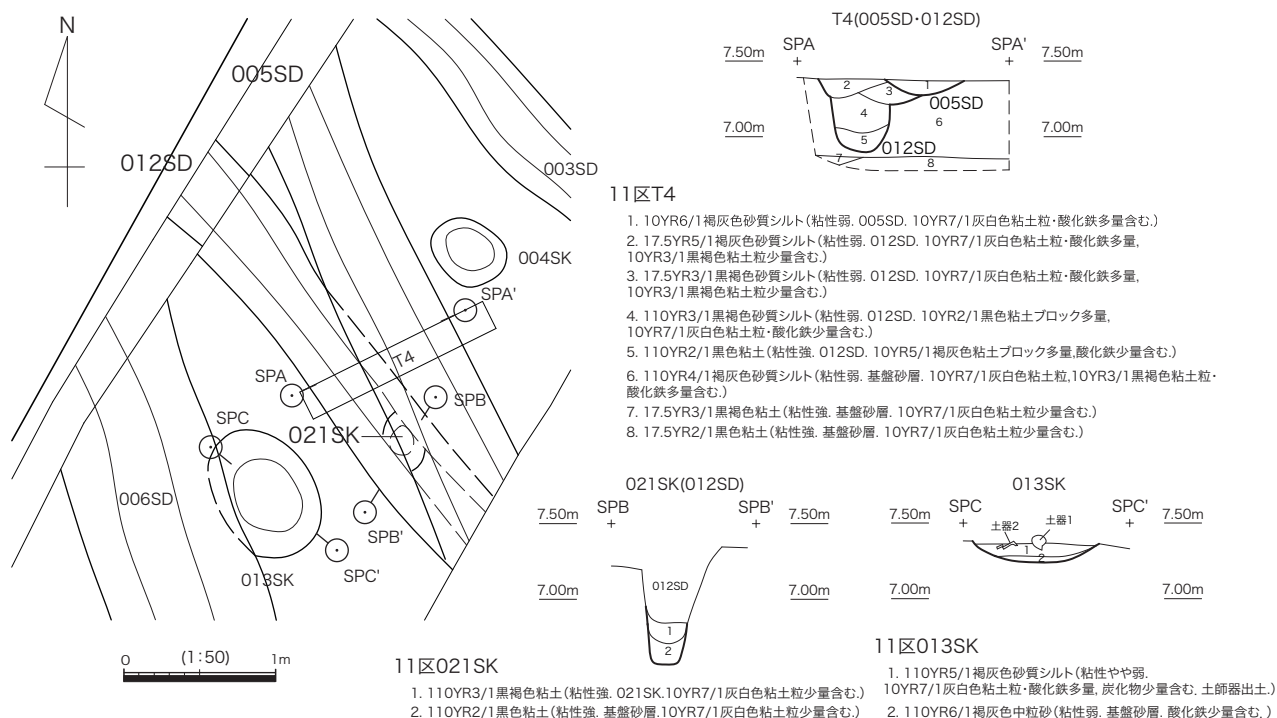
###### 002SD・003SD・005SD

調査区北部をほぼ並列して走る溝で、幅が0.5～0.9m、深さは0.05～0.2mで、断面形も半楕円形を呈している。

###### 006SD・018SD

006SDは幅約1m、深さ約0.2mを測る。西壁の土層断面を見ると、溝の埋土は畦畔状の高まりを覆うように堆積していることがわかる。畦畔部分は削平されて遺存していなかったが、水田・畑の周囲に掘削された溝・用水路と推定される。また平行して走る018SDについても同様のものと考えられる。

###### 012SD（第5図）



第5図 宮下遺跡 11 区 005SD・012SD・013SK・021SK (S = 1/50)

005SD に切られる溝で、幅約 0.52m、深さ約 0.48m を測る。断面形は壁面がほぼ垂直に立ち上がる逆台形をなし、上部は半円形に広がっている。

#### 014SD・017SD・019SD・020SD

重なりながら、ほぼ並列して走る溝群で、幅は 0.7m ～ 2m と多様である深さは 0.08 ～ 0.17m と比較的浅い。

掘削された順序は 017SD が不明瞭であるが 019SD → 020SD → 014SD → 017SD → 015SK の順となる。020SD からまとまって土器が出土している。第 2 面にある 026SD が埋没する過程で再掘削された溝群と考えられる。

#### C 不明遺構

##### 001SX

調査区の北隅部で検出された方形を呈する落ち込みである。東西径が 2.19m であるが、深さは 0.05m と極めて浅く、竪穴建物の可能性も考えられる。

#### (2) 第 2 面 (第 8 図)

##### A 竪穴建物 (第 6 図)

##### 016SI

長径 4.5m、深さ 0.07m の方形の竪穴建物である。北と西・南側には幅 0.15 ～ 0.19m の浅い壁周溝が巡る。

##### 023SI

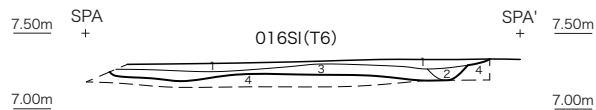
調査祈雨区南西隅で検出された、深さ 0.03m の方形の竪穴建物で、北側は一部途切れるが幅約 0.2m の壁周溝が巡る。

#### B 土坑

##### 024SK

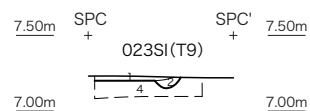
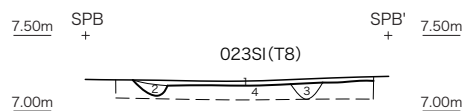
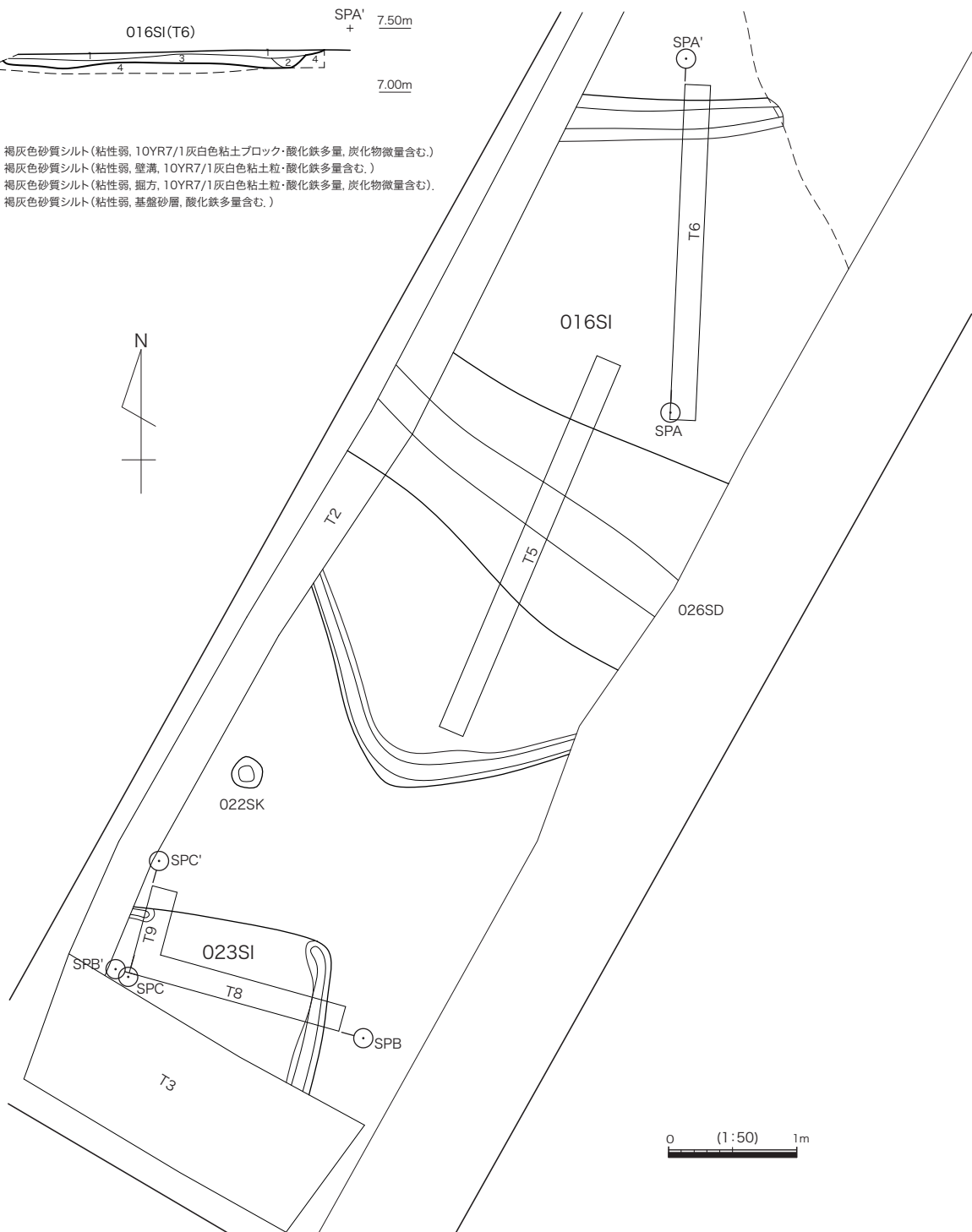
長径 1.87m、短径 1.4m、深さ 0.04m の楕円形を呈する土坑で、灰黄褐色砂質シルトが埋土となる。





# 11区T6

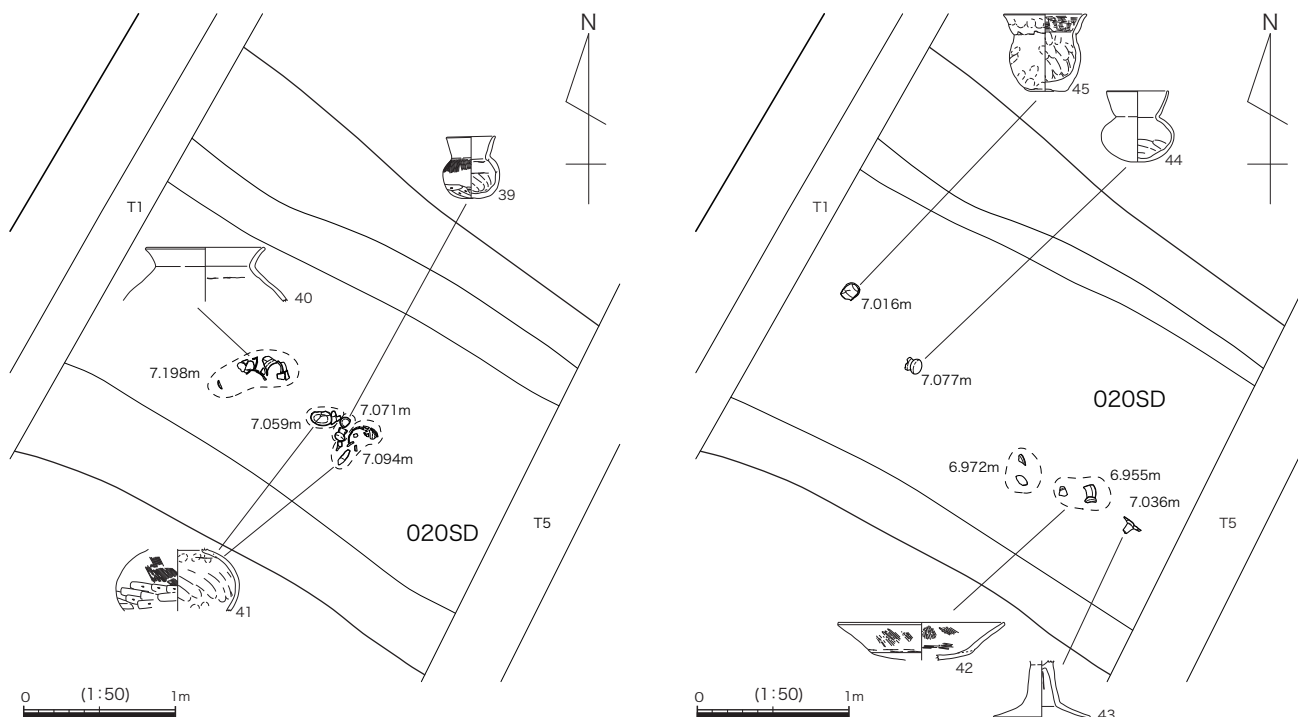
1. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト (粘性弱, 10YR7/1 灰白色粘土ブロック・酸化鉄多量, 炭化物微量含む.)
2. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト (粘性弱, 壁溝, 10YR7/1 灰白色粘土粒・酸化鉄多量含む.)
3. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト (粘性弱, 掘方, 10YR7/1 灰白色粘土粒・酸化鉄多量, 炭化物微量含む.)
4. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト (粘性弱, 基盤砂層, 酸化鉄多量含む.)



# 11区T8・T9

1. 10YR5/1 褐灰色粘質シルト (粘性あり, 10YR7/1 灰白色粘土粒・酸化鉄多量, 10YR3/1 黒褐色粘土粒少量含む.)
2. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト (粘性強, 壁溝, 10YR7/1 灰白色粘土粒・10YR3/1 黒褐色粘土粒・酸化鉄多量含む.)
3. 10YR5/1 褐灰色粘質シルト (粘性強, 10YR7/1 灰白色粘土粒・酸化鉄多量, 10YR3/1 黒褐色粘土粒少量含む.)
4. 10YR6/1 褐灰色粘質シルト (粘性強, 基盤砂層, 10YR7/1 灰白色粘土粒・酸化鉄多量含む.)

第6図 宮下遺跡 11区 016SI・023SI (S = 1/50)



第7図 宮下遺跡 13A区 020SD 土器出土状況 (S = 1/50)

#### C 溝

##### 026SD

016SI を切って掘削される、幅 0.8m、深さ 0.36m の溝で、最下層はやや深くなっており、灰白色の中粒砂が堆積している。

### 平成 25 年度調査 (13A 区・13B 区・13C 区)

#### 1 調査の概要

調査は平成 23 年度調査区の東側にあたる地区を 13A 区とし、その北・南側の小調査区をそれぞれ 13B 区 13C 区に分割して行った。既調査の成果を踏まえ、重機によって遺物が含まれる暗黄色シルト質粘土層及び黒褐色粘土質層上面まで掘削した。その結果南東部分約 1/2 程には、鹿乗東川や堤防・水田造成に関わると思われる深い攪乱が広がり、包含層が遺存しないことが確認された。その後 3～5 cm の包含層を除去し、黄褐色粘土層上面で遺構検出を行った。また遺構の重複がみられる部分が見受けられたため、2 面に分けて測図した。

#### 2 遺構の概要

##### (1) 第 1 面 (第 8 図)

#### A 溝

##### 13A 区 001SD・010SD

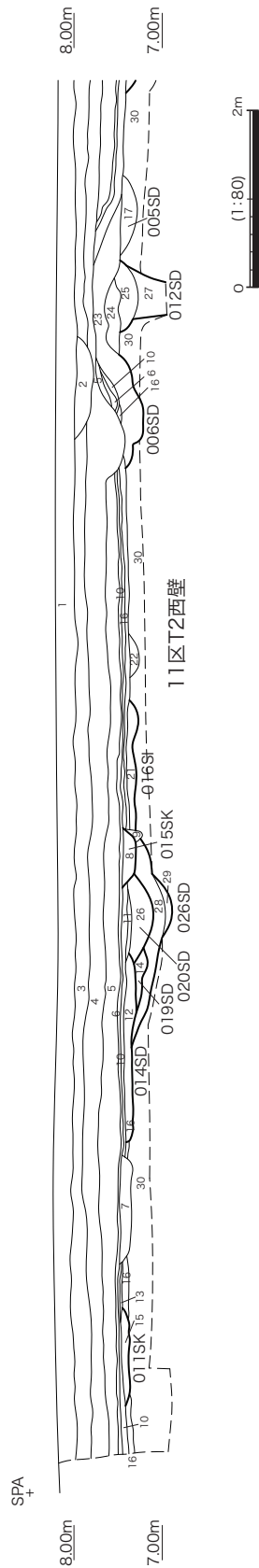
010SD は幅 1.77m、深さ 0.41m を測る溝で、西から東にやや屈曲しながら走る。埋土はしまりのある黄灰色シルト質粘土である。001SD は幅 0.53m、深さ 0.13m を測る。11 区の 018SD に続く溝と考えられ、010SD と 11 区 006SD で約 8.2m の方形の区画をなす。

##### 13A 区 002SD

幅 0.73m、深さ 0.44m を測る溝で、11 区の 012SD に続くと考えられる。

##### 13A 区 007SD・011SD・013SD・016SD

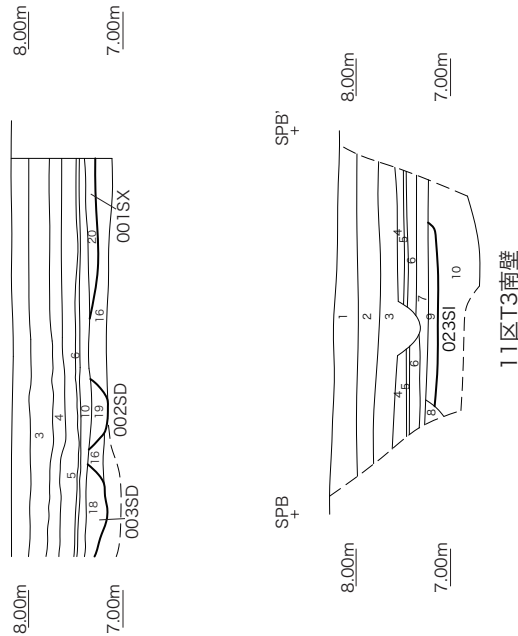




### 11区T2西壁

- 10YR3/3暗褐色粘質シルト(粘性強、表土)
- 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト(粘性あり、10YR5/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物少量含む)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性は4層より弱、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物少量含む)
- 10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性強、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色シルト粒少量含む)
- 10YR7/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性強、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物微量含む)
- 10YR7/1灰白色粘土(粘性強、10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルト少量・酸化鉄含む)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性あり、10YR7/1灰白色粘土粒・10YR3/1黒褐色粘土粒・酸化鉄多量含む)
- 10YR5/1褐灰色粘質シルト(粘性強、10YR3/1黒褐色粘土粒・酸化鉄多量、10YR7/1灰白色粘土粒少量含む)
- 10YR4/1褐灰色粘質シルト(粘性強、旧耕作土、10YR2/1黒色粘土粒・酸化鉄多量、10YR7/1灰白色粘土粒少量含む)
- 10YR3/3暗褐色粘土(粘性強、旧耕作土、10YR2/1黒色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR6/1褐灰色砂質シルト(粘性あり、015SK・10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、7.5YR5/8明褐色粘土粒少量含む)
- 10YR5/1褐灰色粘質シルト(粘性強、014SD、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR3/3暗褐色粘質シルト(粘性強、10YR7/1灰白色粘土粒多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR4/1褐灰色粘質シルト(粘性強、019SD、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR5/1褐灰色粘質シルト(粘性やや強、011SK、10YR7/1灰白色粘土ブロック・酸化鉄多量含む)
- 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト(粘性強、上面が硬い面、10YR6/1褐灰色砂・酸化鉄多量、7.5YR5/8明褐色粘土粒少量含む)
- 10YR6/1褐灰色砂質シルト(粘性弱、005SD、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量含む)
- 10YR6/1褐灰色粘質シルト(粘性あり、003SD、10YR7/1灰白色粘土粒少量・酸化鉄含む)
- 10YR6/1褐灰色粘質シルト(粘性あり、002SD、10YR6/1褐灰色細粒砂・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色シルト粒少量含む)
- 10YR5/1褐灰色砂質シルト(粘性弱、001SX、10YR6/1褐灰色細粒砂・酸化鉄多量、10YR7/1灰白色粘土粒少量含む)
- 10YR4/1褐灰色粘質シルト(粘性あり、10YR3/1黒褐色粘土粒・酸化鉄多量、10YR7/1灰白色粘土粒少量含む)
- 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト(粘性強、近世～近代の埋跡、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性あり、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量含む)
- 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト(粘性あり、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR6/2灰黄褐色砂質シルト(粘性強、020SD、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR2/1黒色粘土(粘性強、012SD、10YR5/1褐灰色粘土ブロック多量・酸化鉄少量含む)
- 10YR5/1褐灰色砂質シルト(粘性弱、026SD、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む、土器片多く含む)
- 7.5YR8/1灰白色中粒砂(粘性弱、026SD、10YR7/1灰白色粘土粒・10YR3/1黒褐色粘土粒・酸化鉄多量含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘土(粘性強、基礎砂層、10YR7/4にぶい黄褐色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物・10YR6/1褐灰色砂少量含む)

### 11区T3南壁



### 11区T3南壁

- 10YR3/3暗褐色粘質シルト(粘性強、表土)
- 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性あり、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物少量含む)
- 10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性強、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色シルト粒少量含む)
- 10YR7/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性強、10YR6/1褐灰色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物微量含む)
- 10YR7/1灰白色粘土(粘性強、10YR6/3にぶい黄褐色粘質シルト少量・酸化鉄含む)
- 10YR3/3暗褐色粘土(粘性強、旧耕作土、10YR2/1黒色粘土粒・酸化鉄多量、7.5YR5/8明褐色粘土粒少量含む)
- 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト(粘性強、上面が硬い面、10YR6/1褐灰色砂・酸化鉄多量、7.5YR5/8明褐色粘土粒少量含む)
- 10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト(粘性強、埋跡、10YR6/1褐灰色粘土・酸化鉄多量、10YR7/1灰白色シルト粒少量含む)
- 10YR5/1褐灰色粘質シルト(粘性あり、023SL、10YR7/1灰白色粘土粒・酸化鉄多量、10YR3/1黒褐色粘土粒少量含む)
- 10YR5/4にぶい黄褐色粘土(粘性強、基礎砂層、10YR7/4にぶい黄褐色粘土ブロック・酸化鉄多量・炭化物・10YR6/1褐灰色砂少量含む)

第9図 宮下遺跡11区西壁・南壁土層断面図 (S = 1/80)



重なりながら、ほぼ並列して走る溝で、深さは各々 0.13 ～ 0.16m と浅い。

016S → D → 017SD → 013 の順に掘削され、11 区の 014SD・017SD・019SD につづくと考えられる。011SD 幅 0.31m とやや細く、11 区には続いていかないようである。

## (2) 第2面 (第8図)

### A 溝

#### 13A 区 018SD・025SD

深さ 0.15m 程の浅い溝で、同一の溝である可能性もある。11 区の 002SD・003SD・005SD と同じ方向に走ることからこれらの溝と関連があるかもしれない。

#### 13A 区 020SD・026SD (第7図)

020SD が幅約 2.96m、深さ約 0.3m、026SD が幅約 0.77m、深さ約 0.21m を測る溝で、026SD → 020SD の順に掘削される。13 区では 11 区より深くまで 020SD が切り込んでおり、026SD の溝状に深くなる部分が残存している。020SD の中層から下層では土器がややまとまって出土している。

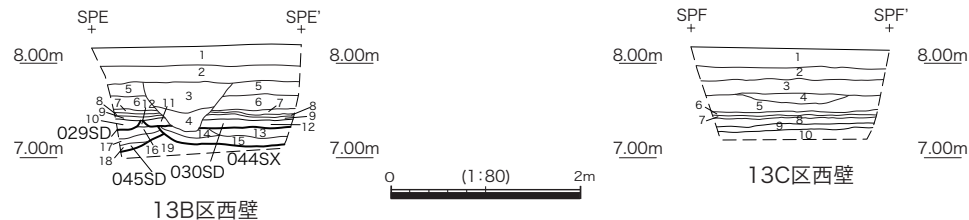
#### 13B 区 045SD

調査区の南側を北西―南東方向に走る溝で、南肩は確認されていない。深さ 0.30m を測り、最下層より小型壺 (37) が出土している。

### B 不明遺構

#### 13A 区 021SX

平面形が竪穴建物状をなす、基盤面のわずかな色調の違いであるが、確実に遺構であるかは不明である。



#### 13B区西壁

1. 現代表土・攪乱
2. 10YR5/3にふい黄褐色粘土質シルト (10YR6/1 褐灰色粘土質シルト・酸化鉄・炭化物含む)
3. 10YR6/3にふい黄褐色シルト質粘土 (10YR7/3にふい黄褐色シルト質粘土・酸化鉄・炭化物含む)
4. 10YR7/3にふい黄褐色シルト質粘土 (10YR6/3にふい黄褐色シルト質粘土含む)
5. 10YR6/3にふい黄褐色シルト質粘土 (10YR6/1 褐灰色粘土質シルト・酸化鉄・炭化物含む)
6. 10YR7/3にふい黄褐色シルト質粘土 (粘性強い)
7. 10YR7/1 灰白色粘土 (10YR6/3にふい黄褐色粘土含む)
8. 10YR3/3 暗褐色粘土 (10YR2/1 黒色粘土含む・旧耕作土)
9. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト
10. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト (029SD)
11. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト (030SD)
12. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト (2.5Y7/3 浅黄色極細粒砂・酸化鉄含む・上面が第1面の包含層)
13. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト (酸化鉄含む・044SX)
14. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土質シルト～極細粒砂 (酸化鉄含む・044SX)
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト (酸化鉄含む・044SX)
16. 2.5Y4/3 オリーブ褐色極細粒砂 (中粒～粗粒砂含む・045SD)
17. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土質シルト (2.5Y4/3 オリーブ褐色極細粒砂・中粒～粗粒砂含む・045SD)
18. 5Y4/1 灰白色粘土 (2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土質シルト・炭化物含む・045SD)
19. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質粘土 (基盤層)

#### 13C区西壁

1. 現代表土・攪乱
2. 10YR5/3 にふい黄褐色粘土質シルト 10YR6/1 褐灰色粘土質シルト・酸化鉄・炭化物含む
3. 10YR6/3 にふい黄褐色シルト質粘土 10YR7/3にふい黄褐色シルト質粘土・酸化鉄・炭化物含む
4. 10YR6/3 にふい黄褐色シルト質粘土 10YR7/3にふい黄褐色シルト質粘土含む
5. 10YR7/3 にふい黄褐色シルト質粘土 粘性強い
6. 10YR7/1 灰白色粘土 10YR6/3にふい黄褐色粘土含む
7. 10YR3/3 暗褐色粘土 10YR2/1 黒色粘土含む (旧耕作土)
8. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト
9. 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト 2.5Y7/3 浅黄色極細粒砂含む (上面が第1面の包含層)
10. 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト質粘土 (基盤層)

第 11 図 宮下遺跡 13B 区西壁・C 区西壁土層断面図 (S = 1/80)



### 第3節 下懸遺跡

#### 平成 21 年度調査 (09 区)

##### 09A・09B 区

###### 1 調査の概要

09A 区は、平成 21 年度調査区の南端に位置しその北隣に 09B 区がある。今次発掘調査において最初に調査を開始した調査区である。遺構検出面（第 2 面）の標高は約 6.2m である。09A・B 区は、鹿乗川沿いの市道部分に加えて東方の耕作地も含まれている。遺構は主に調査区東半分で検出されている。これに対して調査区西端から約 5m の市道部分では、全体に深さ 2～3m の攪乱が入っているため、遺構は残存していなかった。なお 09B 区北隣は平成 12 年度の調査区（00E 区）で、当該調査区はほぼ全面で自然流路が検出されて奈良時代の習書木簡が出土している。そのため 09B 区やその南の 09A 区でも調査開始前から自然流路の検出が想定されていた。

###### 2 遺構の概要

09A・B 区の遺構面は 2 面ある。第 1 面は、弥生～平安時代の遺物を包含する黒褐色シルト混じりの黄灰色シルト層の上面である。09A 区では下位の基盤層の高まりに伴って大半が削平されており溝の検出にとどまったが、09B 区で平安時代の水田遺構などが検出された。第 2 面は、その下位にある細粒砂混じりのオリーブ灰色シルト層上面となる。当該層は自然流路（旧鹿乗川）によって形成された自然堤防の堆積で、弥生時代中期以降の遺跡の基盤層に相当する（自然流路 026NR で詳述）。

###### (1) 第 1 面 (第 22 図)

###### A 溝

###### 09A 区 001SD

北北西から南南東方向へのびる小溝で、調査区を縦貫し 09B 区で北端が確認されている。検出長は 27m で、幅 1.2m、深さ 0.4m を測る。断面は緩い傾斜の V 字形を呈する。埋土はシルトブロックなどを含む上層（1～4 層）と一部にラミナ堆積を含む下層（5 層）に区分される。出土遺物は近世までの土器や陶磁器がある。近世以降の耕作に関わる区画溝と考えられる。

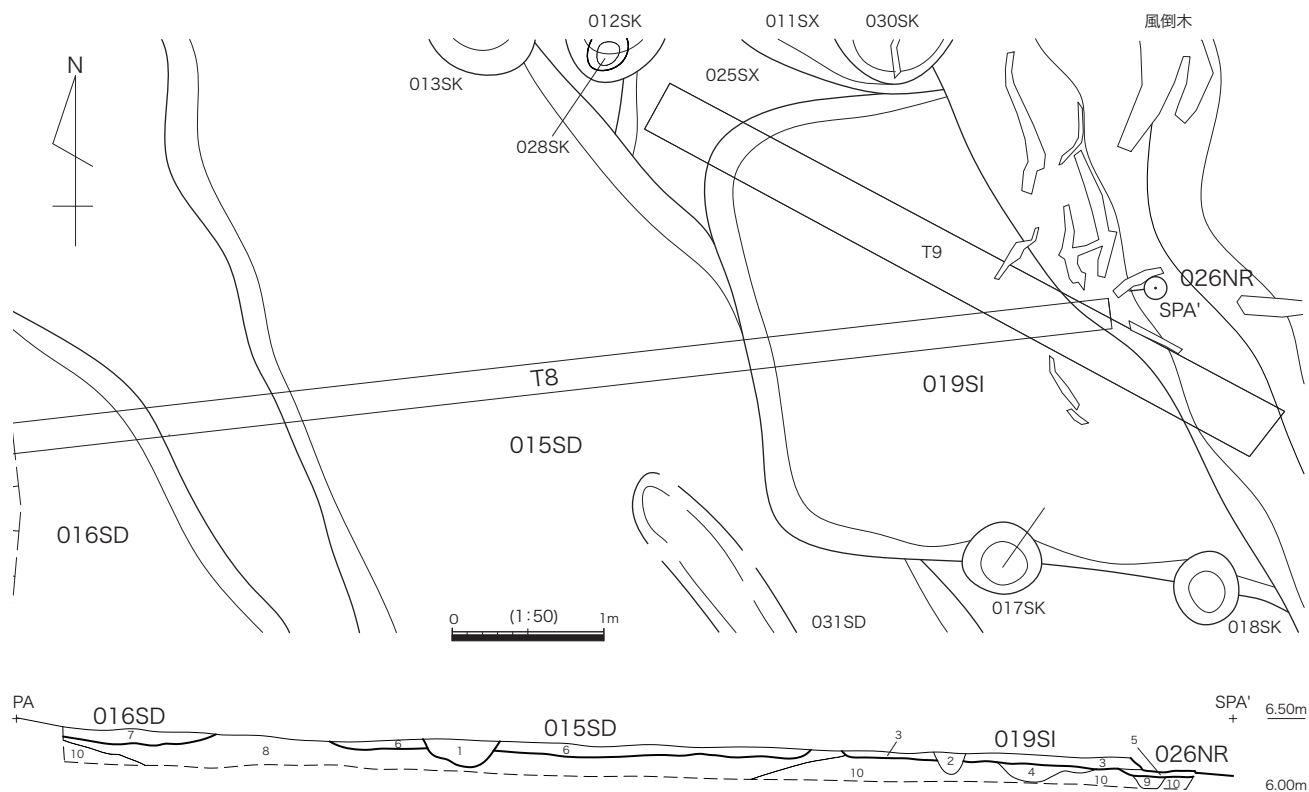
###### 09A 区 061SD (09B 区 009SD)

調査区北壁から東壁に向かって貫流する溝で、北側は 09B 区 009SD として検出されている。その位置は、ほぼ自然流路 026NR の西縁に相当し同方向にのびている。検出長は 36m で、09A 区内 (061SD) では幅 1.2～3.5m、深さ 0.05～0.24m と不整形であるが、09B 区内 (009SD) では幅 2m 深さ 0.12m でほぼ一定の規模を測る。後述する水田遺構を切り込んで掘削されていることから、それ以降のものと考えられる。埋土は黒褐色シルトのブロック主体に極細粒砂を若干含む。出土遺物は奈良時代の須恵器や土師器甕の他に底部外面に墨書のある灰釉陶器皿が出土しており、時期は K-90 号窯式期である。出土遺物からは概ね 9～10 世紀代と想定されるが、水田遺構との重複関係からみて若干新しい時期と推定すべきであろう。

###### B 水田

###### 09B 区 003～008SN・010SN

09B 区ではほぼ全面で水田遺構が検出されている。水田は畦畔で区画されている。畦畔は幅 1.0～1.5m が主体とするが一部に 4.4m×7.4m の広場状を呈する部分がある。とりわけ 005SN は大半が



#### 09D区T8北壁

1. 7.5Y7/1 灰白色粘質シルト(7.5Y6/1 灰色粘質シルトの斑土。10YR2/1 黒色粘土ブロック含む。炭化物あり。SK。)
2. 7.5Y6/1 灰色粘質シルト(10YR4/1 褐色粘土の斑土。7.5Y5/1 灰色粘質シルトブロック含む。炭化物あり。)
3. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト(10YR3/1 黒褐色粘土の混土。7.5Y5/1 灰色粘質シルトブロック。細砂粒含む。炭化物あり。019SI。)
4. 7.5Y5/1 灰色粘質シルト(7.5Y7/1 灰白色粘質シルトブロック。細砂粒含む。炭化物あり。)
5. 7.5Y6/1 灰色粘質シルト(7.5Y7/1 灰白色粘質シルトブロック少量含む。炭化物あり。)
6. 7.5Y7/2 灰白色粘質シルト(10YR4/1 褐色粘土の斑土。015SD。)
7. 7.5Y7/1 灰白色粘質シルト(7.5Y6/1 灰色粘質シルトの斑土。10YR2/1 黒色粘土ブロック。016SD。)
8. 2.5GY7/1 オリーブ灰色シルト(炭化物あり。鉄分。地山の凹み。)
9. 7.5GY6/1 緑灰色シルト
10. 7.5Y7/1 灰白色極細粒砂(地山。)

#### 第 12 図 下懸遺跡 09AB 区 019SI (S = 1/50)

検出されており、概ね 8.0m×11.0m を測る。005SN の水田耕作土からは O-10 号窯式期の須恵器杯(036) と同時期の土師器三河型甕(035) が出土しており、8 世紀末～9 世紀初頭である。当該水田が機能した時期は 09C 区 001NR の 1 層出土の灰釉陶器(062・063) と 09B 区 061SD 出土灰釉陶器(059) の間に位置付けられるが、これらはともに 9 世紀後半である。したがって 035 と 036 は下層となる自然流路の遺物が浮き上がってきたものと考えられる。

#### (2) 第 2 面 (第 26 図)

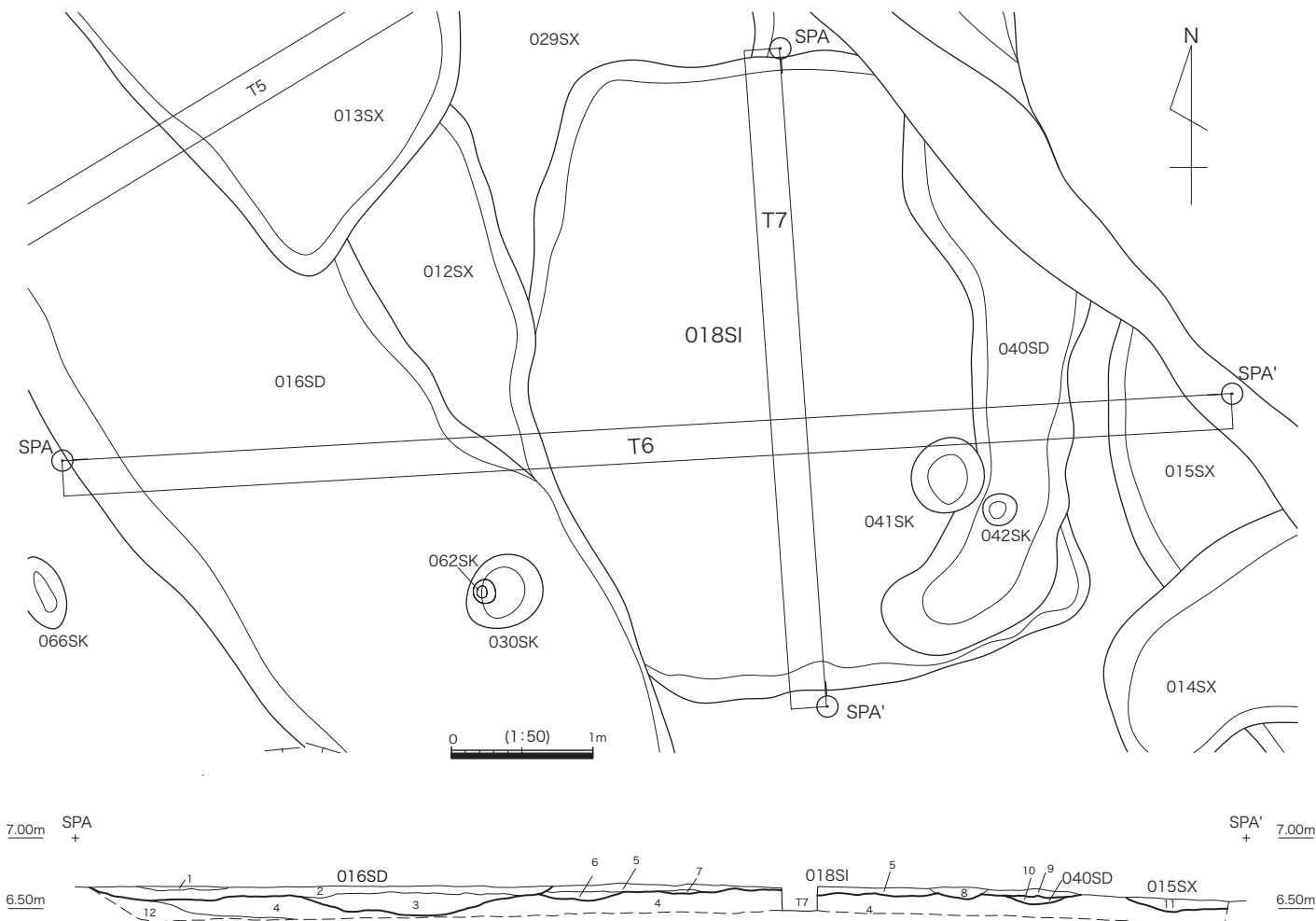
##### A 竪穴建物

##### 09B 区 019SI (第 12 図)

調査区南部に位置する竪穴状遺構である。ほぼグリッド北に主軸方向となる。平面形は隅丸方形で、南北 2.9m×東西 3.0m 以上を測る。東辺は自然流路 026NR に切られているので不明である。柱穴や壁溝はなく、竪穴建物跡と確定するだけの根拠に乏しいが、土層断面(T9 断面)によれば平らな底面をもつ炭化物などの混じるオリーブ灰色シルトの堆積となっていることから、竪穴建物跡の可能性を考えておく。ただし顕著な出土遺物はなく時期は不明である。

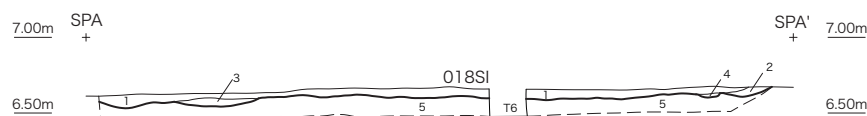
##### 09B 区 020SI

調査区中央部に位置する竪穴状遺構である。グリッド北から西へ約 45° 振れて主軸方向となる。平面形は隅丸正方形と推測され、長辺 3.0m×短辺 2.7m を測る。東半分は自然流路 026NR に切られ



#### 09D区T6(015SX・016SD・018SI・040SD)

1. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR4/1褐灰色粘土の混土。)
2. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック。細粒砂含む。016SD。)
3. 7.5Y7/1灰白色シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック。細粒砂含む。016SD。)
4. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR3/1白色細粒砂含む。NR堆積。地山。)
5. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック。炭化物あり。018SI。)
6. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR4/1褐灰色粘土ブロック少量。細粒砂含む。)
7. 7.5Y7/2灰白色シルト(細粒砂含む。018SI。)
8. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR5/1褐灰色粘土の混土。)
9. 7.5Y6/1灰色シルト(10YR4/1褐灰色粘土の混土。040SD。)
10. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック。040SD。)
11. 7.5Y6/1灰色シルト(10YR3/1黒褐色粘土の混土。015SX。)
12. 7.5Y7/2灰白色極細粒砂(地山。)



#### 09D区T7(018SI)

1. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック。炭化物あり。018SI。)
2. 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト(細粒砂含む。018SI。)
3. 7.5Y7/2灰白色シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック。白色細粒砂含む。018SI。)
4. 7.5Y7/2灰白色シルト(白色細粒砂含む。)
5. 7.5Y7/2灰白色シルト(地山。)

第 13 図 下懸遺跡 09AB 区 018SI (S = 1/50)

ている。柱穴や壁溝はなく、竪穴建物跡と確定するだけの根拠に乏しい。埋土は混入物の少ない灰色シルトで、顕著な遺物もない。

#### B 溝

##### 09A・B区 016SD

調査区北西隅から南壁に向かって貫流する溝状遺構である。09B区では西壁へ抜けており、それを含めた検出長は約22mである。最大幅3.2mで大半は深さ約0.1mであるが中央部の幅約1.2mの部分は皿状にくぼんでいる（最大深度約0.2m）。いずれの断面形状も人工的なものとは考えにくいことから、026NRに伴う自然流路の1つであるとみられる。埋土は灰白色シルトと細粒砂を主体とし混入物が少ない。また顕著な出土遺物がなく、比較的古い段階に一時的に水が流れたものかもしれない。

##### 09A区 018SI・040SD（第13図）

調査区中央部に位置する。016SD・043SDに先行し、底面で040SDが検出されている。平面形は南北4.5m東西3.9mの長方形を呈する。深さは0.03mで、壁溝や柱穴は検出されなかった。ただし018SI東縁に沿って幅広（約0.8m）の溝040SDが検出されており、018SIの掘り方に相当するものと考えられる。埋土は、灰白色シルトに黒褐色シルトブロックや炭化物が混じることから貼床の可能性がある。顕著な出土遺物がなく時期を特定しがたい。

##### 09A区 043SD・09B区 015SD

調査区北壁から始まり自然流路026SNに合流する溝状遺構である。09区では015SDとして検出されており、それを含めた検出長は約22.0mである。最大幅約4.1mで平面形は不整形である。断面形状は016SDと同様で全体的に約0.2mと浅いものの中央部で落ちくぼんでいる。このことから026SNに伴う自然流路である可能性が高い。なお重複関係では016SDより新しい。埋土は灰白色シルトを主体としており、顕著な出土遺物はなかった。

#### C その他落ち込み

##### 09A区 027SX

調査区南西隅で検出されたくぼ地状地形である。自然流路026NRとほぼ同じ方向で調査区西壁から南壁へと抜けている。検出された長さは約11.0mで最大幅は3.4mを測る。西壁へ向かって緩い傾斜となっており、最大深度は0.26mとなる。埋土は、遺構の形状からみて微高地西側の堆積であると考えられる。なお層位は黒褐色～褐灰色シルトの上層（1～4層）、灰白色シルトに土師器小片や炭化物が多数混じる中層（5～6層）、オリブ灰色シルトの下層（7～8層）に区分される。中層が広範囲にみられ、東側の微高地頂部から廃棄された土器などによって当該層が形成されたものと考えられる。土器はごく小片になっているため、実測可能なものはなかった。

#### C 自然流路

##### 09A・09B区 026NR（第14図）

09B区北壁から09A区東壁に向かって貫流する自然流路の一部である。自然流路そのものは、下懸遺跡の立地する自然堤防を形成もしくは侵食しながら一帯を蛇行していたとみられる。後述するように土層断面によれば、026NRの上端位置からさらに数m西側にまで植物質や木片などを含むシルトや砂礫の混在する水成堆積層が広がっているが、この段階では水流がありかつ流路周辺での顕著な人の活動がなかったものと考えられる。その規模は特定しがたいが、段丘崖から026NRまでの距離などを考慮すると幅約20mの河川であったと推定される。

これに対して026NRは、土器・木製品などの遺物を伴う層位に限定して遺構として扱っている。026NRの検出された範囲は、東西幅約12.0m（09B区北壁にて）、南北長約30.0mで、調査区外の北および東側へさらに広がっている。026NRの幅については、09B区北壁土層断面（T1）によれば



第 14 図 下懸遺跡 09AB 区 026NR (S = 1/200)



断面東端（調査区北東隅）から約 2m の地点に最も底のくぼんだ部分がみられることから、仮にそこを自然流路の中心とすれば東北東方向へ約 4.5m 先に東側の上端が想定することができる。この想定に基づけば 026NR の幅は約 9.0m と考えることができる。

026NR の土層断面は、09A・B 区では横断面 3 か所（南から順に、09A 区 026NR ベルトセクション、09A 区調査区北壁 T2 トレンチセクション、09B 区 T1 セクション：第 34 図）、縦断面 1 か所（09A・B 区調査区東壁セクション）で観察と記録を行った。また、09B 区 T10 トレンチセクションでも補足調査を行っている。このうち 09A 区調査区北壁 T2 トレンチセクション（以下、基本断面）における分層が基本となっている。基本の層位は NR-1 ～ 3 層に区分される。以下、層位ごとに記述する。

NR-1 層。最上部をほぼ全面覆っている。粘土層で、上部（基本断面 13 層）・下部（基本断面 22 層）に区分される。上部は灰黄褐色、下部は黒褐色で分層線は若干波打っている。これは当該層の上面が平安時代の水田面（09B 区 006SN）に相当し、耕作によって黒褐色粘土層がかく拌を受けてやや明るい色調に変化したものと考えられる。ただし NR-1 層下部自体も下層（NR-2a・2b 層）との間がほぼ水平直線となっていることから、埋没した流路 026NR に対して行われた人為的な削平で形成された層位と考えられる。その時期特定で参照できる遺物は少ない。須恵器杯蓋（120）は NR-1 ～ 3 層で出土したもので、NR-1 層に限定されるのは土師器三河型甕（121）のみで、口縁部の形状から 9 世紀前半と推測される。なお後述するように 09C 区では NR-1・2 層で 9 世紀後半の灰釉陶器が出土している。したがって当該層の形成は、概ね 9 世紀後半代になると考えられる。

NR-2 層。黒色の粘土層である。上位から、含有される極細粒砂の量が多い黒褐色の NR-2a 層（基本断面 23 層）と少ない黒色の NR-2b 層（基本断面 24 層）に区分される。含有される砂粒の違いから、前者は若干の水流がある状況で、後者は水流のない湛水された状況下で形成されたものと思われる。当該層の最大の特徴は、埋没した流路 026NR（NR-3 層以下）を人為的に掘り返した大溝の埋土となっていることである。このことは、026NR 東寄りの基本断面 25 ～ 28 層を 24 層が明瞭に切り込んでいることから想定される。掘り返しでできた大溝（NR-2 層）の断面形状は、検出面での幅約 6.0m、底面幅約 2.2m、最大深度約 0.5、検出長約 22.0m を測る。溝の上端は基本断面より北側の 09B 区内で検出され、026NR 右岸にほぼ併行する位置で直線的に延びており、その方位はグリッド北から西へ約 20° 振れている。加えて注目されるのは、09B 区北東隅において当該大溝（溝 A）へ合流する別の溝（溝 B）があることで、これも 026NR の掘り返しによって造られたものである。溝 B の形状は、北側の上端が T1 などに重複しているので明確にできていないが、検出面での幅約 4.4m、底面幅約 3.4m と推測され、09A・B 区調査区東壁セクションの北端付近（16 ～ 19 層）でも確認されている。埋土は NR-2a・2b 層が混在しているので溝 A・B どちらの切り合い関係はないとみられる。ただし溝 B では、最下層に黒色粘土に極細粒砂と植物質を含む層（NR-2c 層）がみられるのが特徴となっている。

NR-2 層の出土遺物は少なく、09A 区では 7 世紀後葉～末の須恵器杯身やフラスコ瓶などが出土している程度である。NR-3 層の出土遺物（後述）とは時期差が認められるので、掘り返し（大溝開削）の時期はこれらの須恵器の時期に近いものと思われる。なお 09B 区では溝 A・B の交差点付近で若干の木製品がみられ、曲物（W260）などが出土している。さらに交差点からやや溝 B に入った地点では、木簡（W252）が層中に立った状態で出土している。これらに加えて 09C 区 001NR での出土遺物から当該層の形成時期を想定すると、7 世紀後葉～末に掘り返しがなされ、9 世紀後半代にほぼ埋没したと推測される。

NR-3 層。026NR の全域で確認される層位である。粘土層で植物質と炭化物を多く含む点の特徴となっている。植物質には自然状態の樹木の枝なども含まれる。本層は、上位から NR-3a ～ 3c 層



の3層に細分される。これらを堆積の進行順にみると、まずNR-3c層は、灰色粘土を主体とし一部でオリブ黒色粘土がみられる。全体に細粒砂が含まれており、特に最下部で粗粒砂がみられる。この状況からNR-3c層形成時には一定の水流があったと考えられる。次にNR-3b層の堆積が進行するが、本層は褐灰色～灰色の粘土が主体で、最上部や09B区では黒褐色の粘土が多くなる。木製品や樹木の枝なども増加する。こういった混入物は流れてきたかもしくは出土地点付近で投げ込まれたものと推測されるが、これらが夾雑物化し水流が滞っていたものと思われる。そして最上部にNR-3a層が堆積する。本層は黒色粘土を主体とし、炭化物や植物質もひじょうに多い。ただしこれはNR-2層にかかる奈良時代の掘り返しを受けていない下部の状況であり、上部についてはその及んでいない基本断面のみで確認することができる。それによれば、灰白色粘土ブロックを含む水平堆積（基本断面26・27層）があり、特に26層では草本類が重なるようにして堆積している。これを極細粒砂や炭化物を含む25層が水平堆積で覆っている。これらの状況は、埋没が進行し沼沢地となった同地点が草本類の繁茂する環境になり、そこに大溝開削がなされたことをうかがわせるものである。

NR-3層の出土遺物は、古墳時代初頭から古墳時代後期（7世紀）までの土器（須恵器・土師器）と木製品である。須恵器は蓋（136・137）と無蓋短脚高杯（138）があり、概ね7世紀前葉～中葉とみられ、NR-2層出土須恵器（先述）とは時期的に重複しない。一方土師器は古墳時代初頭のもものが中心で、同中期（5～6世紀）のものはほとんどみられないのが特徴である。椀型の鉢（140・141）や伊勢型の小型甕（142・143）はそれ以降の可能性が高い。木製品はNR-3b層下部まで掘り下げた段階で出土したものがほとんどであり、須恵器の共伴はほとんどなかった。このことから大半の木製品が古墳時代初頭に属するものと考えられ、個別に出土位置や型式学的な検討が必要である。

以上が026NRの基本層位になるが、基本断面（09A区T2セクション）では発掘調査最終段階で重機による断割（深掘り）調査を行っている。それによると026NRの下位には極細粒砂の堆積（34・35・38・40層）がみられる。このうち湧水のため40層は細分不能であったが、植物質を含む水成堆積である。同層を覆う20層はシルト主体となっており同層の上面が遺構検出面となっている。一方同層下位は、標高約5.0m付近に中礫主体の川底を思わせる堆積（37層）がある。38層は37・40層を切り込むような関係にあり、026NRの前身となる流路とは断絶があることがうかがえる。

また植物遺存体としてNR-2層・3層で、クリがやや多く、ヒョウタン仲間とヒシ属が少量、モモとスダジイ、コナラ属、アカガシ亜属、オニグルミがわずかに出土している。

## 09C区

### 1 調査の概要

09C区は、09B区北端から09D区南端までの鹿乗川排水路沿いの市道部分である。そのため調査区は、東西幅6～7mに対して南北長約123mというきわめて細長い形となっている。なお当該調査区東側の耕作地であった所は平成12年度に発掘調査が行なわれており、弥生時代以降の集落および自然流路が確認されている（00A～00E区）。その成果を受けて今次発掘調査の調査区とされたが、09A・B区では市道部分が全面攪乱を受けていることが確認されたため、市道舗装が除去された後に、該当部分で約20mおきに1m×2mのトレンチによる試掘を行った。それによると市道交差点南側のグリッド5E6I地点から南約60mの範囲では09A・B区と同様に深さ2m以上にわたって攪乱となっていることが判明した。これを受けて表土掘削は5E5I地点から北側および東側張出部のみで開始した。

## 2 遺構の概要

調査は 09B 区と同じく第 1 面は黒褐色シルト混じりの黄灰色シルト層の上面で水田遺構を検出した。しかし調査区北端から約 15m の範囲では、その下位にある細粒砂混じりのオリーブ灰色シルト層が露頭しており、同層上面を第 1 面としている。第 2 面は、調査区ほぼ全面でオリーブ灰色シルト層上面までを掘り下げて検出を行ったが、同層は南へ向かって緩い下り傾斜となっており、土器集積遺構 040SU などから南側は層厚が増している。当該部分は自然流路 001NR の埋土として調査している。なお第 2 面北部では遺構の重複が激しく、切り合い関係では後になる上位の遺構を調査後に、あらためて精査を行い下位の遺構を検出している。この下位遺構群を第 3 面としている。

### (1) 第 1 面 (第 20・21 図)

#### A 溝

##### 09C 区 007SD・009SD

水田遺構 006SN 北側に位置する溝状遺構である。検出長はともに約 5m にとどまる。007SD は屈曲もしくは張出部があり 006SN を覆うように伸びている。一方 009SD は一定規模とみられるが、いずれも 006SN や 010SN との水田が機能しなくなってから掘削されたものと考えられる。ただしその方位は他の畦畔（状高まり）と同じであるため地割としては継続していたことがうかがわれる。埋土は黒色粘土を主体とする。顕著な出土遺物はなかった。概ね平安時代後期以降の中世と考えられる。

#### B 水田

##### 09C 区 002SN・003SN

東側張出部で検出された水田遺構である。東端にある 002SN との間に幅 0.7～3.8m の畦畔を挟んだ 003SN が西側に位置する。畦畔はグリッドに対して約 45° 振れる方位である。畦畔との高低差は 4cm である。なおこれらの遺構は南側に位置する不明遺構 004SX に切られている。002SN の規模は不明であるが 003SN はその西側でも畦畔状高まりがみられることから一辺 4m 以上の区画になると推測される。埋土は黒色粘土を主体とし、炭化物粒を多く含んでいるのが特徴である。顕著な出土遺物はなかった。

##### 09C 区 005SN・006SN

005SN は 003SN と畦畔状高まりを挟んだ位置にある。北隣の 006SN との間には北西～南東方向へのびる畦畔があるが、その一方で南側にも畦畔状の高まりがみられ、並行する両者の間は 3.4m と水田区画としてはやや狭い印象がある。005SN 北側の畦畔は幅約 1.0m で 002SN と 003SN 間の畦畔と同規模・同方位となっているが、一直線上ではない。006SN の北側は溝状遺構（007SD・009SD）がありその間が幅約 2.0m の畦畔状高まりとなっている。これが水田機能時まで遡るとすれば、006SN は一辺約 8m 規模と推測される。

##### 09C 区 010SN

009SD 北側に位置する水田遺構である。さらに北側の 011SN との間に不整形な畦畔状高まりがある。この高まりの一部は南西方向に突出しており、畦畔の交差点と考えられる。また調査区東壁からも三角形に突出した畦畔がある。ただし畦畔の南西辺の方向は他の畦畔や溝と異なっているため、本来この部分はさらに細い可能性もある。なお当該地点は下面（第 2 面）で土器集積 040SU などが検出された自然流路 001NR 左岸の上層に位置している。

##### 09C 区 011SN・012SN

調査区北端に位置する水田遺構である。先述のように 010SN と 011SN の間にある畦畔は形状がやや不整形であるが、これに対してその北側 6.4m に位置する 011SN と 012SN の間の畦畔は幅 0.8m と一定している。ただし当該畦畔遺構は、第 2 面と同じオリーブ灰色シルト層上面で検出されていて判別しやすいが、畦畔が水田耕作土を盛り上げて形成するものであることを考慮すると、当該

遺構の形状は耕作によって最も削り込まれた状態であるといえ、本来の畦畔はこれより若干幅があったと考えられる。

## (2) 第2面 (第24・25図)

### A 溝

#### 09C区 016SD

調査区北端から東壁に向かって伸びる直線の小溝で、幅2m、深さ0.11m、検出長約12.0mを測る。遺物は古墳時代初頭の土師器甕(58)や壺(57)が出土している。

### B 自然流路

#### 09C区 001NR

調査区南半部を占める自然流路である。遺構としての自然流路の概念や基本層位は09A・B区026NRの項で述べたとおりで、左岸に形成された土器集積遺構037～040SUの時期から概ね古墳時代初頭以降の堆積が該当する。

09C区001NRの特徴は、主に左岸側が検出されている点で、右岸側中心に検出された09A・B区026NRに対して、堆積の傾斜がきわめて緩やかである。09C区T1(調査区西壁)セクション参照すると、最下部のNR-3層に相当する12～16層は長さ約13mにわたってほぼ水平堆積を形成している。さらに同層端部から約18m北までの区間ではほとんど遺構が検出されず、ようやくX=-121.390付近にて039SUなどの古墳時代初頭の土器集積が検出されている。したがって流路(09C区001NR)の左岸では、幅約20mにわたって土地利用のされない部分があったものと考えられる。

以上の状況に対して、人為的な掘り返しを想定するNR-2層では、10層や11層で明瞭な掘り返しの痕が認められる。同様の状況は09C区T13(調査区東側突出部南壁)セクションにもみることができ、緩やかに立ち上がるNR-3b層(9層)に対してNR-2b層(7層)は明確な掘り込みがある。これらと09A・B区の各地点における土層断面から、NR-2層(大溝)が09C区と09A・B区で直線的に延びている可能性が高いと考えられる。

09C区001NRは、調査範囲が狭かったこともあるが、出土遺物が少ない。これは先述の流路左岸では土地利用の低調な一定の空間があったことにも関係していると考えられる。特に古墳時代の遺物が少ない点は、集落の生活域から離れていたことを示すものといえる。一方、NR-1・2層では灰釉陶器が出土しており、187の底部外面には墨書が認められる。この時期になると出土地点の付近まで集落行きとしての土地利用が進んできたものと推測される。

植物遺存体として、クリとナラガシワが出土している。

### C 土器集積・流路関連

#### 09C区 037SU～040SU

調査区北部に位置する土器集積遺構である。その位置は自然流路001NRの左岸に相当する。それぞれの遺構は土器集積ではあるが、若干の掘り込みを伴っていることから、土坑に対して廃棄されたものと考えられる。037SUは約0.8mの円形、038SUは1.25m×0.57mの東西に細長い溝状、039SUは037SUや034SXに掘り込まれているため全形不明、同様に040SUも037～039SUに掘り込まれているため全形不明となっている。遺構の形成は040SU→039SU→037・038SUの順で進んだと思われるが、遺物からみた大きな時期差はない。また一部は001NRの堆積層に削り込まれていることから、土器廃棄後も水流が寄せる場所であったと考えられる。037SUでは小碗(59)と短脚の高杯(60)が出土している。038SUでは小碗8点の他小型の台付甕3点があり、一括廃棄されたものと考えられる。一方039SUは壺(72～74)が大半を占めている。また040SUでは小碗(76)と甕(77)が出土している。

### (3) 第3面 (第28図)

#### A 溝

##### 09C区 057SD・058SD

調査区北端近くに位置する、ほぼ東西方向にのびる溝である。検出長は3.5mで、幅1.9～2.3、深さ0.2mを測る、断面が逆台形となる下層部分と幅1.3m深さ0.24mを測る上層部分とに大別される。なお上層は下層と向きが異なっており、一度埋没した下層部分を掘り返したものである。なお当該遺構(下層部分)の南側約2mで並行する溝058SDがある。こちらは幅1.3～2.1m、深さ0.2mで規模も類似している。同時に機能していたのかあるいは同規模のものが掘り直されたものかは不明である。

#### B 落ち込み・流路関連

##### 09C区 046SX・047SX

自然流路001NRの下位で検出された土坑状の不明遺構であるが、001NRの堆積層の一部を考えられる。第2面037～040SUと同様の流路堆積に対してなされた土坑状の廃棄とみられ、古墳時代初頭の土師器甕類(114～117)を中心に木製品なども出土している。

## 09D区

### 1 調査の概要

09D区は今次発掘調査で最も北側に位置する調査区である。09C区と同じく市道部分が調査対象地となっているため、幅約6～8mに対し南北に約42mと細長い調査区となっている。その東隣は00C区で、沖積地の微高地上で11棟の竪穴建物跡が検出されていることから、当該調査区でも同様の遺構が検出されるものと予想された。なお調査区は00C区西壁までを対象としたが、市道脇に埋設された農業用水管理設部分は調査不能であった(攪乱で表記)。

### 2 遺構の概要

09D区は、下懸遺跡を北西から南東方向へ貫流する自然流路の左岸に相当する。流路は大きく蛇行して左岸側に自然堤防を形成する。よって09C区半ばから北側では自然堤防の高まりに伴って基盤層とするオリーブ灰色シルト層も上昇しており、09D区においても表土や中・近世の遺物包含層の直下で当該層上面となる。したがって09A～C区の第1面は09D区では存在せず、第2面以降のみが対象となっている。第3～5面も基本的に第2面と同じオリーブ灰色シルト層を検出面としている。これは第2面での遺構重複が激しく、竪穴建物跡などの主要遺構と重複する小溝の検出が困難であったためである。主に第3面では落ち込み001NR・065SXの下層を対象とし、第4・5面は小溝を中心に検出した。したがってこれらの遺構面が必ずしも遺構の先後関係を示しているわけではない。

### (1) 第2・3・4面 (第23・27・29図)

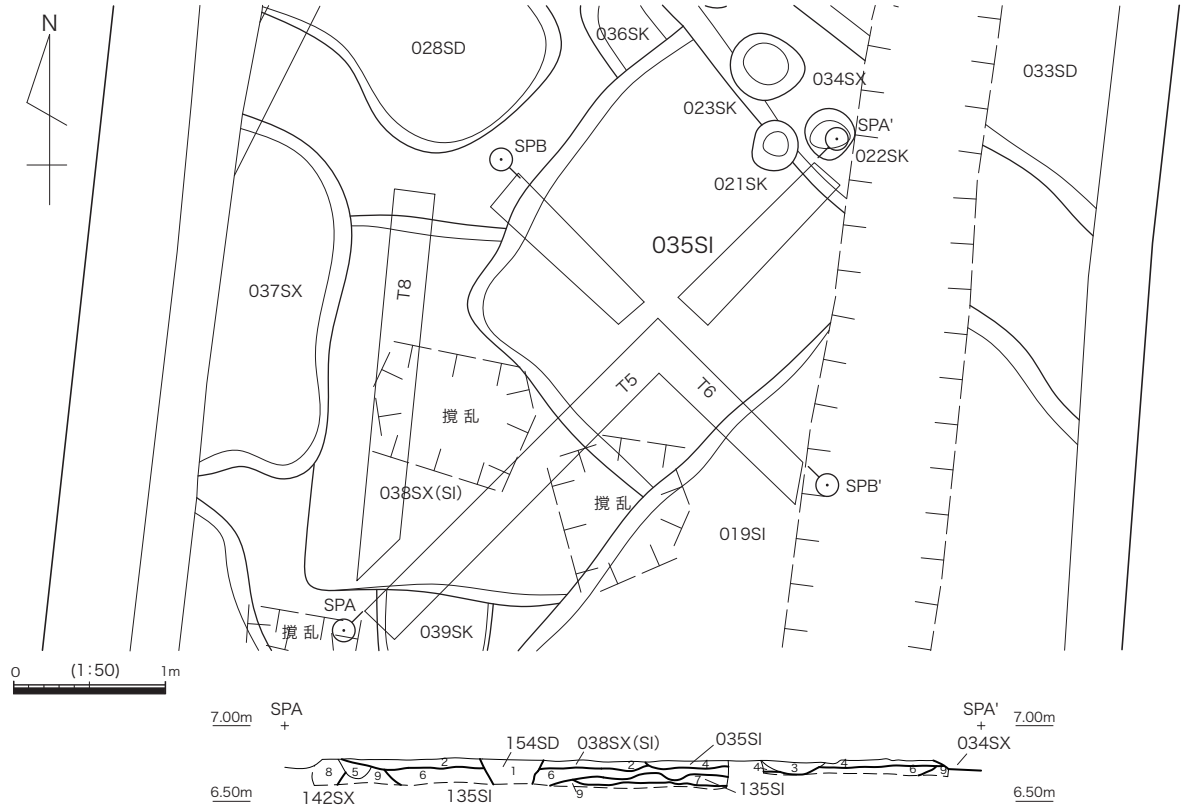
概要 第2面では、調査区南端を中心に中世の落ち込み(001NR・065SX)が検出された。調査区中央部から北では竪穴建物跡が5基以上と溝が検出された。第2面の調査後にほぼ同一の面で再度精査を行ったところ、第2面の竪穴建物跡019SI・038SI・040SIのそれぞれ下層部分が検出された。おそらく掘り方に相当するものと考えられる。また新たに134SIやピットや不整形な土坑が検出された。なお調査区南半部にある077・083SX・146SXなどの遺構は、竪穴建物跡の可能性が考えられたが不整形なものが大半であるため落ち込みの堆積層の一部とみるべきである。

#### A 竪穴建物跡・竪穴状遺構

##### 09D区 009SX

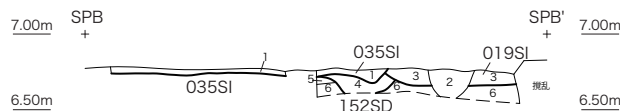
調査区南部に位置する竪穴状遺構である。西隅や北西辺と南西辺を中心に検出されており、平面形





#### 09D区T5

1. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。細粒砂含む。154SD。)
2. N4/灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。038SX(SI))。
3. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N5/灰色粘土ブロック含む。炭化物多量。035SI。)
4. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。炭化物あり。035SI。)
5. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N5/灰色粘土の混土。炭化物あり。)
6. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。細粒砂含む。炭化物あり。135SX。)
7. 7.5Y6/1灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。135SX。)
8. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR4/1褐灰色粘土の斑土。炭化物あり。142SX。)
9. 7.5GY6/1緑灰色シルト(N4/灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。)



#### 09D区T6

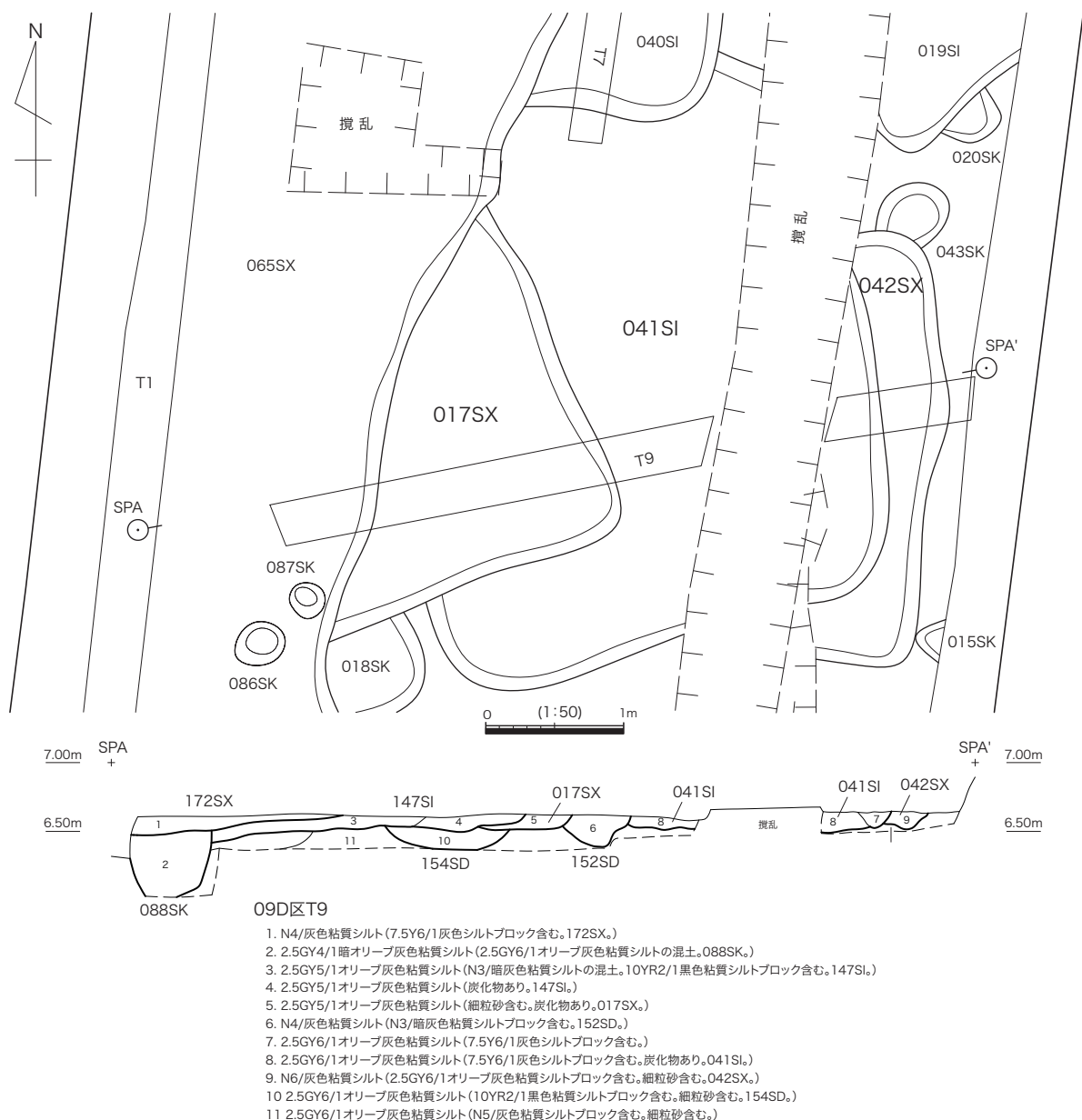
1. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。炭化物あり。035SI。)
2. N5/灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
3. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。019SI。)
4. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR4/1褐灰色粘土の混土。152SD。)
5. 7.5Y6/1灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。)
6. 7.5GY6/1緑灰色シルト(N4/灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。)

第 15 図 下懸遺跡 09D 区 035SI (S = 1/50)

は一辺 3 m 以上の隅丸方形と推測される。壁溝、柱穴、炉跡などは検出されておらず堅穴建物跡の要件を満たしているとは言い難い。顕著な出土遺物もない。

#### 09D 区 019SI

調査区中央部に位置する。北西辺で 035SI と 038SI、南西辺で 040SI と重複しこれらに後続する。東隅を除く大半が検出されており、北西辺と南西辺は全体をうかがうことができることから、平面形は一辺約 4 m の正方形と推測される。方位はグリッド北から西へ 40° 振れている。検出面からの深さ 0.11m である。埋土は暗灰色および灰色のシルトブロックの混じる粘質シルトで、掘り方もしくは貼床に相当するとみられるが上層 (T7 の 2 層) では炭化物が混じる。出土遺物は古墳時代初頭と



第 16 図 下懸遺跡 09D 区 041SI (S = 1/50)

みられる土師器の小碗(126・127)などが出土している。壁溝、柱穴、炉跡のいずれもなく、竪穴建物跡の要件を満たしているとは言い難いが、出土遺物もあることから竪穴建物跡の可能性が高いと考えられる。出土遺物から古墳時代初頭と推測される。

#### 09D 区 035SI (第 15 図)

調査区中央部に位置する。西隅を中心に一部が検出された。南東辺で 019SI に北東辺で 034SX と 033SD に重複しておりこれらに先行する。一方南西辺では 038SI と重複しこれより新しい。平面形は隅丸方形で一辺 2.5m 以上の規模が推測される。出土遺物は加飾壺の口縁部(89)がある。

09D 区 038SX (SI) (第 3 面 135SX) 調査区中央部に位置する。第 2 面で検出された時点(038SI)では正方形の竪穴建物跡と推定されたが、その後第 3 面で精査したところさらに範囲が広がった(135SI)。しかしながら断面(T5)の観察によれば 038 と 035 の切り合い関係が逆であることや底面が緩い傾斜のまま不安定な状態であることが判明した。146SX などと同じく自然流路に向かっ



て下る地形の堆積の一部とみられる。

#### 09D 区 040SI (第 3 面 150SI)

019SI・038SI・041SI と重複する 竪穴建物跡で、041SI → 040SI (150SI) → 038SI (135SI) → 035SI → 019SI の順に遺構が展開している。南東隅のみが検出され、方位はグリッド北からわずかに東へ振れる。平面形は一辺 2.5m 以上の隅丸方形と推測され、検出面からの深さ 0.12m である。壁溝、柱穴、炉跡などは検出されていない。040SI 掘削後に第 3 面で検出された 150SI は床面下の掘り方部分に相当すると考えられる。出土遺物は、040SI でハケ調整痕のある土師器甕 (132) などが出土しており、掘り方 150SI には顕著な遺物がなかった。このことから遺構の時期は古墳時代初頭と推定される。

#### 09D 区 041SI (第 16 図)

調査区中央部に位置する。北辺で 040SI と重複しこれに先行する。また竪穴状遺構 017SX にも先行しており、第 2 面では最古段階に位置づけられる。北西を除く 3 つの隅部が検出されており、平面形は概ね隅丸正方形と捉えられる。東西 3.5m、南北 4.3m の規模と推定される。検出面からの深さ 0.15m である。埋土はオリブ灰色粘質シルトである。出土遺物は古墳時代初頭とみられる土師器甕 (91) などが出土している。壁溝、柱穴、炉跡のいずれもなく、竪穴建物跡の要件を満たしているとは言い難いが、出土遺物もあることから竪穴建物跡の可能性が高いと考えられる。

#### 09D 区 054SX

調査区北部に位置する竪穴状遺構である。東隅と南東辺を中心に検出されており、平面形は一辺 3m 以上の隅丸方形になると推測される。検出面からの深さ 0.04m である。壁溝、柱穴、炉跡などは検出されていない。竪穴建物跡の要件を満たしているとは言い難いが、平な底面の存在を考慮して竪穴状遺構とする。

#### 09D 区 134SI

第 3 面で検出された。調査区中央部に位置する。南東隅で 135SI (038SI) と重複し、これより新しい遺構である。東辺長は 4m で平面形は隅丸方形である。東辺での方位はグリッド北から 25° 東へ振れる。検出面からの深さ 0.11m である。壁溝、柱穴、炉跡などは検出されていない。出土遺物は壺の底部 (145) が出土しており、古墳時代初頭と考えられる。

#### 09D 区 179SI・180SI

調査区南東隅に位置し、一部のみ検出された竪穴建物跡である。いずれもグリッド北から西へ 20° 振れる方位軸をとっている。179SI は北西辺と南西辺が検出されており、そこから推定される規模は一辺 4m 以上の (隅丸) 方形である。底面からはピット 198SK が検出されているが、柱穴としてはややずれた位置にある。一方 180SI は 179SI と同方位で先行する遺構で北西辺に相当する上端のラインが見えたのみである。いずれも壁溝や炉跡は検出されておらず、竪穴建物跡の要件には不足があるものの可能性のある遺構として提示した。

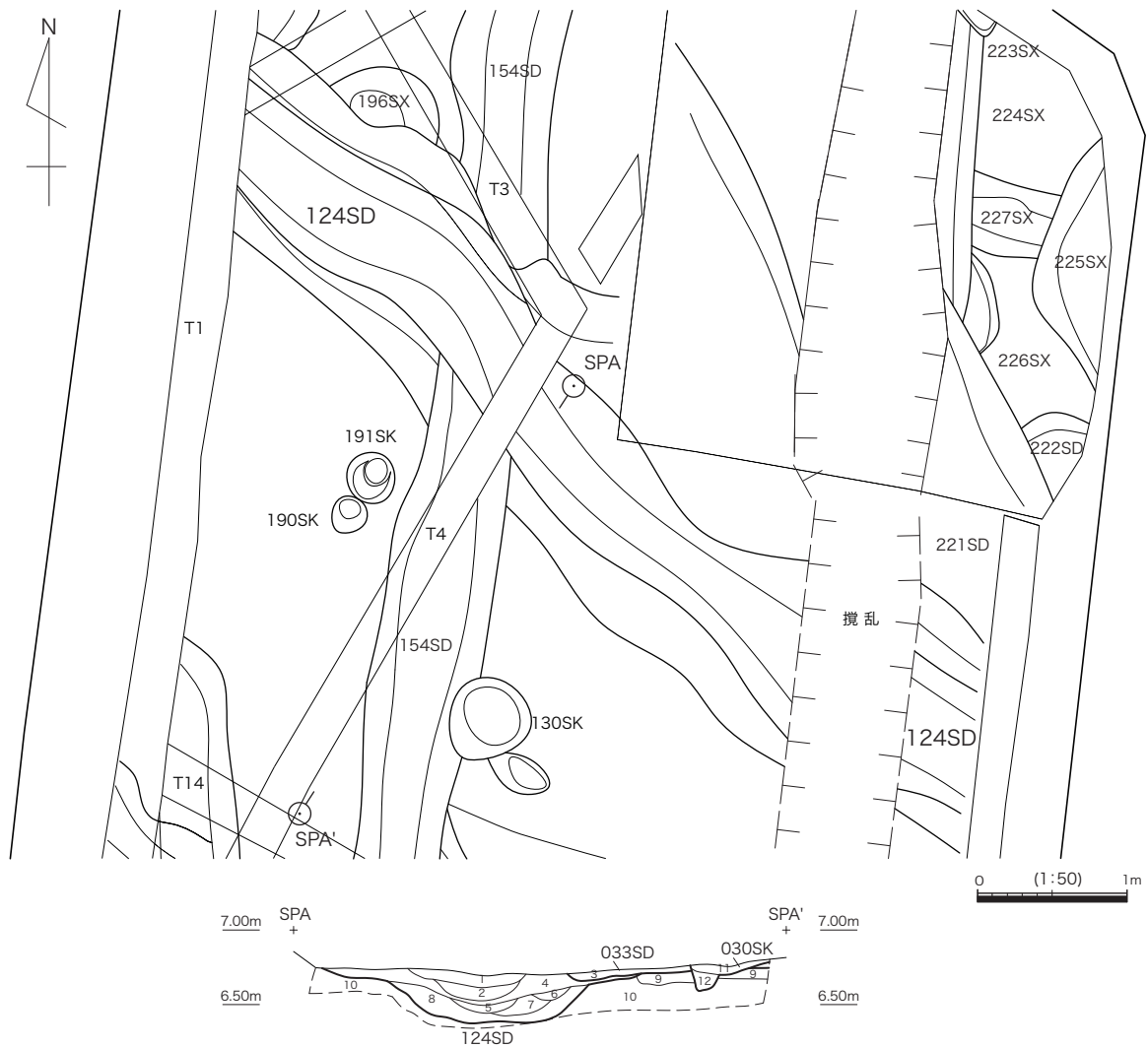
#### B 溝

#### 09D 区 033SD・034SX・045SD

調査区北部に位置する。北西から南東方向へ調査区内を抜ける溝で検出長は約 6.7m である。033SD は検出面での幅 2.6m 底面幅 2.3m 深さ 0.05m を測り、きわめて浅い掘り込みである。033SD の東半部ではそれに先行する 034SX と 045SD が検出されている。これらの遺構は 033SD と同じく溝状を呈しており、033SD はこれを掘り返したものと考えられる。顕著な出土遺物はなかった。

#### 09D 区 124SD (第 17 図)

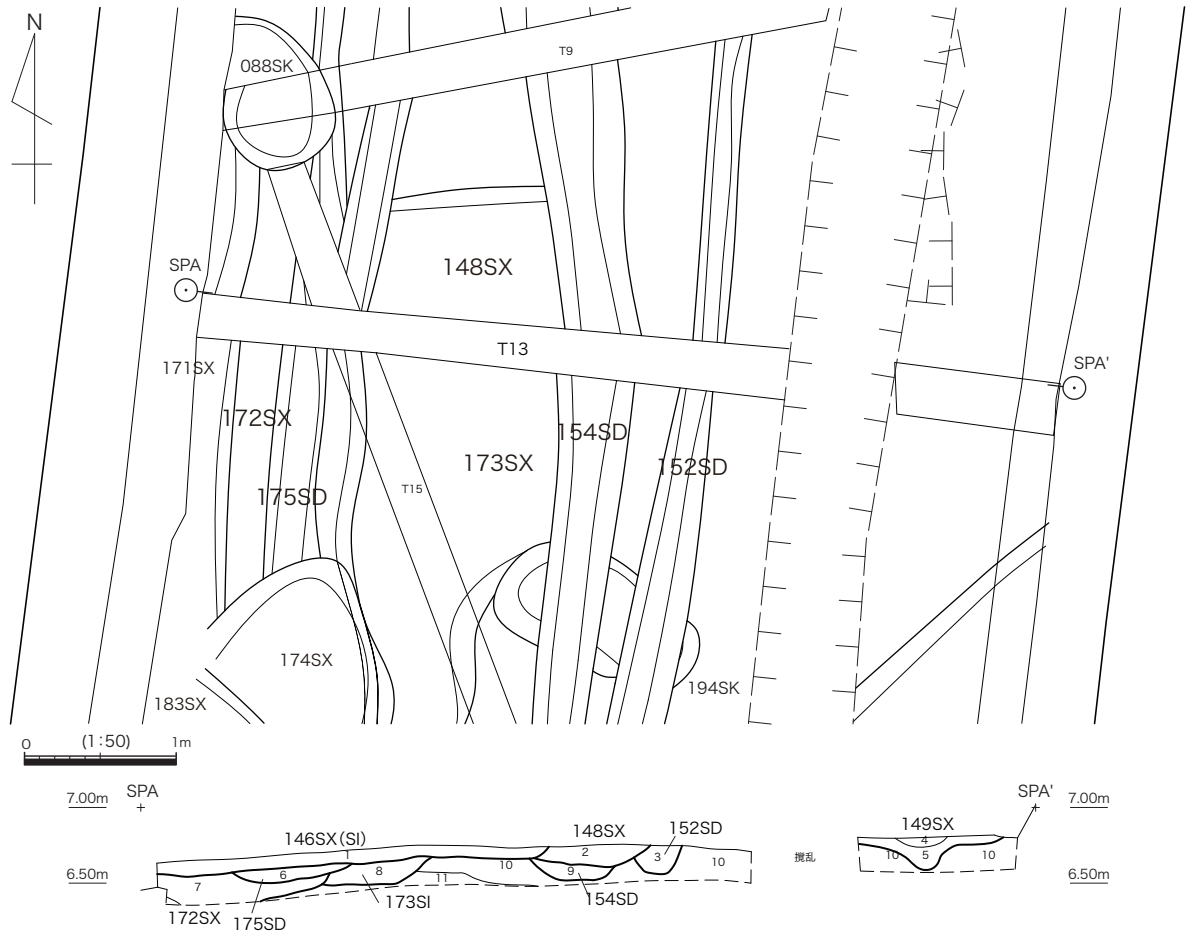
調査区北部に位置し、北西から南東方向へ抜ける溝である。幅 1.1m、深さ 0.25m、検出長は 6.8m を測る。当該溝はそのまま東へ延長し、00C 区 SD01 へと続く。断面形は逆台形の下部に対し



#### 09D区T4

1. 10YR3/1 黒褐色粘土 (2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。124SD上層。)
2. 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルトブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。124SD上層。)
3. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト (2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルトの混土。033SD。)
4. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (10YR4/1 褐灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。124SD上層。)
5. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト (細粒砂含む。炭化物多量。124SD下層。)
6. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (細粒砂含む。124SD下層。)
7. N5/灰色粘質シルト (細粒砂含む。124SD下層。)
8. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (N5/灰色粘土の混土。細粒砂含む。124SD下層。)
9. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (細粒砂含む。)
10. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト (細粒砂含む。)
11. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (細粒砂含む。030SK。)
12. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (炭化物あり。030SK。)

第 17 図 下懸遺跡 09D 区 124SD (S = 1/50)



#### 09D区T13

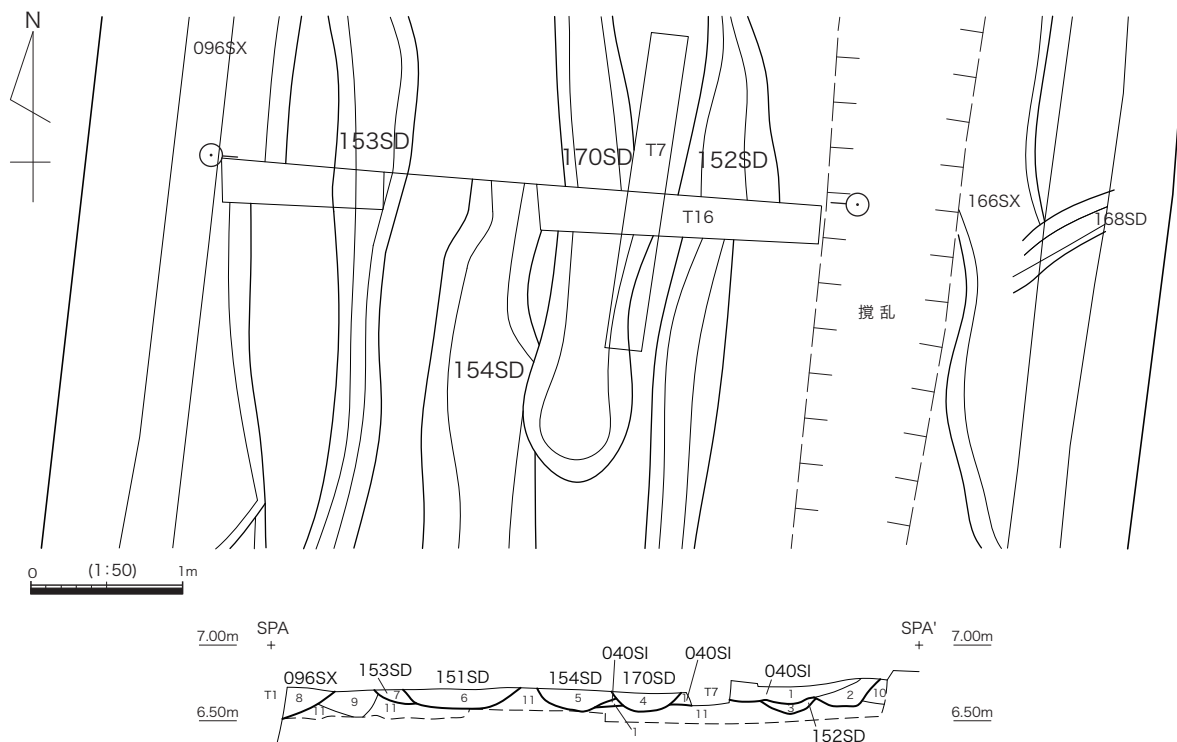
1. 10YR4/1 褐色粘質シルト (N3/暗灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。146Si。)
2. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト (N3/暗灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。148SX。)
3. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト (N4/灰色粘土の混土。細粒砂含む。炭化物あり。152SD。)
4. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト (炭化物あり。)
5. 7.5Y6/1 灰色粘質シルト (N3/暗灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。149SX。)
6. N4/灰色粘質シルト (7.5Y6/1 灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。175SD。)
7. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘質シルト (7.5Y6/1 灰色粘土の混土。炭化物あり。172SX。)
8. N5/灰色粘質シルト (2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルトの混土。細粒砂含む。炭化物あり。173Si。)
9. 7.5GY5/1 緑灰色粘質シルト (細粒砂含む。炭化物あり。154SD。)
10. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘質シルト (N3/暗灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。)
11. 2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト (N4/灰色粘土ブロック含む。細粒砂多く含む。炭化物あり。)

第 18 図 下懸遺跡 09D 区 152・153・154・170SD (S = 1/50)

て上部は浅い皿状である。これをもとに上・下層を区分すると、土層断面 (T4) の 1・2・4 層が上層で、5～8 層が下層となる。上層のうち 1・2 層は最終の掘り返しで小溝としたものであろう。4 層は褐色灰色粘土ブロックを含むので埋め立てを伴う整地に関わるとみられる。5 層は多量の炭化物や土器片が含まれており、集落などの廃絶や多量の廃棄が想定される。6・7 層は細粒砂を含むので若干の水流があった可能性も考えられる。この溝の方向が自然流路の方位と符合する点も特徴で、集落と川 (自然流路) を区切っていたものと考えられる。なお 124SD からは土師器の壺や甕などが出土しており、これらは集落が機能していた時期に廃棄されたものと考えられる。

#### 09D 区 152SD・177SD (第 18・19 図)

調査区内を南北方向にのびる小溝である。幅 0.3m、深さ 0.23m を測る。南端は 177SD となる。それを含めて北へ約 25m 直線でのび、斜行溝 124SD (00C 区 SD01) の南約 3m の地点で北西方向へ鈍角に屈曲し 154SD に重なる。そこから先は他の遺構により削平されている。遺構の重複関係



#### 09D区T16

1. 7.5GY4/1暗緑灰色粘質シルト(細粒砂含む。040SI。)
2. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。040SI。)
3. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む。152SD。)
4. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。170SD。)
5. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。154SD。)
6. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む。151SD。)
7. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。153SD。)
8. 2.5GY4/1暗オリブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。096SX。)
9. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
10. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。炭化物あり。)
11. 7.5GY6/1緑灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。細粒砂含む。)

#### 第19図 下懸遺跡09D区152・154・175SD (S = 1/50)

では比較的古い段階に位置付けられ、T9では竪穴建物跡041SIより新しく、T16では竪穴建物跡040SI(150SI)より古い。152SDは集落に関わる溝124SDに合わせて屈曲しており、同時に機能したと考えられる。このことから集落縁辺をのびる道路側溝の可能性が考えられる。その場合対になる側溝をどの溝に想定するかが問題となるが、東側で並行する溝状遺構166SXも同様に124SDを前にして屈曲しており、これと組み合わせる可能性が考えられる。一方、西側に位置する153SD・162SDとは南側でやや接近するので、むしろ造り替えたものかもしれない。

#### 09D区153SD・162SD・164SD(第18図)

調査区西壁に沿って検出された南北方向にのびる小溝である。幅0.5m深さ0.2mを測り、検出長は約28mである。土坑174SXに切られた南側は162SDとして検出した。一方北端はグリッド4E81付近で西壁から西方へのびている。顕著な出土遺物はなかった。164SDは162SDの西約2.5mで並行する位置関係にある。幅0.5m、深さ0.17m、検出長は7mである。形態は152SD・177SDに類似しており、これらが組み合わせとなる道路側溝の可能性が考えられる。

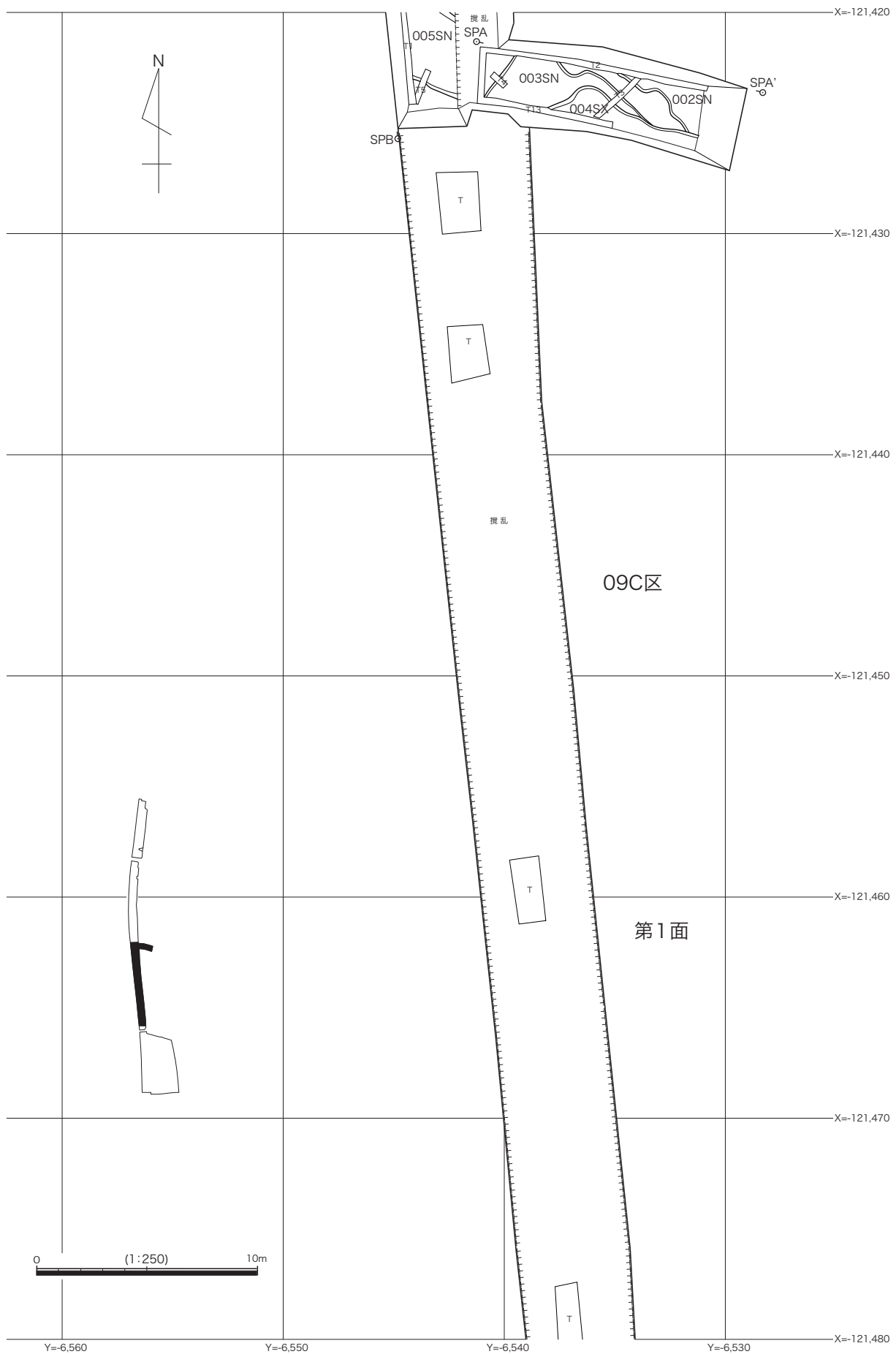
#### 09D区154SD(第18・19図)

調査区内を南北方向にのびる小溝である。幅0.5～0.8m深さ0.17～0.3mを測る。調査区北壁付近に北端があり124SD・144SDとの交差点を経て、途中170SDに切られる箇所では明確に検出できなかったが、そこから南へのびて152SDとの交差点に至る。この間の長さは約17mである。ただしT2やT4では当該遺構の断面は見出せず特に124SDとの関係は不明のままとなっている。

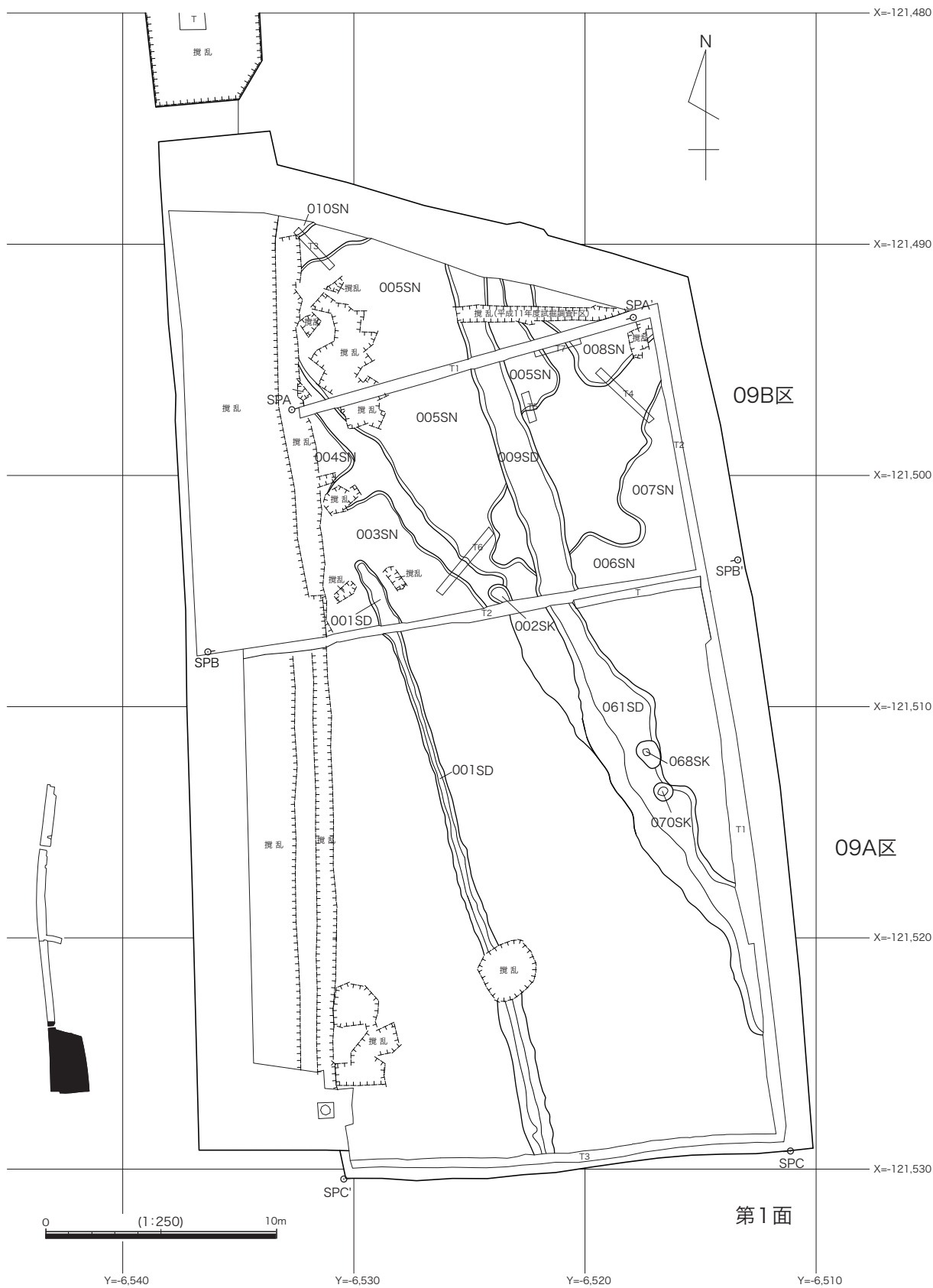


第 20 図 下懸遺跡 09C 区第 1 面平面図 1 (S = 1/250)





第 21 図 下懸遺跡 09C 区第 1 面平面図 2 (S = 1/250)

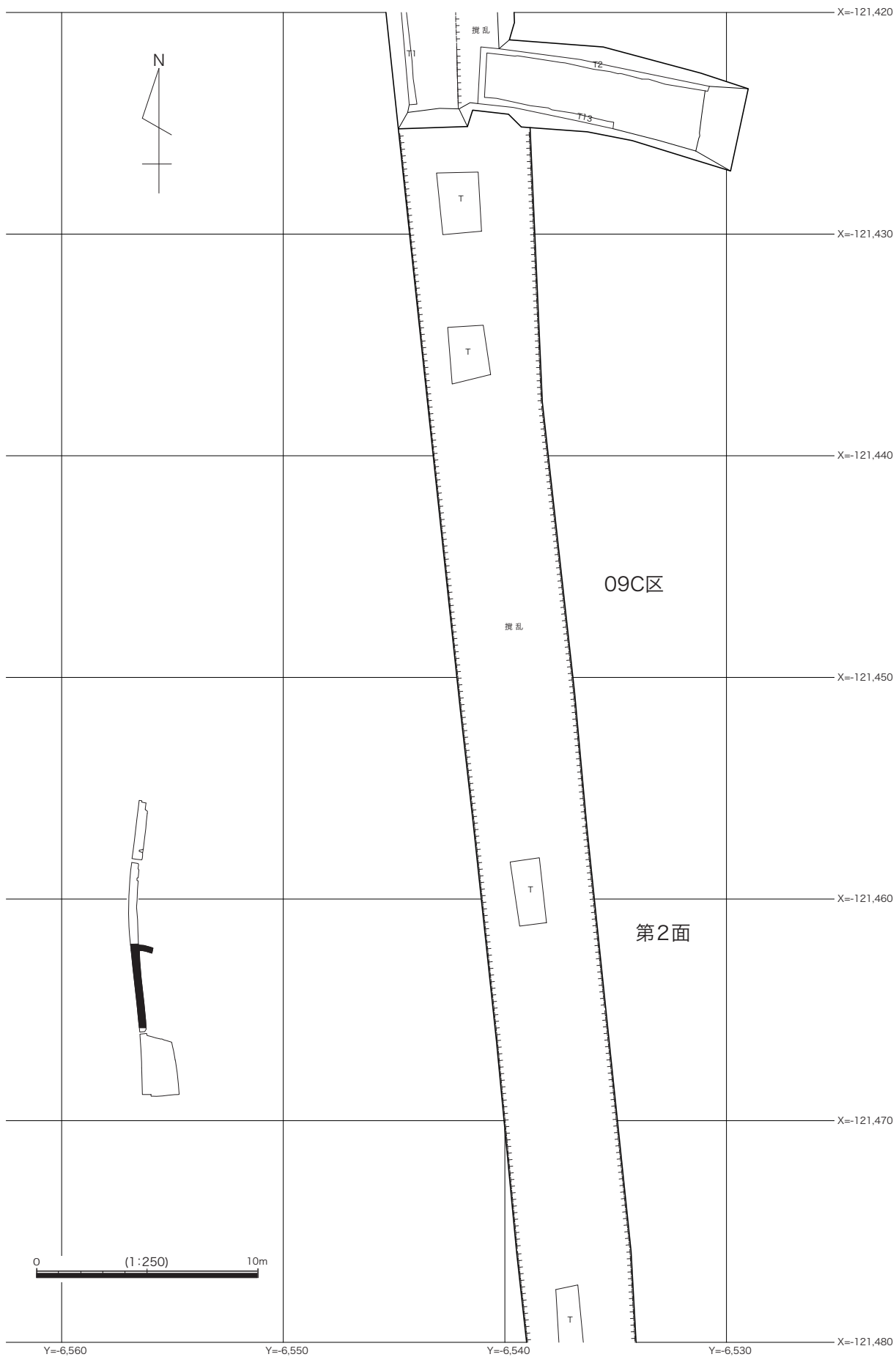


第 22 図 下懸遺跡 09A・B 区第 1 面平面図 (S = 1/250)





第 24 図 下懸遺跡 09C 区第 2 面平面図 1 (S = 1/250)



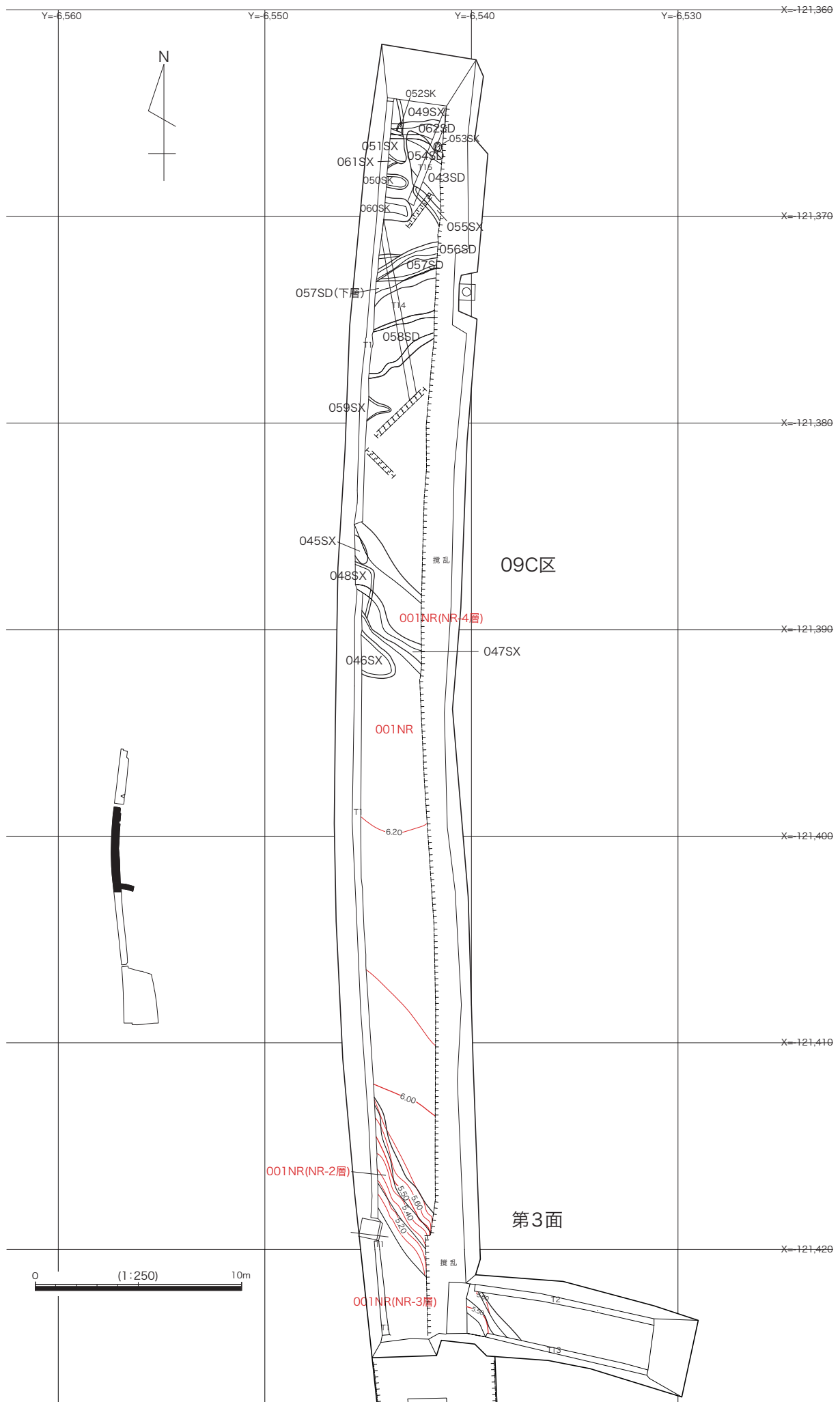
第 25 図 下懸遺跡 09C 区第 2 面平面図 2 (S = 1/250)

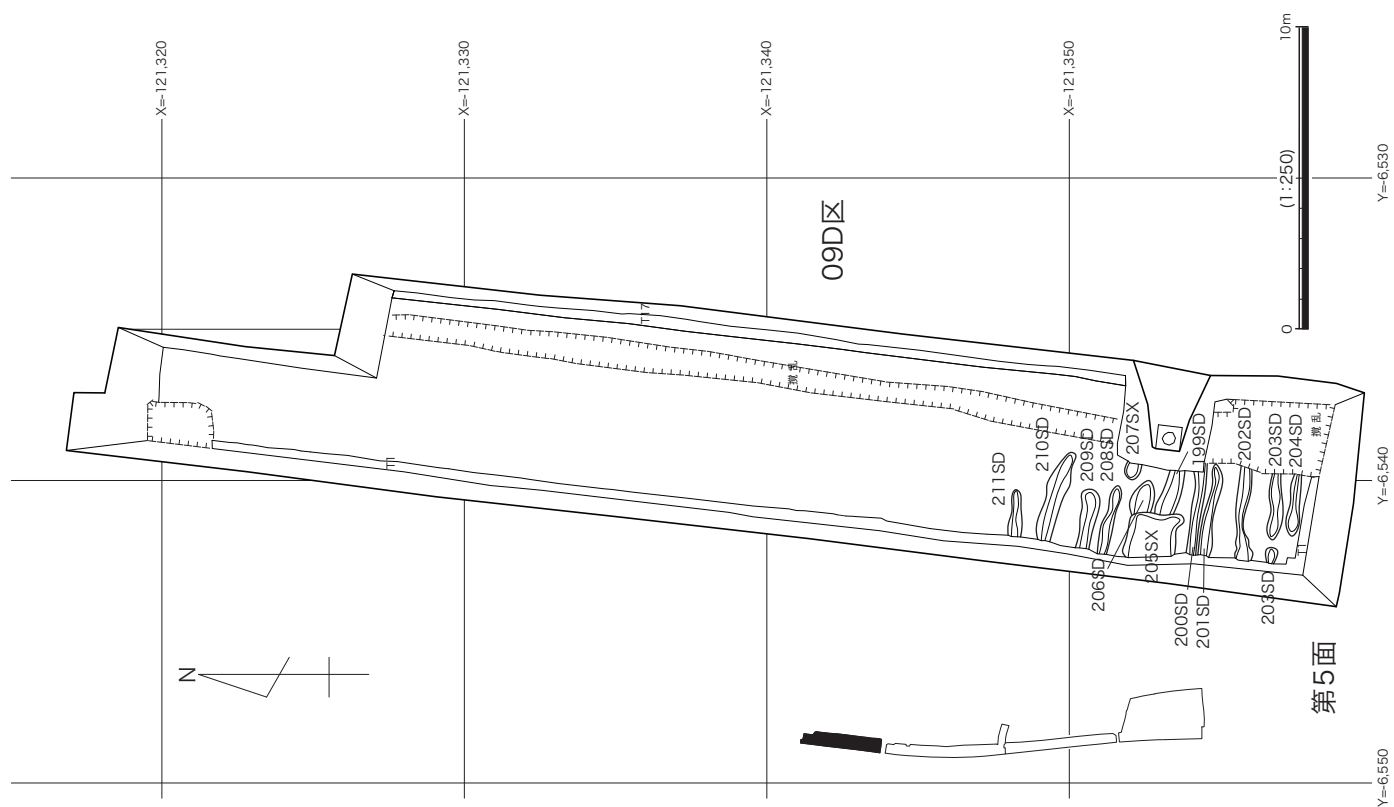




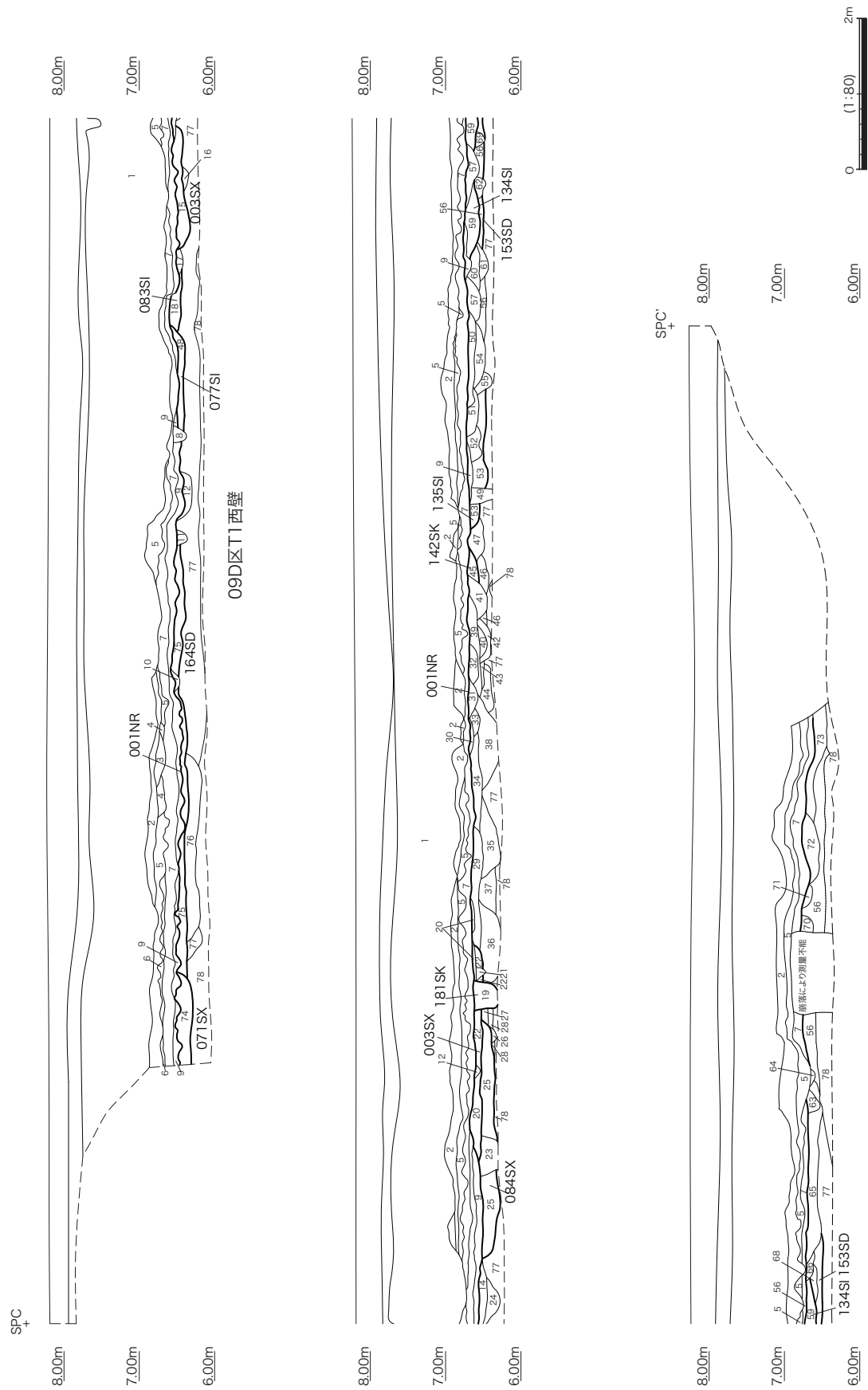


第 27 図 下懸遺跡 09D 区第 3 面平面図 (S = 1/250)





第 29 図 下懸遺跡 09D 区第 4 面・第 5 面平面図 (S = 1/250)



第 30-1 図 下懸遺跡 09D 区西壁土層断面図 (S = 1/80)

## 09D区T1西壁

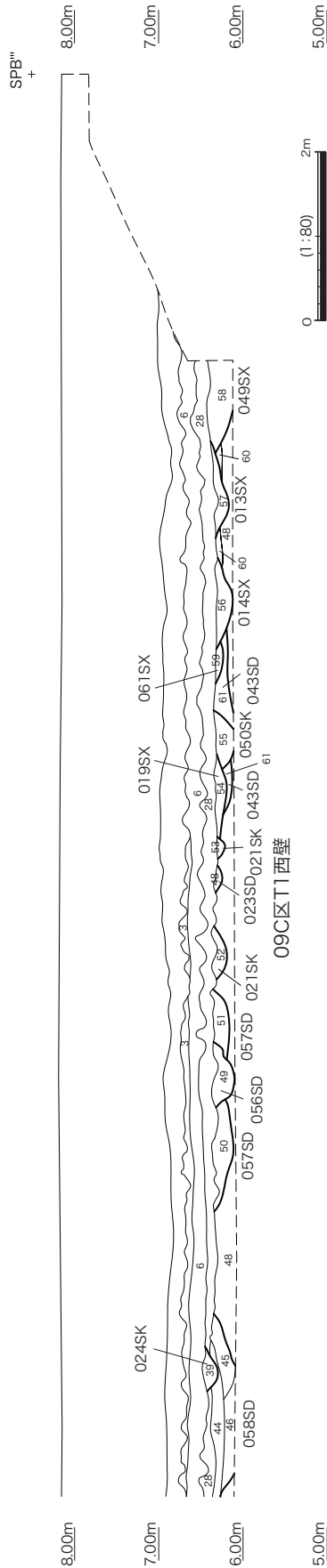
1. 10YR4/2灰黄褐色粘土(現代擾乱土。)
2. 7.5Y5/2灰オリブ灰色粘質シルト(極細粒砂含む。炭化物あり。)
3. 10YR5/1褐灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック少量含む。)
4. 10YR5/1褐灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
5. 7.5Y5/1灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック含む。)
6. 10YR4/1褐灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。)
7. 10YR3/2黒褐色粘土(極細粒砂。炭化物。001NR。NR-1層。)
8. 10YR2/1黒色粘土
9. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR2/1黒色の混土。植物質多く含む。001NR。NR-3層。)
10. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土ブロック。)
11. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土ブロック。炭化物あり。)
12. 10YR4/1褐灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。炭化物あり。)
13. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。)
14. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック含む。炭化物あり。)
15. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
16. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
17. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
18. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。炭化物あり。083SL。)
19. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック(15cm以下)含む。)
20. N4/灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。)
21. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
22. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック含む。)
23. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
24. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
25. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(N3/暗灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。084SX。)
26. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
27. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
28. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(炭化物あり。)
29. N4/灰色粘土(炭化物あり。)
30. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。炭化物あり。)
31. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
32. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
33. 10YR4/1褐灰色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。細粒砂含む。)
34. 10YR4/1褐灰色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。 細粒砂含む。)
35. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
36. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
37. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。)
38. 2.5GY6/1 オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。極細粒砂含む。ラミナ堆積。炭化物あり。)
39. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。炭化物あり。)
40. N4/灰色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。)
41. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
42. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
43. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
44. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。)
45. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。)
46. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。)
47. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。)
48. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(N3/暗灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。077SL。)
49. 10YR4/1褐灰色粘土。炭化物あり。)
50. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR5/1褐灰色粘土の混土。炭化物多量。)
51. 10YR4/1褐灰色粘土(10YR2/1黒色粘土と2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
52. 10YR4/1褐灰色粘土(炭化物あり。)
53. N6/灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。)
54. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック含む。細粒砂含む。)
55. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
56. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。)
57. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの斑土。炭化物あり。)
58. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
59. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。炭化物あり。)
60. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土の斑土。炭化物あり。)
61. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(炭化物あり。)
62. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。)
63. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
64. 10YR3/1黒褐色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトの斑土。)
65. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土ブロック含む。細粒砂含む。ラミナ堆積が攪拌される。炭化物多量。)
66. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。)
67. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土ブロック含む。)
68. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック少量含む。細粒砂含む。)
69. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。細粒砂含む。)
70. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
71. 2.5GY6/1オリブ灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。)
72. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土の混土。)
73. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色粘土の混土。)
74. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(10YR4/2灰黄褐色粘土・N3/暗灰色粘土ブロック少量含む。細粒砂含む。炭化物あり。071SX。)
75. 2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。164SD。)
76. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルトブロック含む。)
77. 2.5GY6/1オリブ灰色粘質シルト(2.5GY5/1オリブ灰色粘質シルトの混土。炭化物少量あり。)
78. 7.5GY6/1緑灰色極細粒砂

## 第 30-2 図 下懸遺跡 09D 区西壁土層断面図土色



第 31 図 下懸遺跡 09C 区西壁土層断面図 1 (S = 1/80)



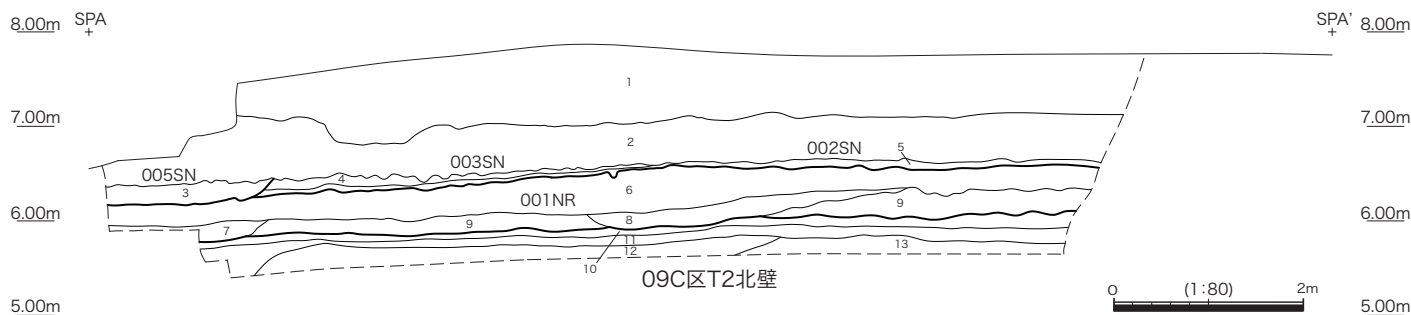


第 32 図 下懸遺跡 09C 区西壁土層断面図 2 (S = 1/80)

09C区T1西壁

1. 10YR4/2灰黄褐色粘土(現代擾乱土。)
2. 7.5Y5/2灰オリーブ灰色粘質シルト(細粒砂含む。炭化物あり。近世以降の水田耕作土。表土。)
3. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。)
4. 10YR2/1黒色 粘土(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。)
5. 10YR2/1黒色粘質シルト(10YR4/2灰黄褐色粘土の混土。炭化物あり。古代~中世水田耕作土。)
6. 10YR3/2黒褐色粘土(細粒砂。炭化物あり。001NR。NR-1層。)
7. 10YR2/1黒色粘土(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む少量。炭化物あり。001NR。NR-2a層。)
8. 10YR2/1黒色粘土(10YR4/1褐灰色粘土の混土。炭化物あり。001NR。NR-2a層。)
9. 10YR2/1黒色粘土(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む。炭化物あり。001NR。NR-3a層上部。)
10. 10YR3/1黒褐色粘土(少量の植物質含む。001NR。NR-2b層。)
11. 10YR2/1黒色粘土(10YR4/1褐灰色粘土ブロック含む少量。炭化物あり。NR-2c層。)
12. 7.5GY6/緑灰色シルト(植物質(草本類)含む。001NR。NR-3a層 上部。)
13. 10YR3/1黒褐色粘土(細粒砂含む。炭化物あり。001NR。NR-3a層 上部。)
14. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。001NR。NR-3a層中部。)
15. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。植物質 多く含む。木製品出土。ラミナ堆積。001NR。NR-3b層。)
16. 7.5GY5/1緑灰色細粒砂(細粒砂含む。植物質含む。炭化物あり。001NR。NR-3c層。)
17. 10YR2/1黒色粘土(10YR1.7/黒色粘土ブロック含む。)
18. 10YR2/1黒色粘土(細粒砂含む。炭化物あり。)
19. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。)
20. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土の混土。植物質(草本類)含む。炭化物あり。001NR。)
21. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。001NR。)
22. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。006SK。)
23. 7.5GY6/1緑灰色シルト(細粒砂含む。少量の植物質含む。)
24. 10YR2/1黒色 粘土(炭化物あり。)
25. 10YR2/1黒色 粘土(2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルトブロック含む。微量の植物質(草本類)含む。)
26. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR4/1褐灰色粘土の混土。炭化物あり。)
27. 10YR2/1黒色粘土(10YR4/1褐灰色粘土の混土。炭化物あり。)
28. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
29. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR4/1褐灰色粘土の混土。炭化物あり。034SX。)
30. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR4/1褐灰色粘土の混土。炭化物あり。039SU。)
31. N4/灰色粘土(10YR3/1黒褐色粘土の混土。植物質(草本類)含む。炭化物あり。046SX。)
32. 10YR4/1褐灰色粘土(植物質(草本類)含む。炭化物あり。001NR。)

33. N4/灰色粘質シルト(植物質(草本類)含む。炭化物あり。047SX。)
34. 10YR4/1褐灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。植物質含む。炭化物あり。)
35. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質(草本類)含む。炭化物あり。048SX。)
36. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。植物質(草本類)含む。炭化物あり。045SX。)
37. 10YR4/2灰黄褐色粘土(10YR3/1黒褐色粘土の混土。)
38. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルトの混土。026SD。)
39. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。024SK。)
40. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(042SX。)
41. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。028SD。)
42. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。)
43. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(細粒砂含む。植物質含む。炭化物あり。059SX。)
44. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。植物質含む。058SD。)
45. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(N4/灰色粘土ブロック含む。植物質含む。炭化物あり。058SD。)
46. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質多く含む。炭化物あり。056SD。)
47. 2.5GY5/1オリーブ灰色シルト(細粒砂含む。植物質含む。炭化物あり。)
48. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。)
49. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。炭化物あり。056SD。)
50. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。057SD。)
51. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック含む。細粒砂含む。炭化物あり。057SD。)
52. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト(10YR2/1黒色粘土ブロック含む。植物質含む。炭化物あり。021SK。)
53. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。植物質含む。炭化物あり。)
54. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。植物質含む。炭化物あり。019SX。)
55. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。050SK。)
56. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。014SX。)
57. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。013SX。)
58. 2.5GY5/1オリーブ灰色粘質シルト(2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルトブロック含む。植物質含む。炭化物あり。049SX。)
59. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト(N4/灰色粘土の混土。炭化物あり。061SX。)
60. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(植物質含む。051SX。)
61. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(植物質含む。043SD。)
62. 10YR3/1黒褐色粘土(N4/灰色粘土の混土。植物質(草本類)含む。炭化物あり。040SU。)



#### 09C区T2北壁

1. 10YR4/2灰黄褐色粘土(現代攪乱土。)
2. 7.5Y5/2灰オリーブ色粘質シルト(極細粒砂。炭化物あり。近世以降の水田耕作土。表土。)
3. 10YR3/1黒褐色粘土(10YR2/1黒色粘土ブロック少量含む。)
4. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。)
5. 10YR2/1黒色粘質シルト(10YR4/2灰黄色粘土の混土。炭化物あり。古代～中世水田耕作土。)
6. 10YR3/2黒褐色粘土(極細粒砂含む。炭化物あり。001NR<sub>0</sub>NR-1層。)
7. 10YR3/1黒褐色粘土(極細粒砂含む。植物質含む。炭化物あり。001NR<sub>0</sub>NR-2b層。)
8. 10YR2/1黒色粘土(2.5GY6/1オリーブ灰色粘土ブロック含む。極細粒砂含む。植物質少量含む。001NR<sub>0</sub>NR-2a層。)
9. 10YR2/1黒色粘土(炭化物あり。001NR<sub>0</sub>NR-3a層。)
10. 10YR3/4暗褐色粘質シルト(植物質(草本類)多く含む。炭化物あり。)
11. 7.5GY5/1緑灰色粘質シルト(植物質含む。炭化物あり。)
12. 7.5GY6/1緑灰色シルト(植物質少量含む。)
13. 7.5GY6/1緑灰色シルト(極細粒砂含む。)

第 33 図 下懸遺跡 09C 区北壁土層断面図 (S = 1/80)

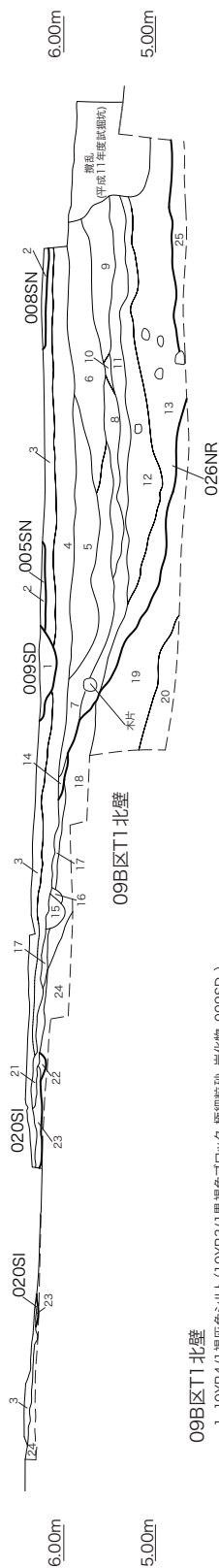
#### 09AB区T2北壁

- |                                                                                         |                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1. 10YR4/1褐灰色粘土(表土。)                                                                    | 21. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(10YR7/1灰白色シルトの混土。炭化物。)                                |
| 2. 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト(現代攪乱土。)                                                             | 22. 10YR3/2黒褐色粘土(極細粒砂。炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-1層下部。)                    |
| 3. 2.5Y5/1黄灰色粘質シルト(現代攪乱土。)                                                              | 23. 10YR3/1黒褐色粘土(極細粒砂。炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-2a層。)                     |
| 4. 7.5Y5/1灰色粘質シルト(10YR4/1シルトブロック。細粒砂。炭化物。)                                              | 24. 10YR2/1黒色粘土(炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-2b層。)                           |
| 5. 5Y4/1灰色 粘質シルト(7.5Y5/1灰色シルトの斑土。極細粒砂。炭化物。)                                             | 25. 10YR2/2黒褐色粘土(極細粒砂。炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-3a層。)                     |
| 6. 7.5Y5/2灰オリーブ色粘質シルト(極細粒砂。炭化物。近世以降の水田耕作土。包含層上層。)                                       | 26. 2.5Y3/2黒褐色粘土(5Y7/1灰白色粘土ブロック。植物質(草本類)非常に多い。026NR <sub>0</sub> NR-3a層。) |
| 7. 2.5Y6/2灰黄色シルト(極細粒砂。001SD <sub>0</sub> 。)                                             | 27. 2.5Y2/1黒色粘土(5Y5/1灰色粘土ブロック。026NR <sub>0</sub> NR-3a層。)                 |
| 8. 2.5Y7/1灰白色シルト(極細粒砂。001SD <sub>0</sub> 。)                                             | 28. 5Y3/1オリーブ黒色粘土(7.5Y4/1灰色粘土の混土。炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-3a層。)          |
| 9. 7.5Y4/1灰色粘質シルト(炭化物。包含層下層。)                                                           | 29. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土(10YR2/1黒色粘土の混土。026NR <sub>0</sub> 。)                |
| 10. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(5Y4/1灰色の斑土。白色極細粒砂。炭化物。)                                             | 30. 10YR5/1褐灰色シルト(5Y5/1灰色粘土の混土。026NR <sub>0</sub> 。)                      |
| 11. 10YR4/1褐灰色粘質シルト(10YR3/1黒褐色ブロック。極細粒砂。炭化物。061SD <sub>0</sub> 。)                       | 31. 7.5Y6/1灰色シルト(5Y5/1灰色粘土の混土。026NR <sub>0</sub> 。)                       |
| 12. 10YR2/1黒色粘質シルト(10YR4/2灰黄色シルトの混土。炭化物。古代～中世水田耕作土。)                                    | 32. 7.5Y4/1灰色粘土(流木。木製品多く出土。炭化物。026NR <sub>0</sub> NR-3b層。)                |
| 13. 10YR4/2灰黄色粘質シルト(炭化物。NR-1層上部。)                                                       | 33. 10YR4/2灰黄色粘質シルト(026NR <sub>0</sub> NR-3b層。)                           |
| 14. 5Y5/1灰色粘質シルト(7.5Y6/2灰オリーブ色シルトの混土。炭化物。)                                              | 34. 7.5Y4/1灰色極細粒砂(炭化物。)                                                   |
| 15. 10YR6/1褐灰色粘質シルト(7.5Y7/2灰白色シルトの斑土。極細粒砂。炭化物。016SD <sub>0</sub> 。043SD <sub>0</sub> 。) | 35. N3/灰色極細粒砂(細粒砂。炭化物。)                                                   |
| 16. 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト(10YR6/1褐灰色シルトの混土。炭化物。)                                             | 36. 5Y3/2オリーブ黒色粘質シルト(極細粒砂～細粒砂。026NR <sub>0</sub> NR-3c層。)                 |
| 17. 7.5Y6/2灰オリーブ色シルト(10YR6/1褐灰色シルトのブロック。炭化物。)                                           | 37. 10Y8/1灰白色中礫(炭化物。)                                                     |
| 18. 7.5Y7/1灰白色粘質シルト(10YR6/1褐灰色シルトのブロック。炭化物。)                                            | 38. 2.5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂(細礫。炭化物。流木小片あり。)                                   |
| 19. 5Y5/1灰色粘質シルト(7.5Y7/2灰白色シルトの混土。極細粒砂。)                                                | 39. 7.5Y7/1灰白色細粒砂)                                                        |
| 20. 7.5Y6/1灰色シルト(極細粒砂。炭化物。)                                                             | 40. 7.5Y7/2灰白色極細粒砂(7.5Y3/2オリーブ黒色極細粒砂とラミナ堆積。植物質若干含む。)                      |

第 34-1 図 下懸遺跡 09A・B 区北壁土層断面図土色

SPA' 7.00m

7.00m SPA'

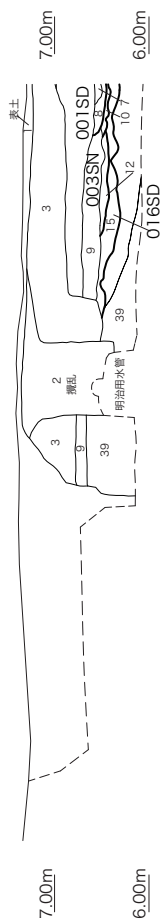


## 09B区T1北壁

1. 10YR4/1 褐色粘土 (10YR3/1 黒褐色ブロック、極細粒砂、炭化物、009SD。)
2. 10YR4/1 褐色粘土シルト (2.5Y6/1 緑灰色シルト・10YR2/1 黒色シルトが混じる。炭化物あり、005SN・006SN。)
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト (10YR3/1 黒褐色シルトが混じる。層位上面で水田(畦畔)遺構検出(後1)・NR-1層上部。)
4. 10YR3/2 黒褐色粘土 (極細粒砂含む。植物質少量含む。炭化物あり、NR-2a層。)
5. 10YR3/1 黒褐色粘土 (植物質少量含む。NR-2a層。)
6. 10YR2/1 黒色粘土 (植物質含む。NR-2b層。)
7. 10YR3/1 黒褐色粘土 (10YR4/1 褐色粘土ブロック、NR-2b層。)
8. 10YR2/1 黒色粘土 (10YR4/1 褐色粘土ブロック、炭化物あり、NR-2c層。)
9. 10YR2/1 黒色粘土 (10YR4/1 褐色粘土ブロック、植物質含む。炭化物あり、NR-2c層。)
10. 10YR2/1 黒色粘土 (植物質多量含む。炭化物あり、NR-2c層。)
11. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y5/2 灰色の混土。植物質多量を含む。炭化物あり、NR-3a層。)
12. 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘土 (植物質多量含む。炭化物あり、NR-3b層。)
13. 7.5Y5/1 灰色粘土 (極細粒砂含む。炭化物あり、NR-3c層。)
14. 10YR2/1 黒色粘土 (2.5Y6/1 緑灰色粘土ブロック多く含む。)
15. 7.5Y6/1 灰色シルト (7.5Y5/1 灰色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
16. 7.5Y6/1 灰色シルト (10YR2/1 黒色粘質シルトの混土。炭化物あり。)
17. 7.5Y6/1 灰色シルト (10YR2/1 黒色粘質シルトブロック。炭化物あり。)
18. 2.5Y6/1 オリーブ灰色シルト (7.5Y5/1 灰色シルト混じる。細粒砂含む。炭化物あり。)
19. 2.5Y4/1 暗オリーブ灰色細粒砂シルト (ラミナ堆積。植物質含む。炭化物あり。)
20. 2.5Y3/1 暗オリーブ灰色シルト (小塊。植物質含む。)
21. 7.5Y6/1 灰色シルト (10YR2/1 黒色粘質シルトブロック。炭化物あり。鉄分。)
22. 7.5Y6/1 灰色シルト (N5/灰色粘土の混土。炭化物あり、020SI(周層。)
23. 7.5Y6/1 灰色シルト (020SI。)
24. 7.5Y6/1 緑灰色極細粒砂 (地山。)
25. 10YR8/1 灰白色細～中礫

8.00m

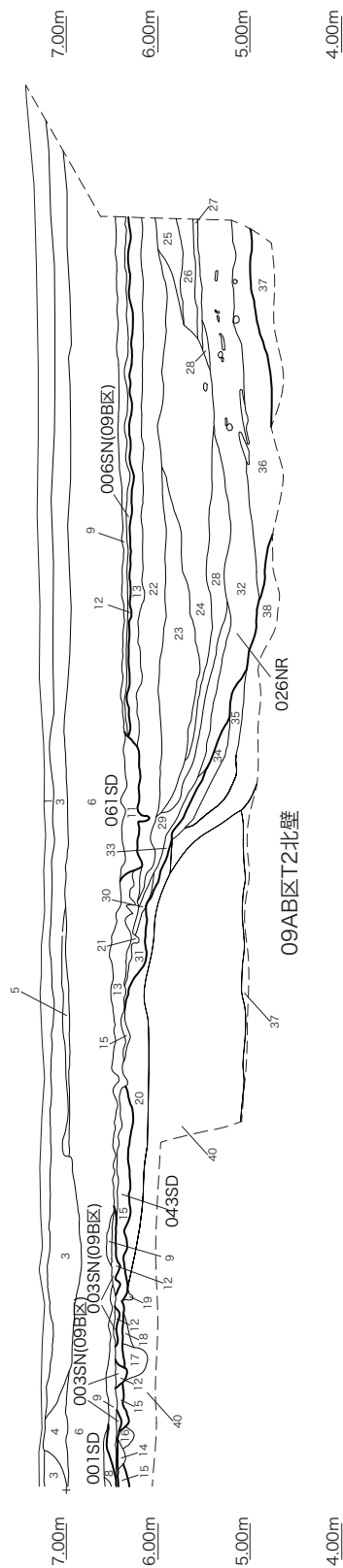
8.00m SPB'



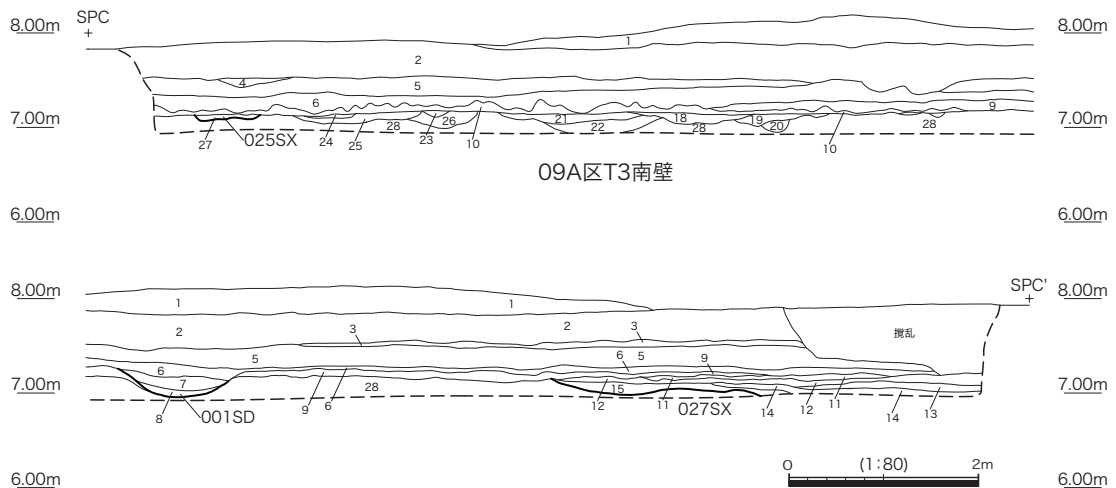
## 09AB区T2北壁

SPA' 8.00m

8.00m



第 34-2 図 下懸遺跡 09A・B 区北壁土層断面図 (S = 1/80)



#### 09A区T3南壁

- |                                                         |                                              |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 1. 10YR4/1 褐灰色粘土 (排土盛り土。)                               | 15. 5BG6/1 青灰色シルト (N3/シルトの混土。027SX。)         |
| 2. 7.5Y5/1 灰色粘質シルト (10YR4/1 ブロック。細砂粒。炭化物。表土。)           | 16. 7.5GY6/1 緑灰色シルト (N3/シルトブロック。極細砂粒。)       |
| 3. 5Y5/2 灰オリーブ色粘質シルト (極細砂粒含む。炭化物。表土。)                   | 17. 7.5GY6/1 緑灰色シルト (白色極細砂粒含む。炭化物。)          |
| 4. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘質シルト (極細砂粒含む。炭化物。鉄分凝集。表土。)            | 18. 7.5Y5/1 灰色シルト (7.5GY6/1シルトの斑土。極細砂粒。炭化物。) |
| 5. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘質シルト (極細砂粒含む。炭化物。近世以降の水田耕作土。表土。)      | 19. 7.5GY6/1 緑灰色シルト (N4/シルトの混土。極細砂粒。炭化物。)    |
| 6. 2.5Y7/1 灰白色粘質シルト (N4/シルトブロック少量。炭化物。包含層上層。)           | 20. 5BG6/1 青灰色シルト (N4/シルトの斑土。極細砂粒。炭化物。)      |
| 7. 10YR5/1 褐灰色粘質シルト (2.5Y7/1シルトブロック。001SD。)             | 21. 10G6/1 緑灰色シルト (10BG4/1シルトの斑土。極細砂粒。炭化物。)  |
| 8. 2.5Y7/1 灰白色粘質シルト (10YR6/1シルトブロック少量。001SD。)           | 22. 10BG5/1 青灰色シルト (N3/シルトブロック。極細砂粒。炭化物。)    |
| 9. 7.5Y4/1 灰色粘質シルト (炭化物。包含層下層。)                         | 23. 7.5GY6/1 緑灰色シルト (10YR2/1シルトブロック。極細砂粒。)   |
| 10. 10YR3/1 黒褐色粘質シルト (2.5Y5/2シルトブロック。炭化物多量。古代～中世水田の耕作土) | 24. 10YR4/1 褐灰色粘質シルト (7.5GY6/1シルトの混土。炭化物。)   |
| 11. 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト (10YR2/1シルトの混土。027SX。)             | 25. 7.5GY6/1 緑灰色粘質シルト (N5/シルトの混土。炭化物。)       |
| 12. 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト (10YR2/1シルトのブロック。027SX。)           | 26. 7.5GY6/1 緑灰色シルト (極細砂粒含む。炭化物。)            |
| 13. 10YR2/1 黒色粘質シルト (2.5Y6/2シルトブロック。炭化物。027SX。)         | 27. 7.5Y7/2 灰白色シルト (N4/シルトの混土。炭化物。)          |
| 14. 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト (7.5GY6/1シルトブロック。027SX。)           | 28. 7.5GY6/1 緑灰色シルト～極細砂粒 (地山。)               |

第 35 図 下懸遺跡 09A 区南壁土層断面図 (S = 1/80)

断面は緩い U 字形となっている。埋土はシルト主体で炭化物が含まれている。

#### 09D 区 163SD・176SD

調査区南端で検出された南北小溝である。いずれも幅 0.6m 深さ 0.2m を測り、163SD は全長 6m と他に比べてきわめて短い。また両者は 152SD・177SD など長い小溝を切り込んでいる点も特徴で性格が異なる可能性がある。顕著な出土遺物はなく、時期は特定しにくい。

#### C 土坑

#### 09D 区 160SK・161SK

調査区南部に位置する。160SK は長径 2.9、短径 1.2m の長楕円形の土坑である。口縁刺突文のある受口甕の口縁部 (102) が出土している。161SK は 160SK に切られる直径 0.55m のピットである。壺 (103) が出土している。

#### D 落ち込み

#### 09D 区 001NR・065SX

001NR は調査区南端から約 10m 分を占める落ち込みである。その北端は 09C 区の自然流路 001NR と同一方向にのびていることから、この埋没過程で生じた後背湿地状のくぼ地であると思われる。埋土は褐灰色粘質シルトである。中世以降の堆積と考えられる。001NR はその北西側に位置する 065SX を切り込んでいるが、これらは一連の落ち込みの上層と下層という関係と考えられる。このことから、自然流路の方向は調査区西側でほぼ南北方向になっていたものが南東方向へ曲がり始めているものと推測される。

#### (2) 第 5 面 (第 29 図)

概要 調査区南端付近では第 4 面の遺構より下位に位置付けられる小溝群 (199～204SD・205～210SD) が検出された。これを第 5 面とする。これらは第 4 面の小溝群とほぼ直交している。これらは並行関係にあるうえに溝どうしの間隔が密になっている。

## 平成 25 年度調査（13A 区・13B 区 第 36・37 図）

### 1 調査の概要

調査は鹿乗川と導水路の間の現堤防下にあたる地点で行った。幅約 7m、長さ約 230m の調査区を、南半を 13A 区、北半を 13B 区として調査した。調査は上下 2 面で行い、上面は中世～近世の耕作土下、奈良時代以前の遺物包含層である暗灰黄色シルト層上面で行い、13A 区で大型の落ち込みや近世の流路 006NR を、13B 区北部で 053NR を検出した。下面は、基盤である灰色シ粘土質シルト質・砂層上面で遺構を検出している。

### 2 遺構の概要

#### A 溝

13B 区では西北西―東南東方向にほぼ並列して走る、幅 0.2～0.3m、深さ 0.05～0.1m の溝群を検出した。012SD・013SD・030SD・033SD・035SD・036SD・037SD・038SD がそれにあたる。時期は出土土器がなく不明であるが、土層断面などから調査区内の遺構群の中では古くなると考えられる。

#### B 不明遺構

003SX・004SX・005SX（SI）・023SX など不定形な落ち込みが検出された。023SX では土師質の土器のみであったが、それ以外では山茶碗片が出土している。005SX（SI）は当初竪穴建物としていたが、南側の肩が不明瞭であるため、不明遺構とした。

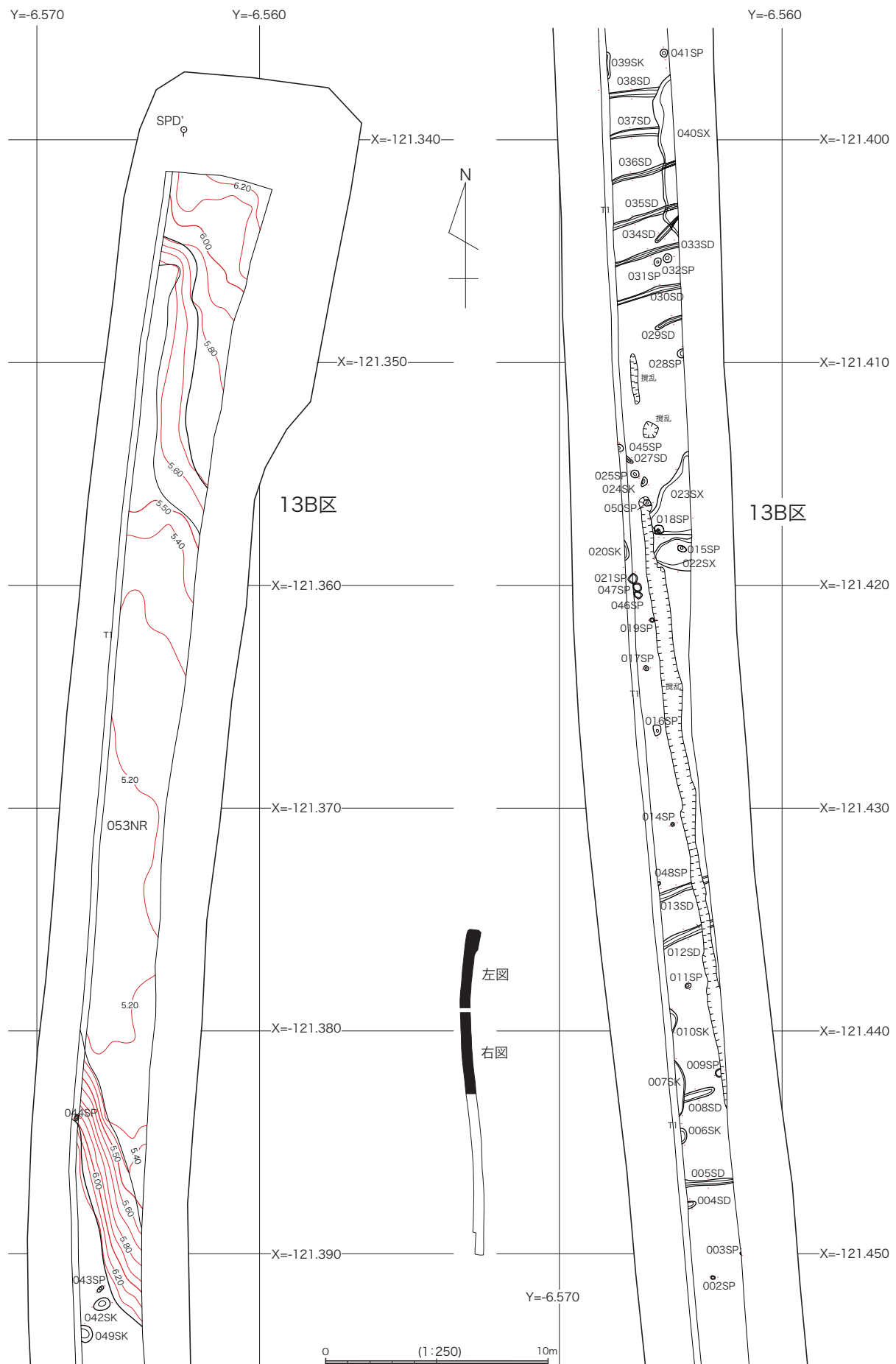
#### C 自然流路

##### 006NR

13A 区の北部で約 38m にわたって検出された流路である。深さは 1.5m を超えるが湧水のためそれ以上の掘削は行えなかった。肩に沿うように杭列が確認される。時期は近世以降になる。

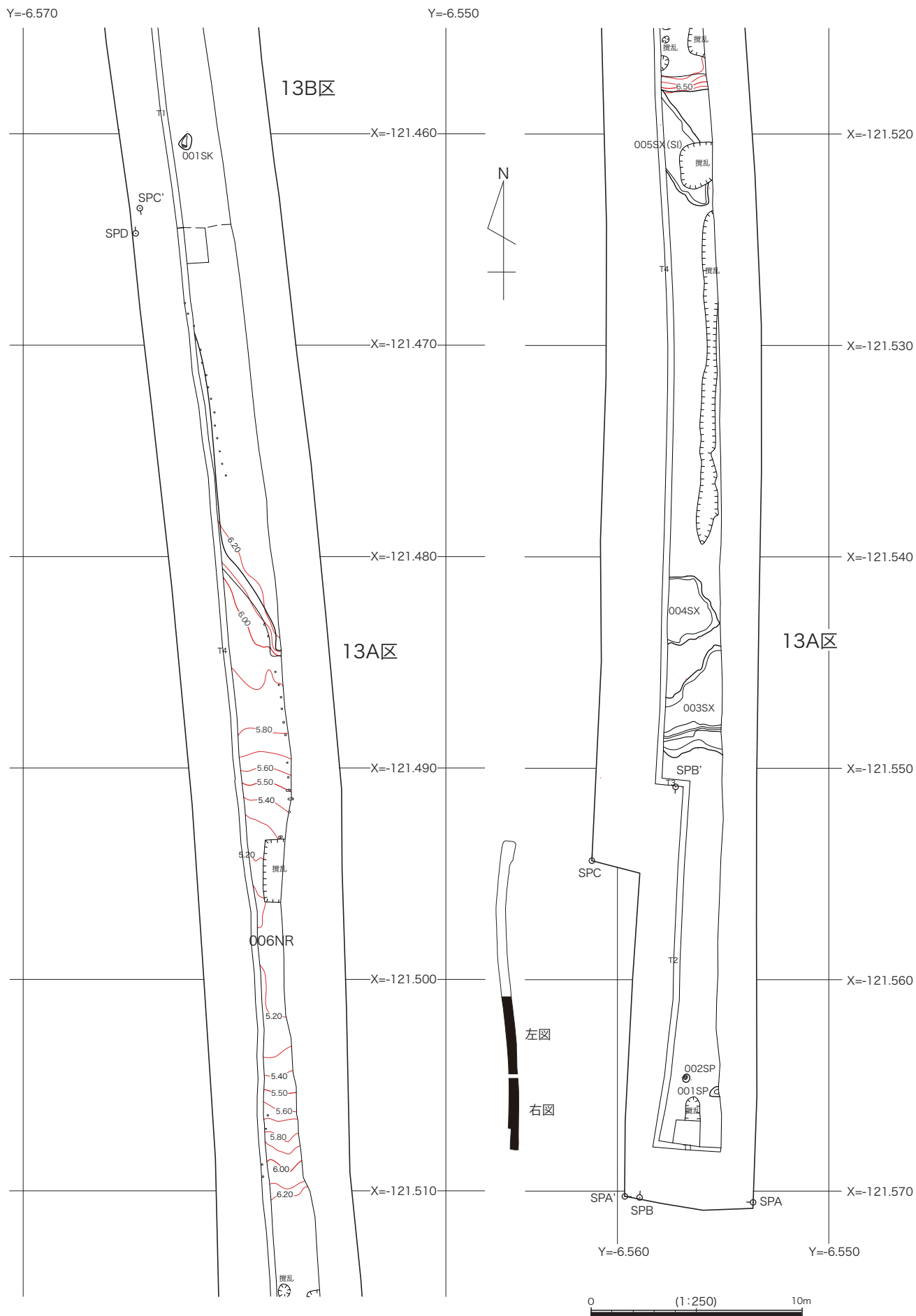
##### 053NR（第 36 図）

13B 区の北部で約 53m にわたって検出された流路である。深さは 1.3m を超えるが湧水のためそれ以上の掘削は行えなかった。また北端では北にいくにつれて底面のレベルが高くなっており、調査区の北側に北肩があると想定される。最上層では灰釉陶器や山茶碗が出土する。中層の 20 層以下では多くの古墳時代初頭～前期の土器が出土したが、特に植物遺体を多く含む 26 層・28 層・29 層では顕著である。また 27 層は 5 cm 程の薄い層であるが、植物遺体が多量に含まれていた。

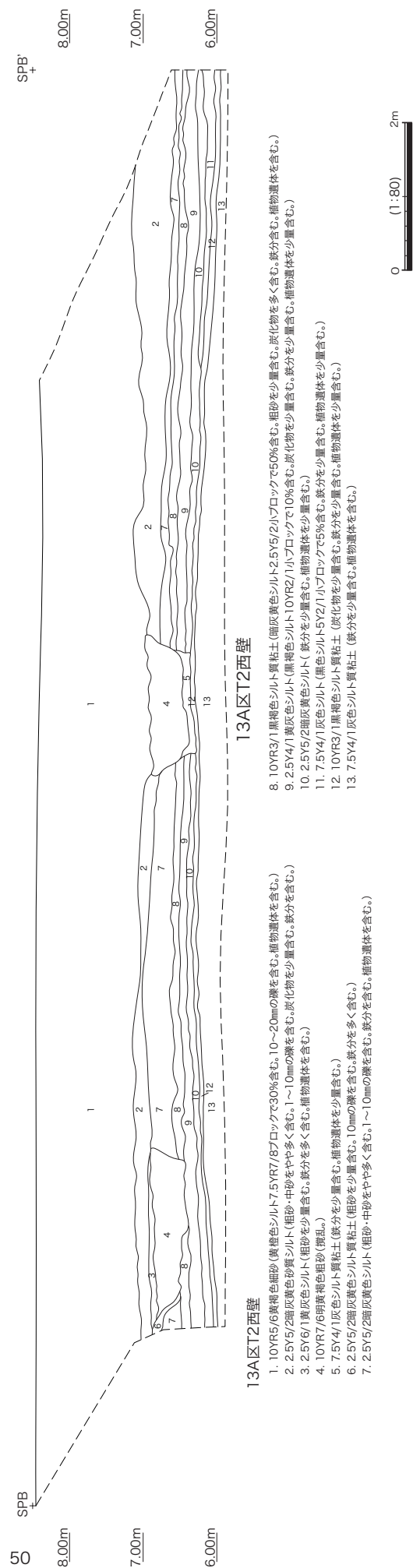


第 36 図 下懸遺跡 13A・B 区平面図 1 (S = 1/250)

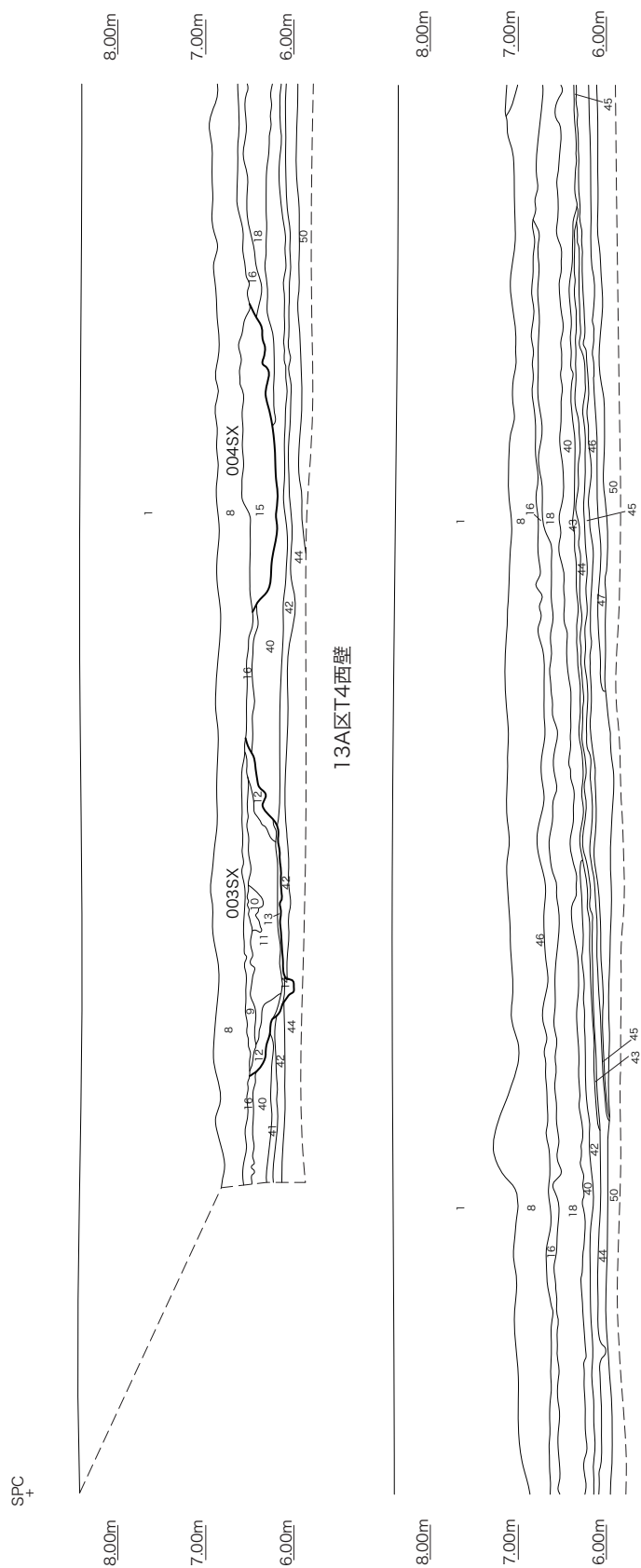




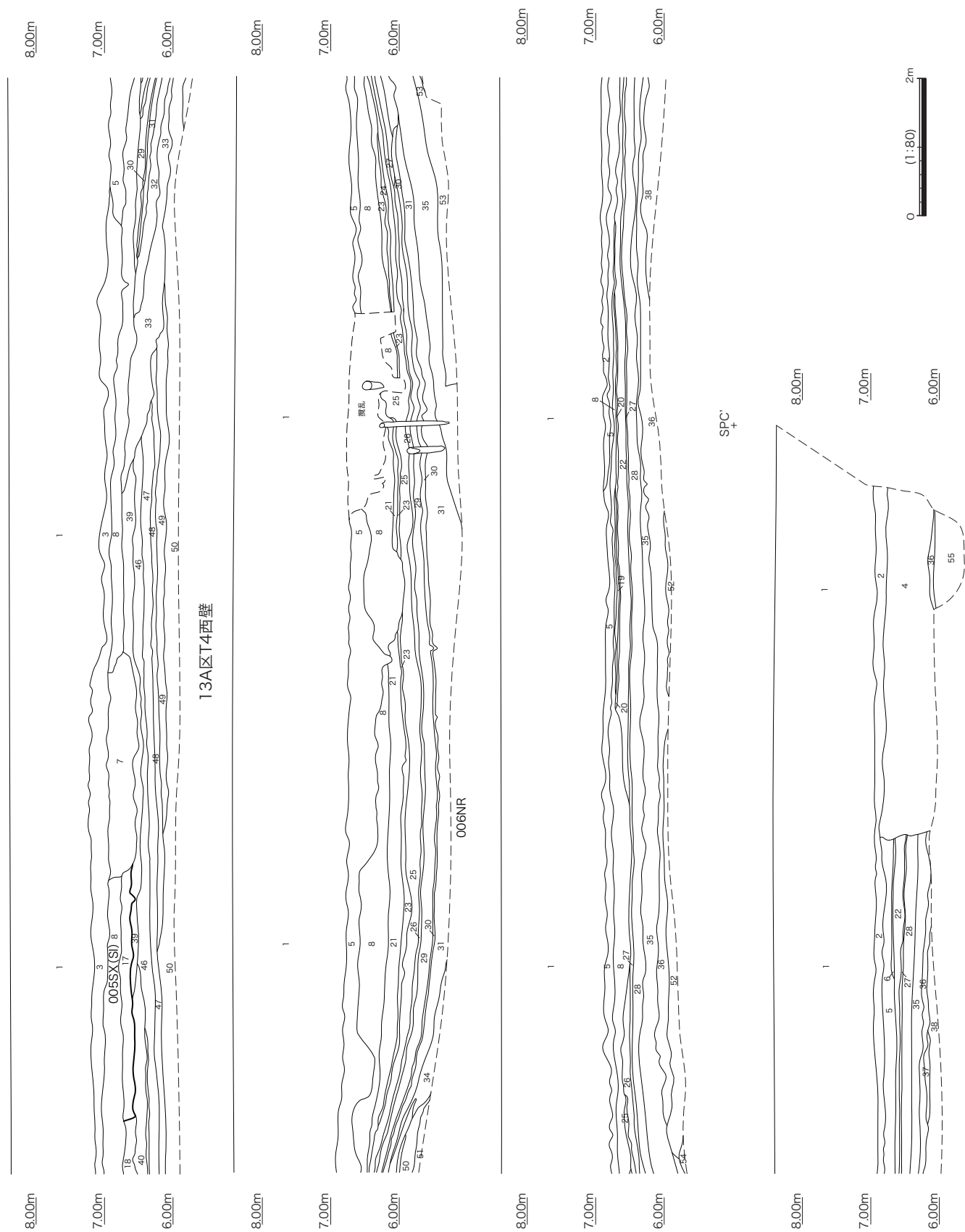
第 37 図 下懸遺跡 13A・B 区平面図 2 (S = 1/250)



- 13A区T2西壁
1. 10YR5/6黄褐色細砂(黄褐色シルト7.5YR7/87ブロックで30%含む, 10~20mmの礫を含む, 植物遺体を含む.)  
2. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト(粗砂・中砂をやや多く含む, 1~10mmの礫を含む, 炭化物を少量含む, 鉄分を含む.)  
3. 2.5Y6/1黄灰色シルト(粗砂を少量含む, 鉄分を多く含む, 植物遺体を含む.)  
4. 10YR7/5明黄褐色粗砂(礫混.)  
5. 7.5Y4/1灰色シルト質粘土(鉄分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)  
6. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト質粘土(粗砂を少量含む, 10mmの礫を含む, 炭分を多く含む.)  
7. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(粗砂・中砂をやや多く含む, 1~10mmの礫を含む, 鉄分を含む, 植物遺体を含む.)
- 13A区T2西壁
8. 10YR3/1黒褐色シルト質粘土(暗灰黄色シルト2.5Y5/21ブロックで50%含む, 炭化物を少量含む, 炭分を含む, 植物遺体を含む.)  
9. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒褐色シルト10YR2/11ブロックで10%含む, 炭化物を少量含む, 鉄分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)  
10. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(鉄分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)  
11. 7.5Y4/1灰色シルト(黒色シルト5Y2/11ブロックで5%含む, 鉄分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)  
12. 10YR3/1黒褐色シルト質粘土(炭化物を少量含む, 炭分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)  
13. 7.5Y4/1灰色シルト質粘土(鉄分を少量含む, 植物遺体を少量含む.)



第 38 図 下懸遺跡 13A 区土層断面図 1 (S = 1/80)



第 39-1 図 下懸遺跡 13A 区土層断面図 2 (S = 1/80)

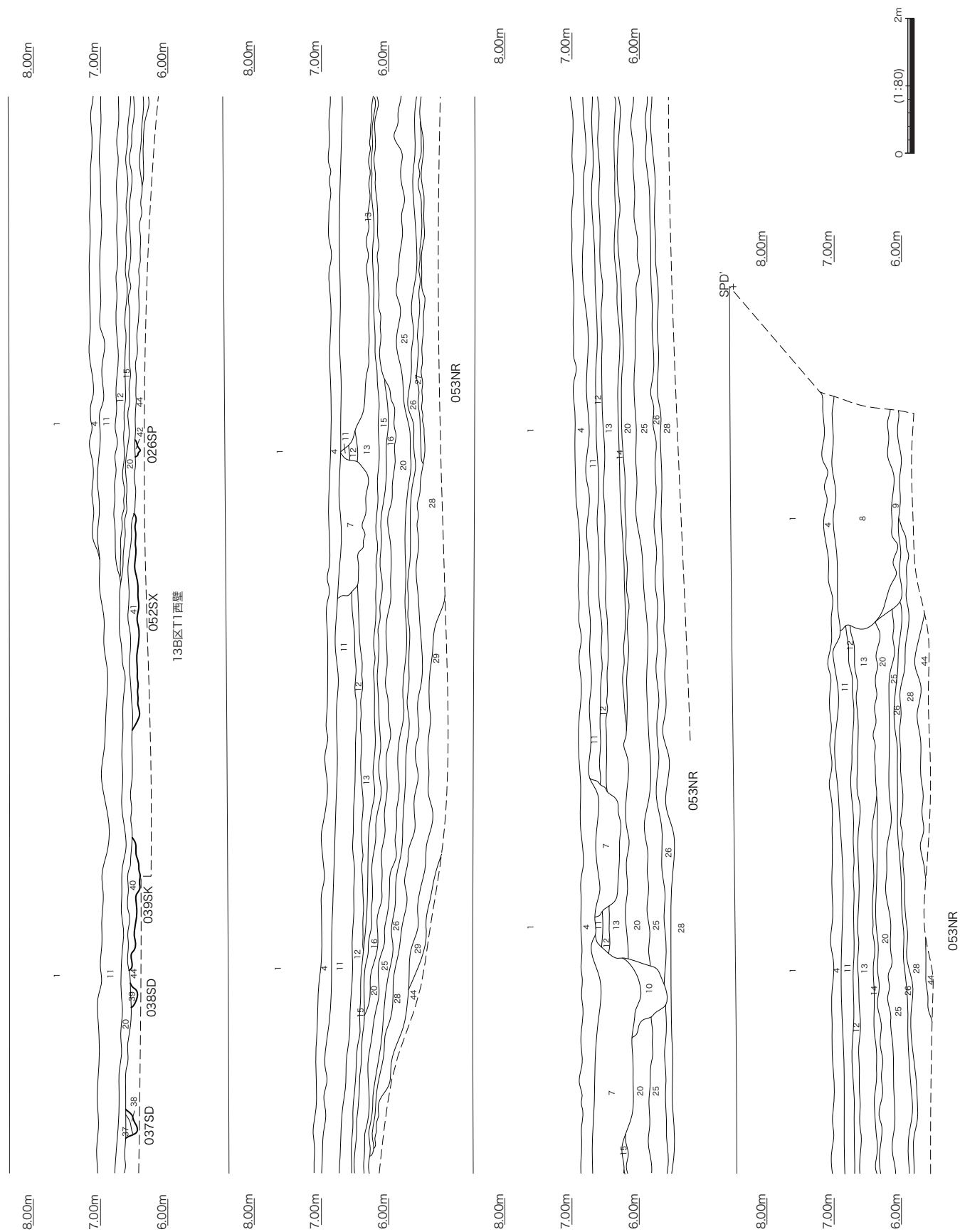
## 13A区T4西壁

1. 10YR5/6黄褐色細砂(黄褐色シルト7.5YR7/)ブロックで30%含む。10～20mmの礫を含む。植物遺体を含む。)
2. 2.5Y6/2 灰黄色細砂(明赤褐色粗砂5YR5/6小ブロックで50%含む。2～10mmの礫を多く含む。粗砂を多く含む。)
3. 5YR4/6 赤褐色細砂(褐灰色細砂10YR6/1ブロックで40%含む。10～20mmの礫を多く含む。粗砂を多く含む。植物遺体を含む。)
4. 10YR5/6 黄褐色粗砂(褐灰色シルト10YR5/)ブロックで5%含む。攪乱。)
5. 2.5Y4/1 灰黄色シルト質粘土(中砂を少量含む。炭化物を少量含む。鉄分を含む。植物遺体を含む。)
6. 7.5Y3/1オリブ黒色シルト(炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。)
7. 10YR5/6黄褐色粗砂(褐灰色シルト10YR5/1ブロックで5%含む。攪乱。)
8. 5Y4/1灰色シルト質粘土(灰白色シルト10YR8/2と明黄褐色シルト10YR7/6しみ状に40%含む。鉄分を含む。)
9. 2.5Y6/2 灰黄色シルト(黒色シルト2.5Y2/1小ブロックで30%含む。明黄褐色シルト10YR7/6しみ状に20%含む。炭化物をやや多く含む。003SX。)
10. 2.5Y2/1黒色シルト質粘土(11層土をブロックで3%含む。炭化物をやや多く含む。粗砂を少量含む。003SX。)
11. 7.5Y3/1 オリブ黒色シルト(黒色シルト2.5Y2/1小ブロックで1%含む。黒褐色シルト10YR3/2小ブロックで3%含む。13層土をしみ状に1%含む。炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。003SX。)
12. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒褐色シルト10YR3/2ブロックで60%含む。炭化物を含む。鉄分を少量含む。003SX。)
13. 10YR7/2にぶい黄橙色微粒砂(灰白色微粒砂2.5Y8/1ラミナ状に70%含む。黄橙色微粒砂10YR8/6しみ状に10%含む。003SX。)
14. 7.5Y4/1灰色シルト(黒色粘土2.5Y2/1ブロックで30%含む。粗砂を多量に含む。003SX。)
15. 7.5Y4/1灰色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/2ブロックで40%含む。灰白色微粒砂2.5Y8/2と黄橙色微粒砂10YR8/6しみ状に10%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。004SX。)
16. 2.5Y3/2 黒褐色シルト質粘土(炭化物をやや多く含む。粗砂をやや多く含む。鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
17. 10YR3/2黒褐色シルト(灰黄褐色シルト10YR6/2小ブロックで30%含む。炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。005SL。)
18. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1小ブロックで10%含む。褐灰色微粒砂10YR6/1しみ状に5%含む。炭化物を少量含む。鉄分をやや多く含む。)
19. 7.5Y5/1灰色シルト
20. 7.5Y4/1 灰色粘土(鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
21. 10Y4/1灰色シルト(黒褐色シルト10YR3/1と灰黄色シルト2.5Y6/2の薄いラミナ堆積。植物遺体を含む。)
22. 10YR4/1灰色粘土(灰白色シルト10YR8/2しみ状に20%含む。植物遺体を含む。鉄分を含む。)
23. 2.5Y8/1灰白色微粒砂(褐灰色シルト10YR6/1ラミナ堆積。黄橙色微粒砂10YR7/8しみ状に5%含む。粗砂を少量含む。)
24. 5Y4/1灰色シルト
25. 10YR5/1褐灰色シルト質粘土(灰オリブ色シルト7.5Y6/2しみ状に10%含む。植物遺体を含む。鉄分を含む。)
26. 5Y4/1灰色シルト(明褐色細砂7.5YR5/)小ブロックで2%含む。灰白色シルト(10YR8/2)しみ状に5%含む。微粒砂を少量含む。炭化物を少量含む。)
27. 10YR4/1褐灰色シルト(灰白色微粒砂10YR8/1しみ状に30%含む。炭化物を少量含む。植物遺体を含む。鉄分を含む。)
28. 10YR5/1褐灰色シルト質粘土(浅黄色シルト2.5Y7/4しみ状に10%含む。植物遺体を含む。鉄分を含む。)
29. 10YR4/1褐灰色シルト(黒褐色シルト10YR3/1しみ状に5%含む。植物遺体を含む。鉄分を少量含む。)
30. 5Y4/1灰色シルト(褐灰色シルト10YR4/1しみ状に20%含む。植物遺体を含む。)
31. 7.5Y4/1灰色シルト(微粒砂を含む。炭化物を少量含む。植物遺体を含む。)
32. 5Y4/1灰色シルト(浅黄色シルト2.5Y7/4しみ状に2%含む。炭化物を含む。粗砂を少量含む。植物遺体を含む。)
33. 10YR4/1褐灰色砂質シルト(浅黄色シルト2.5Y7/4と灰白色シルト10YR8/1のラミナ堆積。細砂を少量含む。炭化物を含む。植物遺体を含む。)
34. 5Y3/2オリブ黒色シルト質粘土(黄灰色シルト2.5Y4/1しみ状に5%含む。炭化物を含む。)
35. 10YR8/1灰白色中砂(黒褐色中砂10YR3/1・明黄褐色中砂10YR6/6・明赤褐色中砂5YR5/6のラミナ堆積。植物遺体を含む。)
36. 5Y5/1灰色粘土(黒色粘土N2/ブロックで40%含む。細砂を少量含む。鉄分を含む。)
37. 5Y2/1黒色粘土(黒色粘土N2/小ブロックで5%含む。炭化物を少量含む。植物遺体を含む。)
38. 2.5Y5/1黄灰色シルト(黒色シルト2.5Y2/1小ブロックで2%含む。灰白色シルト10YR8/2しみ状に5%含む。粗砂を少量含む。鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
39. 2.5Y5/1黄灰色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1小ブロックで1%含む。鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
40. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
41. 7.5Y4/1灰色シルト(黒色シルト5Y2/1小ブロックで5%含む。鉄分を少量含む。植物遺体含む。)
42. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
43. 7.5Y5/1灰色シルト(灰オリブ色シルト5Y5/2しみ状に20%含む。灰白色シルト2.5Y8/1しみ状に5%含む。鉄分を少量含む。植物遺体を少量含む。)
44. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト(黄灰色シルト2.5Y5/1しみ状に5%含む。)
45. 7.5Y4/1灰色シルト(黒色シルト5Y2/1小ブロックで5%含む。浅黄色シルト2.5Y7/3しみ状に10%含む。炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。)
46. 5Y5/3灰オリブ色微粒砂(灰色シルト質粘土N5/帯状に堆積。灰白色シルト2.5Y8/1しみ状に30%含む。鉄分を少量含む。植物遺体を含む。)
47. 10Y4/1灰色シルト(微粒砂を少量含む。炭化物を少量含む。植物遺体を含む。)
48. 7.5Y4/1灰色シルト質粘土(灰黄色微粒砂2.5Y6/2しみ状に30%含む。炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。植物遺体を含む。)
49. 10Y4/1灰色シルト質粘土(灰色シルト5Y4/1しみ状に20%含む。灰オリブ色シルト7.5Y6/2しみ状に10%含む。炭化物をやや多く含む。)
50. 7.5Y3/1オリブ黒色粘土(灰色シルト10Y5/1しみ状に5%含む。炭化物をやや多く含む。植物遺体を含む。)
51. 7.5Y4/1灰色シルト質粘土(植物遺体を含む。)
52. 7.5Y3/1オリブ黒色粘土(粗砂を少量含む。微粒砂をやや多く含む。植物遺体含む。)
53. 7.5Y4/1灰色微粒砂(植物遺体を含む。)
54. 10Y4/1灰色粘土(微粒砂を少量含む。鉄分を少量含む。植物遺体をやや多く含む。)

## 第 39-2 図 下懸遺跡 13A 区土層断面図土色

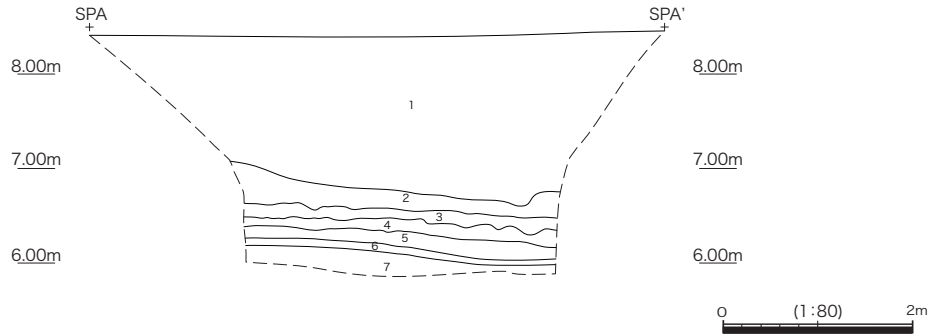


第 40 図 下懸遺跡 13B 区土層断面図 1 (S = 1/80)



第 41-1 図 下懸遺跡 13B 区土層断面図 2 (S = 1/80)





#### 13A区T1南壁

1. 10YR5/6黄褐色細砂(黄褐色シルト7.5YR7/8ブロックで30%含む。10～20mmの礫を含む。植物遺体を含む。)
2. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(粗砂、中砂をやや多く含む。1～10mmの円礫を含む。植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
3. 2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土(暗灰黄色シルト2.5Y5/2小ブロックで30%含む。粗砂をやや多く含む。炭化物を多量含む。植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
4. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒色シルト10YR2/1小ブロックで10%含む。炭化物を少量含む。植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
6. 10YR3/1黒褐色シルト質粘土(炭化物を少量含む。植物遺体を少量含む。鉄分を少量含む。)
7. 7.5Y4/1灰色シルト質粘土(植物遺体を含む。鉄分を少量含む。)

第 42 図 下懸遺跡 13A 区土層断面図1 (S = 1/80)

#### 13B区T1西壁

1. 10YR5/6黄褐色細砂(黄褐色シルト7.5YR7/8ブロックで30%含む。10～20mmの礫を含む。植物遺体を含む。)
2. 2.5Y6/2灰黄色細砂(明赤褐色粗砂5YR5/6ブロックで50%含む。2～10mmの礫を多く含む。粗砂を多く含む。)
3. 10YR5/6黄褐色粗砂(褐灰色シルト10YR5/1ブロックで5%含む。攪乱。)
4. 2.5Y3/1黒褐色シルト(灰オリーブ色粘土5Y6/2小ブロックで50%含む。極粗粒砂を少量含む。炭化物を多く含む。鉄分を多く含む。)
5. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト(炭化物を微量含む。鉄分を多く含む。植物遺体を少量含む。中砂を少量含む。)
6. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト(暗灰黄色シルト2.5Y4/2ブロックで40%含む。灰白色シルト2.5Y7/1ブロックで40%含む。黒褐色シルト(10YR3/1)ブロックで60%含む。鉄分を微量含む。)
7. 10G5/1緑灰色粘土(橙色粘土7.5YR6/6ブロックで60%含む。黒色粘土5Y2/1ブロックで10%含む。極粗砂・粗砂を多く含む。炭化物を多く含む。鉄分を多く含む。)
8. 10YR6/8明黄褐色極粗砂(黄褐色粘土10YR5/8ブロックで10%含む。褐灰色粘土10YR5/1ブロックで10%含む。粗砂を多く含む。攪乱。)
9. 2.5Y4/1黄灰色粘土(黒褐色粘土10YR3/1ブロックで2%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。)
10. 2.5Y4/2暗灰黄色粘土(黄褐色粘土10YR5/6しみに10%含む。黒色粘土10YR2/1しみに20%含む。細砂を少量含む。炭化物を少量含む。)
11. 2.5Y6/2灰黄色シルト(炭化物を少量含む。鉄分を多く含む。細砂を少量含む。5mmの礫を含む。)
12. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト(黄灰色シルト2.5Y4/1しみに30%含む。炭化物を微量含む。鉄分を多く含む。中砂を少量含む。)
13. 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト(黒色シルト10YR2/1しみに40%含む。炭化物を少量含む。鉄分を多く含む。中砂を少量含む。)
14. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト(褐灰色シルト10YR6/1小ブロックで30%含む。黒色シルト5Y2/1しみに50%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。植物遺体を少量含む。)
15. 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト(灰黄色シルト2.5Y6/2ブロックで10%含む。黒色シルト2.5Y2/1ブロックで30%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。)
16. 10YR3/1黒褐色シルト(黒色シルト2.5Y2/1ブロックで30%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。植物遺体を微量含む。)
17. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト(炭化物を少量含む。鉄分を多く含む。)
18. 2.5Y3/2黒褐色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2ブロックで40%含む。炭化物を微量含む。鉄分を少量含む。020SK。)
19. 5Y4/1暗オリーブ灰色シルト(暗灰色粘土N3/ブロックで30%含む。炭化物を微量含む。鉄分を少量含む。020SK。)
20. 2.5Y3/2黒褐色シルト(黒色シルトN2/しみに40%含む。炭化物を微量含む。鉄分をやや多く含む。)
21. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(黒色シルトN2/しみに30%含む。炭化物を微量含む。鉄分を少量含む。)
22. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒色シルト2.5Y2/1しみに20%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。)
23. 2.5Y3/1黒褐色シルト(黒色粘土5Y2/1ブロックで40%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。)
24. 5Y4/1灰色砂質シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1しみに5%含む。炭化物を少量含む。微粒砂を含む。)
25. N1.5/黒色粘土(黄灰色粘土2.5Y4/1ブロックで40%含む。植物遺体を多く含む。)
26. 10YR4/2灰黄褐色腐植土(炭化物を少量含む。植物遺体を多く含む。)
27. 7.5YR2/1黒色腐植土(黒色シルト2.5Y2/1しみに10%含む。炭化物を微量含む。植物遺体を多く含む。)
28. 10YR4/1褐灰色粘土(炭化物を少量含む。植物遺体を多く含む。細砂をやや多く含む。)
29. 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト(灰白色微粒砂2.5Y7/1ラミナ堆積。黒色粘土2.5Y2/1小ブロックで1%含む。炭化物を少量含む。植物遺体を多く含む。)
30. 2.5Y6/1黄灰色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1ブロックで60%含む。炭化物を少量含む。鉄分を微量含む。051SP。)
31. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒褐色シルト10YR3/1小ブロックで70%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。010SK。)
32. 2.5Y5/1黄灰色シルト(炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。012SD。)
33. 2.5Y5/1黄灰色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1しみに1%含む。灰黄色シルト2.5Y7/2しみに3%含む。炭化物を微量含む。鉄分を少量含む。030SD。)
34. 2.5Y4/1黄灰色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。033SD。)
35. 2.5Y4/1黄灰色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。035SD。)
36. 2.5Y4/1黄灰色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。036SD。)
37. 2.5Y4/1黄灰色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。037SD。)
38. 5Y6/1灰色シルト(黄灰色シルト2.5Y5/1小ブロックで5%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。037SD。)
39. 2.5Y4/1黄灰色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。038SD。)
40. 2.5Y3/2黒褐色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2ブロックで20%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を少量含む。039SK。)
41. 2.5Y3/1黒褐色シルト(灰黄色シルト2.5Y7/2しみに10%含む。黒色シルト2.5Y2/1しみに5%含む。炭化物をやや多く含む。鉄分を微量含む。052SX。)
42. 10YR3/1黒褐色シルト(灰黄色シルト2.5Y6/2しみに40%含む。炭化物を微量含む。鉄分を少量含む。026SP。)
43. 10YR5/1褐灰色シルト(黒褐色シルト2.5Y3/1小ブロックで2%含む。炭化物を微量含む。鉄分を微量含む。045SP。)
44. 5Y4/1灰色微粒砂(黒褐色シルト2.5Y3/1しみに40%含む。炭化物を少量含む。鉄分を少量含む。植物遺体を微量含む。)

第 41-2 図 下懸遺跡 13B 区土層断面図2 土色

### 3 平成 25 年度調査 (13C 区)

#### 1 調査の概要

平成 25 年度調査の 13C 区は、13A 区・B 区とは用水路を挟んだ離れた場所に位置し、調査時期や調査理由も異なるため別項とした。

調査は古代～中世の遺物を含む暗褐色シルト層、古墳時代初頭から前期の遺物を含む黒褐色シルトを除去した後、黄灰色シルト層上面で遺構検出を行った。

ただ調査区南半部については、古代以降と思われる地層の激しい攪拌があり、基盤である黄灰色シルト層にまで上層の土がブロック状に入り込んでいたため、遺構の検出が困難であった。また、遺物も大部分が小片となって攪拌土中に混入し、地層断面は波打つような状況を呈していた。そのため、攪拌層上面を第 1 面とし、攪拌土を除去した面を第 2 面として調査を行った。その結果、水路の南部では竪穴建物 8 軒をはじめ、多くの土坑・溝が見つかった。水路北側では、竪穴建物は検出されず、土坑や北に向かってゆるやかに下がっていく落ち込みや、炭化物・焼土の広がりを確認した。

#### 2 遺構の概要

##### (1) 第 1 面 (第 46 図)

##### A 竪穴建物

##### 005SI・011SI・017SI (第 43 図)

水路に切られた調査区南部の北端で検出された。005SI・011SI の規模は不明であるが、深さは 0.15m 程である。017SI は 011SI の下部にある竪穴建物で、長径 4.2m、短径 2.8m、深さ 0.17m を測り、やや長方形を呈する。各々古墳時代初頭～前期の土器が出土している。

##### 021SI (第 43 図)

017SI の南側で検出された竪穴建物で、北西隅が調査区外となる。長径 6.3m、短径 4.7m、深さ 0.12m を測り、やや長方形を呈する。古墳時代初頭～前期の土器が出土している。

##### B 不明遺構

##### 001SX

第 1 面では、黒色シルト部分のみを遺構として捉え、SX と不明遺構としたが、第 2 面調査時に竪穴建物の上部埋土であることが判明した。そのため 001SX は 001SI (SX) とした。

##### 068SX (第 43 図)

021SI の南西辺に沿うようにしてある、長径約 2.8m、短径 1.1m、深さ 0.64m を測る、大型の土坑である。021SI を切っている。中層から下層にかけて、まとまって古墳時代初頭～前期の土器が出土している。

出土炭化材の AMS 法放射性炭素年代測定では 4BC (83.7%) 67AD の結果が得られている。

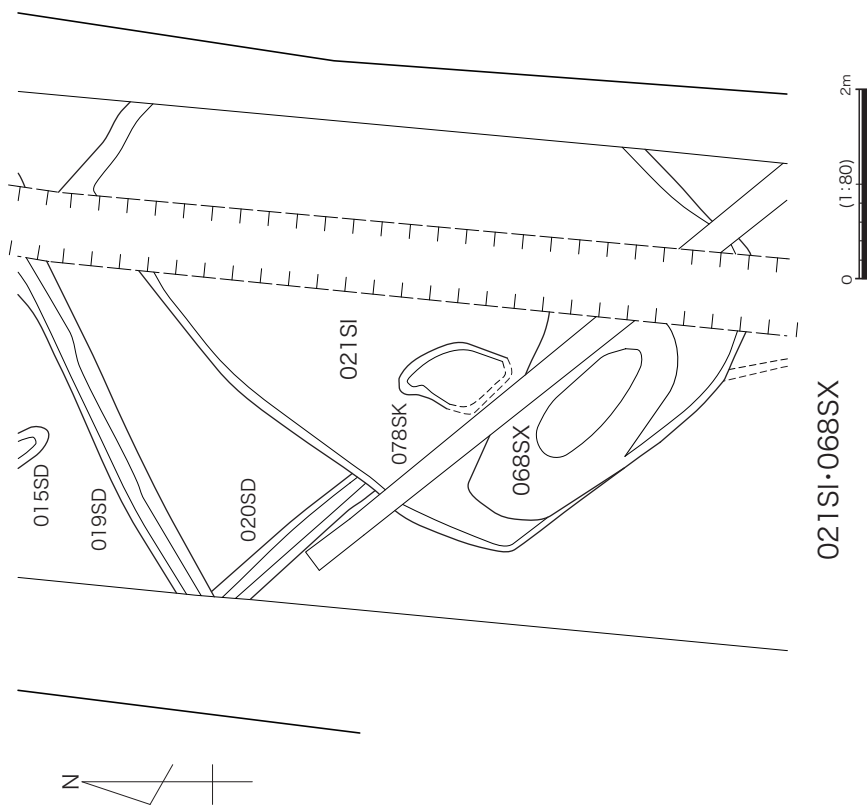
##### 024SX

調査区の北部地区の北側はゆるやかに落ち込んでいくが、その途中で長径 2.6m、短径 2m 程の炭化物・焼土の広がりを確認した。また近接して粘土塊も出土している。

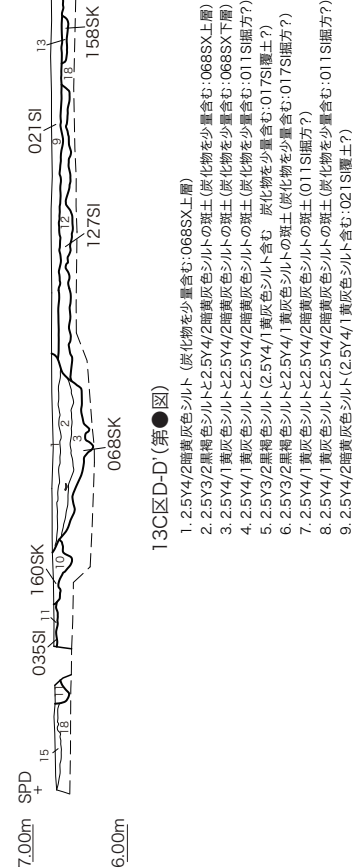
出土炭化材の AMS 法放射性炭素年代測定では 2BC (93.0%) 78AD の結果が得られている。

##### 022SU・023SU

調査区南部の攪拌土で検出された土器の集中地点である。ただ土器の大部分は細片となっている。

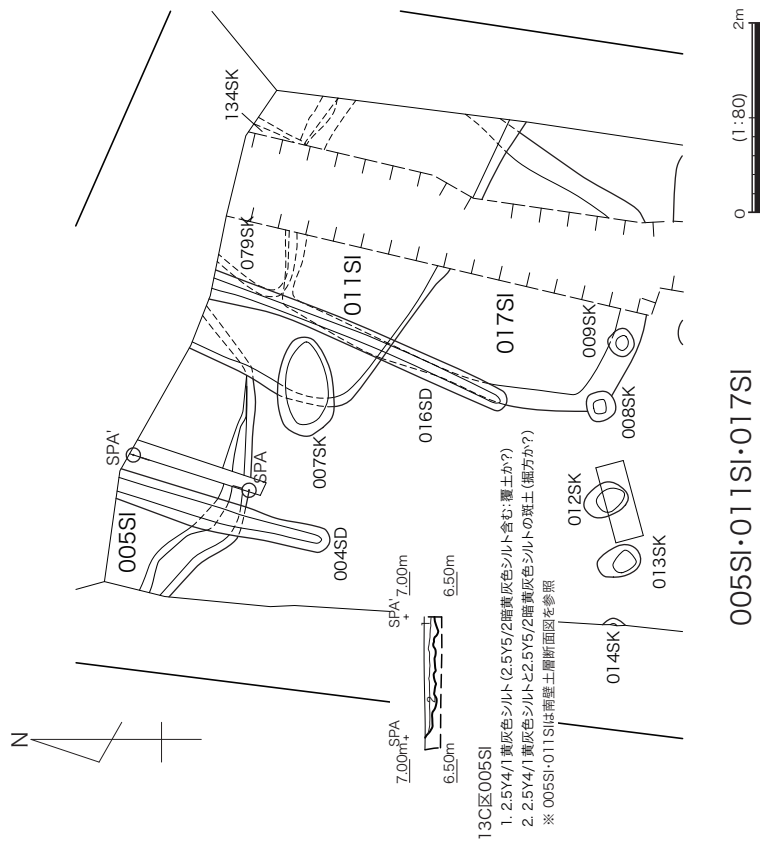


021SI・068SX

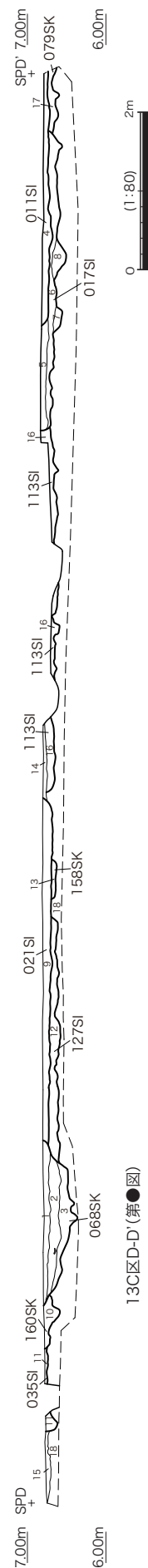


13C区D-D' (●●図)

1. 2.5Y4/2暗黄灰色シルト (炭化物を少量含む:068SX上層)
2. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:068SX上層)
3. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:068SX下層)
4. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:01SI掘方?)
5. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/1黄灰色シルト含む 炭化物を少量含む:017SI掘方?)
6. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/1黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:017SI掘方?)
7. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土 (011SI掘方?)
8. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:01SI掘方?)
9. 2.5Y4/2暗黄灰色シルト (2.5Y4/1黄灰色シルト含む:021SI掘方?)

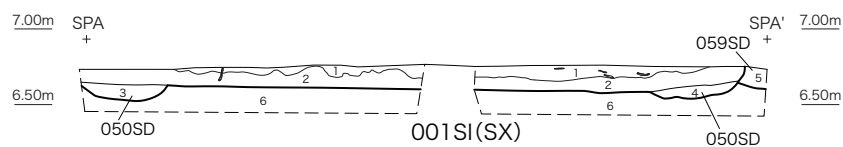
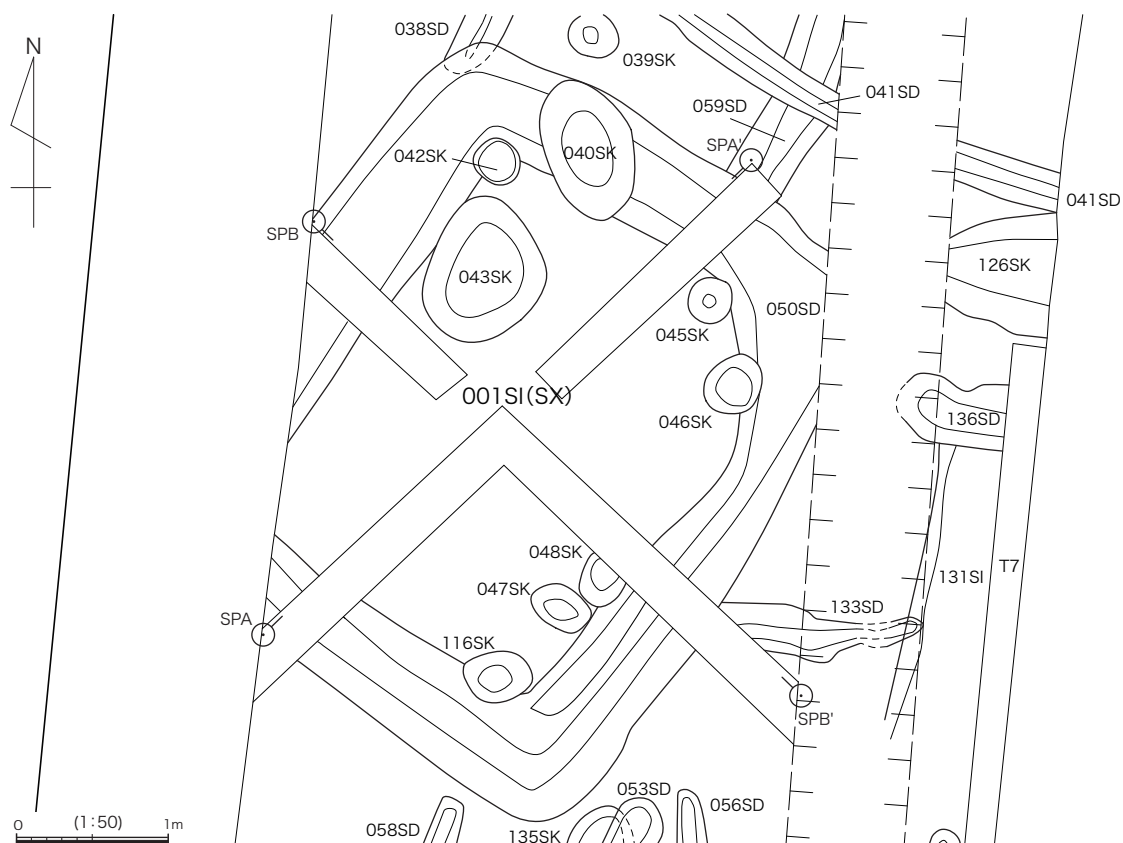


005SI・011SI・017SI



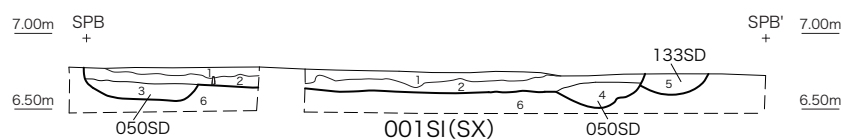
10. 2.5Y4/1黄灰色シルト (炭化物を少量含む:160SX)
11. 2.5Y4/1黄灰色シルト (035SI掘方?)
12. 2.5Y5/1黄灰色シルト (2.5Y4/2暗黄灰色シルト含む:127SI掘方?)
13. 2.5Y4/1黄灰色シルトと2.5Y4/2暗黄灰色シルトの斑土:158SX)
14. 2.5Y4/2暗黄灰色シルト (10YR3/2黒褐色シルト含む:「検出2」)
15. 2.5Y4/2暗黄灰色シルト (10YR3/2黒褐色シルト含む:「検出2」)
16. 2.5Y3/2黒褐色シルトと2.5Y4/1黄灰色シルトの斑土 (炭化物を少量含む:079SK)
17. 2.5Y4/1黄灰色シルト (炭化物を少量含む:079SK)
18. 2.5Y5/1黄灰色粘土質シルト (重層層)

第 43 図 下懸遺跡 13C 区 005SI・011SI・017SI・021SI・068SX (S = 1/80)



#### 13C区001SI(SX)

1. 10YR2/1 黒色シルトと2.5Y3/1 黒褐色シルトの斑土(001SX覆土)
2. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(10YR2/1 黒色シルト含む 炭化物を少量含む:001SX覆土)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト(2.5Y5/1 黄灰色シルト含む 炭化物を少量含む:幅広周壁溝050SD埋土)
4. 10YR4/1 褐灰色シルト(2.5Y5/1 黄灰色シルト含む 炭化物を少量含む:幅広周壁溝050SD埋土)
5. 2.5Y4/1 黄灰色シルトと5Y4/1 灰色シルトの斑土(059SD)
6. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト(地山)



#### 13C区001SI(SX)

1. 10YR2/1 黒色シルトと2.5Y3/1 黒褐色シルトの斑土(001SX覆土)
2. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(10YR2/1 黒色シルト含む 炭化物を少量含む:001SX覆土)
3. 10YR4/1 褐灰色シルト(2.5Y5/1 黄灰色シルト含む 炭化物を少量含む:幅広周壁溝050SD埋土)
4. 10YR4/1 褐灰色シルト(2.5Y5/1 黄灰色シルト含む 炭化物を少量含む:幅広周壁溝050SD埋土)
5. 2.5Y5/1 黄灰色シルト(10Y4/1 褐灰色シルト含む(133SD))
6. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト(地山)

第 44 図 下懸遺跡 13C 区 001SI (SX) (S = 1/50)

## (2) 第2面 (第47図)

### A 竪穴建物

#### 001SI (SX) (第44図)

長径 3.7m、短径 3.1m、深さ 0.13m の竪穴建物で、幅 0.5 ～ 0.8m、深さ 0.05 ～ 0.1m の床下周溝が巡る。遺物は、埋土最上層の 001SX とした部分から多く出土している。確実な床面は不明であるが、周溝部分を埋めた後に作られたと考えられる。042SK・046SK・116SK が柱穴と思われるが、深さが 0.05 ～ 0.1m と浅い。

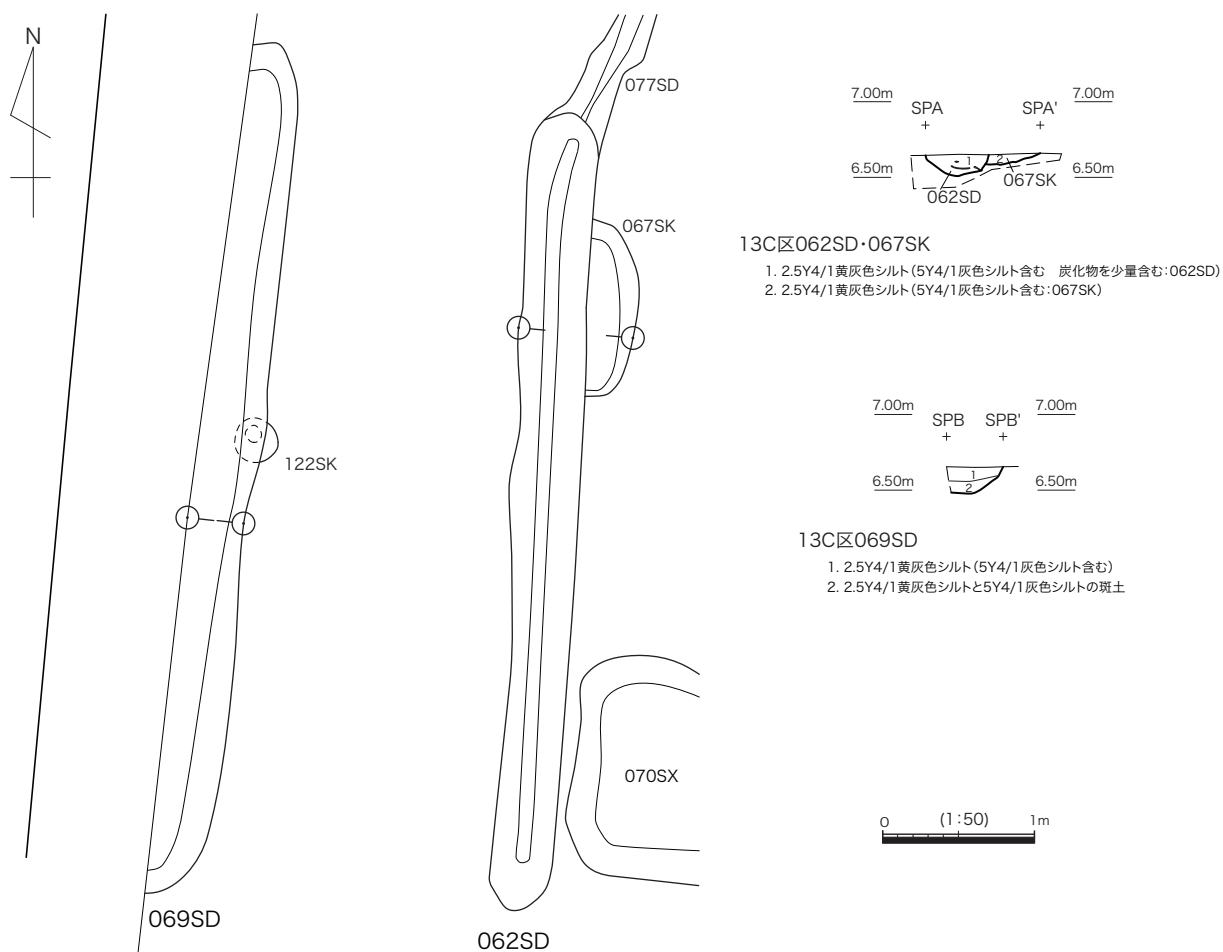
#### 113SI・127SI・131SI

113SI は長径 5.2m 深さ 0.09m で、埋土にはやや多く炭化物を含んでいた。127SI・131SI は周囲に遺構が多く切り合っているため不明な部分が多い。

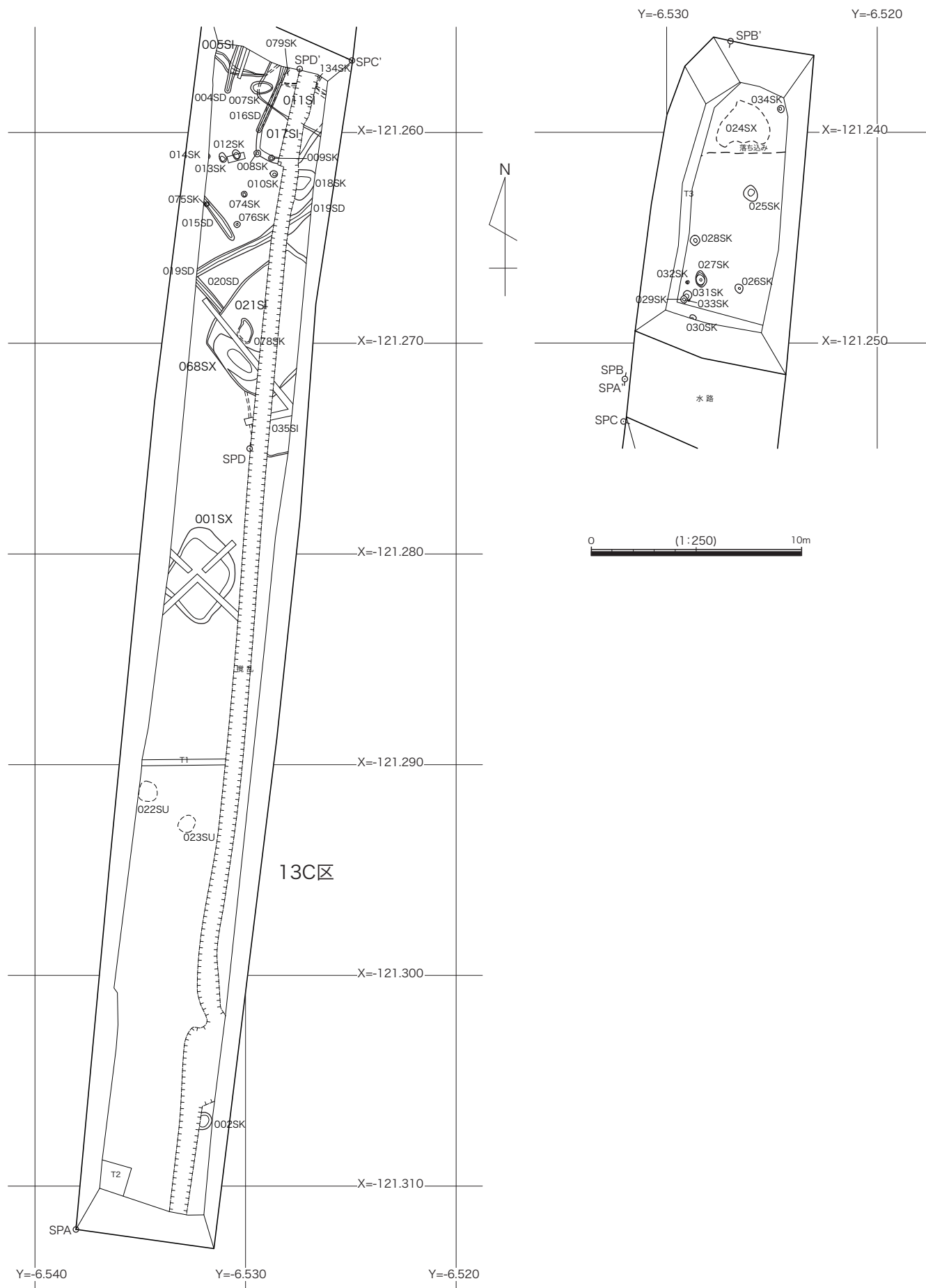
### B 溝

#### 062SD・069SD (第45図)

062SD は長さ 5.3m、幅 0.47m、深さ 0.16m、069SD は長さ 5.7m、幅約 0.43m、深さ 0.21m を測り、併行して走る。当初北東―南西方向の溝群と同種のものとして認識していたが、方向及び規模などを考慮し別種の溝と考えた。さらに布掘り建物の可能性もあり、西壁土層断面を観察したが、柱穴痕は確認されていない。062SD の北部上層より、ややまとまって土器が出土している。



第45図 下懸遺跡 13C0620・69SD (S = 1/50)

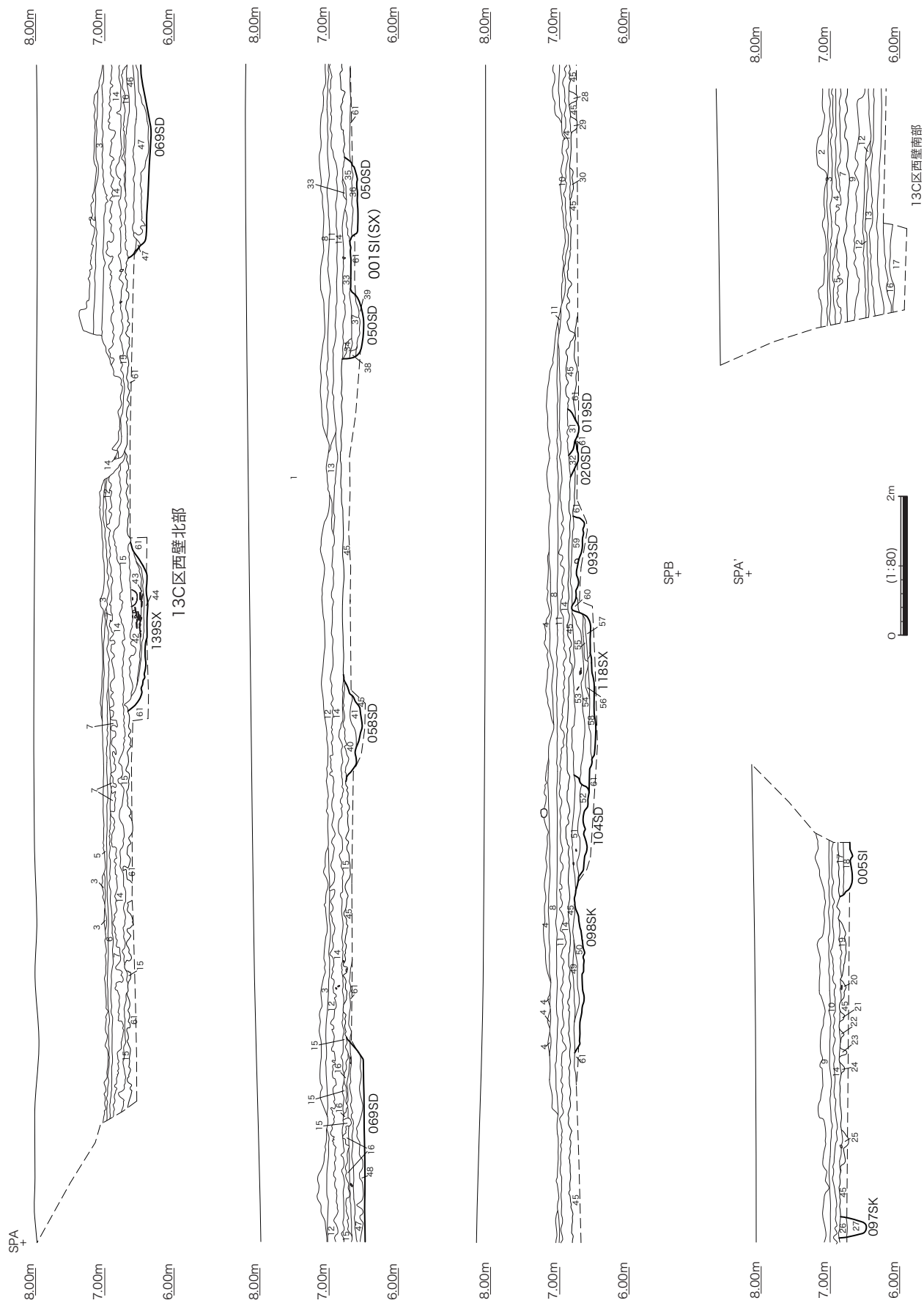


第 46 図 下懸遺跡 13C 区第 1 面平面図 (S = 1/250)

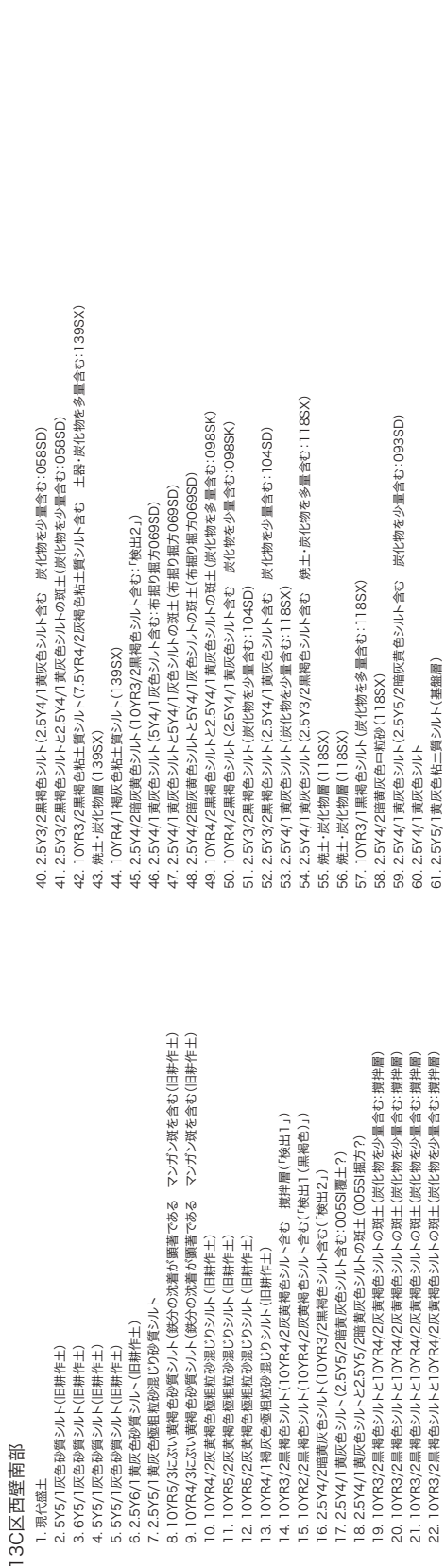
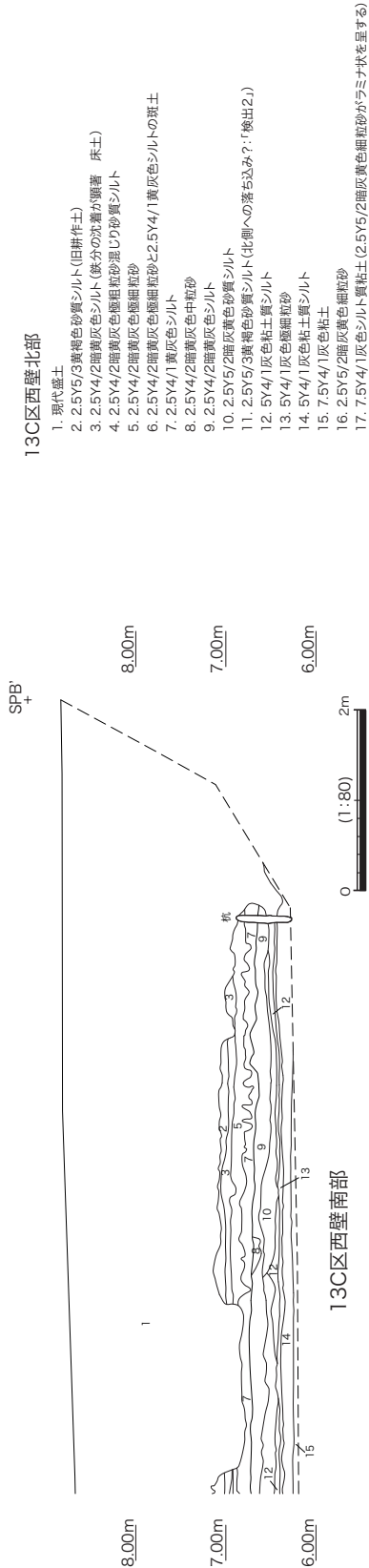




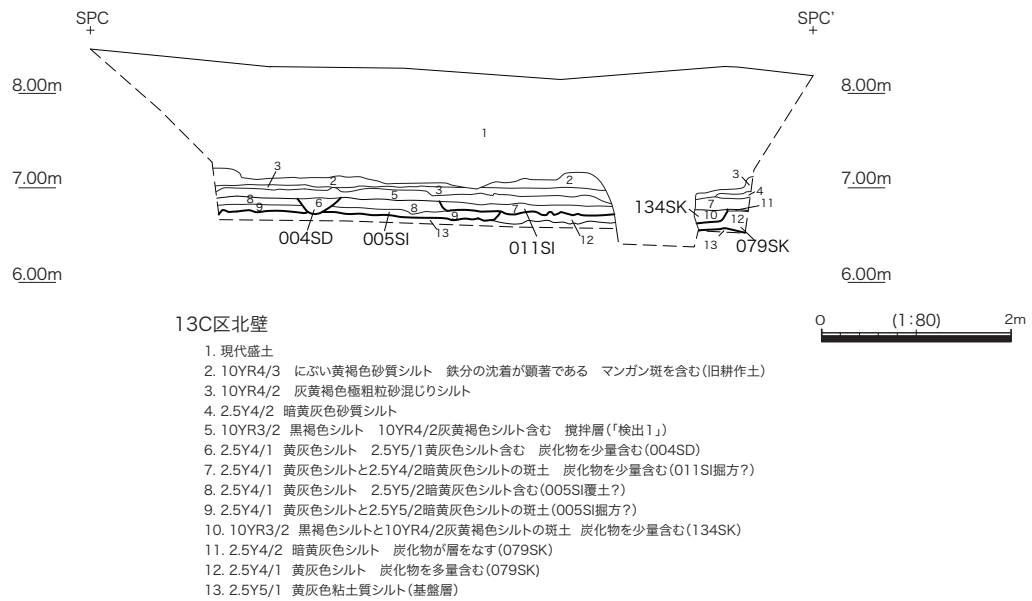
第 47 図 下懸遺跡 13C 区第 2 面平面図 (S = 1/250)



第48図 下懸遺跡13C区西壁土層断面図1 (S = 1/80)



第 49 図 下懸遺跡 13C 区西壁土層断面図 2 (S = 1/80)



第 50 図 下懸遺跡 13C 区北壁土層断面図 (S = 1/80)

#### 溝群

北東―南西方向に並列して走る、幅 0.2 ～ 0.3m、深さ 0.0 5 ～ 0.1m の溝が多数検出された。溝群は調査区南部の中央付近で集中的に見られ、041SD のように直交する溝も一部ある。埋土は黒褐色シルトが大部分である。

#### C 不明遺構

##### 118SX

調査区南部の中央部分の西壁沿いで一部分のみ確認した、深さ約 0.3m の土坑である。下層から中層には厚さ 3 ～ 5 cm の炭化物・焼土層が見られた。

##### 129SX

052SK や 053SD・061SD に切られる短径 1.3m、深さ 0.21m の土坑で、長径は 2m を超える。

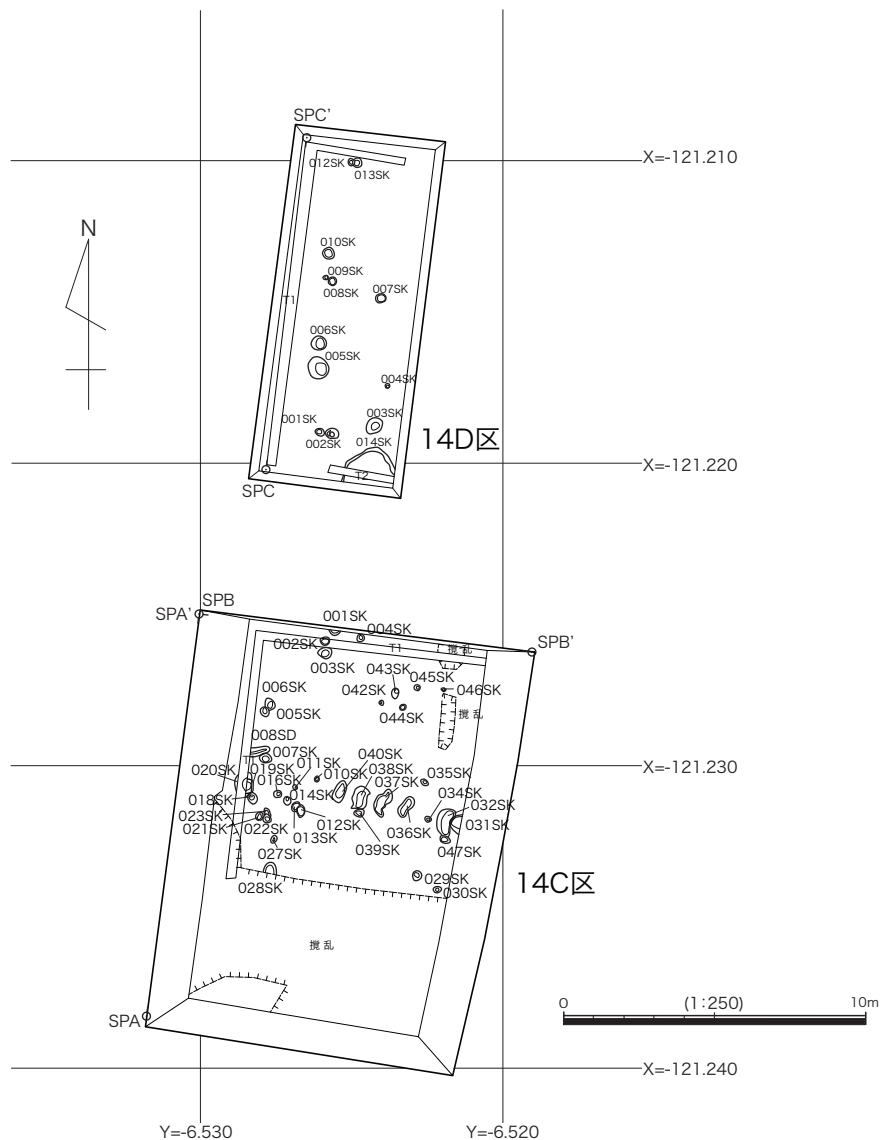
##### 139SX

調査区南部の南で検出された土坑で、西側は調査区外となる。南北径は 2.6m、深さは約 0.3m で、中層の焼土・炭化物層と、上層の焼土・炭化物を含む黒褐色粘土質シルト層から多量の遺物が出土した。遺物は全て破片であったが、大型のものが目立った。

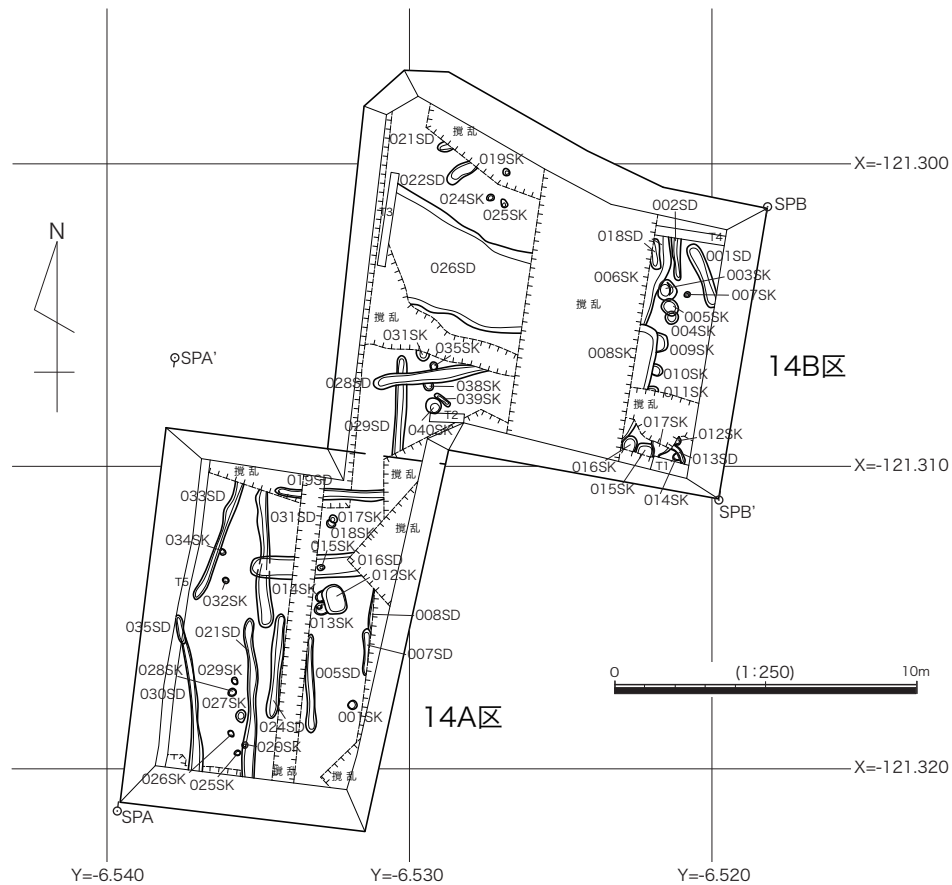
## 平成 26 年度調査 (14A 区・14B 区・14C 区・14D 区 第 51・52 図)

### 1 調査の概要

平成 26 年度調査の 14A 区・B 区は平成 21 年度調査区と平成 25 年度調査区に挟まれた場所に、14C・D 区は平成 25 年度調査区の北側に位置する。上面は中世～近世の耕作土下の黒褐色シルト層上面と部分的に黄灰色粘土質シルト・砂層上面で、下面は基盤である黄灰色粘土質シルト・砂層上面で遺構の検出を行った。上面では遺構は検出されなかったが、下面では平行して走る溝群や、土坑が確認された。



第 51 図 下懸遺跡 14C・D 区平面図 (S = 1/250)



第 52 図 下懸遺跡 14A・B 区平面図 (S = 1/250)

## 2 遺構の概要

### A 土坑

#### 012SK・015SK

14A 区の 012SK は長径 0.95m、短径 0.68m、深さ 0.12m を測り、隅丸方形を呈する。14B 区の 015SK は、南半部が調査区外となる。東西径 0.56m、深さ 0.09m の浅い土坑である。

#### 014SK

14D 区の南端で検出され、南半部は調査区外である。東西径は約 2m と大きい、深さは 0.06m である。

### 土坑群

14C 区では長径 0.7～1m、短径 0.3～0.5m、深さが 0.05m 以下で不定形な土坑が並ぶ。周辺には杭と思われる小穴も多数あり、護岸工事などの土木事業に伴うものと考えられる。時期は近世以降か。

### B 溝

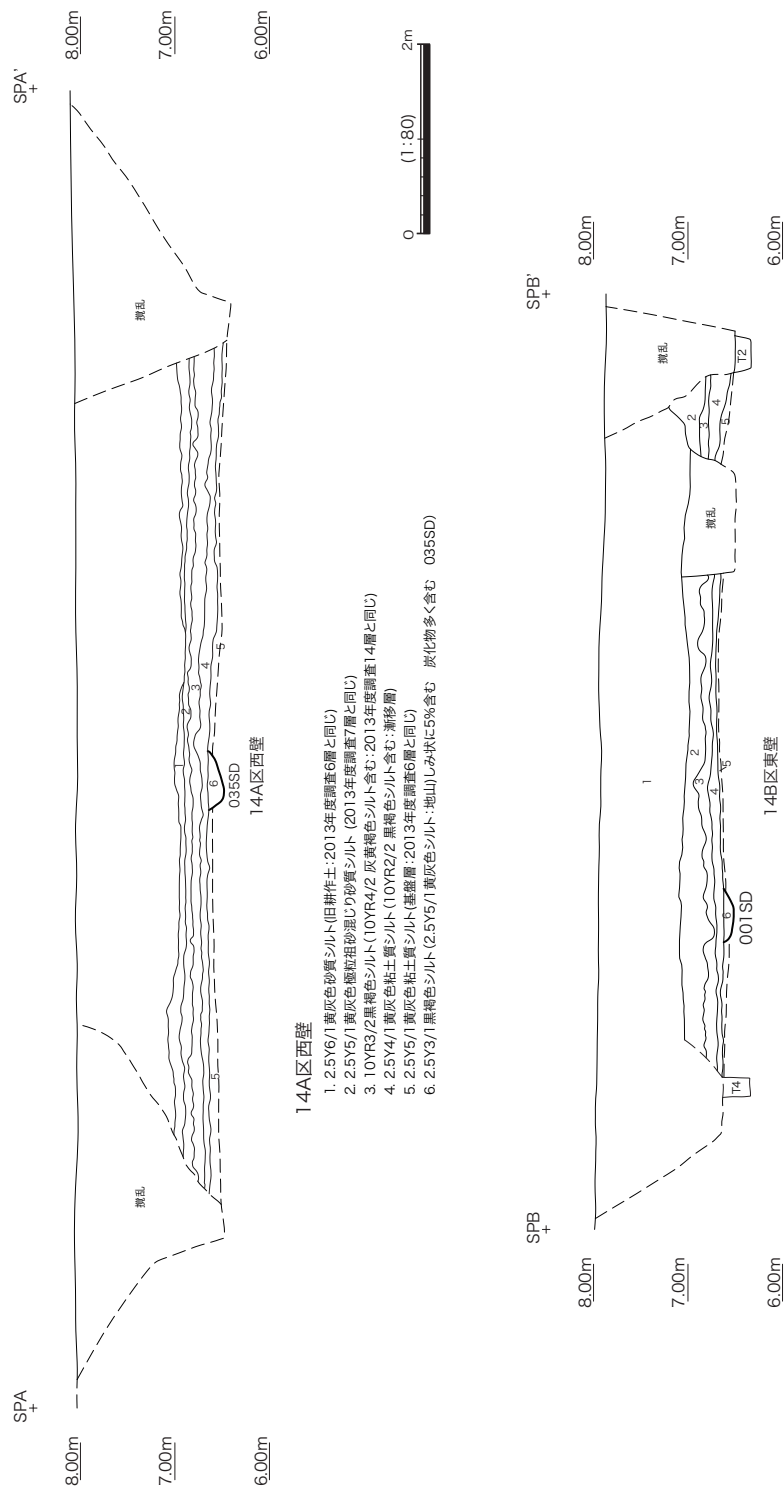
#### 026SD

14B 区中央をほぼ東西に走る、幅 2.9m、深さ 0.22m の溝で、古墳時代初頭の土器がややまとまって出土している。

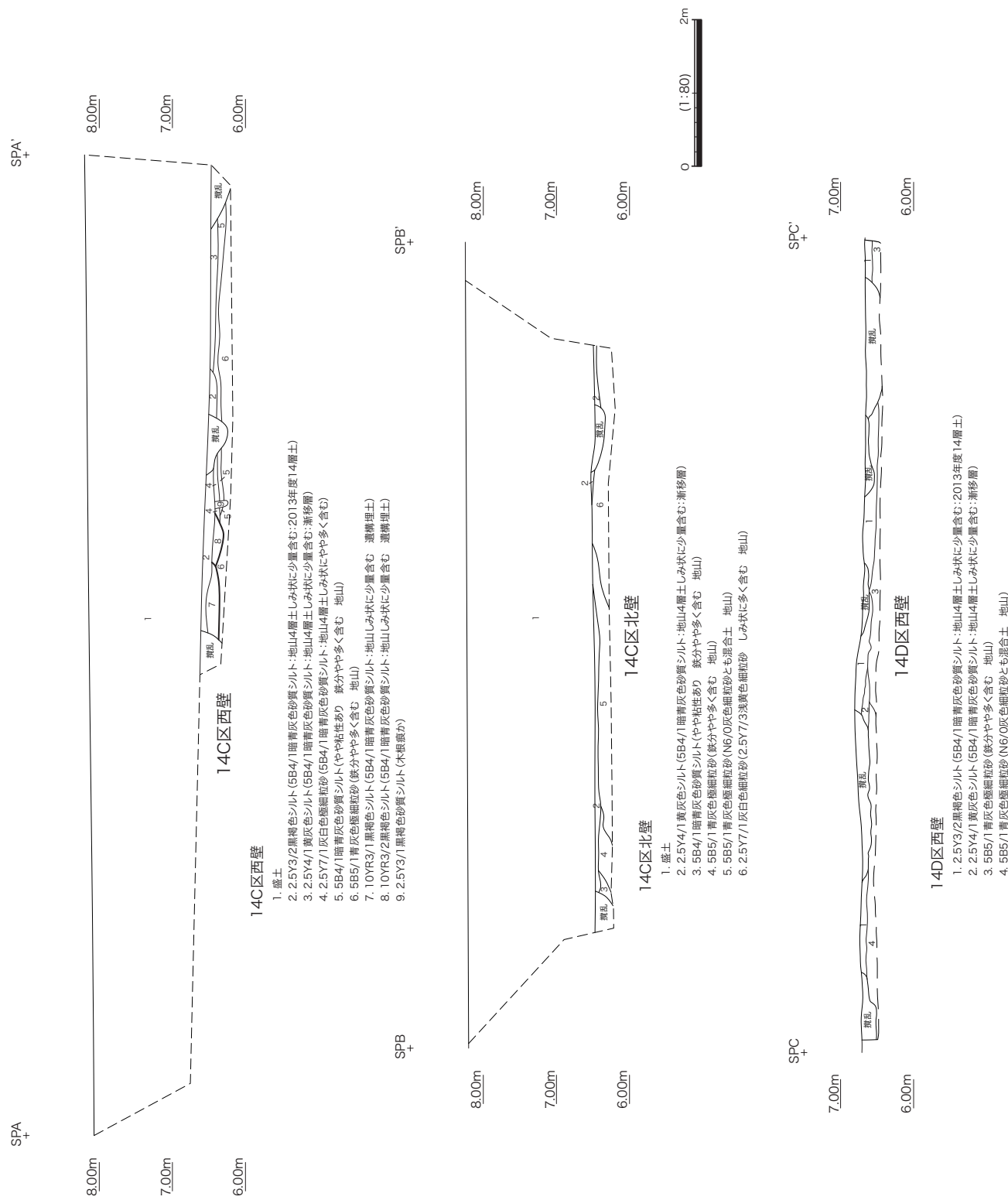
### 溝群

14A 区では、幅 0.2～0.3m、深さ 0.1m 以下の同種の溝がほぼ南北に並列して走る。またそれに直交する 019SD・028SD も見られる。埋土は黒褐色シルトが大部分である。





第 53 図 下懸遺跡 14A・B 区土層断面図 (S = 1/80)



第 54 図 下懸遺跡 14C・D 区土層断面図 (S = 1/80)

## 平成 27 年度調査 (15 区 第 58 図)

### 1 調査の概要

調査地点は、愛知県安城市小川町向田に所在する。調査区は碧海台地の東縁部直下に位置し、矢作川とその支流によって形成された沖積地上に立地する。下懸遺跡は、今回の調査地点の南側にて、弥生時代中期～古墳時代前期を主体とした遺物、遺構がこれまでの調査で確認され、集落の存在も明らかになっている。本調査区は、下懸遺跡の北端に位置する。調査地点の北側には、鹿乗川沿いの低地に弥生時代後期～古墳時代前期の墓域、集落を主体とした寄島遺跡が展開する。調査区の基本層序は、現地地表高直下から約 3 m の盛土がみられ、標高 7.2 m の高さにて近・現代の水田耕作土 (第 2 層) が確認された。水田耕作土の下には、調査区東側にて灰釉陶器、山茶碗を含む古代から中世にかけての堆積 (第 5 層) がみられ、この下位に自然流路の上位堆積層 (第 10 層) が確認され上位にて、古墳時代前期の竪穴建物、古代の溝などが検出された。さらにこの下位では、河川の左岸として形成された東から西に落ちる斜方の堆積 (第 10・12～15 層) が確認された。

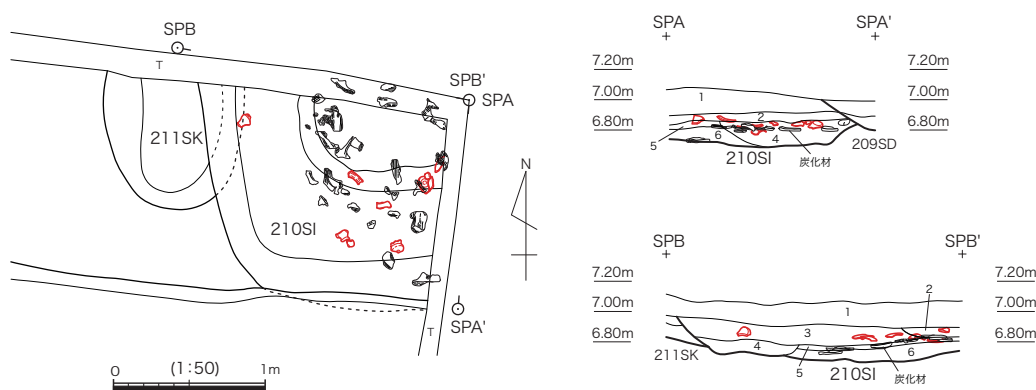
### 2 遺構の概要

今回の調査では、古代の溝、古墳時代前期の竪穴建物などが確認された。この中で竪穴建物の可能性が考えられる遺構は、1 基検出された。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われるが、部分的な検出であるため、全形を把握できていない。遺物は、古墳時代の前葉と考えられる土器が出土している。この竪穴建物跡を切って、幅約 1 m の溝が検出された。東西方向に走るこの溝からは、土器片とともに灰釉陶器、山茶碗などが出土している。本調査地点は、河川の流路変更によって形成された堆積土直上にて、古墳時代の前葉には居住域とされた。碧海台地の東縁部直下において、土地利用の一端を示す検出結果となった。

#### A 竪穴建物

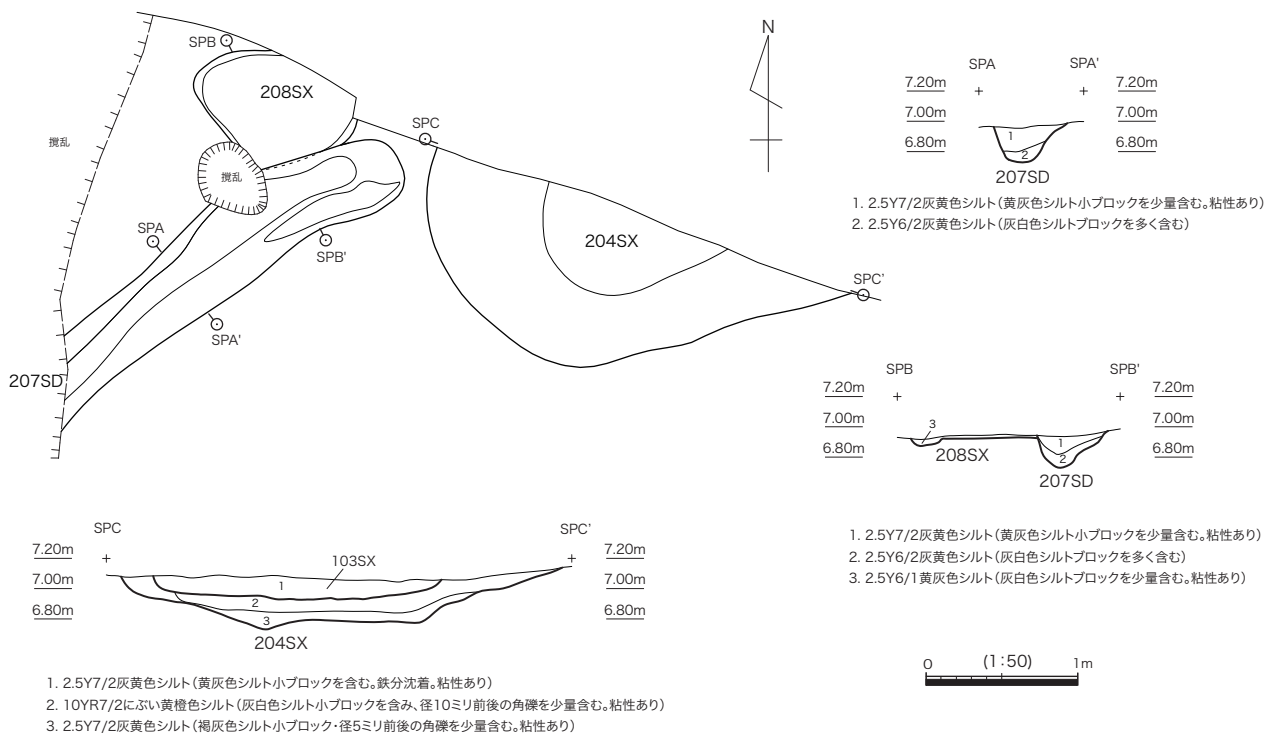
#### 210SI (第 55 図)

調査区北西側に位置する。検出部は、平面形態が隅丸方形を呈する南西角部分と思われ、検出高は 6.9～7.0m を測る。重複関係では、211SK を切り、209SD に切られている。残存する深さは



1. 2.5Y7/2 灰黄色シルト (炭化物少量含む。鉄分沈着。粘性あり)
2. 2.5Y6/2 灰黄色シルト (灰白色極細粒砂ブロックを含み、炭化物を少量含む。粘性あり)
3. 2.5Y6/2 灰黄色シルト (浅黄色極細粒砂大ブロック・灰白色シルト小ブロック・炭化物を含み、径 5～7 ミリ前後の角礫を少量含む。粘性あり)
4. 5Y6/1 灰色シルト (黄灰色シルトブロックを多く含む、炭化物を少量含む。周溝)
5. 2.5Y6/2 灰黄色シルト (炭化物を非常に多く含む、黄灰色シルトブロックを含む。貼り床)
6. 2.5Y6/2 灰黄色シルト (黄灰色シルトブロック・浅黄色極細粒砂大ブロックを含み、炭化物を少量含む。掘り方)

第 55 図 下懸遺跡 15 区 210SI (S = 1/50)



第 56 図 下懸遺跡 15 区 204SX・207SD・208SXSI (S = 1/50)

0.25m を測り、上部は削平されて基底部のみが検出された竪穴建物と思われる。主柱穴は明確に検出されず、床面が貼られたと思われる層の下位では、幅の広い溝が平面プランに沿うように設けられていた。溝の残存幅は 0.75 ～ 0.9m、内側平坦部からの深さ約 0.1m を測る。床面と考えられる層の直上では炭化材が広がっていて、焼失家屋の可能性も考えられる。埋土は灰黄色シルトを基調とし、遺物は古墳時代前葉の土器壺、甕、高杯などが出土している。

出土炭化材の樹種はクリとイネ科の植物で、AMS 法放射性炭素年代測定では 86AD (95.4%) 227AD と 19AD (95.4%) 125AD の結果が得られている。

#### B 土坑

##### 213SK

調査区西側に位置する土坑である。平面形態は東西方向に長い楕円形を呈するものと思われ、断面形態は船底形を呈している。遺構の重複関係では、209SD に切られている。検出高は 6.95m を測り、残存径 1.7m、検出高からの深さは 0.1 m を測る。埋土は黄灰色シルトを基調とする。遺物は古墳時代前葉と考えられる土器台付甕、高杯などが出土している。

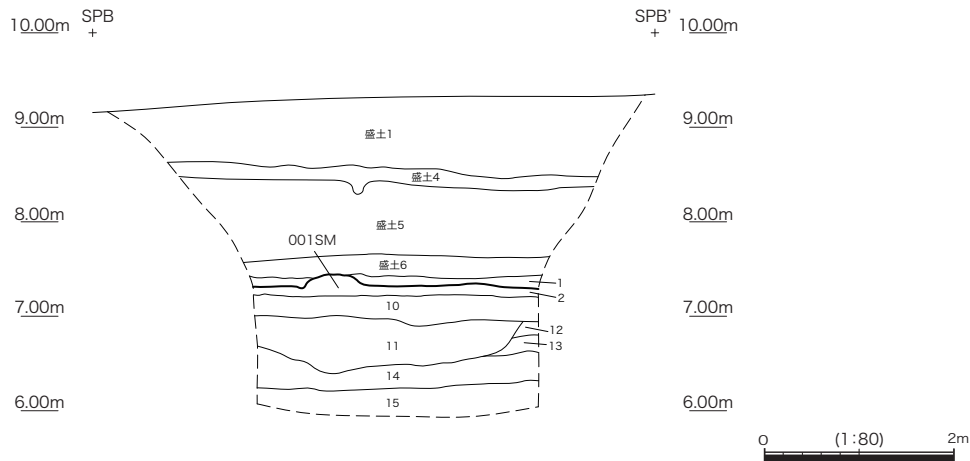
##### 214SK

調査区西側に位置する土坑である。平面形態は南北方向に長い楕円形を呈するものと思われ、断面形態は船底形を呈している。遺構の南側は調査区外に続く。検出高は 6.95m を測り、残存長径 1.7m、幅 0.4m、検出高からの深さは 0.1 m を測る。埋土は黄灰色シルトを基調とする。遺物は中世の山茶碗などが出土している。

#### C 溝

##### 207SD (第 56 図)

調査区東側に位置する溝状遺構である。断面形態は船底形を呈している。遺構の重複関係では、208SX に切られている。検出高は 7.0m を測る。幅は最大 0.6m、検出長 2.9m、検出高からの深さ



#### 15区東壁

- 盛土1. 10YR7/2にふい黄橙色シルト(径20~30ミリの角礫・明黄褐色細粒砂ブロックを少量含む。鉄分沈着。)
- 盛土4. 2.5Y7/2灰黄色シルト(黄灰色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着。粘性あり。)
- 盛土5. 2.5Y7/4浅黄色シルト(灰白色粘土大ブロックを多く含む、明黄褐色シルトブロックを含む。しまり非常に強い。)
- 盛土6. 2.5Y7/2灰黄色シルト(黄灰色シルト小ブロックを少量含む。鉄分沈着。粘性あり。)
1. 10YR6/3にふい黄橙色中粒砂(黄褐色粘土ブロック・黄灰色シルト小ブロック・中礫少量含む。洪水砂。)
2. 2.5Y6/2灰黄色シルト(黄灰色シルト小ブロックを少量含む。鉄分少量沈着。)
10. 2.5Y7/2灰黄色シルト(炭化物少量含む。鉄分沈着。粘性あり。)
11. 5Y7/1灰白色シルト(灰黄色シルト小ブロックを少量含む。)
12. 2.5Y6/2灰黄色シルト(灰白色シルト小ブロックを含み、径5ミリ前後の角礫を少量含む。)
13. 10YR7/2にふい黄橙色シルト(灰白色シルト小ブロックを含む。粘性あり。)
14. 2.5Y6/1黄灰色シルト(灰白色極細粒砂ブロックを多く含む、灰黄色シルトブロックを少量含む。)
15. 2.5Y7/1灰白色シルト(灰黄色シルト小ブロック・にふい黄橙色シルトブロックを含む。)

第 57 図 下懸遺跡 15 区東壁土層断面図 (S = 1/80)

は 0.3m を測る。平面形態における主軸の方向は、北東の端部から南西方向示すが、反対側端部は攪乱部に切られている。埋土は黄灰色シルトを基調とし、遺物は平安時代の灰釉陶器碗などが出土している。

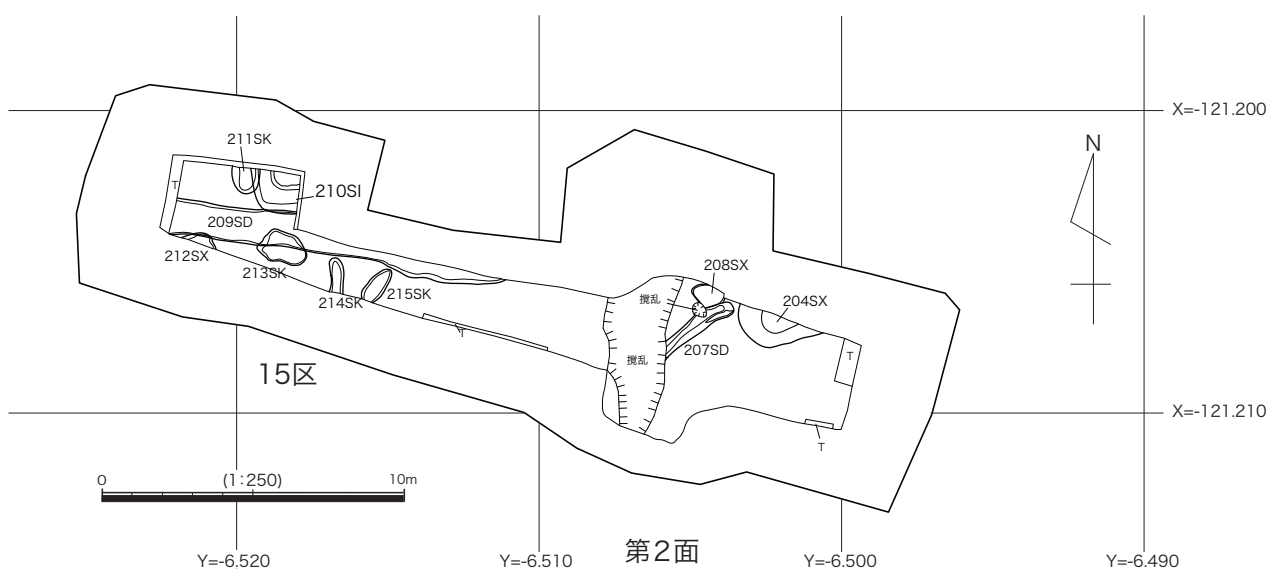
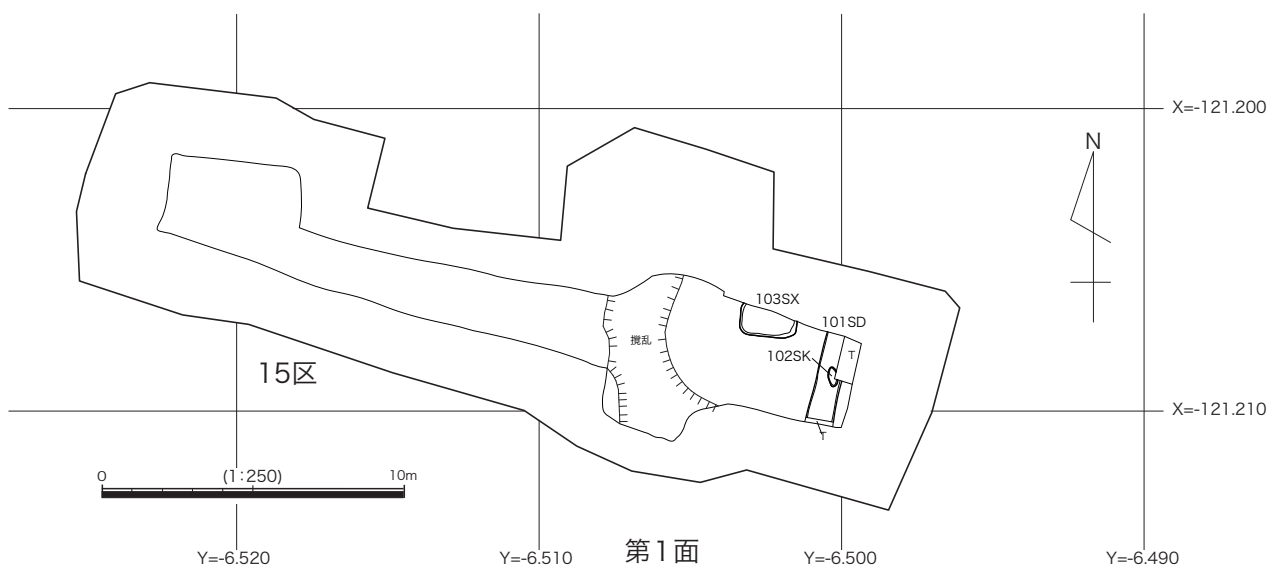
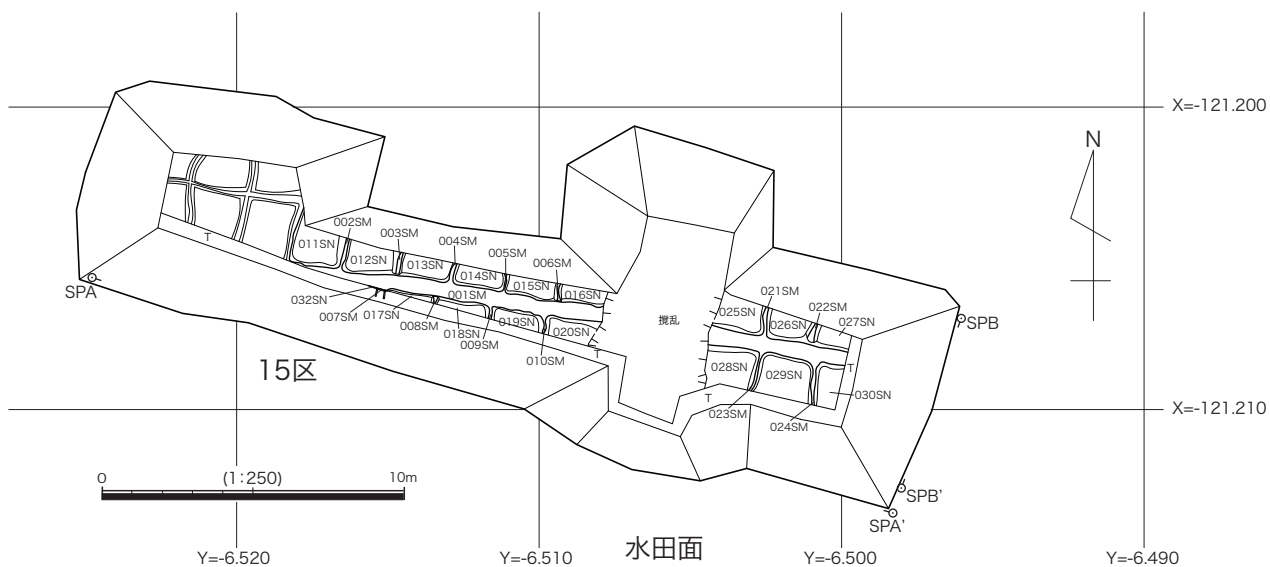
#### 209SD

調査区西側に位置し、東西方向にのびる溝状遺構である。断面形態は船底形を呈している。遺構の重複関係では、210SI、213SK を切っている。検出高は 7.0m を測る。残存部での幅は最大 1.2m、検出長 11.2m、検出高からの深さは 0.2m を測る。平面形態における主軸の方向は、西側の端部から真東よりやや南西方向示すが、両側端部は調査区外に続いている。埋土は黄灰色シルトを基調とし、遺物は加飾壺、布目瓦、灰釉陶器碗、山茶碗などの小片が出土している。

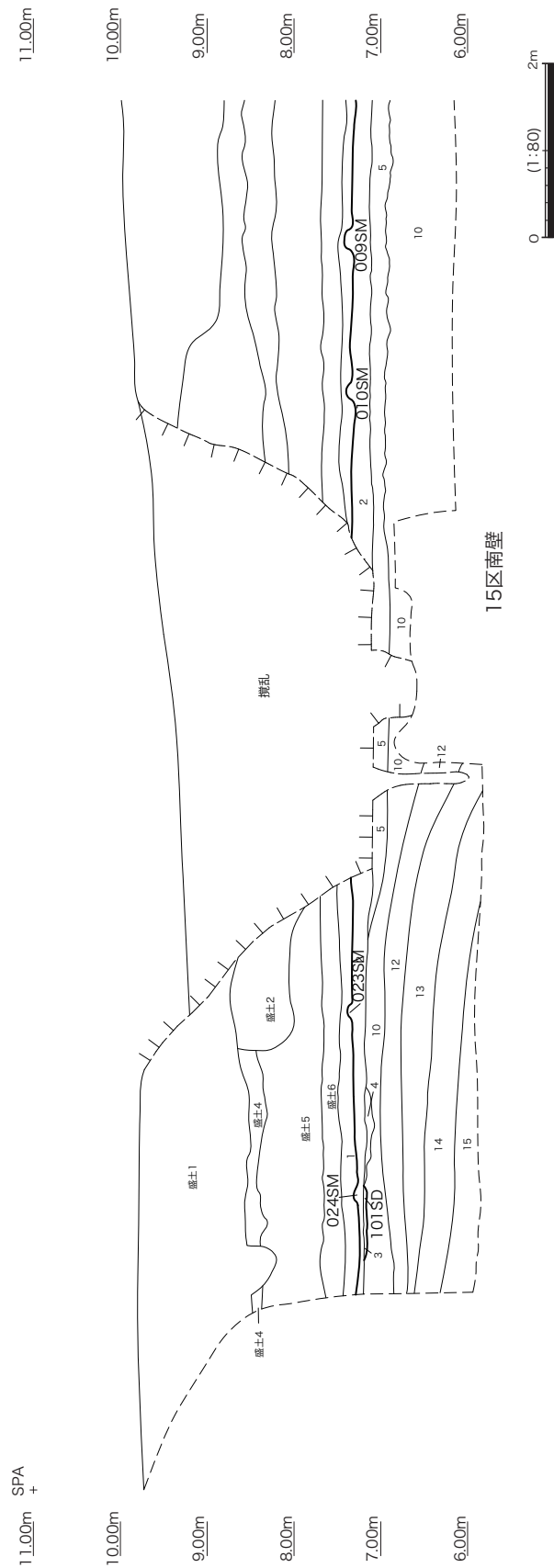
#### D その他

#### 204SX (第 56 図)

調査区東側に位置する遺構で、遺構の性格が判別しきれなかったため、その他の類とした。断面形態は船底形を呈しているが、下端部分がやや鋭角に変化する。検出高は 7.1m を測る。残存長は 1.5m、幅は 2 m 超と思われ、検出高からの最深部は 0.4 m を測る。埋土は、灰黄色シルトを基調とする。遺物は、灰釉陶器碗が出土している。

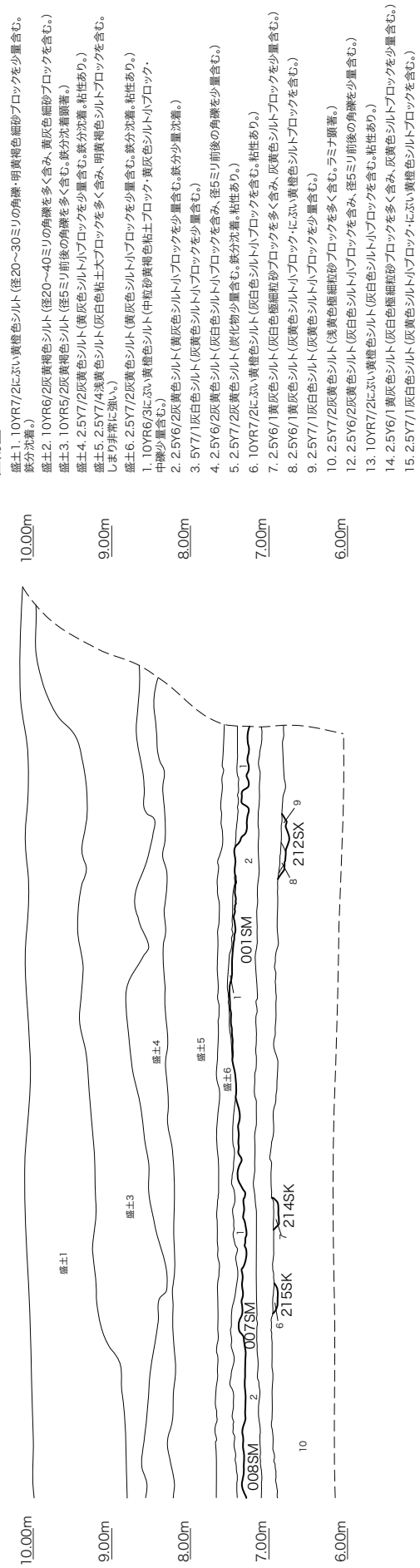


第 58 図 下懸遺跡 15 区平面図 (S = 1/250)



15区南壁

15区南壁



第 59 図 下懸遺跡 15 区南壁土層断面図 (S = 1/80)



## 第4節 五反田遺跡

### 平成22年度調査（10A区・10B区）

#### 1 調査の概要

鹿乗川を東西に跨ぐ小川橋を挟んで、北側を11A区、南側を11B区として調査区を設定した。両地区とも、暗灰色黄色シルト層及び黒褐色シルト層上面を第1面、黒褐色シルト層を除去した面を第2面として検出した。第1面では中世以降の溝や土坑を、第2面では古墳時代初頭の方形周溝墓や土坑・溝を検出している。

#### 2 遺構の概要

##### （1）第1面（第65・66図）

###### A 溝

###### 10A区003SD

交差して十字に走る溝で、東西の溝は4～5m、南北の溝は1.5～1.8m、深さは0.4～0.5mを測る。南北溝はやや東に傾いて、北側でわずかに屈曲している。両溝の切り合いは認められなかった。時期は中世後半になる。

###### 10A区005SD・008SD

10A区005SDは003SDと平行して走る溝で、幅1.2m、深さ0.4mを測る。008SDはそれに直交する溝で、幅0.67m、深さ0.08mと浅い。005SDより杭や板（355・356）が出土している。

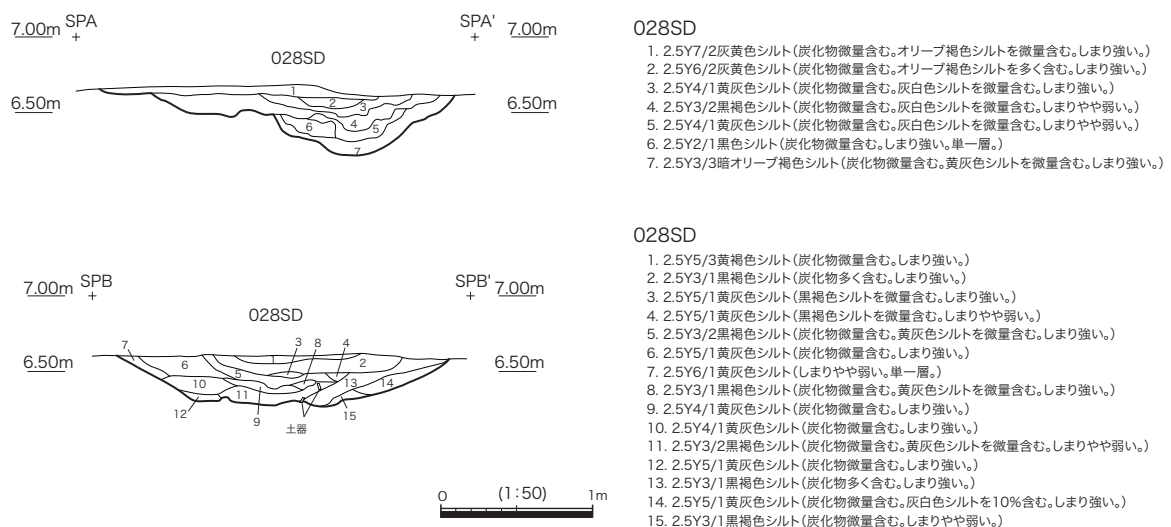
###### 10B区010SD・011SD

東南東―西北西方向に平行して走る溝で、調査中央部で収束する。10B区010SDは幅1.2m、深さ0.09m、011SDは幅1.1m、深さ0.015mを測り、011SDは部分的に太くなっている。

##### （2）第2面（第67・68図）

###### B 方形周溝墓

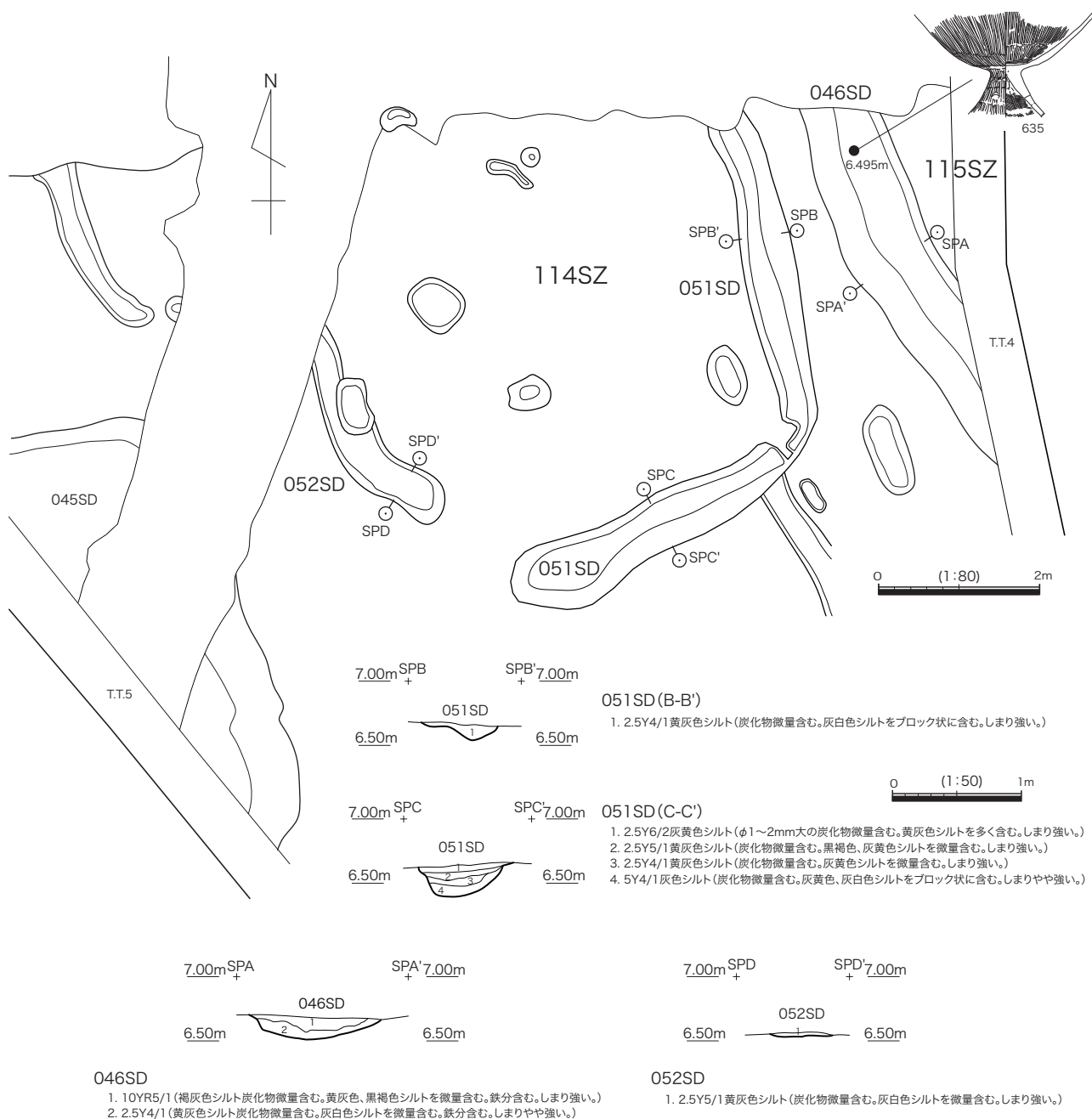
10A区中央部から南部にかけて方形周溝墓群が検出されている。全ての方形周溝墓は削平を受けていて、墳丘や埋葬施設は残存していない。



第60図 五反田遺跡 10区A区112SZ 1 (S = 1/50・1/80)







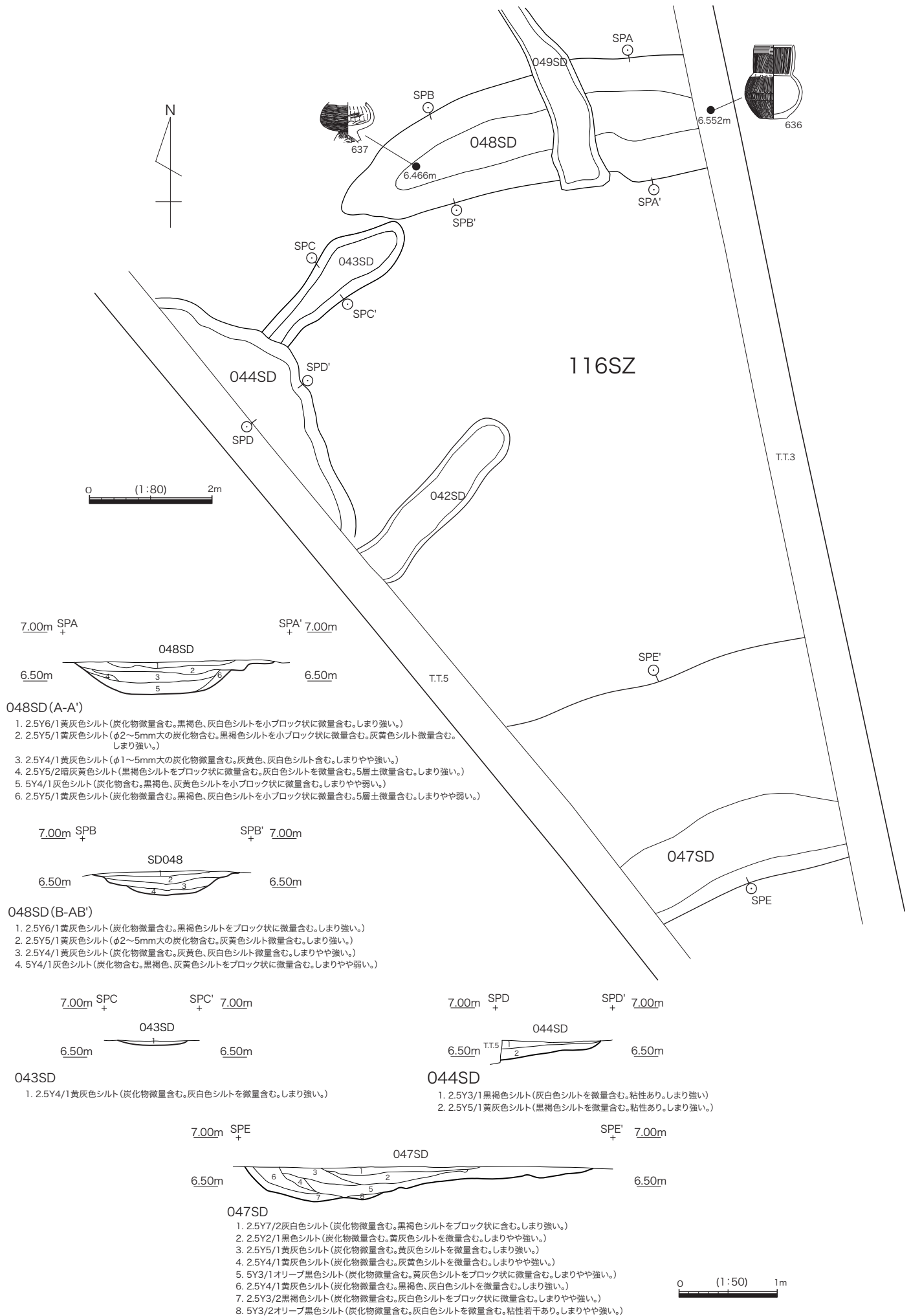
第 63 図 五反田遺跡 10 区 A 区 114・115SZ (S = 1/50・1/80)

### 10A 区 112SZ (第 60・61 図)

調査区西壁沿いで検出された方形周溝墓で、10A 区 028SD が北・東周溝、045SD が南周溝になると考えられる。周溝の 028SD は幅 2.6m、深さ 0.4m、045SD は南北径が 6.13m、深さ 0.23m を測る。当初 003SD が南周溝と想定していたが、中世の溝の可能性が高まったため、045SD を南周溝とした。墓の規模は溝下端間で、検出径が 14.2m となる。045SD の南部の底面付近で、古墳時代初頭の高杯の杯部 (634) が出土している。

### 10A 区 113SZ (第 62 図)

調査区西壁沿いで検出された方形周溝墓で、10A 区 025SD と 055SK が北・西周溝と考えられる。西溝に関しては中世の溝 017SD・023SD・024SD が切り合っているため、周溝の形状は不明瞭となっており、025SD が途切れ、055SK がその先にあるのか、周溝の深い部分のみが残存して 2 つの遺構として検出されたのかは判明できなかった。周溝の 025SD は幅 2.14m、深さ 0.47m、055SK は



長径 2.35m、短径 1.54m、深さ 0.4m を測る。南側が調査区外であるので規模は判明しないが、9m を超える大きさと推定される。025SD の中層より完形の手焙り形土器 (639) が、055SK の下位から手焙り形土器 (640) と鉢 (641) が出土している。また中世の溝 024SD からの出土であるが、ガラス小玉 (S9) も 025SD 上部で出土しており、方形周溝墓に関係する遺物の可能性が考えられる。

#### 10A 区 114SZ (第 63 図)

調査区中央部やや南で、112SZ と 115SZ に挟まれた場所にある。北周溝と西周溝の一部は 003SD で切られている。周溝の 051SD は幅 0.89m、深さ 0.25m、052SD は幅 0.55m、深さ 0.03m を測る。墓の規模は溝下端間で、東西径が 5.3m と、他の方形周溝墓に比べて小型である。

#### 10A 区 115SZ (第 63 図)

調査区東壁沿いで検出された溝 046SD で、北側は 003SD で切られている。046SD は、検出長が約 4m、幅 1.09m、深さ 0.17m を測る。溝の規模や方向・位置、高杯 (639) の出土状況から方形周溝墓の周溝とした。

#### 10A 区 116SZ (第 64 図)

調査区南端部で検出された方形周溝墓で、北溝 048SD、西溝 044SD、南溝 047SD からなる。また 048SD と 044SD の間にある浅い溝 043SD も周溝の一部である可能性がある。048SD は幅 02.03m、深さ 0.32m、044SD は検出径 5.11m、深さ 0.2m、047SD は幅 3.6m、深さ 0.34m、043SD は幅 0.9m、深さ 0.04m を測る。墓の規模は溝下端間で、南北径が 11.2m となる。048SD の下層より脚付壺 (637) が、中層よりヒサゴ形壺 (636) が出土している。

#### B 土坑

#### 10B 区 105SK・106SK

105SK は東西径 2.7m、深さ 0.22m の不定形な形をした土坑で、106SK は南北に長い溝状の土坑で、幅 2.7m、深さ 18cm を測る。105SK から線刻土器 (643) が出土している。

#### C 溝

#### 10A 区 014SD・023SD・024SD・027SD

北西―南東方向に走る溝で、幅 0.5～1.2m、深さ 0.1～0.2m を測る。南部では重なり合いようになり、溝幅の不定形になる。時期は中世後期になる。

#### 10A 区 026SD

北東―南西に走る幅 2m、深さ 0.45m の溝で、上記の 014SD・027SD・029SD に切られる。古墳時代初頭期の土器も出土しており、当期の溝の可能性はある。

#### 10A 区 029SD

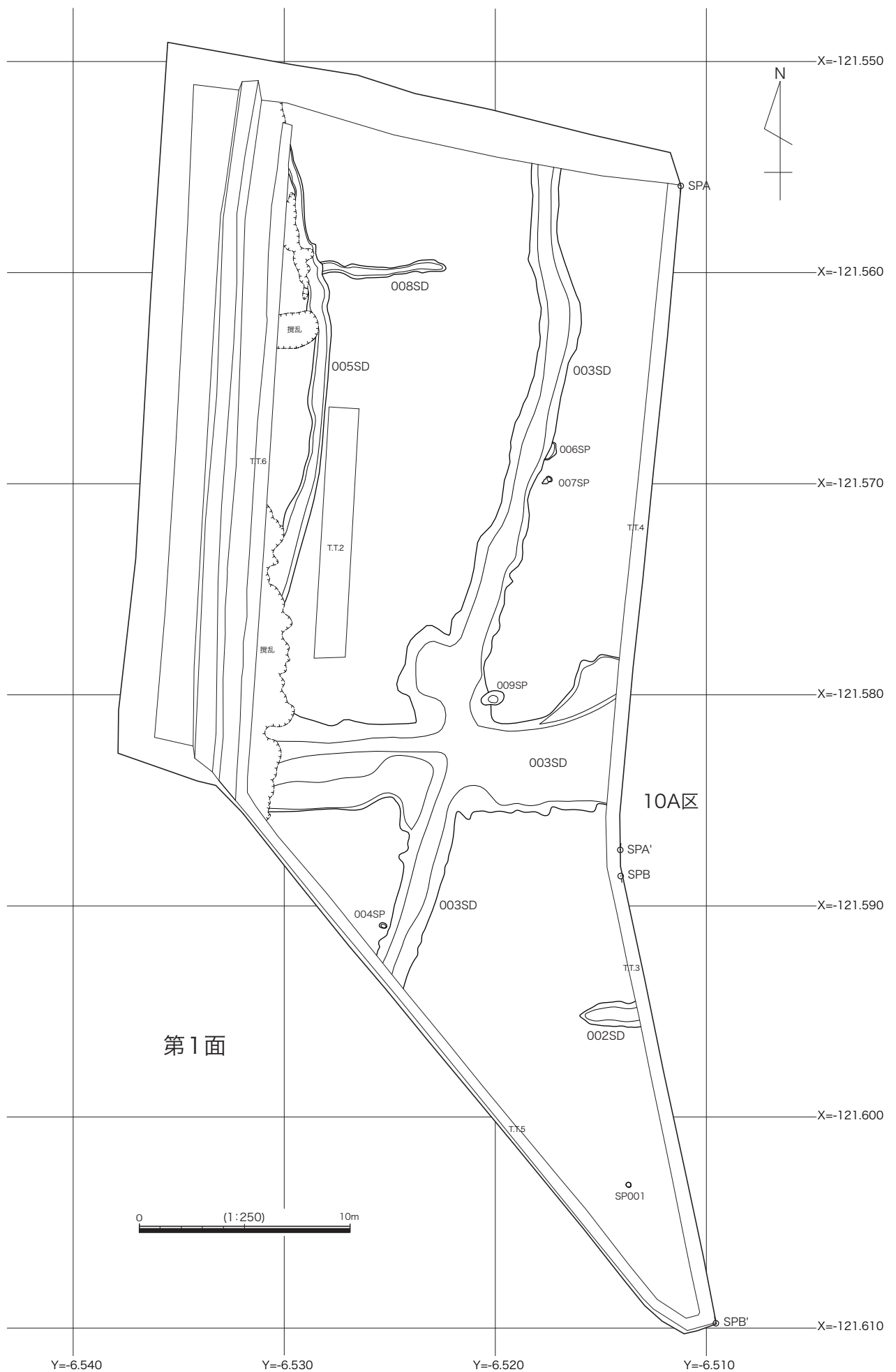
014SD・027SD より西に傾く溝で、幅 1.2m、深さ 0.12m を測る。時期は中世後期になる。

#### 10A 区 033SD

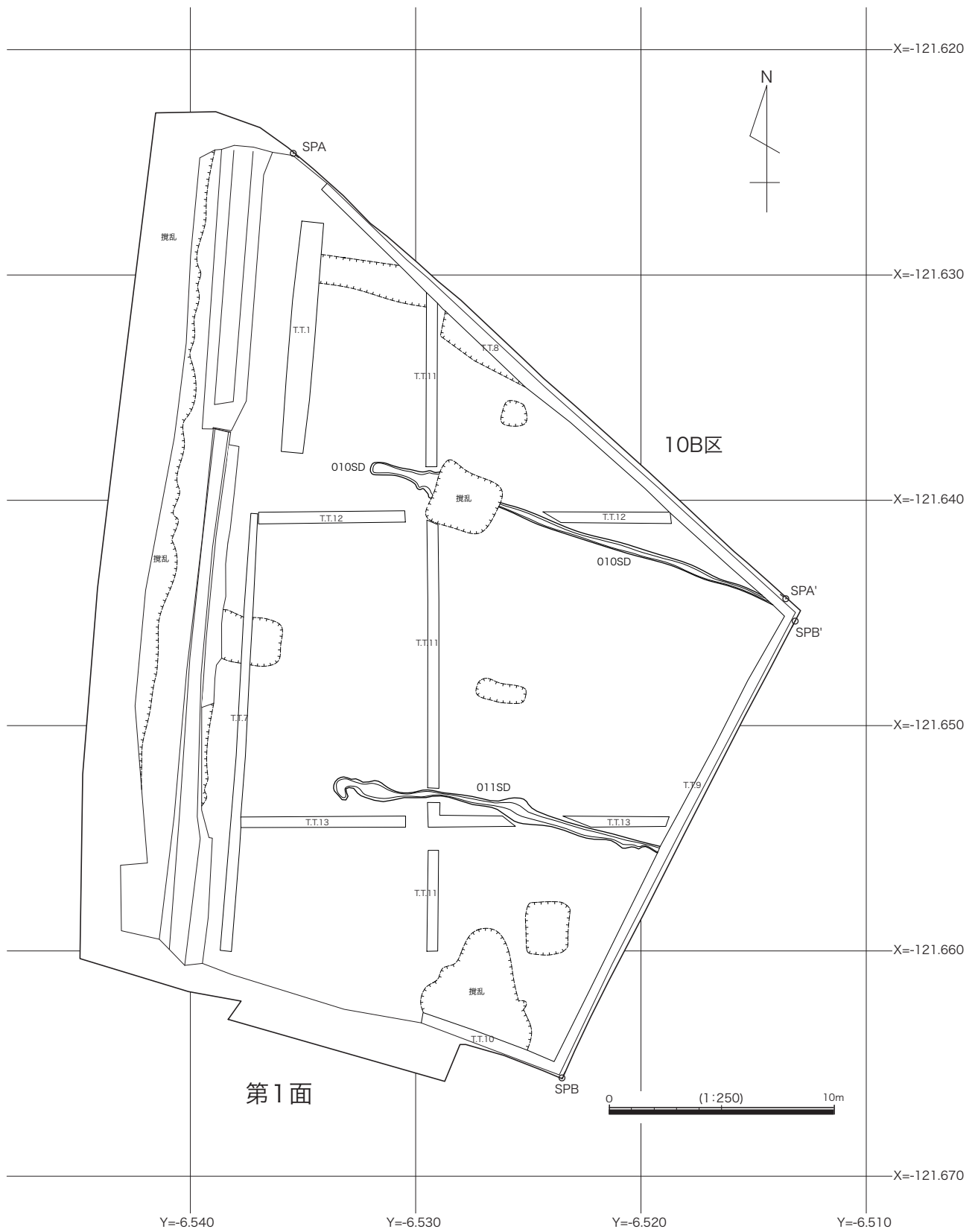
東北東―西南西方向に走る幅 1.8m、深さ 0.25m の溝で、山茶碗が出土する。

#### 10B 区溝群

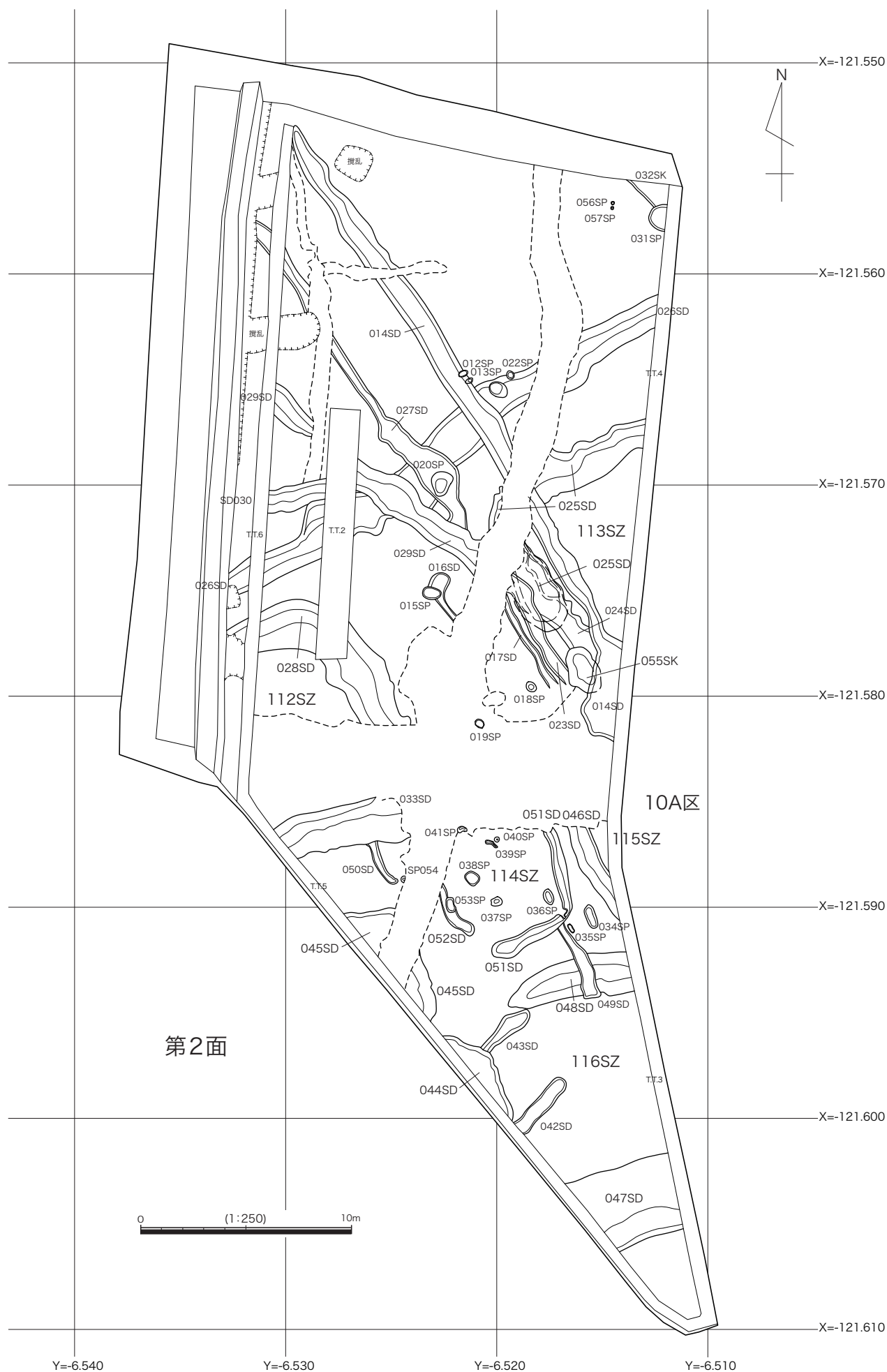
10B 区の東側で検出された、北東―南西方向に並列して走る溝群で、幅 0.1～0.5m、深さ 0.01～0.2m を測る。

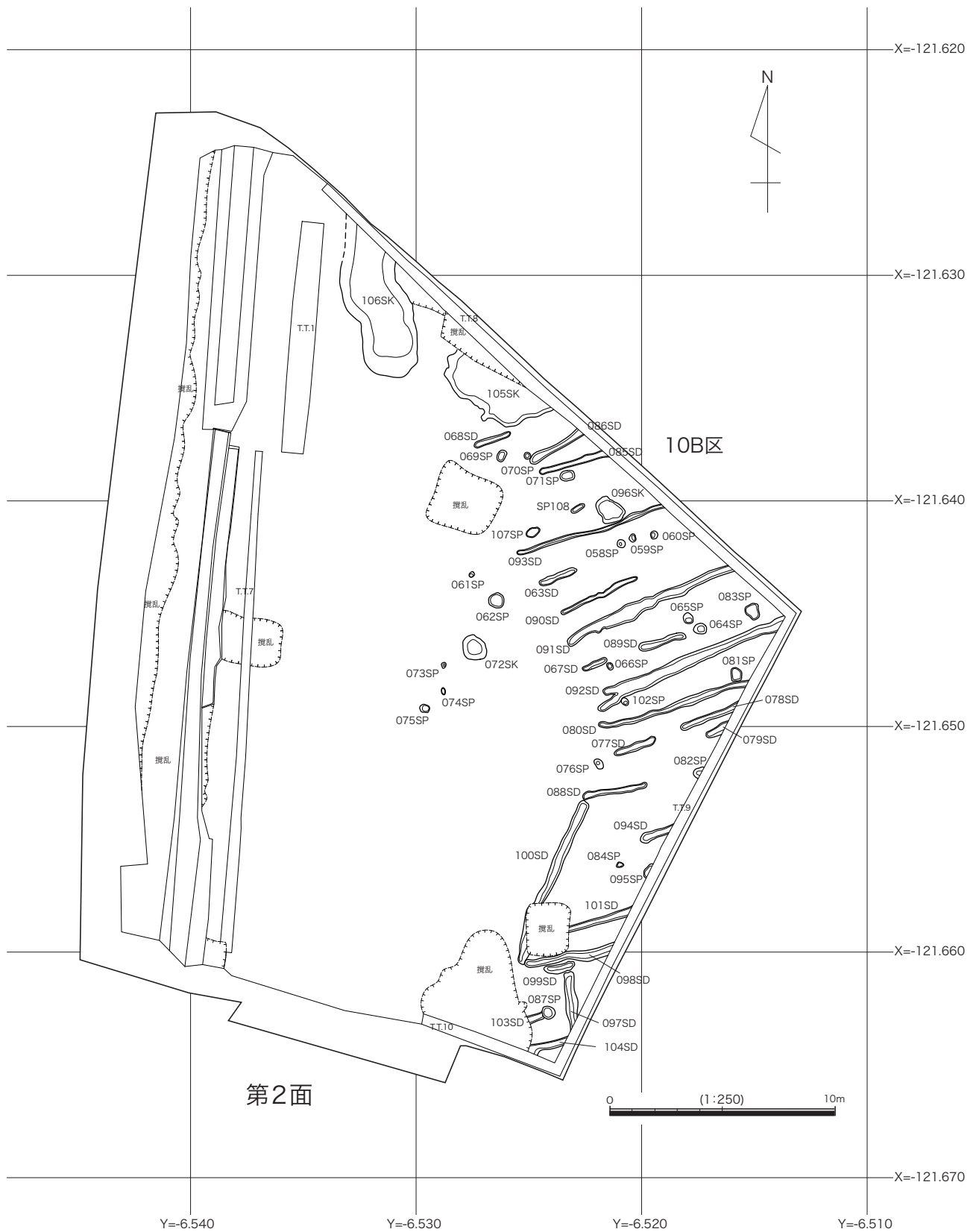




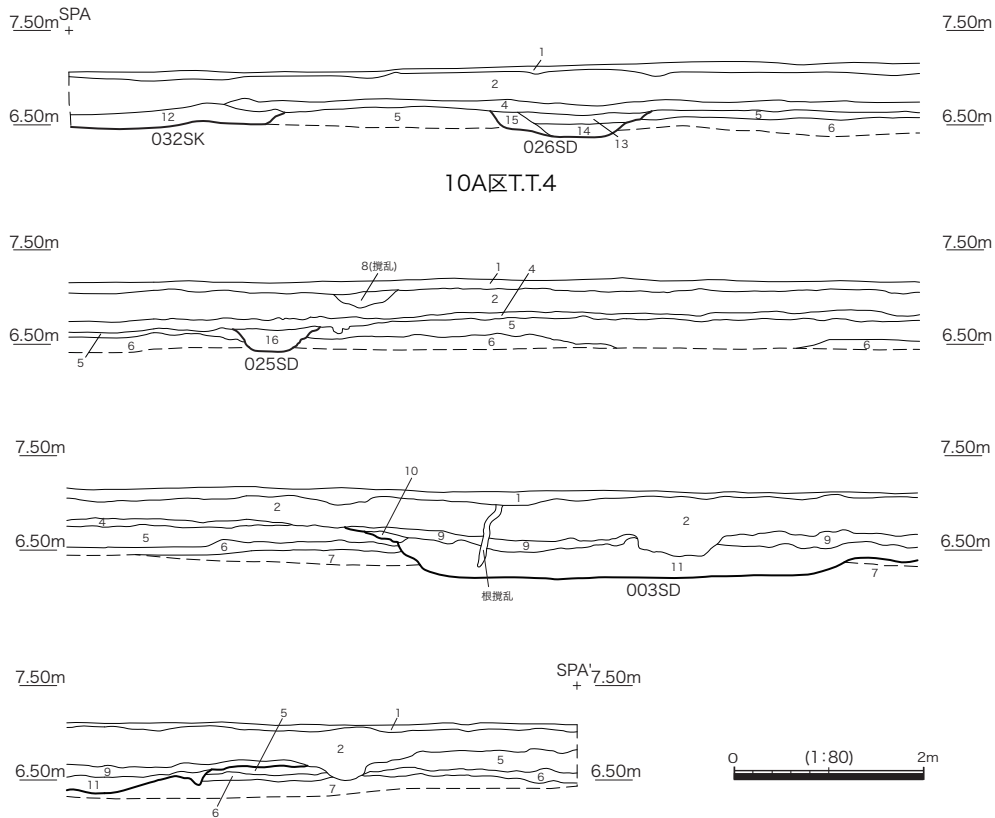


第 66 図 五反田遺跡 10 区 B 区第 1 面平面図 (S = 1/250)





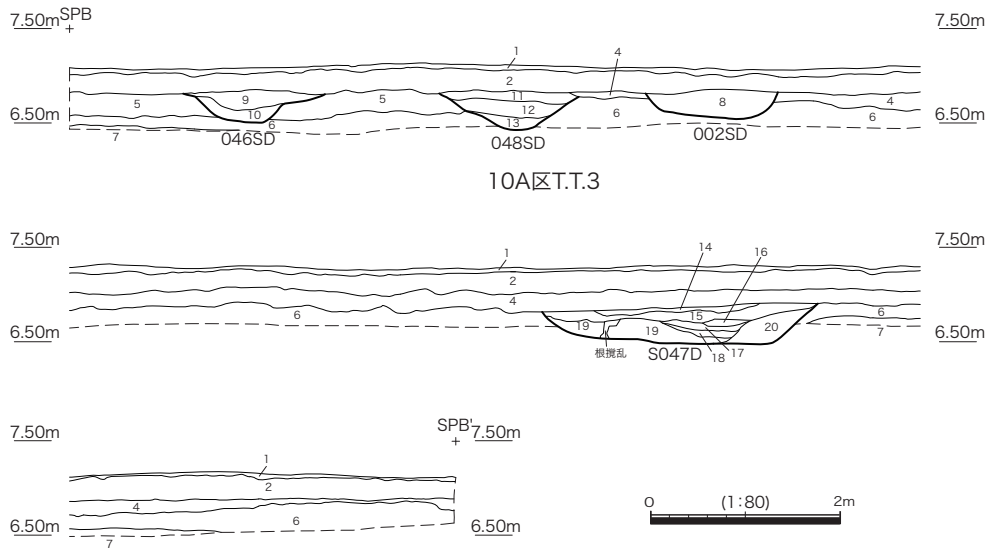
第 68 図 五反田遺跡 10 区 B 区第 2 面平面図 (S = 1/250)



#### 10A区T.T.4

1. 2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性普通。しまり強い。耕作土。基本層序1層。)
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト(炭化粒微量含む。細礫微量含む。粘性普通。しまり強い。盛土。基本層序2層。)
3. 欠番
4. 10YR3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4層。)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂(炭化粒微量含む。粘性弱い。しまり弱い。基本層序5層。)
6. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序6層。)
7. 10YR4/1褐灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序7層。)
8. 2.5Y6/6明褐色粗粒砂(黄褐色シルト10%含む。攪乱。)
9. 2.5Y3/2黒褐色シルト(鉄分含む。しまり普通。SD003の埋土1層。)
10. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化物微量含む。黄灰色シルト微量含む。しまりやや強い。SD003の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
11. 5Y4/1灰色シルト(炭化物微量含む。黒褐色シルトをブロック状に10%含む。しまりやや弱い。SD003の埋土3層。)
12. 7.5Y4/1灰色シルト(炭化物微量含む。しまり強い。SK032の埋土2層。)
13. 2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化物多く含む。黒褐色シルト30%含む。しまり強い。SD026の埋土1層。)
14. 2.5Y5/1黄灰色シルト(炭化物多く含む。灰白色極細粒砂微量含む。しまり強い。SD026の埋土2層。)
15. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化物多く含む。黄灰色極細粒砂微量含む。しまり強い。SD026の埋土3層。)
16. 2.5Y6/1黄灰色シルト(暗オリーブ褐色シルト微量含む。しまりやや弱い。SD025の埋土6層。単層に見え、遺構地層断面図に対応層なし。)

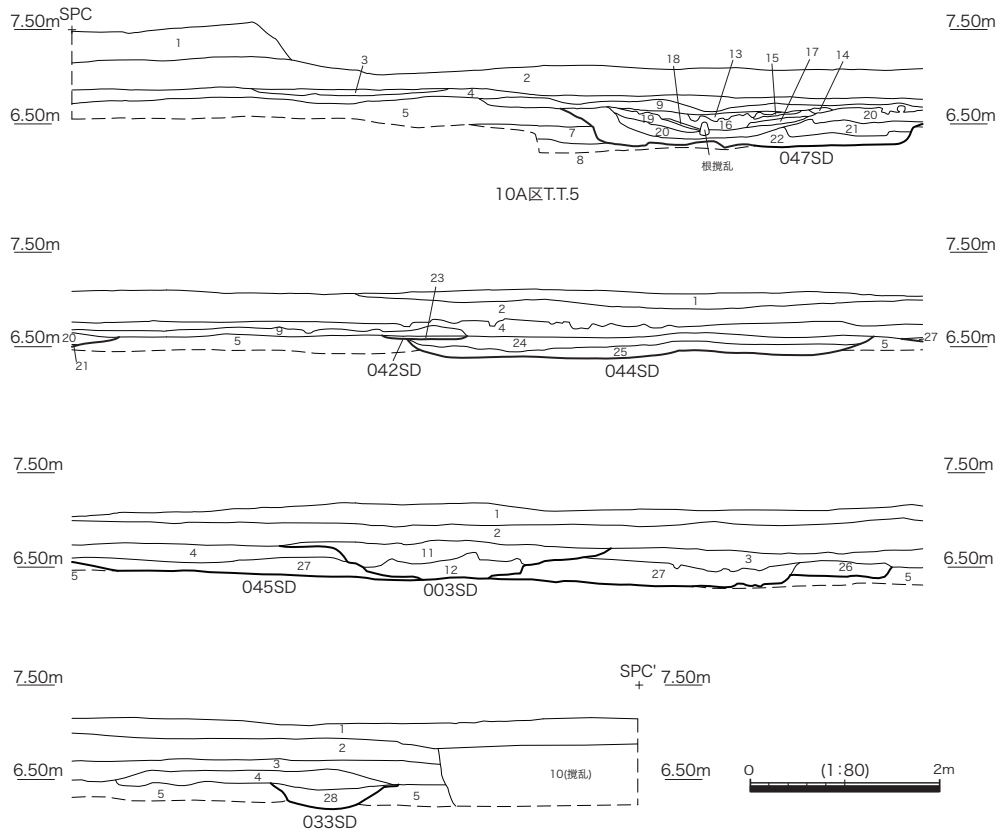
第 69 図 五反田遺跡 10 区 A 区東壁土層断面図 1 (S = 1/80)



#### 10A区T.T.3

1. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(炭化粒微量含む。しまり強い。粘性普通。耕作土。基本層序1層。)
2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト(炭化粒微量含む。細礫微量含む。しまり強い。粘性普通。盛土。基本層序2層。)
3. 欠番
4. 10YR3/2 黒褐色シルト(炭化粒微量含む。しまり強い。粘性強い。遺物包含層。基本層序4層。)
5. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂(炭化粒微量含む。しまり弱い。粘性弱い。基本層序5層。)
6. 2.5Y3/2 黒褐色シルト(炭化粒微量含む。しまり強い。粘性強い。基本層序6層。)
7. 10YR4/1 褐灰色シルト(炭化粒微量含む。しまり強い。粘性強い。基本層序7層。)
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト(炭化粒微量含む。しまりやや強い。SD002の埋土。)
9. 10YR5/1 褐灰色シルト(炭化物微量含む。黄灰色、黒褐色シルトを微量含む。鉄分含む。しまり強い。SD046の埋土1層。)
10. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(炭化物微量含む。灰白色シルトを微量含む。鉄分含む。しまりやや強い。SD046の埋土2層。)
11. 2.5Y5/1 黄灰色シルト( $\phi 2 \sim 5\text{mm}$ 大の炭化物含む。灰黄色シルト微量含む。しまり強い。SD048の埋土2層。)
12. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(炭化粒微量含む。灰黄色、灰白色シルト微量含む。しまりやや強い。SD048の埋土3層。)
13. 5Y4/1 灰色シルト(炭化物含む。黒褐色、灰黄色シルトをブロック状に微量含む。しまりやや弱い。SD048の埋土4層。)
14. 2.5Y3/2 黒褐色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
15. 2.5Y3/1 黒褐色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
16. 5Y3/1 オリーブ黒色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
17. 5Y4/1 灰色シルト(黒色シルト30%含む。しまりやや弱い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
18. 5Y3/2 オリーブ黒色シルト(黒色シルト微量含む。しまりやや弱い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
19. 2.5Y3/1 黒褐色シルト(炭化粒多く含む。灰黄色シルト微量含む。しまり強い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)
20. 2.5Y5/1 黄灰色シルト(炭化粒多く含む。灰黄色シルト微量含む。しまり強い。SD047の埋土。遺構地層断面図に対応層なし。)

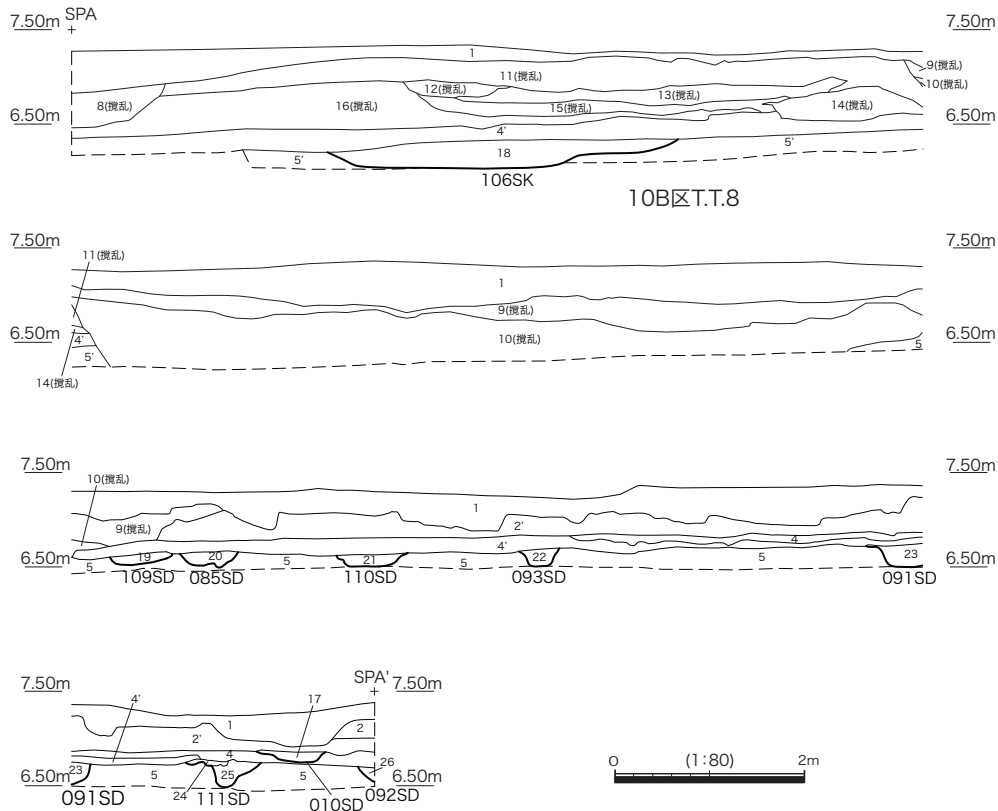
第 70 図 五反田遺跡 10 区 A 区東壁土層断面図 2 (S = 1/80)



#### 10A区T.T.5

1. 2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性普通。しまり強い。耕作土。基本層序1層。)
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト(炭化粒微量含む。細礫微量含む。粘性普通。しまり強い。盛土。基本層序2層。)
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序3層。)
4. 10YR3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4層。)
5. 2.5Y4/2暗灰黄色細粒砂(炭化粒微量含む。粘性弱い。しまり弱い。基本層序5層。)
6. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序6層。)
7. 10YR4/1褐灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序7層。)
8. 5Y4/1灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまりやや強い。基本層序8層。)
9. 5Y5/1灰色シルト(にぶい黄色シルト微量含む。粘性強い。しまり強い。)
10. 5Y4/1灰色シルト(オリーブ黒色シルトブロックを30%含む。にぶい黄色シルトブロックを10%含む。しまり強い。攪乱。)
11. 5Y4/1灰色シルト(しまりやや弱い。SD003の埋土1層。)
12. 2.5Y4/1黄灰色シルト(やや粘性あり。SD003の埋土2層。)
13. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。)
14. 2.5Y3/1黒褐色シルト(暗灰黄色シルト40%含む。しまり強い。SD047の埋土。)
15. 2.5Y3/1黒褐色シルト(暗灰黄色シルト30%含む。しまり強い。SD047の埋土。)
16. 2.5Y3/1黒褐色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。)
17. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト10%含む。しまり強い。SD047の埋土。)
18. 5Y4/1灰色シルト(黒色シルト30%含む。しまりやや弱い。SD047の埋土。)
19. 5Y3/2オリーブ黒色シルト(黒色シルト微量含む。しまりやや弱い。SD047の埋土。)
20. 2.5Y3/1黒褐色シルト(炭化粒多く含む。灰黄色シルト微量含む。しまり強い。SD047の埋土。)
21. 2.5Y6/2灰黄色シルト(炭化粒微量含む。黒褐色シルト微量含む。しまり強い。SD047の埋土。)
22. 2.5Y5/1黄灰色シルト(炭化粒多く含む。灰黄色シルト微量含む。しまり強い。SD047の埋土。)
23. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。灰黄色シルト微量含む。鉄分含む。しまり強い。SD042の埋土。)
24. 2.5Y3/1黒褐色シルト(灰白色シルト微量含む。粘性あり。しまり強い。SD044の埋土1層。)
25. 2.5Y5/1黄灰色シルト(黒褐色シルト微量含む。粘性あり。しまり強い。SD044の埋土2層。)
26. 5Y4/1灰色シルト(炭化粒微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD045の埋土。)
27. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒多く含む。粘性強い。しまり強い。SD045の埋土。)
28. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。灰色細粒砂微量含む。粘性強い。しまり強い。SD033の埋土。)

第 71 図 五反田遺跡 10 区 A 区南壁土層断面図 (S = 1/80)

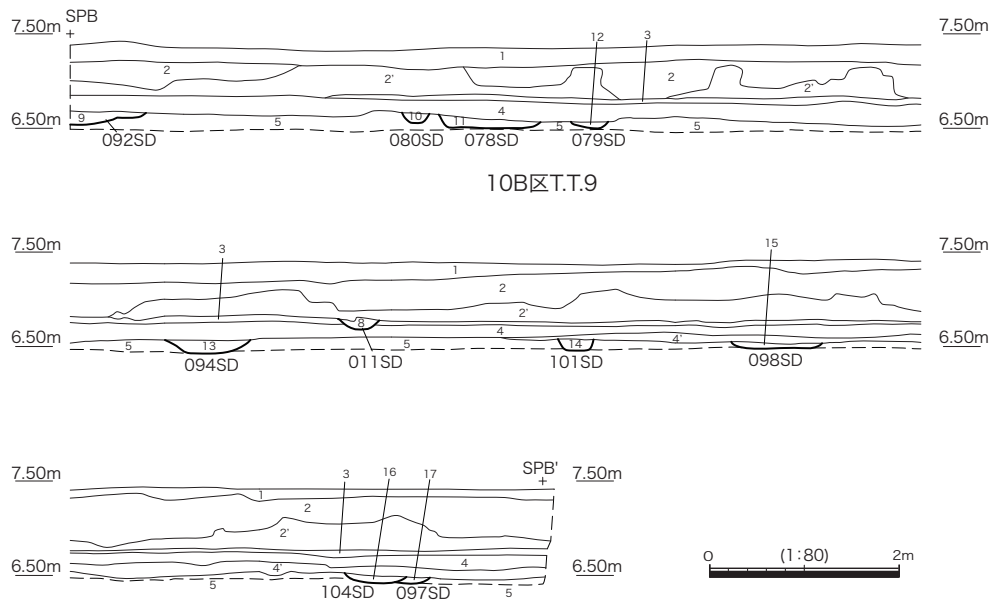


#### 10B区T.T.8

1. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (φ5mm大の礫微量含む。粘性普通。しまりやや強い。耕作土。基本層序1層。)
2. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト (炭化粒微量含む。粘性普通。しまりやや強い。盛土。基本層序2層。)
- 2'. 5Y4/1 灰色シルト (鉄分含む。粘性普通。しまりやや強い。盛土。基本層序2'層。)
- 2". 欠番
3. 欠番
4. 10YR3/2 黒褐色シルト (炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4層。)
- 4'. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (炭化粒微量含む。白色粘土微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4'層。)
5. 5Y4/2 灰オリーブ色シルト (炭化粒微量含む。粘性強い。しまりやや弱い。植物根の影響により変色。基本層序5層。)
- 5'. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序5'層。)
6. 欠番
7. 欠番
8. 7.5Y4/1 灰色シルト (浅黄色シルトブロックを30%含む。礫多く含む。ブルーシート・ビニール含む。攪乱。)
9. 5Y6/1 灰色極粗粒砂 (ブルーシート・ビニール含む。攪乱。)
10. 10Y5/1 灰色シルト (ビニール含む。攪乱。)
11. 10Y5/1 灰色シルト (黒褐色シルト、灰オリーブ色シルト含む。しまり強い。攪乱。)
12. 10YR4/6 褐色シルト (φ1~5mm大の礫微量含む。しまり強い。攪乱。)
13. 5Y7/1 灰白色極粗粒砂 (灰オリーブ色シルト40%含む。攪乱。)
14. 7.5YR4/4 褐色極粗粒砂 (しまり強い。攪乱。)
15. 10Y6/1 灰色シルト (粘性強い。しまりやや弱い。攪乱。)
16. 10Y5/1 灰色シルト (炭化粒微量含む。暗灰黄色シルト微量含む。攪乱。)
17. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (炭化物微量含む。しまり強い。SD010の埋土。)
18. 7.5Y4/1 灰色シルト (炭化物微量含む。黒色シルトを微量含む。粘性強い。しまり弱い。SK106の埋土3層。)
19. 2.5Y3/1 黒褐色シルト (炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。SD109 (平面では検出できず) の埋土。)
20. 2.5Y4/1 黄灰色シルト (炭化物微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD085の埋土。)
21. 2.5Y3/1 黒褐色シルト (炭化物微量含む。粘性やや弱い。しまり強い。SD110 (平面では検出できず) の埋土。)
22. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD093の埋土。)
23. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (炭化物微量含む。浅黄色シルト30%含む。粘性やや強い。しまり弱い。SD091の埋土。)
24. 2.5Y2/1 黒色シルト (鉄分含む。粘性強い。しまり強い。SD111 (平面では検出できず) の埋土。)
25. 5Y4/1 灰色シルト (炭化物微量含む。粘性強い。しまり強い。SD111 (平面では検出できず) の埋土。)
26. 2.5Y3/2 黒褐色シルト (炭化物微量含む。浅黄色シルトを30%含む。粘性やや強い。しまり強い。SD092の埋土1層。)

第 72 図 五反田遺跡 10 区 B 区北壁土層断面図 (S = 1/80)





#### 10B区T.T.9

1. 2.5Y4/1黄灰色シルト(φ5mm大の礫微量含む。粘性普通。しまりやや強い。表土。基本層序1層。)
2. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性普通。しまりやや強い。盛土。基本層序2層。)
- 2'. 5Y4/1灰色シルト(鉄分含む。しまりやや強い。盛土。基本層序2'層。)
- 2". 欠番
3. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。基本層序3層。)
4. 10YR3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4層。)
- 4'. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化粒微量含む。白色粘土微量含む。粘性強い。しまり強い。遺物包含層。基本層序4'層。)
5. 5Y4/2灰オリーブ色シルト(炭化粒微量含む。粘性強い。しまりやや弱い。植物根の影響により変色。基本層序5層。)
- 5". 欠番
6. 欠番
7. 欠番
8. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化物微量含む。しまり強い。SD011の埋土。)
9. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化物微量含む。浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD092の埋土1層。)
10. 2.5Y3/2黒褐色シルト(炭化物微量含む。浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD080の埋土。)
11. 2.5Y3/2黒褐色シルト(浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD078の埋土。)
12. 2.5Y3/2黒褐色シルト(浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD079の埋土。)
13. 2.5Y3/1黒褐色シルト(炭化物微量含む。浅黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD094の埋土。)
14. 2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化物微量含む。灰黄色シルトを微量含む。粘性普通。しまり強い。SD101の埋土。)
15. 10Y5/2オリーブ灰色シルト(黒褐色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD098の埋土。)
16. 2.5Y3/1黒褐色シルト(炭化物微量含む。粘性やや強い。しまり強い。SD104の埋土。)
17. 2.5Y4/1黄灰色シルト(炭化物微量含む。灰黄色シルトを微量含む。粘性やや強い。しまり強いSD097の埋土。)

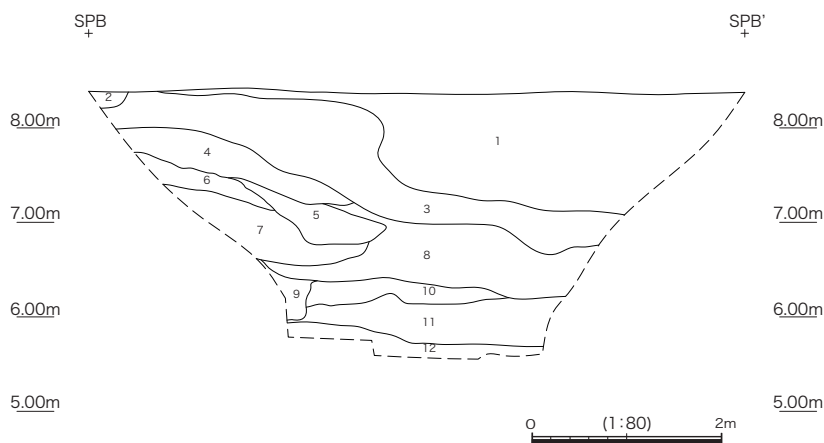
第 73 図 五反田遺跡 10 区 B 区東壁土層断面図 (S = 1/80)

## 平成 25 年度調査（13 区 第 77 図）

### 1 調査と遺構の概要

調査区は鹿乗川と用水路の間にある堤防に位置する。平成 22 年度調査区は導水路を挟んで東側になる。遺構検出は上下 2 面で行った。上面は、堤防の盛り土の下にある水田耕作土層を除去した高さで、下面は中世の遺物が出土する黄灰色シルト及び砂層を除去した黒褐色砂質シルト上面で遺構を検出したが、近世以降と思われる木杭列以外には明確な遺構は確認できなかった。その後、さらに灰色シルト層まで掘り下げ、旧流路の縁辺部にあたることを確認した。流路は中央部が最も高く、南に下がっていく。また北側もゆるやかに傾斜している。

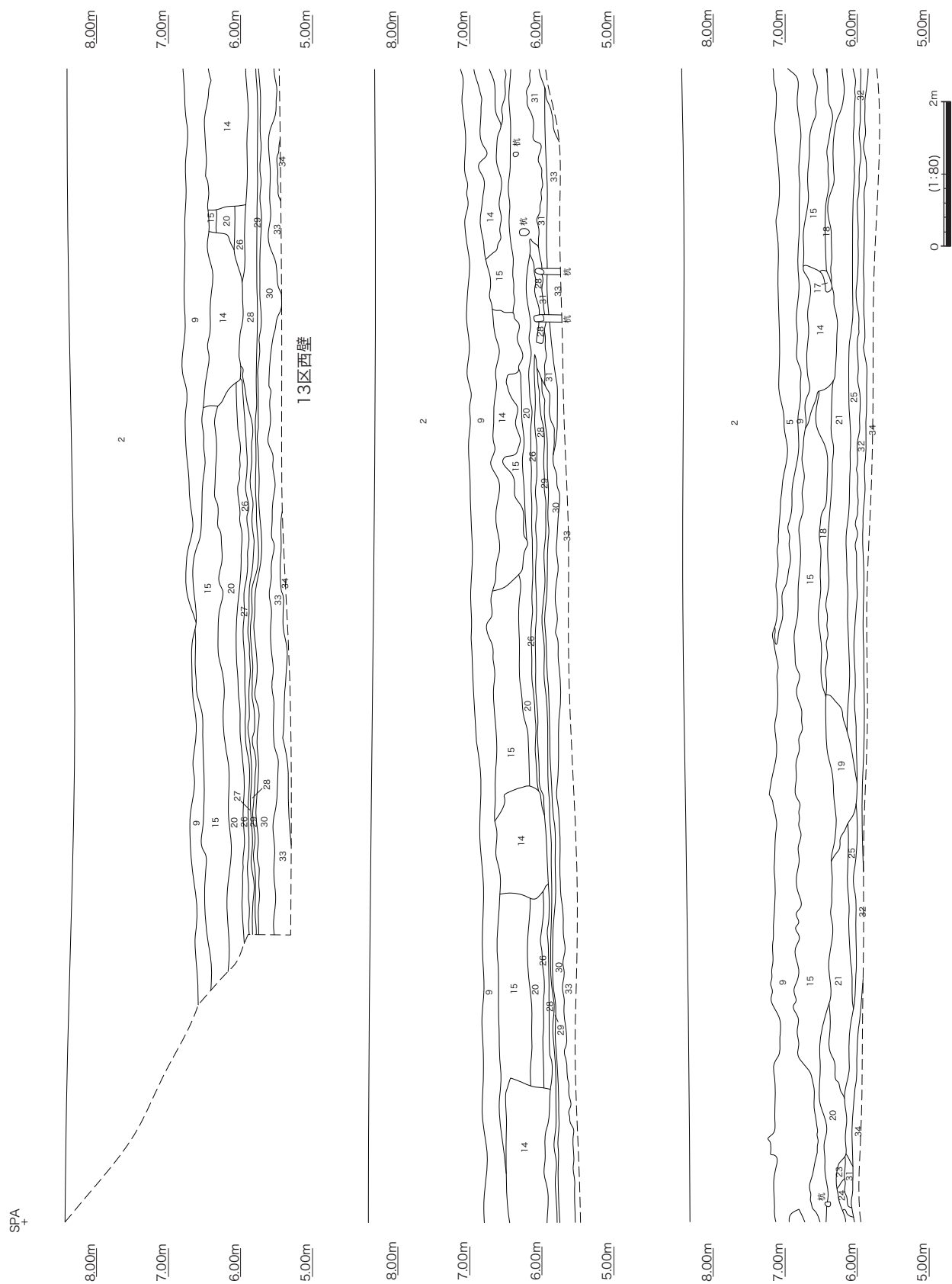
遺物は最下層である 30 層・33 層・34 層より古墳時代初頭から中世にかけての土器や曲物・板（355・356）が出土している。



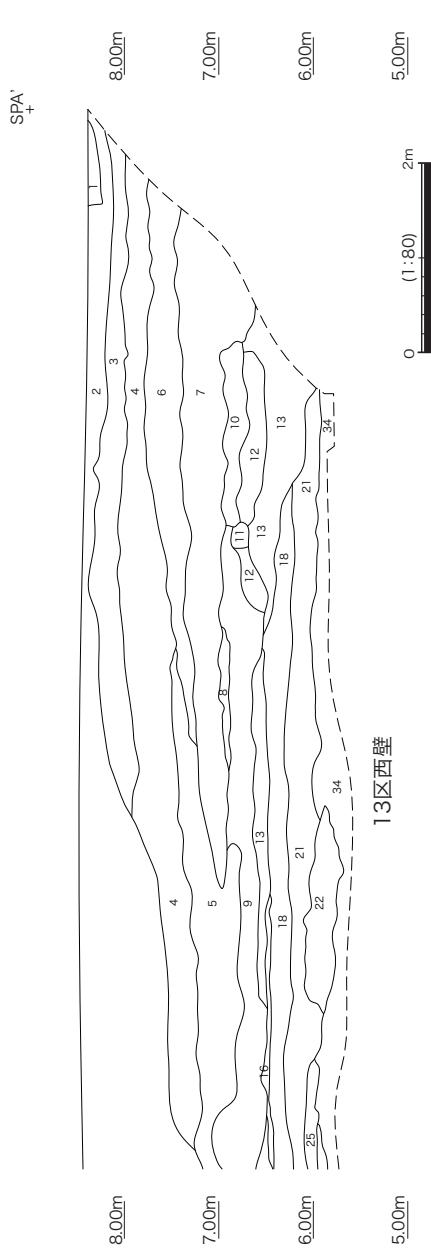
#### 13区北壁

1. N3/暗灰色粘土（浅黄色中粒砂2.5Y7/3,1/4～1/2mmブロックを20%含む。灰黄褐色シルト10YR5/2ブロックを50%含む。黒色粘質シルト10YR2/1ブロックを20%含む。）
2. 10YR5/4にぶい黄褐色微粒砂（黒色粘土2.5Y2/1ブロックを40%含む。植物遺体を少量含む。炭化物を少量含む。φ5～40mmの円礫を多く含む。遺物を含む。）
3. 10YR6/6明黄褐色極粗粒砂（にぶい黄褐色シルト10YR6/1）ブロックを40%含む。φ10mmの円礫をやや多く含む。）
4. 10YR4/6褐色微粒砂（炭化物を少量含む。φ10mmの円礫を少量含む。）
5. 5YR5/6明赤褐色粘土（灰黄褐色シルト10YR6/2小ブロックを20%含む。中砂、極粗砂を多く含む。炭化物を少量含む。φ1～5mmの円礫を少量含む。）
6. 10YR5/6黄褐色微粒砂（φ5～10mmの円礫をやや多く含む。）
7. 10YR4/4褐色粗粒砂（灰白色粘土7.5YR8/1。黄褐色粘土10YR7/8ブロックを30%含む。φ10～20mmの円礫を多く含む。）
8. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト（灰黄褐色シルト10YR5/2ブロックを30%含む。鉄分を多く含む。）
9. 10YR6/1褐色砂質シルト（黒色粘土2.5Y2/1ブロックを60%含む。明赤褐色中粒砂（2.5YR5/6,1/4～1/2mm）ブロックを30%含む。φ10～20mmの円礫をやや多く含む。）
10. 2.5GY6/1オリーブ灰色粘質シルト（明黄褐色10YR7/6小ブロックで30%含む。細粒砂を含む。遺物を含む。）
11. 10YR3/1黒褐色砂質シルト（粗粒砂・中粒砂を含む。炭化物を少量含む。φ5～10mmの円礫をやや多く含む。）
12. 5B5/1青灰色粘土（遺物を含む。基盤層。後背湿地層。）

第 74 図 五反田遺跡 13 区北壁土層断面図（S = 1/80）



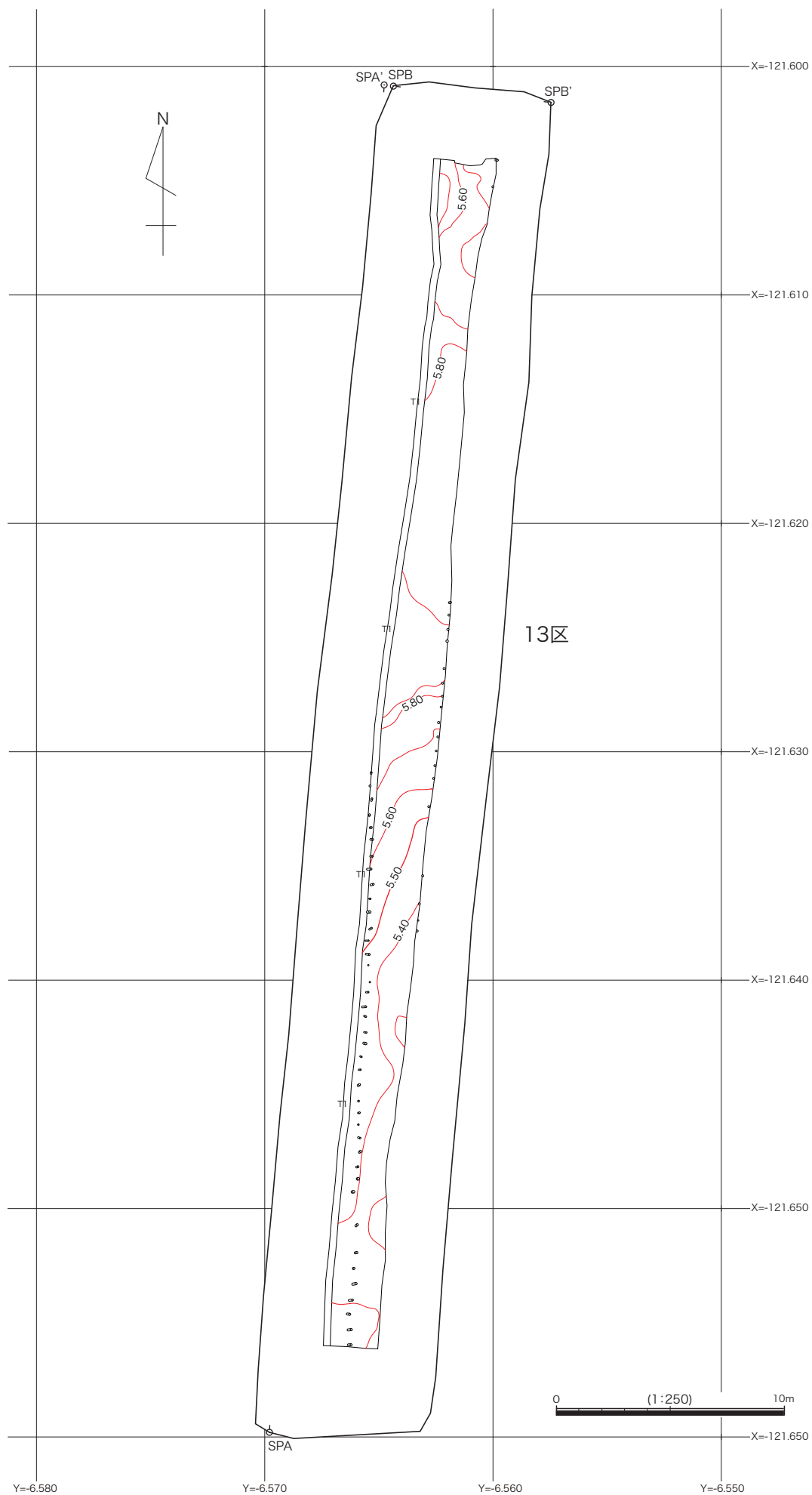
第 75 図 五反田遺跡 13 区西壁土層断面図 1 (S = 1/80)



13区西壁

1. 10YR5/4 灰黄色極粗粒砂 (φ5～40mmの円礫をやや多く含む。)
2. 10YR5/4 灰黄色極粗粒砂 (黒色粘土2.5Y2/1ブロックを40%含む。植物遺体を少量含む。炭化物を少量含む。φ5～40mmの円礫を多く含む。遺物を含む。)
3. 10YR6/6 明黄褐色極粗粒砂 (にぶい黄褐色シルト10YR6/4ブロックを40%含む。φ10mmの円礫をやや多く含む。)
4. 10YR4/6 褐色細粒砂 (炭化物を少量含む。φ10mmの円礫を少量含む。)
5. 5YR5/6 明赤褐色粘土 (灰黄褐色シルト10YR6/2)1/2ブロックを20%含む。中粒砂、極粗粒砂を多く含む。炭化物を少量含む。φ1～5mmの円礫を少量含む。)
6. 10YR5/6 黄褐色細粒砂 (φ5～10mmの円礫をやや多く含む。)
7. 10YR4/4 褐色粗粒砂 (灰白色粘土7.5YR8/1、黄褐色粘土10YR7/8)ブロックを30%含む。φ10～20mmの円礫を多く含む。)
8. 10YR4/2 灰黄褐色シルト (細粒砂・中粒砂を少量含む。φ10～20mmの円礫を少量含む。炭分を少量含む。)
9. 10YR5/2 灰黄褐色シルト (黒色粘土2.5Y2/1)1/2ブロックを20%含む。細粒砂・中粒砂を少量含む。炭化物を少量含む。φ10～20mmの円礫を多く含む。近世末～近代層。)
10. N3/6 暗灰色シルト (灰黄色シルト5Y5/1)ブロックを20%含む。φ5～10mmの円礫を少量含む。炭分を少量含む。)
11. 7.5Y6/1 灰色シルト (炭分を含む。)
12. 10YR5/6 黄褐色粗粒砂 (11層土ブロックを5%含む。φ10～30mmの円礫を多く含む。)
13. 10YR6/1 暗灰色砂質シルト (黒色粘土2.5Y2/1)ブロックを60%含む。明赤褐色中粒砂2.5YR5/6)1/4～1/2mmブロックを30%含む。φ10～20mmの円礫をやや多く含む。)
14. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト (炭化物を少量含む。φ10～50mmの円礫をやや多く含む。炭分を含む。)
15. 2.5Y4/1 黄灰色極細粒砂 (φ5～30mmの円礫を少量含む。炭分を少量含む。)
16. 10YR5/6 黄褐色極粗粒砂 (14層土ブロックで30%含む。20層土ブロックで40%含む。φ10～20mmの円礫、角礫をやや多く含む。)
17. 10Y4/1 灰色シルト (φ10mmの円礫を少量含む。炭分を少量含む。)
18. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト (黒褐色シルト2.5Y3/2)ブロックで10%含む。極細粒砂を少量含む。φ2～20mmの円礫を多く含む。炭分を含む。)
19. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (灰色シルト5Y6/1)小ブロックで30%含む。灰黄褐色極細粒砂10YR6/2)1/16～1/8mm小ブロックで30%含む。極粗粒砂を含む。カクラン。)
20. 10Y5/1 灰色シルト (極細粒砂を少量含む。植物遺体を少量含む。炭分を少量含む。)
21. 10YR3/1 黄褐色砂質シルト (粗粒砂・中粒砂を含む。炭化物を少量含む。φ5～10mmの円礫をやや多く含む。)
22. 2.5Y5/3 黄褐色粗粒砂 (植物遺体を少量含む。炭分を少量含む。φ10～20mmの円礫を多く含む。)
23. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト (植物遺体を少量含む。φ5mmの円礫を少量含む。)
24. 7.5Y5/1 灰色シルト (植物遺体を少量含む。細粒砂を含む。)
25. 2.5Y2/1 黒色シルト (中粒砂・粗粒砂を少量含む。炭化物を少量含む。植物遺体を少量含む。遺物を含む。)
26. 7.5Y5/1 灰色シルト (にぶい黄褐色シルト10YR5/4)とのラミナ層。粗粒砂を少量含む。植物遺体を少量含む。河川堆積層。)
27. 10Y5/1 灰色シルト 質粘土 (細粒砂をやや多く含む。植物遺体を少量含む。河川堆積層。)
28. 5Y6/1 灰色極細粒砂 (黄褐色極細粒砂10YR5/8、灰白色極細粒砂5Y7/1)とのラミナ層。河川堆積層。)
29. 7.5Y5/1 灰色シルト (28層土しみ状に10%含む。河川堆積層。)
30. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト (黒褐色シルト2.5Y3/1)ブロックで30%含む。遺物を含む。河川堆積層。)
31. 2.5Y2/1 黒色砂質シルト (中粒砂・粗粒砂を少量含む。炭化物を少量含む。φ5mmの円礫を少量含む。植物遺体を少量含む。)
32. 2.5Y2/1 黒色粘土 (炭化物を少量含む。遺物を含む。φ10～20mmの円礫を少量含む。遺物を含む。)
33. 2.5Y2/1 黒色粘土 (34層土ブロックで30%含む。炭化物を少量含む。遺物を含む。遺物を含む。)
34. 5B5/1 黄灰色粘土 (遺物を含む。基盤層・後背遅地層。)

第 76 図 五反田遺跡 13 区西壁土層断面図 2 (S = 1/80)



第 77 図 五反田遺跡 13 区平面図 (S = 1/250)

## 第5節 惣作遺跡

### 平成23年度調査（11A区・11B区）

#### 1 調査の概要

鹿乗川と用水路の間にある堤防に、幅約15m、長さ約160mの調査区を設定し、南半部を11A区、北半部を11B区に分けて調査を行った。第1面は堤防盛り土を除去した灰黄色砂層上面で、第2面はその下の黒色粘土層の中で水田跡を、第3面は基盤である灰色粘質シルト上面で遺構を検出している。遺構としては、11A区南部で古代以前の流路を、11B区の北半部で近世以降の流路を検出し、その間の高まり及び後背湿地で古代～中世の竪穴建物や水田跡を確認している。

#### 2 遺構の概要

##### （1）第1面（第84・85・86図）

###### A 不明遺構

###### 002SX・003SX・005SX

001NRがほぼ埋没して低地状を呈する部分に掘削された不定形な落ち込みである。古代から中世の土器が出土する。

###### B 流路

###### 097NR

11B区の北2/3程に広がる近世から近代にかけての流路で、やや東に振れながら南北方向に走る。近世の遺物や近代の導排水のための木組み遺構などが出土している。

##### （2）第2面（第87・88・89図）

###### A 水田跡

11A区で10区画（021SN～030SN）、11B区で10区画（118SN～127SN）検出されたが11A区021SNと11B区127SNは同一と思われるので、全部で19区画となる。ひとつの区画の大きさはまちまちで、大きなものは6.8m×5.8mから小さなものは5×3mまでである。畦畔の幅はほぼ1m前後と同規模で、水田底面との比高は0.01～0.1mと浅い。水田の時期ははっきりしないが、直上で出土した灰釉陶器や山茶碗からみて、古代～中世の水田の可能性が高いと考えられる。

##### （3）第3面（第90・91・92図）

###### A 竪穴建物

###### 046SI・049SI（第78・79図）

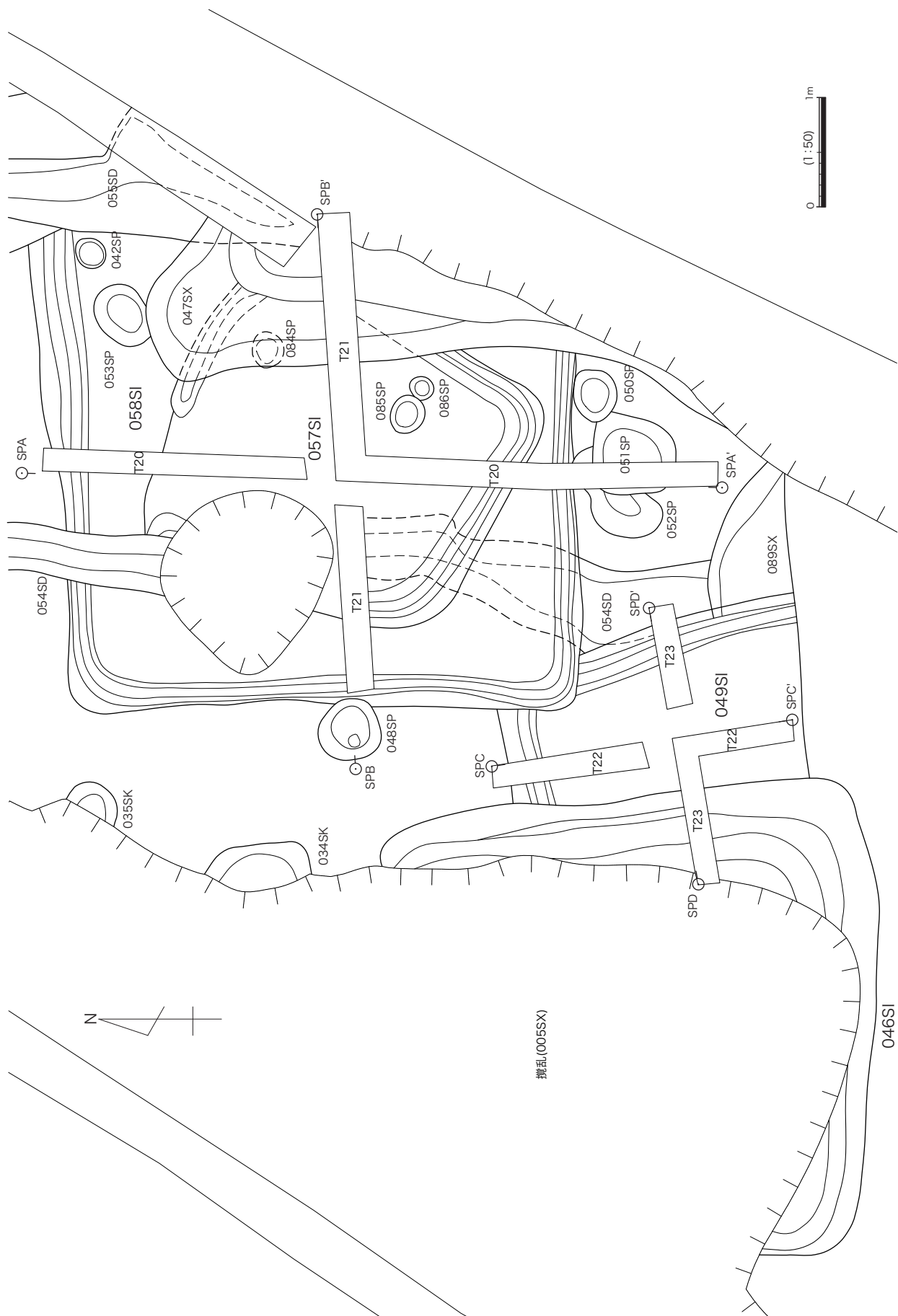
046SIは大部分が上層の005SXの掘削により削平され部分的にしか残存していないが、南北約4.6m、東西4.2m、深さ0.2mを測る。壁面に沿って、幅0.5～0.7mの床下周溝が巡る。049SIは046SIに切られる。そのため規模は不明であるが、壁周溝が巡る。

###### 057SI・058SI（第78・79図）

057SI→058SIの順に作られており、小型の057SIは全て058SIの下になる。057SIは長径3.1m、短径約2.7m、深さ0.15mで、058SIは長径4.8m、短径3.1m、深さ0.21mを測る。両建物とも壁周溝が巡る。084SP・085SPは057SIの柱穴になると思われる。

###### 069SI（第80図）

058SIの北西の調査区の東壁沿いで検出された竪穴建物で、わずかに北西隅部分が確認された。深さは0.15mで、墨書された灰釉陶器（723）が出土しているのが注目される。

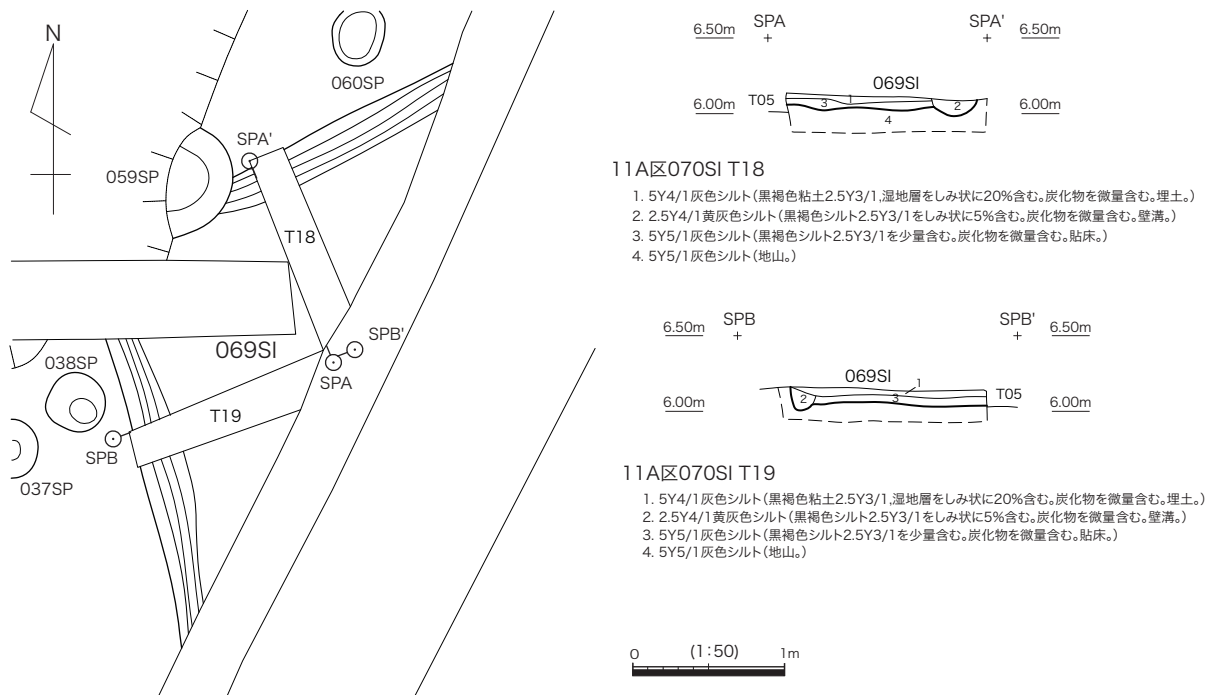


第 78 図 惣作遺跡 11A・B 区 057・058・046・049SI1 (S = 1/50)





第 79 図 惣作遺跡 11A・B 区 057・058・046・049SI 2 (S = 1/50)



第 80 図 惣作遺跡 11A・B 区 069SI (S = 1/50)

#### 070SI (第 81 図)

069SI の北西の調査区の東壁沿いで検出された竪穴建物で、南北 3.3m、深さ 0.6m を測る。確認された部分では全て壁周溝が巡る。082SP が柱穴の可能性はあるが、他は検出されていない。

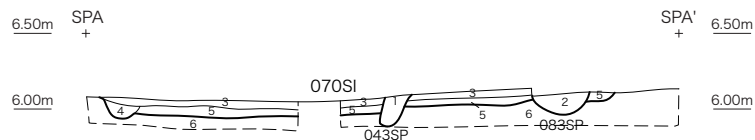
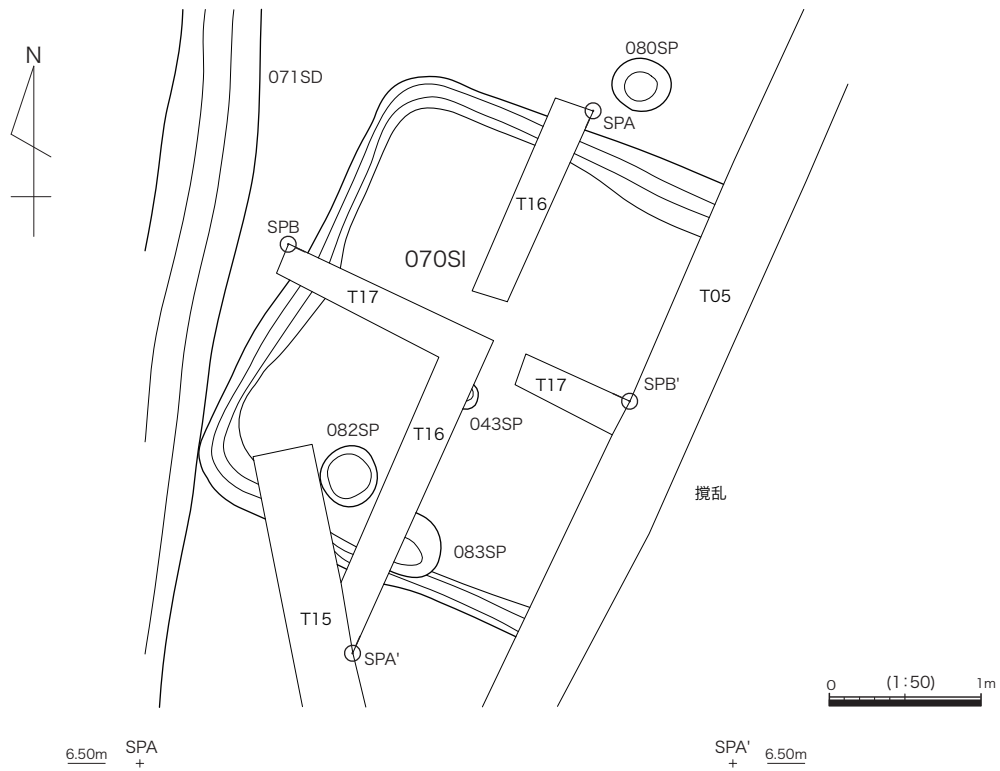
#### 145SI (第 82 図)

他の竪穴建物とは離れて単独で検出された小型の竪穴建物である。南北 3 m、東西 2.8m、深さ 0.0 8 m を測る。柱穴は検出されていない。

#### B 流路

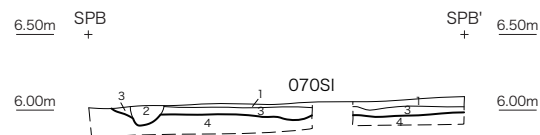
#### 001NR (第 83 図)

11A 区の南端で検出された流路である。出土遺物からみると、上層の黒色粘土層は古墳時代前期から奈良時代、下層の灰色粘土層は古墳時代初頭と考えられ、それより下層ではラミナ状の細粒砂の堆積が確認できた。特筆すべきこととして、上層の下位より刀把装具 (W361) の出土があげられる (第 93 図)。この刀把装具の AMS 法放射性炭素年代測定では 561AD (95.4%) 643AD の結果が得られている。



#### 11A区070SI T16

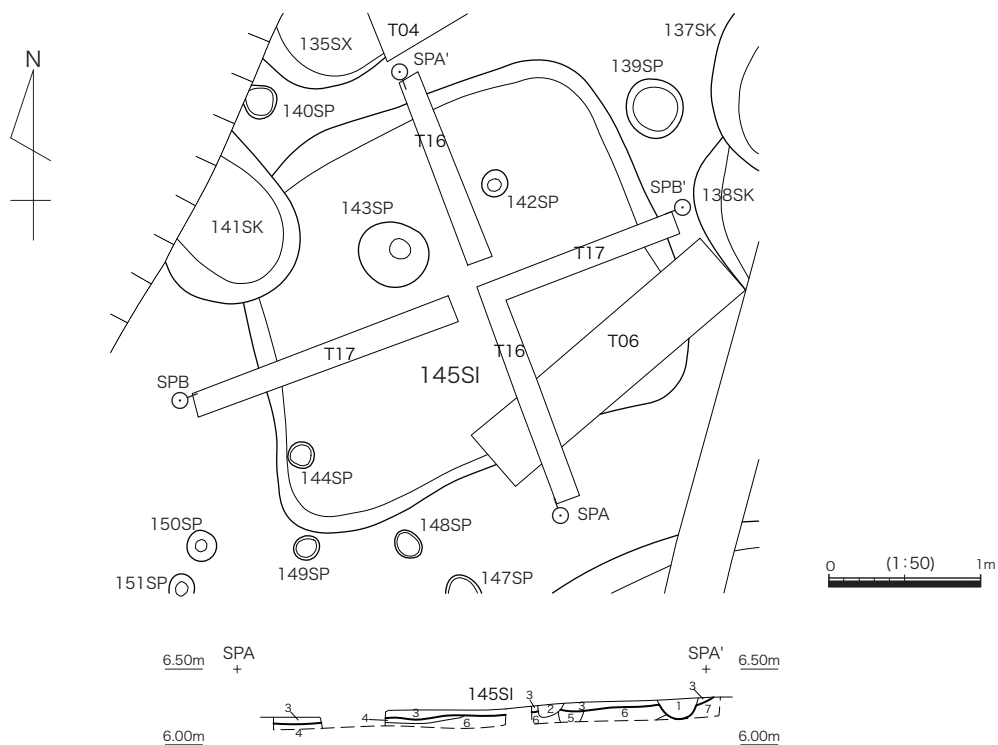
1. 2.5Y2/1 黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をしみ状に30%含む。043SP。)
2. 2.5Y2/1 黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をマール状に30%含む。炭化物微量含む。083SP。)
3. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (黒褐色粘土2.5Y3/1をしみ状に20%含む。070SI埋土。)
4. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (オリーブ黒色粘土5Y3/1をしみ状に10%含む。炭化物を微量含む。070SI壁溝。)
5. 7.5Y4/1 灰色粘土 (オリーブ黒色粘土5Y3/1をしみ状に5%含む。炭化物を微量含む。070SI貼床。)
6. 5Y5/1 灰色粘土 (地山。)



#### 11A区070SI T17

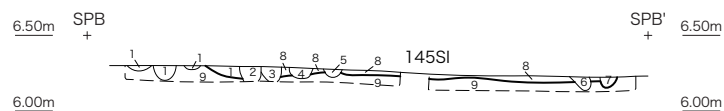
1. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (黒褐色粘土2.5Y3/1をしみ状に20%含む。070SI埋土。)
2. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (オリーブ黒色粘土5Y3/1をしみ状に10%含む。炭化物を微量含む。070SI壁溝。)
3. 7.5Y4/1 灰色粘土 (オリーブ黒色粘土5Y3/1をしみ状に5%含む。炭化物を微量含む。070SI貼床。)
4. 5Y5/1 灰色粘土 (地山。)

第 81 図 惣作遺跡 11A・B 区 070SI (S = 1/50)



#### 11B区145SI T16

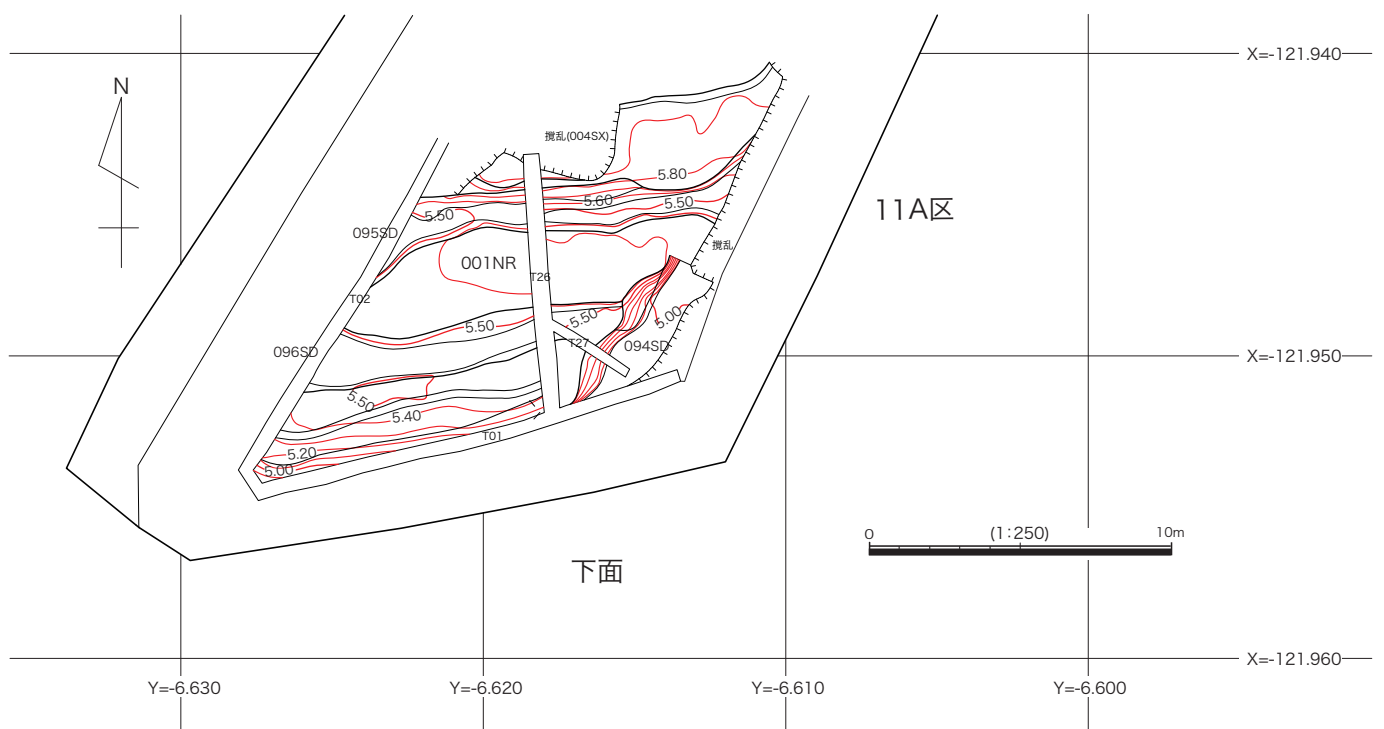
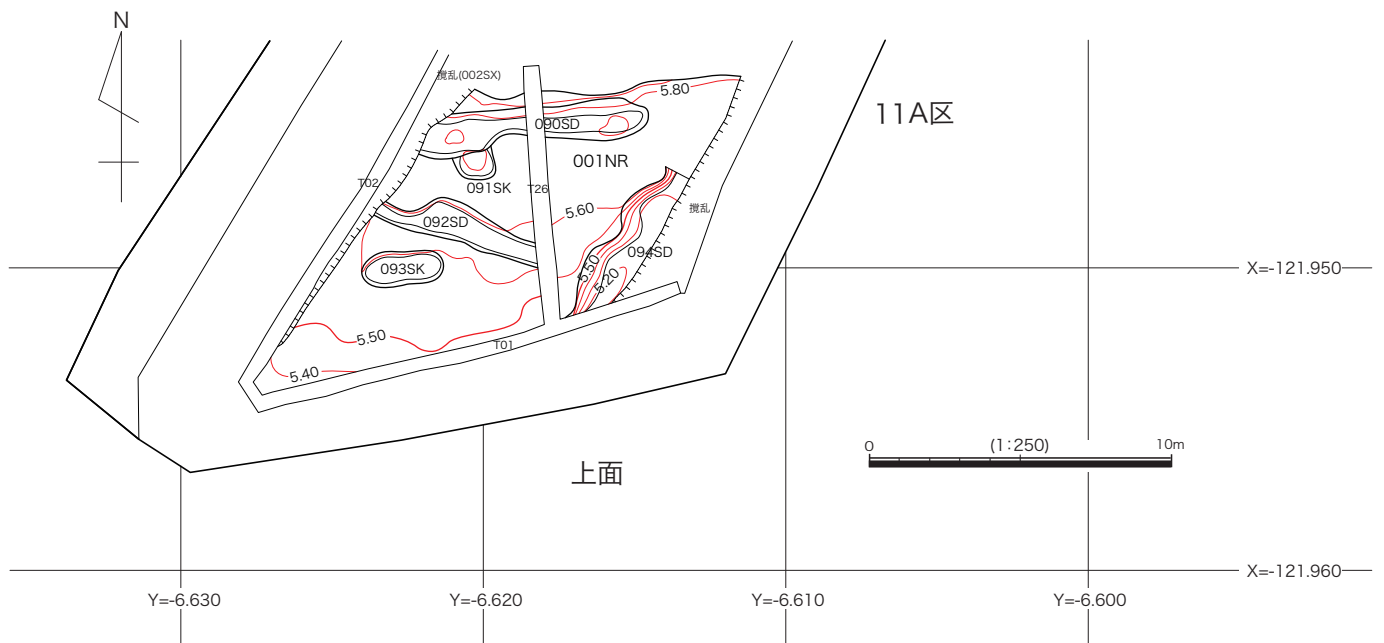
1. 2.5Y4/1黄灰色シルト(黒色粘土2.5Y2/1小ブロックを3%含む。壁溝か。)
2. 2.5Y3/1黒褐色シルト(黄灰色シルト2.5Y4/1をしみ状に20%含む。)
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(黒色粘土2.5Y2/1小ブロックを5%含む。145SIの掘り方か。)
4. 2.5Y4/1黄灰色粘質シルト(黒色粘土2.5Y2/1小ブロックを微量含む。炭化物を微量含む。)
5. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(炭化物を微量含む。)
6. 5Y4/1灰色シルト(黒色粘土2.5Y2/1を微量含む。地山。)
7. 5Y5/1灰色極細粒砂(黒褐色シルト2.5Y3/1小ブロックを3%含む。)



#### 11B区145SI T17

1. 2.5Y2/1黒色粘土(灰色シルト5Y4/1をしみ状に30%含む。)
2. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に10%含む。)
3. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に30%含む。)
4. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に20%含む。)
5. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に30%含む。)
6. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に3%含む。)
7. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(灰色シルト5Y4/1をしみ状に30%含む。壁溝か。)
8. 5Y3/1オリーブ黒色シルト(黒色粘土2.5Y2/1小ブロックを5%含む。145SIの掘り方か。)
9. 5Y4/1灰色シルト(黒色粘土2.5Y2/1を微量含む。地山。)

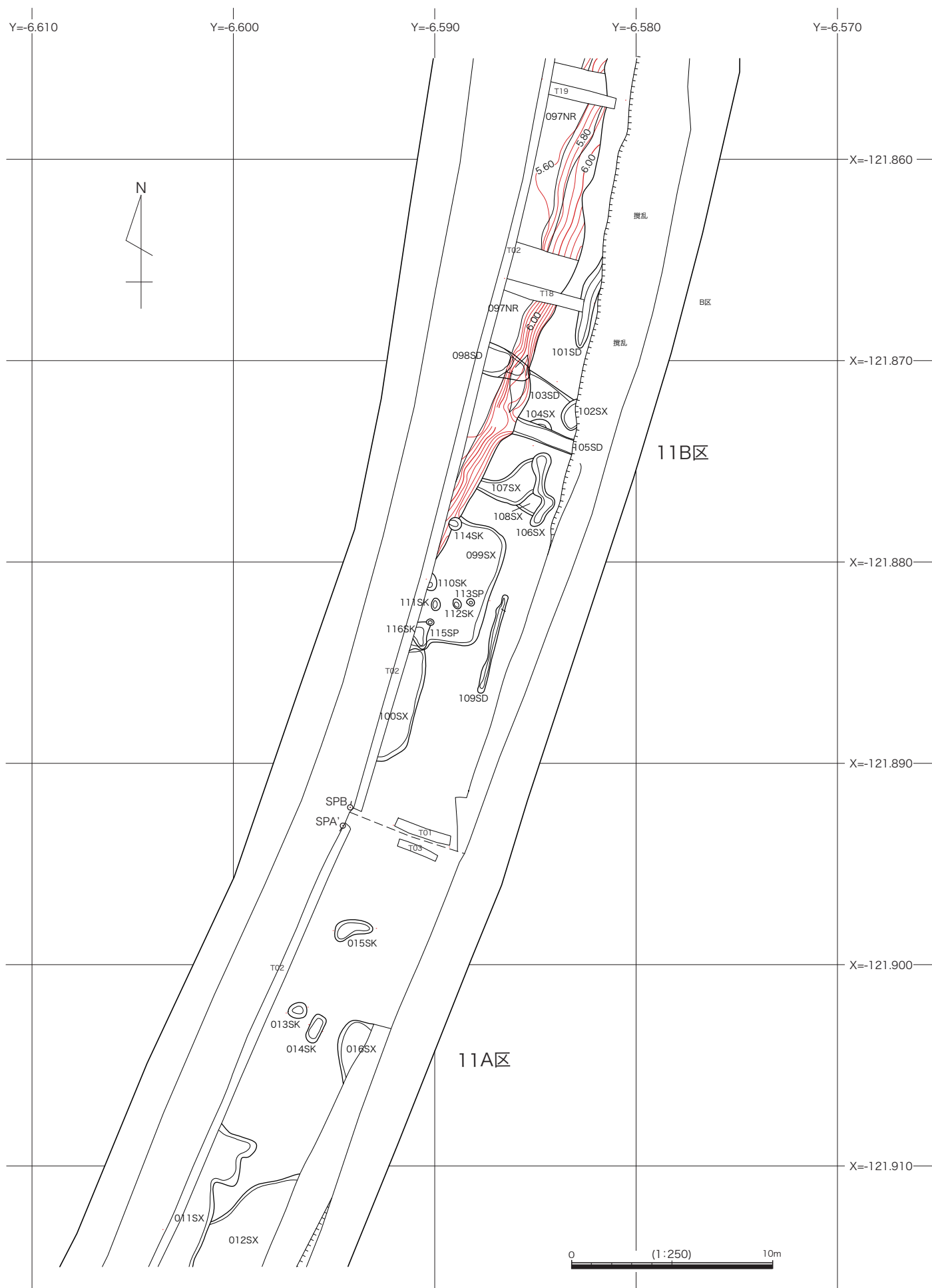
第 82 図 惣作遺跡 11A・B 区 145SI (S = 1/50)



第 83 図 惣作遺跡 11A・B 区 001NR (S = 1/250)

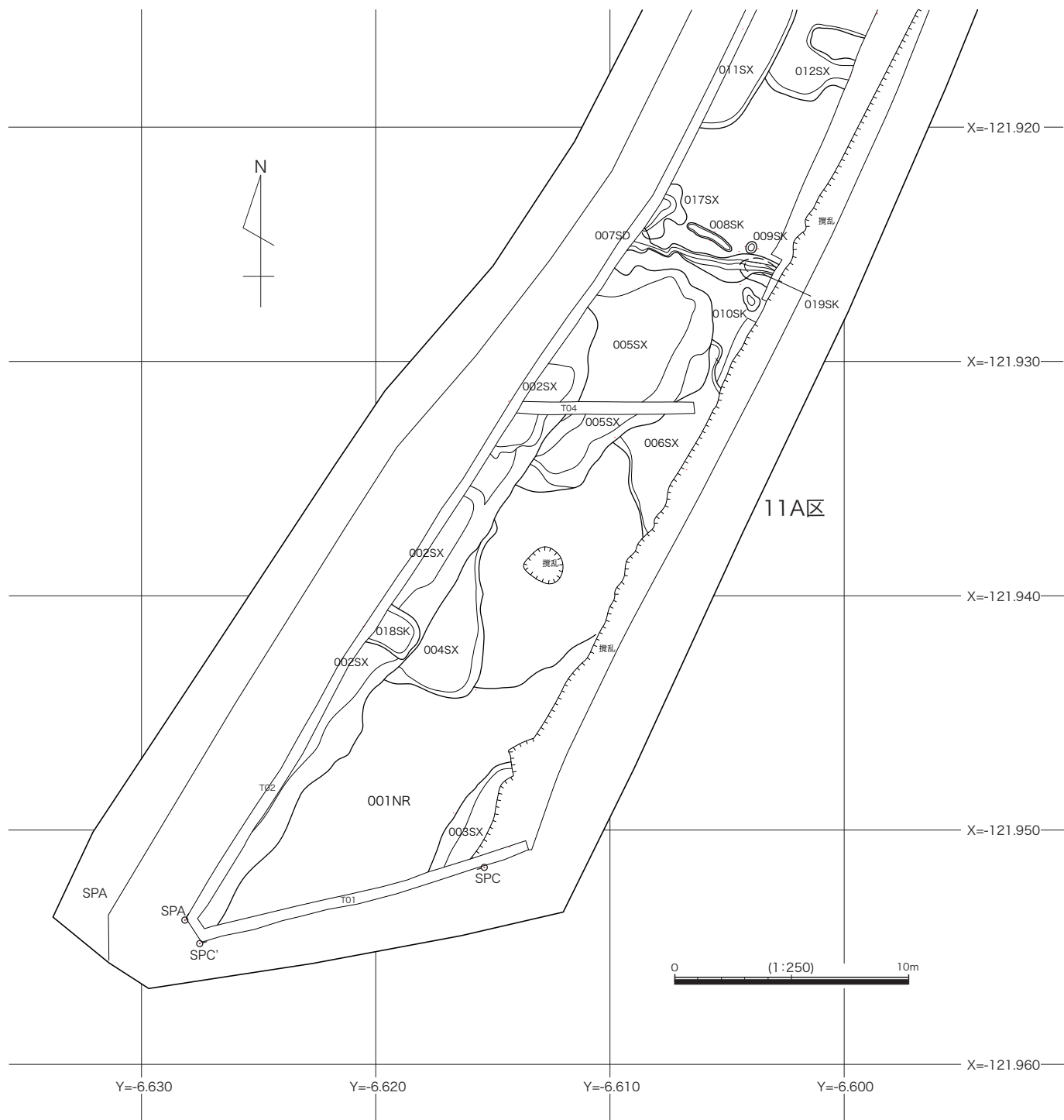


第 84 図 惣作遺跡 11A・B 区第 1 面平面図 1 (S = 1/250)

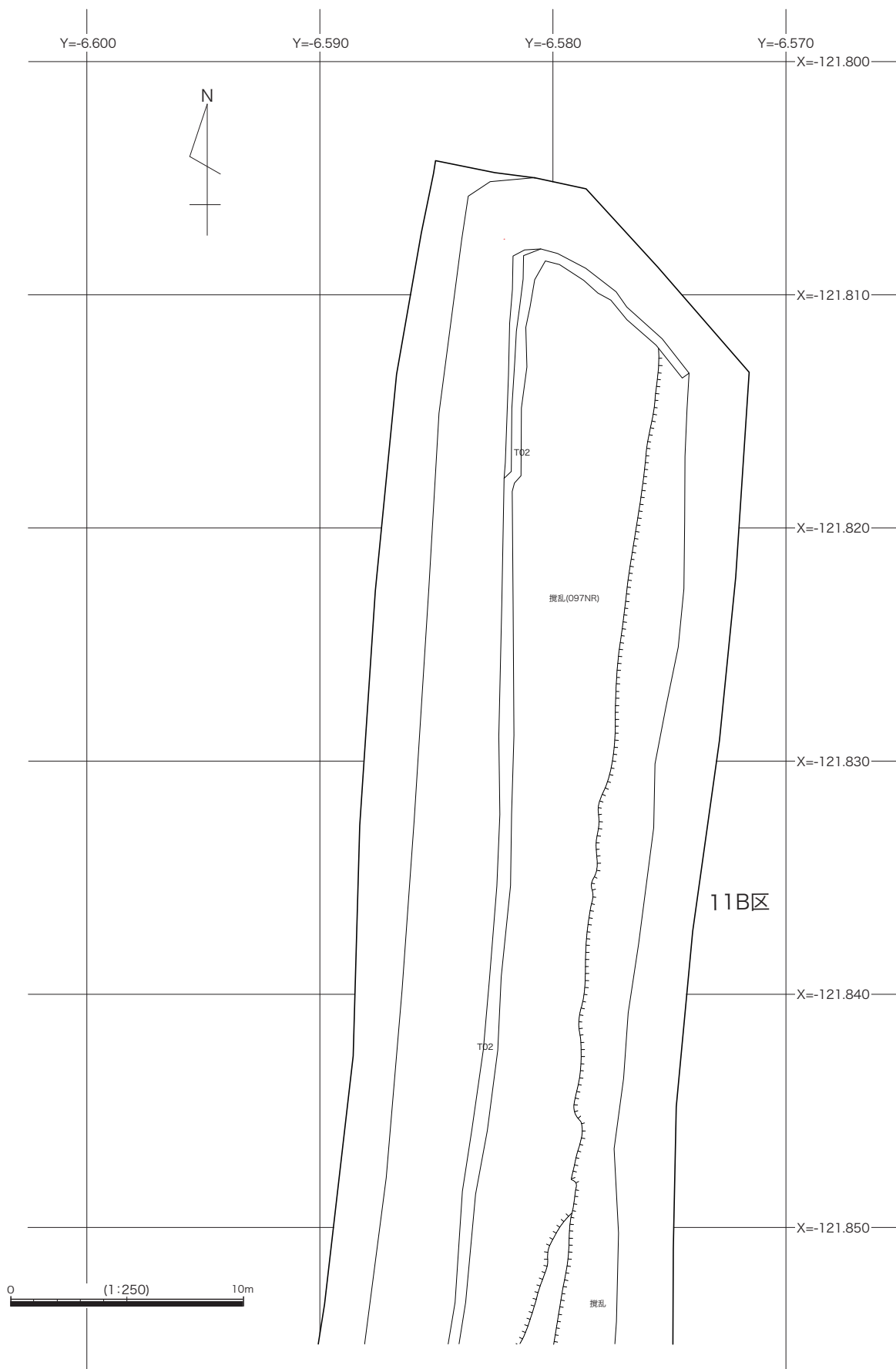


第 85 図 惣作遺跡 11A・B 区第 1 面平面図 2 (S = 1/250)

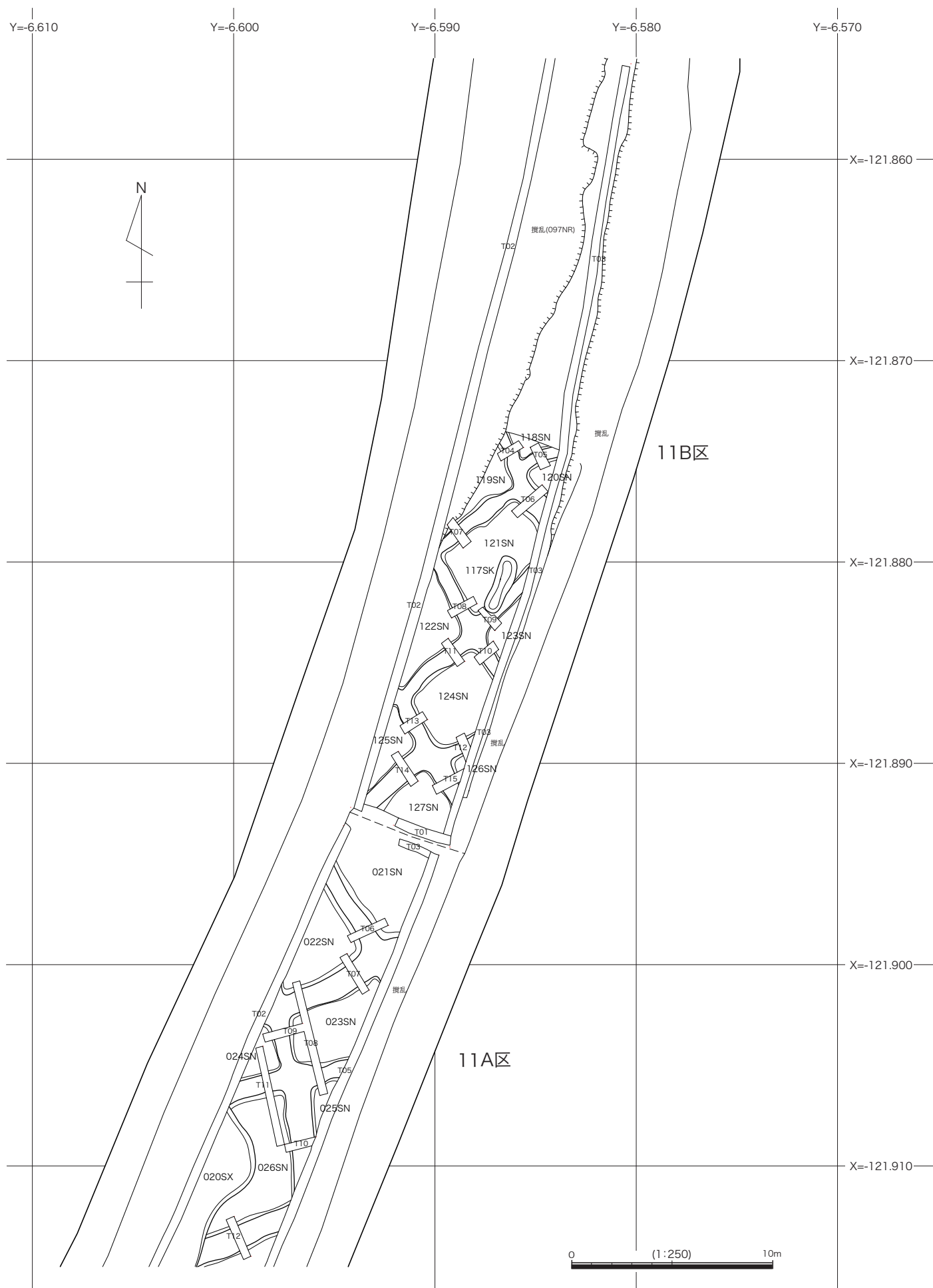


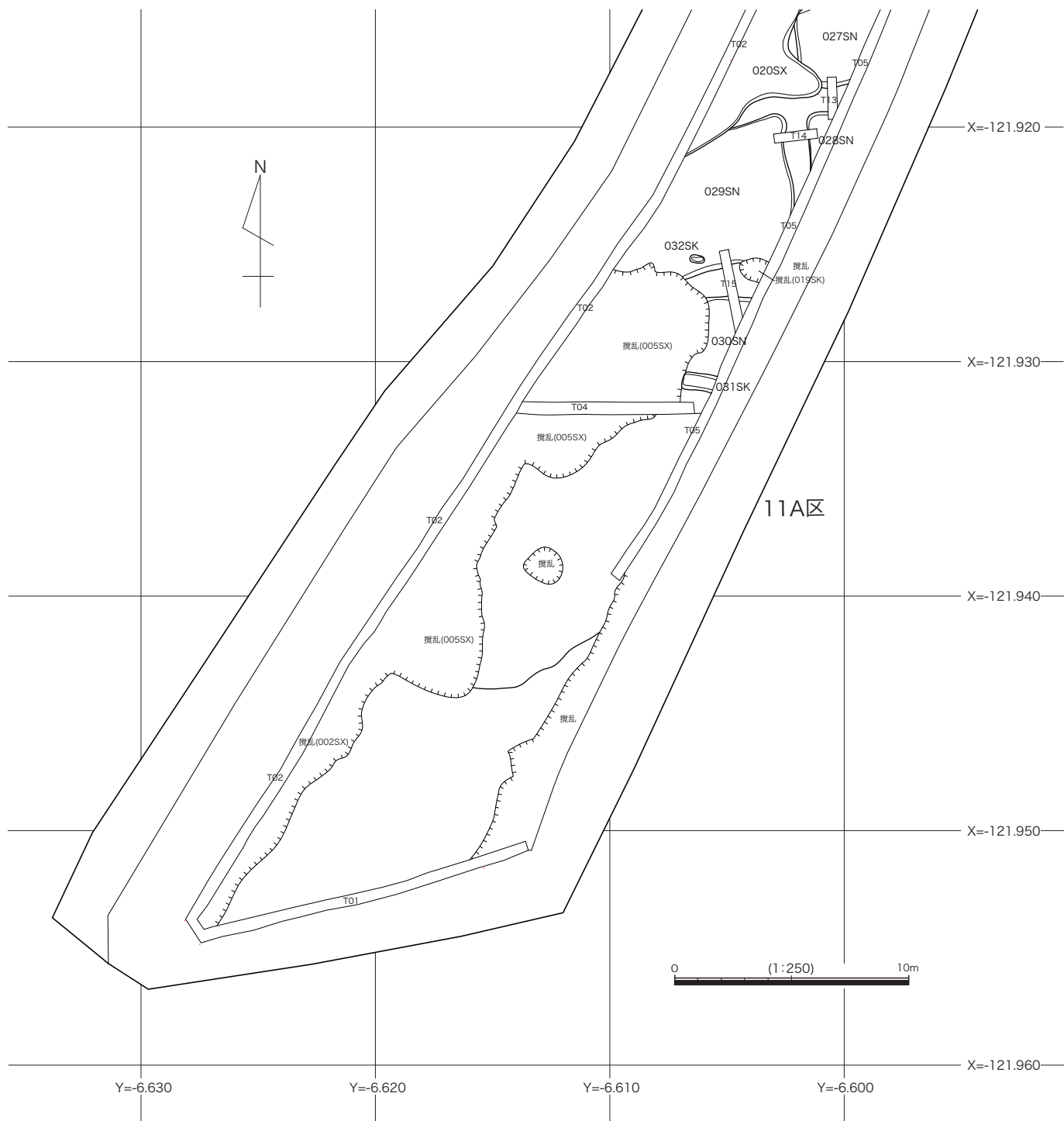


第 86 図 惣作遺跡 11A・B 区第 1 面平面図 3 (S = 1/250)

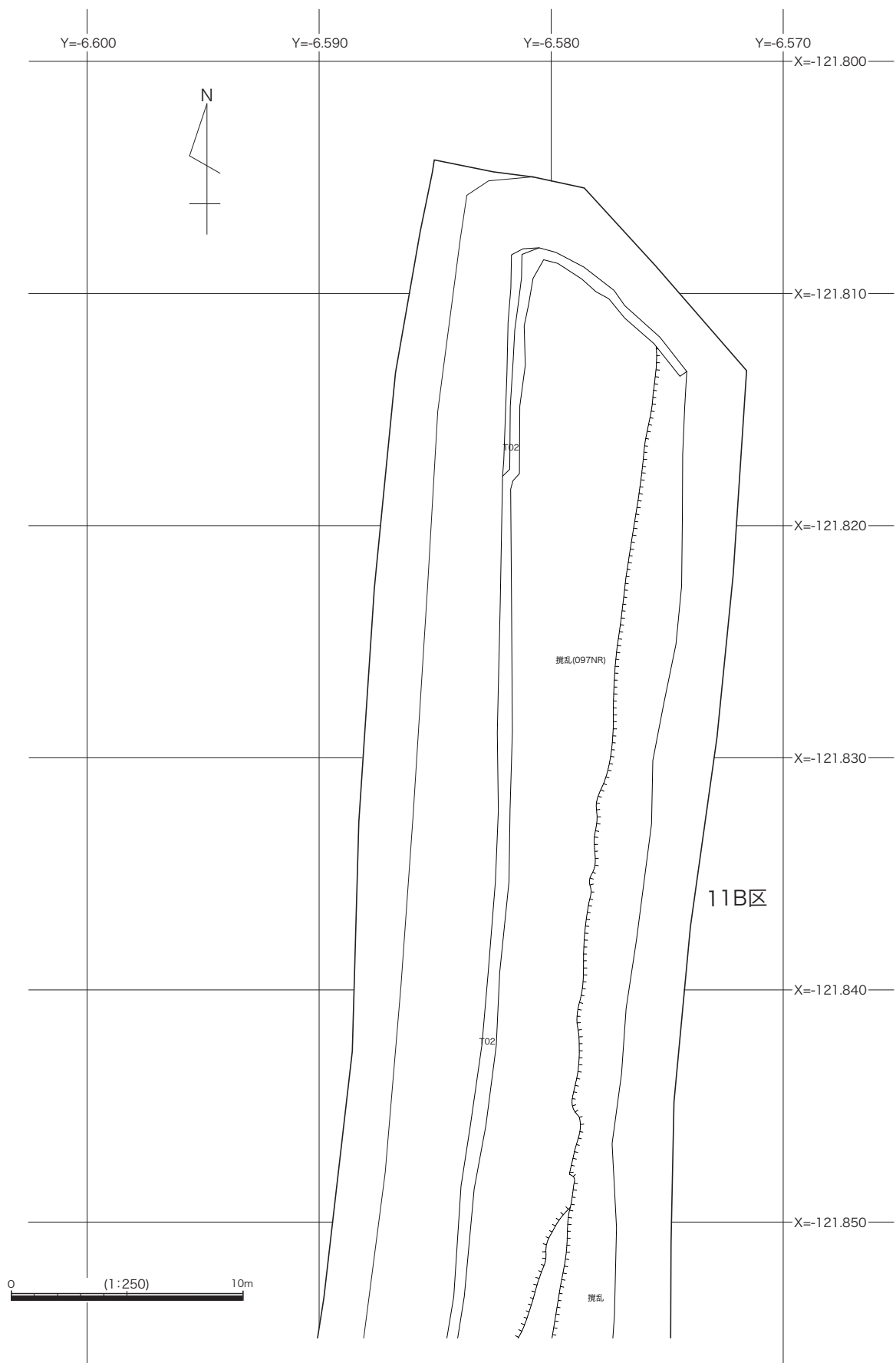


第 87 図 惣作遺跡 11A・B 区第 2 面平面図 1 (S = 1/250)

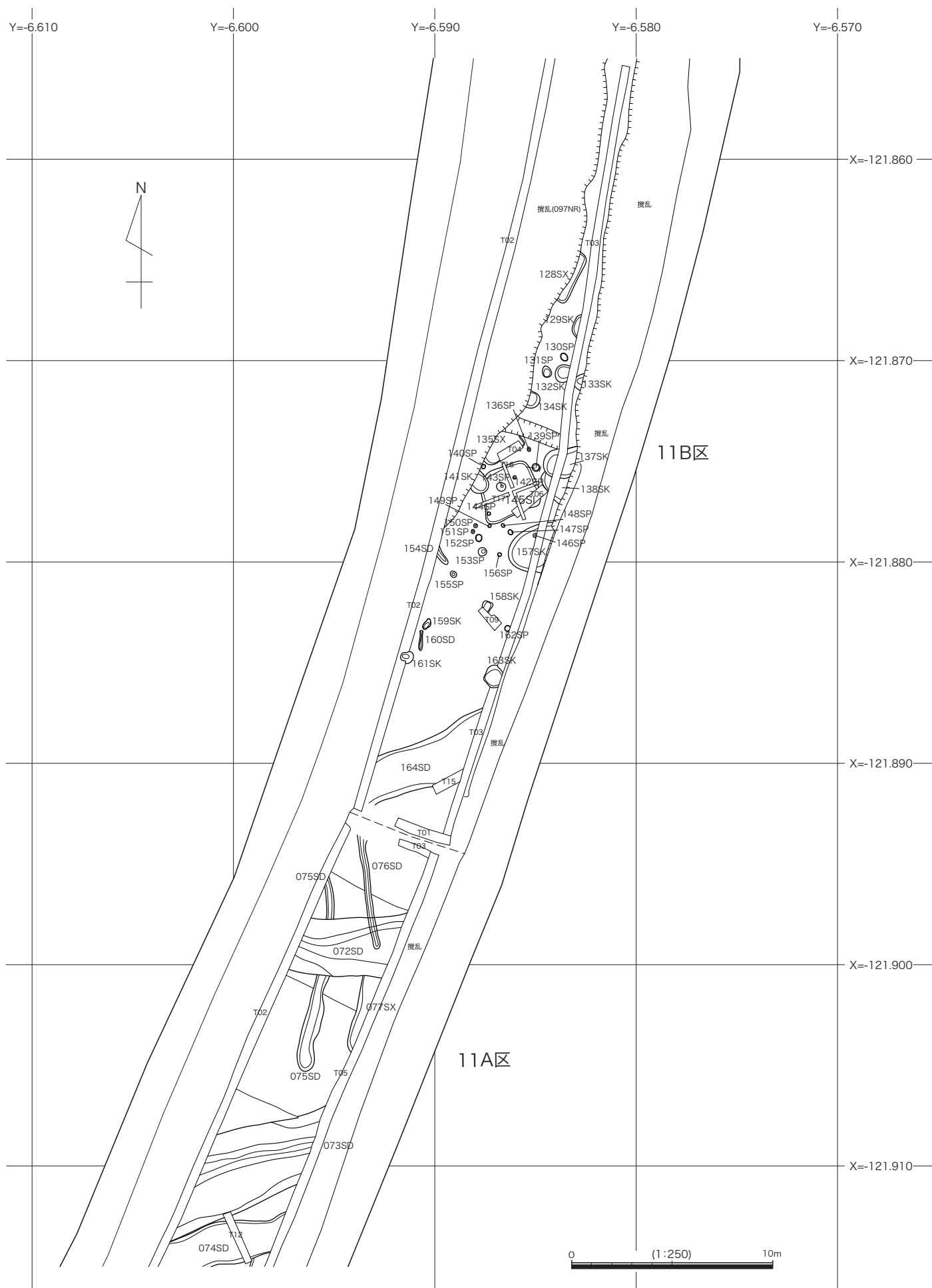




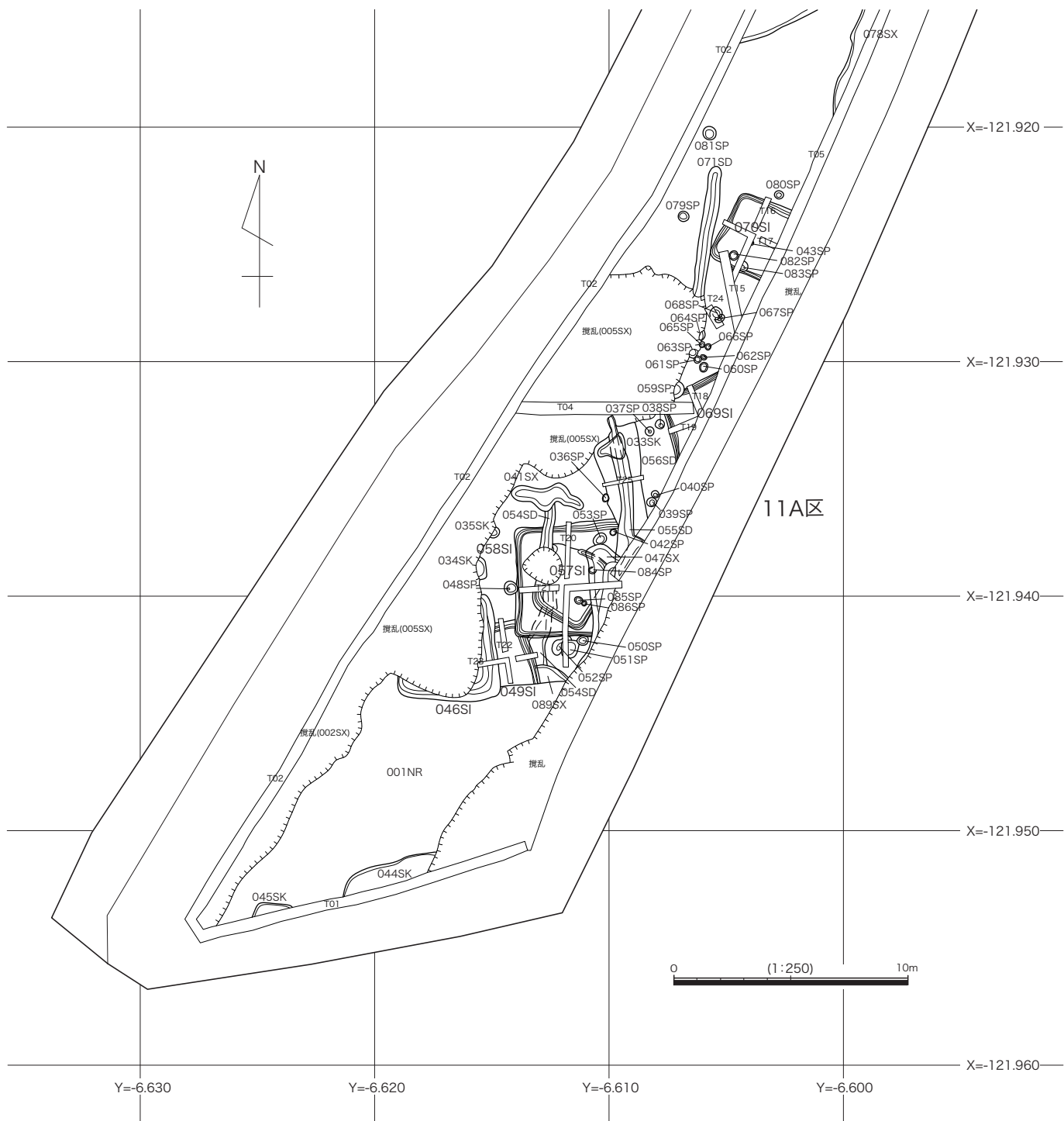
第 89 図 惣作遺跡 11A・B 区第 2 面平面図 3 (S = 1/250)



第 90 図 惣作遺跡 11A・B 区第 3 面平面図 1 (S = 1/250)

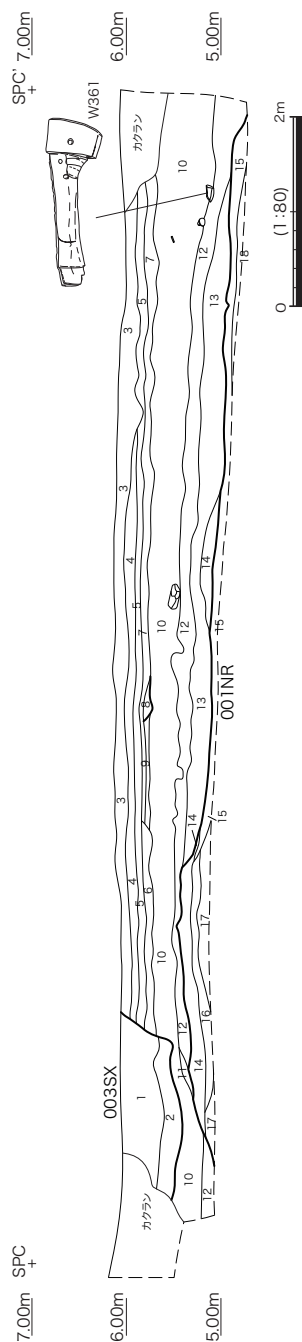


第 91 図 惣作遺跡 11A・B 区第 3 面平面図 2 (S = 1/250)



第 92 図 惣作遺跡 11A・B 区第 3 面平面図 3 (S = 1/250)

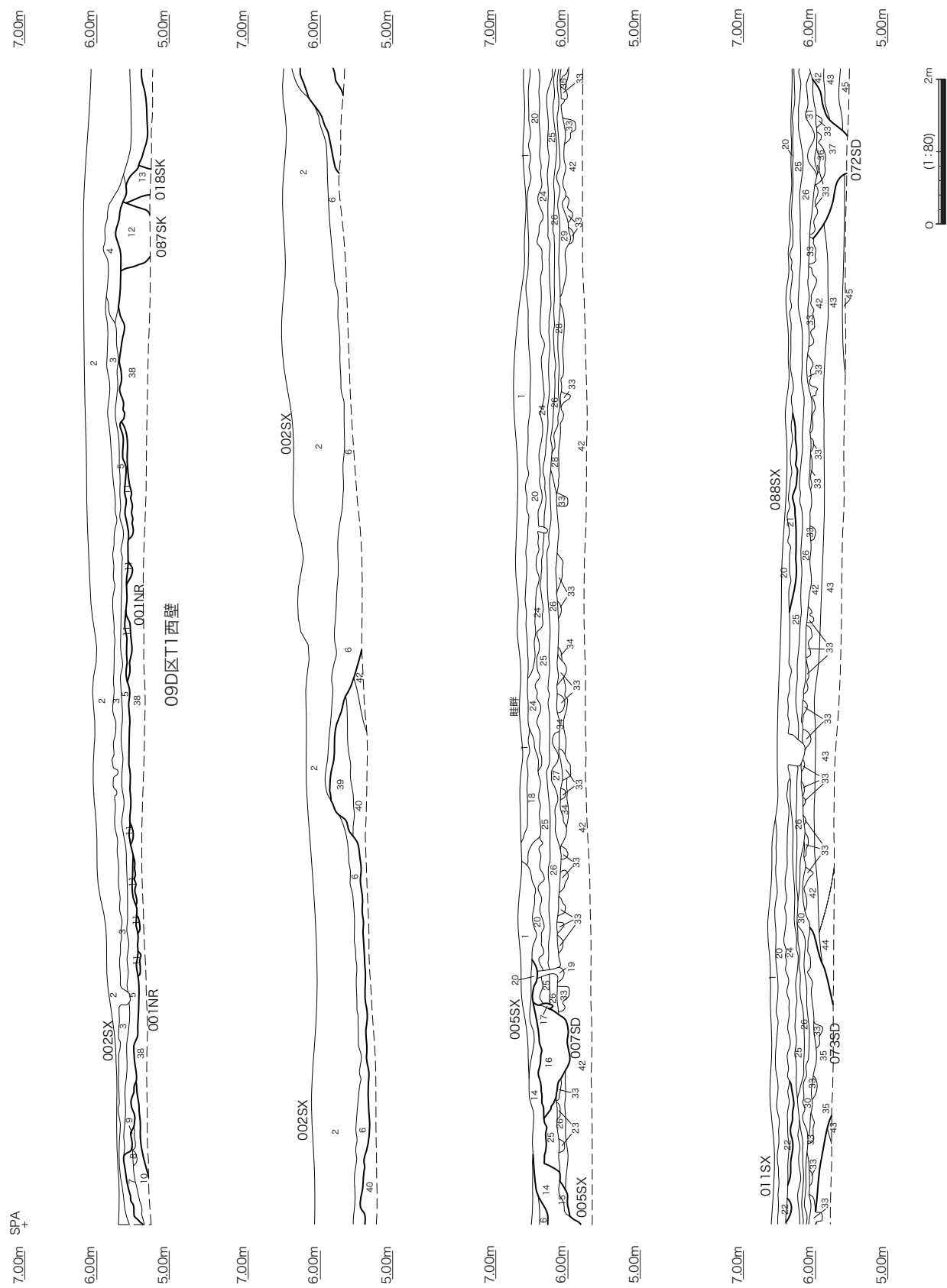




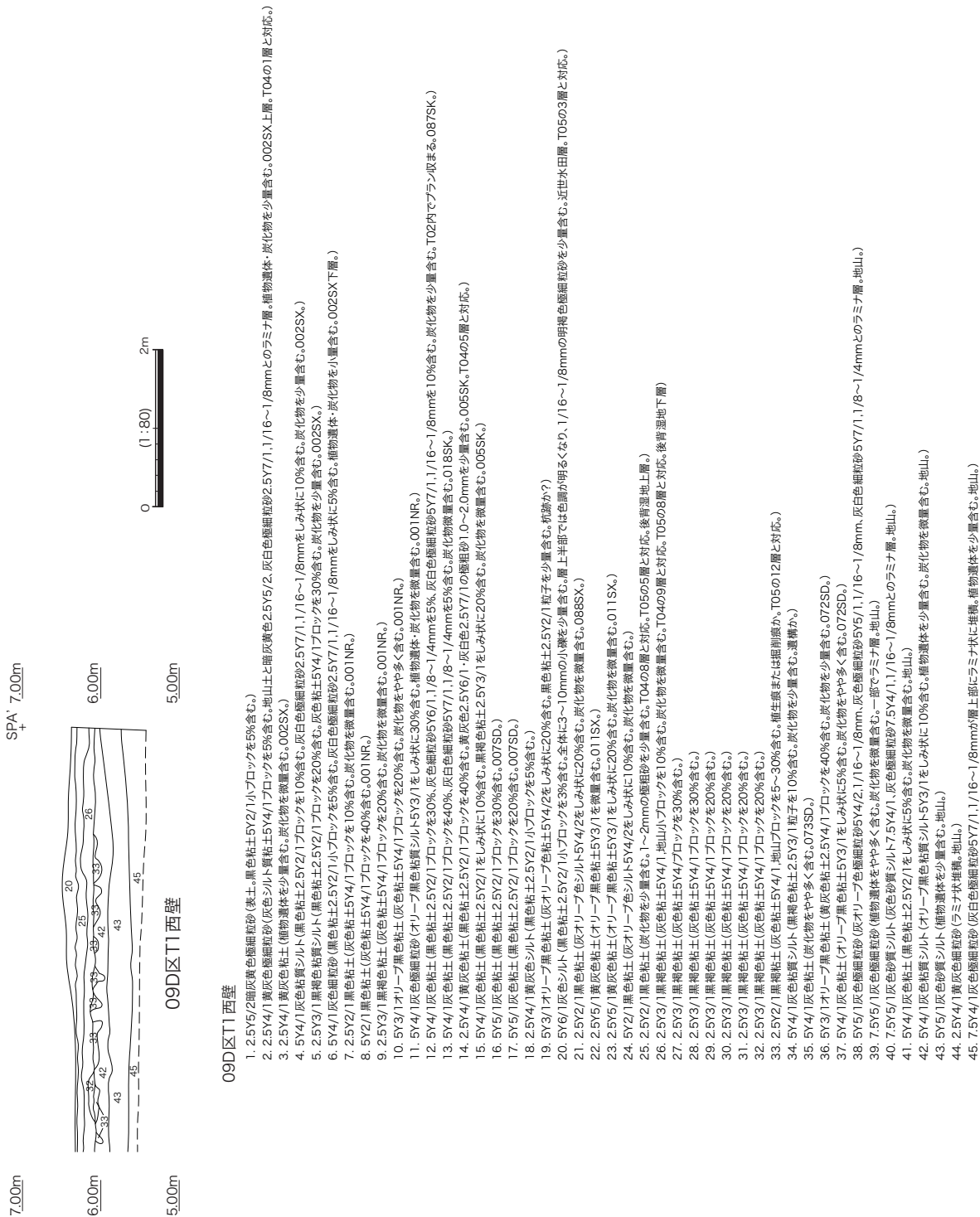
# 11A区T01南壁

1. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (黒色粘土5Y2/1ハプロックを5%含む。003SX。)
2. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘質シルト5Y4/4ハプロックを10%含む。黒色粘土ハプロックを5%含む。炭化物を少量含む。003SX。)
3. 7.5Y5/1 灰色粘土 (極細粒砂を微量含む。近世水田層。)
4. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をしみ状に30%含む。炭化物を微量含む。)
5. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (灰色粘土5Y4/4ハプロックを20%含む。炭化物を微量含む。)
6. 10YR3/1 暗灰色粘土 (黒褐色粘土2.5Y2/1ハプロックを5%含む。植物遺体を少量含む。炭化物をやや多く含む。遺構か。)
7. 10YR3/1 暗褐色粘土 (黒褐色粘土2.5Y3/1.001NRの1層目基盤層。10層ハプロックを10%含む。灰色粘土5Y4/1ハプロックを10%含む。植物遺体を微量含む。炭化物を少量含む。)
8. 10YR3/1 暗褐色粘土 (黒褐色粘土2.5Y2/1.9層をしみ状に20%含む。遺構か。)
9. 2.5Y2/1 黒色粘土 (暗褐色土 10YR3/1.7層をしみ状に30%含む。灰色粘土5Y4/1をしみ状に10%含む。炭化物を微量含む。)
10. 2.5Y2/1 黒色粘土 (暗褐色土 1.0~2.0mmを少量含む。炭化物を少量含む。上面で001NR1層目の遺構を検出。)
11. 5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルト (黒褐色粘土2.5Y3/1.10層をしみ状に5%含む。炭化物を微量含む。)
12. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (灰色粘土5Y4/1地山ハプロックを10%含む。炭化物を微量含む。上面で001NR2層目の遺構を検出。)
13. 5Y4/4 灰色粘土 (オリーブ黒色粘土5Y3/1.001NR2層.12層をしみ状に20%含む。T26の7層と対応。)
14. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (灰色粘土5Y5/1をしみ状に20%含む。植物遺体を少量含む。炭化物を微量含む。001NR3層目基盤層。T26の7層と対応。)
15. 5Y2/2 オリーブ黒色粘土 (炭化物をやや多く含む。)
16. 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1粒子を少量含む。植物遺体を少量含む。炭化物を微量含む。T26の11層と対応。)
17. 5Y4/1 灰色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1粒子を少量含む。T26の12層と対応。)
18. 5Y4/1 灰色粘質シルト (植物遺体を少量含む。炭化物を少量含む。)

第 93 図 惣作遺跡 11A 区南壁土層断面図 (S = 1/80)



第 94 図 惣作遺跡 11A 区西壁土層断面図 1 (S = 1/80)



第 95 図 惣作遺跡 11A 区西壁土層断面図 2 (S = 1/80)





11B区T02西壁

# 11B区T02西壁

- 2.5Y4/2 細灰黄色極粗粒砂 (φ1～3cmの小礫を隠れて多く含む。)
- 2.5Y7/4 淡黄色極粗粒砂 (黒褐色粘土2.5Y3/1プロックを微量含む。φ1～2cmの小礫を少量含む。)
- 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト (灰色粘土5Y4/1をしみ状に30%含む。炭化物を少量含む。φ1～2cmの小礫を少量含む。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粗粒砂 (灰色粘質シルト5Y4/1プロックを30%含む。炭化物をやや多く含む。φ1～2cmの小礫を少量含む。)
- 5Y4/1 灰色粘質シルト (淡黄色粗粒砂5Y7/4をしみ状に10%含む。炭化物をやや多く含む。)
- 5Y4/1 灰色極細粒砂 (φ1～2cmの小礫を微量含む。炭化物を微量含む。)
- 10YR4/1 褐灰色粗粒砂 (黒色粘土2.5Y2/1プロックを微量含む。植物遺体を微量含む。炭化物を少量含む。φ1～2cmの小礫を少量含む。)
- 2.5Y7/4 淡黄色粗粒砂
- 2.5Y5/2 細灰黄色極細粒砂 (黄土、黒色粘土5Y2/1小プロックを5%含む。)
- 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト (黒色シルト2.5Y2/1粒子を少量含む。)
- 5Y4/1 灰色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1プロックを40%含む。099SK<sub>4</sub>)
- 5Y6/1 灰色シルト (黒色粘土2.5Y2/1小プロックを3%含む。全体にφ3～10mmの小礫を少量含む。層上半部では色調が明るくなり、1/16～1/8mmの明褐色極細粒砂を少量含む。近世水田層。)
- 5Y4/1 灰色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1プロックを20%含む。110SK<sub>4</sub>)
- 2.5Y2/1 黒色粘土 (炭化物を微量含む。後背湿地層。)
- 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1小プロックを5%含む。後背湿地下層。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をしみ状に10%含む。炭化物を微量含む。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1プロックを5%含む。黒色粘土2.5Y2/1プロックを20%含む。炭化物を微量含む。)
- 5Y2/1 黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1プロックを20%含む。炭化物を微量含む。T030の13層と対応。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (黒色粘土2.5Y2/1小プロックを10%含む。炭化物を微量含む。)
- 5Y2/1 黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1プロックを30%含む。根生痕が。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をしみ状に20%含む。)
- 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1をしみ状に10%含む。黒色粘土2.5Y2/1をしみ状に10%含む。炭化物を微量含む。)
- 2.5Y2/1 黒色粘土 (灰色粘土5Y4/1プロックを20%含む。161SK<sub>4</sub>)
- 5Y4/1 灰色粘土 (黒色粘土5Y2/1プロックを3%含む。炭化物を微量含む。地山。)
- 5Y5/1 灰色粘質シルト (オリーブ黒色粘土5Y3/1小プロックを10%含む。炭化物を微量含む。地山。)
- 5Y4/1 灰色シルト (黒色粘土2.5Y2/1粒子を少量含む。)
- 5Y5/2 灰シルト (黒色粘土2.5Y2/1粒子を微量含む。)
- 5Y4/1 灰色極細粒砂 (黒色粘土2.5Y2/1粒子を微量含む。)

第 97 図 惣作遺跡 11B 区西壁土層断面図 2 (S = 1/80)

## 平成 24 年度調査（12 区）

### 1 調査の概要

調査は旧流路とその上層を 2 面に分けて行った。上層は、第 1 面は盛り土除去後の灰オリーブシルト層上面で、第 2 面は灰色シルト層上面で遺構の検出を行った。

### 2 遺構の概要

#### （1）第 1 面（第 98 図）

##### A 不明遺構

##### 004SX・005SX

004SX は短径 3.4m、長径が 3.8m 以上、深さ 0.64m、005SX が深さ 0.37m を測る。形状は水田とも考えられるが、畦畔は検出されておらず、不明な点が多い。時期は江戸時代後期以降になる。

#### （2）第 2 面（第 98 図）

##### A 溝・杭列

##### 006SD・007SA

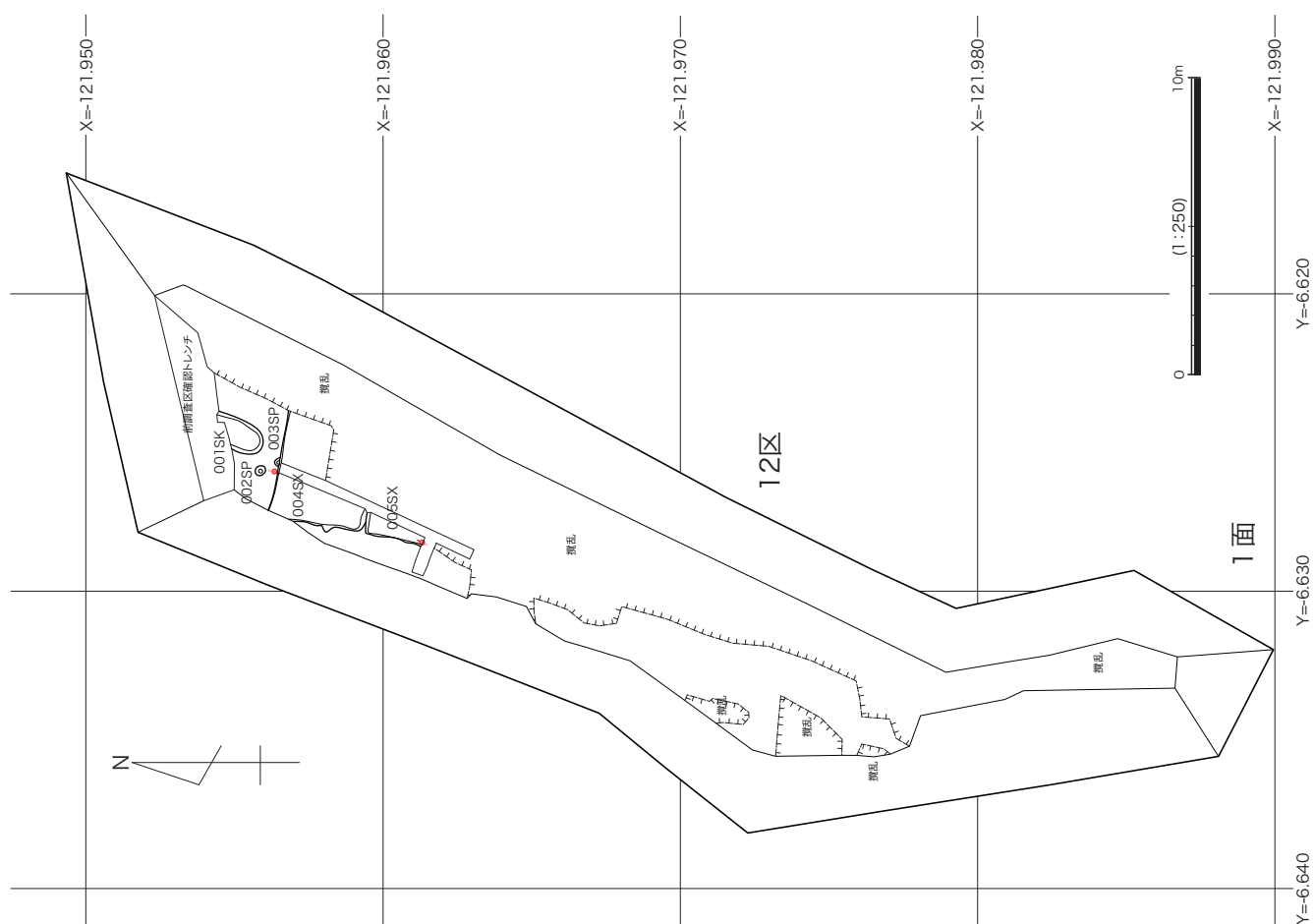
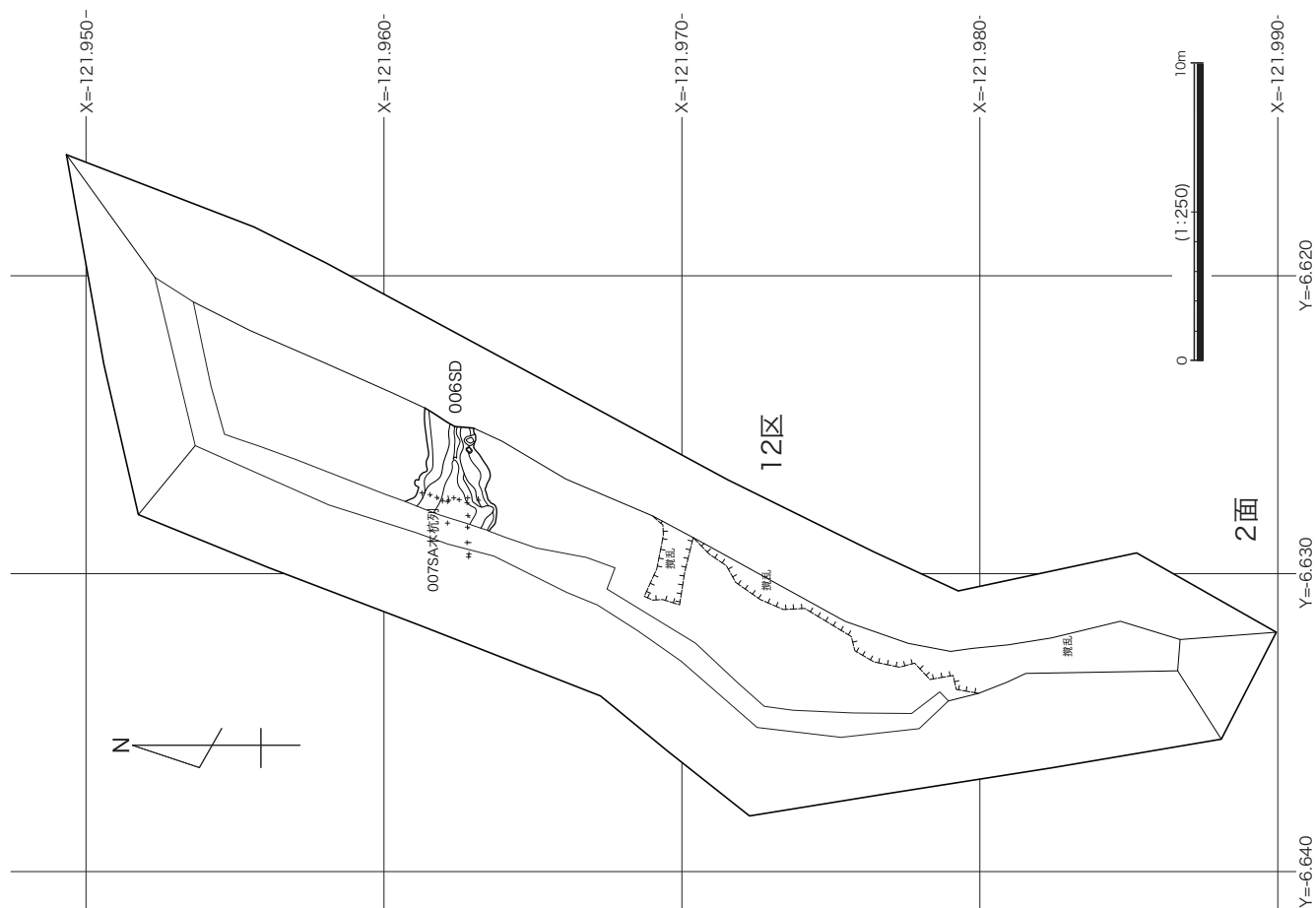
東西に走る幅 2.8m、深さ 0.78m の溝が検出された。溝は西側で広くなっており、その部分には溝に直交するように杭列 007SA が打たれている。この杭列には部分的に編物の痕跡が残っており、水流を塞ぎとめる施設であったと思われる。土層断面の観察より、時期は江戸時代後期以降になると考えられる。

#### （3）第 3 面（第 100 図）

##### A 流路

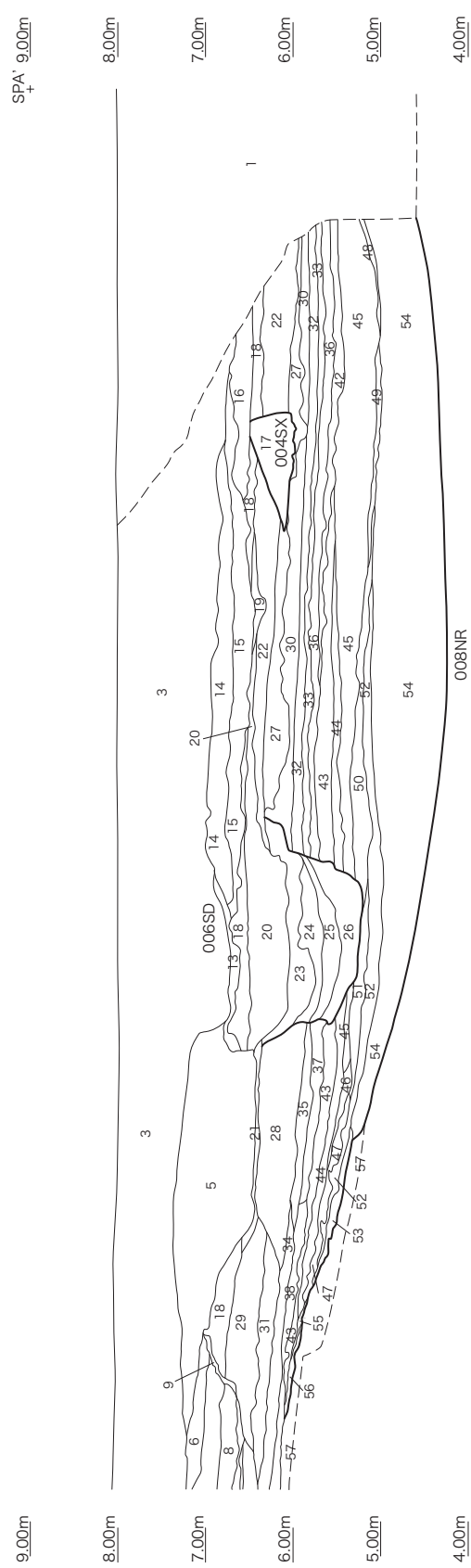
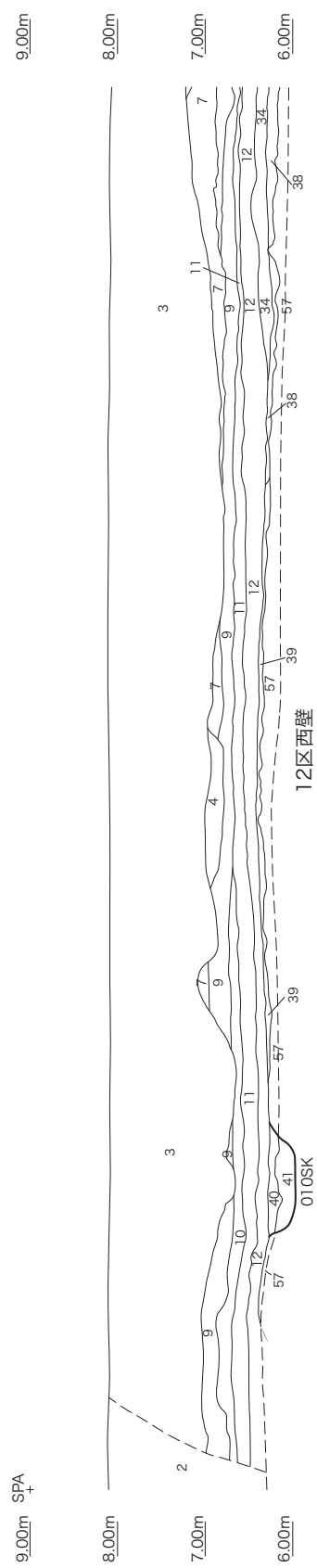
##### 008NR

調査区北部で検出された東西に走る自然流路で、11A 区の 001NR の南岸にあたる。中層の黒色シルト質砂層では古代の土器や曲物の蓋（W367）が、下層の黒褐色シルト質砂からは古墳時代初頭から前期の土器や木製品が出土している。



第 98 図 惣作遺跡 12 区第 1 面・第 2 面平面図 (S = 1/250)



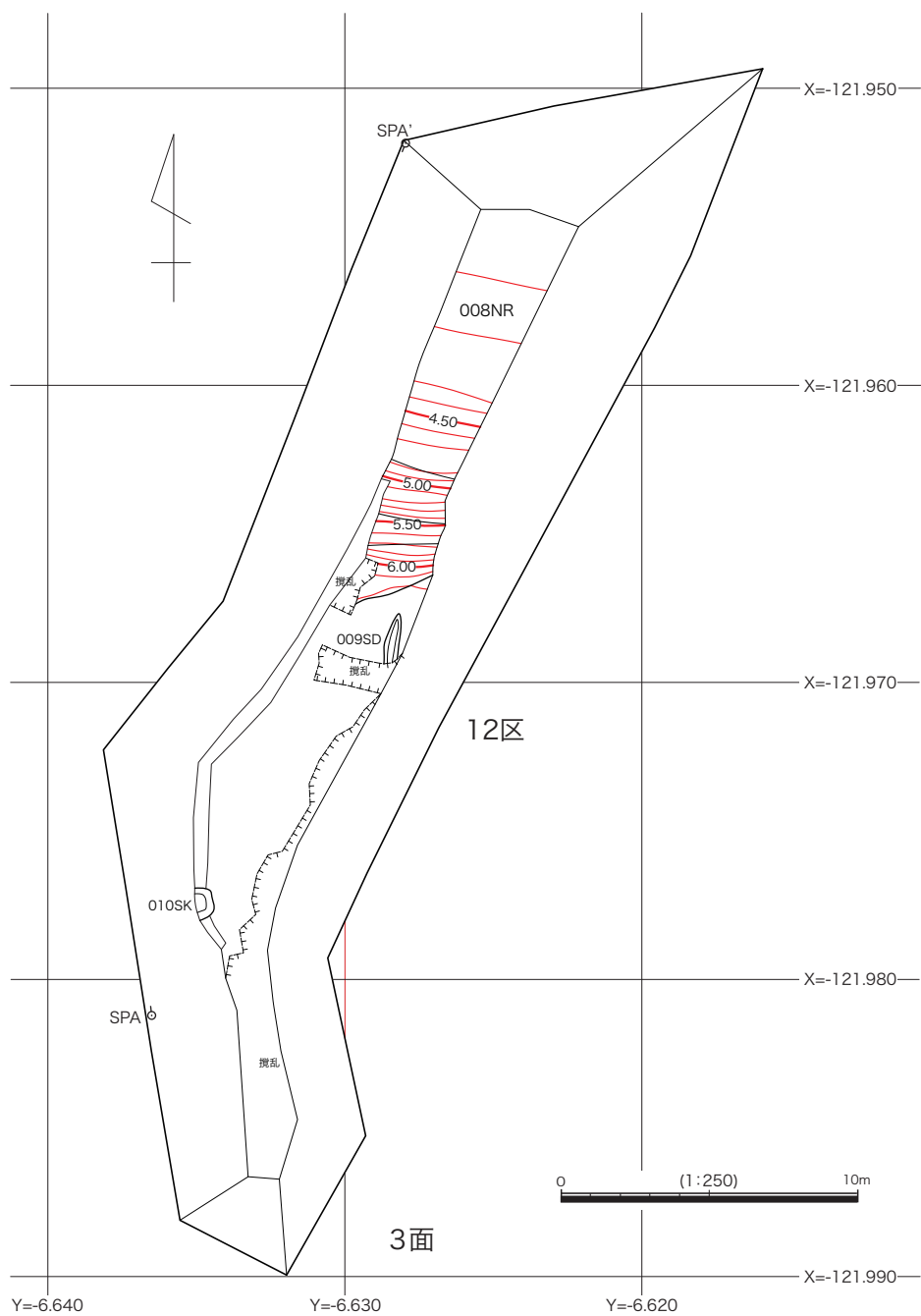


第 99-1 図 惣作遺跡 12 区西壁土層断面図 (S = 1/80)

## 12区西壁

1. 10Y4/1 灰色 極粗粒砂(しまり弱い、粘性少ない:客土)※前年度調査区埋土
2. 10Y4/1 灰色 極粗粒砂(しまり弱い、粘性少ない:客土)
3. 10YR6/6明黄褐色極粗粒砂(しまり弱い、粘性少ない、2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルトを互層状に含む:客土)
4. 2.5Y5/3黄褐色シルト(しまり弱い、粘性やや少ない、10YR4/3にぶい黄褐色極粗粒砂が多く混じる:客土)
5. 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト(しまり弱い、粘性ややあり、10YR6/6明黄褐色極粗粒砂が多く混じる:客土)
6. 10YR4/4褐色極粗粒砂(しまり弱い、粘性少ない:客土)
7. 2.5Y5/3黄褐色シルト(しまり弱い、粘性ややあり、2.5Y5/3黄褐色中粒砂が混じる:客土)
8. 5Y5/2灰オリーブ色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性ややあり:客土)
9. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ10～20mmの5Y6/3オリーブ黄色シルトを少量含む:客土)
10. 5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト(しまりややあり、粘性ややあり:客土)
11. 2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト(しまりややあり、粘性ややあり、φ1mm程の小礫及びφ5～10mmの7.5YR5/6明褐色シルト粒を含む:客土)
12. 5Y5/1 灰色 砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ1mm程の小礫を含む:客土)
13. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ10～20mmの5Y6/3オリーブ黄色シルトを少量含む、底面に鉄分が沈着する:客土)
14. 10YR7/1灰白色極粗粒砂(しまり弱い、粘性なし)
15. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ10～20mmの5Y6/3オリーブ黄色シルトを少量含む:客土)
16. 5Y4/2灰オリーブ色中粒砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、10GY4/1暗緑灰色砂質シルトが多く混じる)
17. 10Y4/1 灰色粗粒砂(しまり弱い、粘性やや少ない、φ2～3mmの小礫を含む、φ10～20mmの10GB4/1 暗青灰色シルト粒を微量含む:004SX)
18. 10GY4/1暗緑灰色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、5Y4/2灰オリーブ色中粒砂が少量混じる)
19. 10Y4/1 灰色中粒砂(しまりやや弱い、粘性やや少ない)
20. 5Y4/2灰オリーブ色中粒砂(しまりやや弱い、粘性やや少ない、5Y6/2灰オリーブ色粗粒砂が少量混じる)
21. 10Y5/1 灰色シルト質砂(しまりややあり、粘性ややあり)
22. 5Y4/2灰オリーブ色シルト(しまりややあり、粘性ややあり、2.5Y7/1 灰白色細粒砂との互層)
23. 10Y4/1 灰色シルト(しまりやや強い、粘性やや強い、2.5Y2/1 黒色シルトがブロックを含む、φ1mm程の小礫を多く含む:006SD-1層)
24. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ1mm程の小礫を少量含む:006SD-2層)
25. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、7.5Y7/2灰白色極粗粒砂が互層状に混じる:006SD-3層)
26. 7.5Y3/1オリーブ黒色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、7.5Y7/2灰白色極粗粒砂が混じる、5Y2/2シルトが少量混じる、底面にφ2～10mmの小礫が堆積する:006SD-4層)
27. 10Y4/1 灰色シルト(しまりやや強い、粘性やや強い、2.5Y2/1 黒色シルトがブロックを含む)
28. 7.5Y4/1 灰色シルト質砂(しまり弱い、粘性ややあり、7.5Y5/2灰オリーブ極粗粒砂及び10Y3/1オリーブ黒色シルトが互層状に混じる、φ1mm程の小礫を含む:客土か?)
29. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト(しまりややあり、粘性ややあり、7.5Y5/2灰オリーブ色細粒砂が混じる)
30. 10Y4/1 灰色シルト(しまりやや強い、粘性やや強い、φ1mmの小礫を少量含む、底面に2.5Y7/1 灰白色細粒砂が堆積する)
31. 5Y4/2灰オリーブ色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂が混じる)
32. 10Y4/1 灰色シルト(しまりやや強い、粘性やや強い、φ1mmの小礫を含む)
33. 7.5Y5/1 灰色シルト(しまりややあり、粘性やや強い、5Y2/2オリーブ黒色が混じる)
34. 7.5Y5/2灰オリーブ粗粒砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、10Y4/1 灰色粗粒砂が混じる)
35. 7.5Y5/2灰オリーブ極粗粒砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、10Y3/1オリーブ黒色シルトとの互層)
36. 2.5Y3/1 黒褐色シルト(しまりややあり、粘性やや強い、5Y4/4暗オリーブ色シルトが混じる)
37. 5Y2/2オリーブ黒色シルト(しまりやや強い、粘性強い、5Y4/1 灰色シルトが少量混じる)
38. 5Y4/1 灰色砂質シルト(しまりややあり、粘性やや強い、5Y2/2オリーブ黒色シルト及び5GY5/1オリーブ灰色極粗粒砂が多く混じる)
39. 2.5Y4/1 黄灰色シルト(しまりややあり、粘性ややあり、5Y5/2灰オリーブ色極粗粒砂が多く混じる:整地層)
40. 5Y5/1 灰色極粗粒砂(しまりややあり、粘性やや少ない、2.5Y3/2黒褐色砂質シルトが混じる:010SK)
41. 2.5Y3/2黒褐色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、5Y5/1 灰色極粗粒砂が少量混じる:010SK)
42. 10YR3/1 黒褐色シルト(しまりややあり、粘性やや強い:008NR-1層)
43. 2.5Y3/2黒褐色シルト質砂(しまりやや強い、粘性ややあり:008NR-2層)
44. 10YR2/2黒褐色シルト質砂(しまりややあり、粘性ややあり、2.5Y7/1 灰白色極粗粒砂が少量混じる:008NR-3層)
45. 2.5Y2/1 黒色シルト質砂(しまりやや強い、粘性ややあり、腐植土及び木片を少量含む:008NR-4層)
46. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性やや少ない、5Y6/1 灰色細粒砂が多く混じる:008NR-5層)
47. 10YR2/1 黒色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、φ5～10mmの5Y5/1 灰色細粒砂を含む:008NR-6層)
48. 2.5Y3/1 黒褐色シルト質砂(しまりややあり、粘性ややあり、φ5～10mmの5Y4/1 灰色細粒砂粒を微量含む:008NR-7層)
49. 2.5Y2/1 黒色シルト質砂(しまりやや強い、粘性ややあり、2.5Y7/1 灰白色極粗粒砂が互層状に混じる、腐植土及び木片を少量含む:008NR-8層)
50. 2.5Y2/1 黒色シルト質砂(しまりやや強い、粘性ややあり、φ10～30mmの2.5Y5/1 暗灰黄色細粒砂粒を含む、腐植土及び木片を少量含む:008NR-9層)
51. 10YR2/1 黒色砂質シルト(しまりやや弱い、粘性ややあり、7.5Y5/1 灰色細粒砂が混じる:008NR-10層)
52. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性やや少ない、腐植土及び木片を多く含む:008NR-11層)
53. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性やや少ない、5Y3/2オリーブ黒色極粗粒砂が多く混じる、腐植土及び木片を多く含む:008NR-12層)
54. 10YR3/1 黒褐色シルト質砂(しまりやや弱い、粘性ややあり、5GY4/1 灰色細粒砂が少量混じる、腐植土及び木片を多く含む:008NR-13層)
55. 5Y3/1オリーブ黒色シルト質砂(しまりややあり、粘性ややあり、2.5GY5/1オリーブ灰色極粗粒砂が混じる:008NR-14層)
56. 2.5GY5/1オリーブ灰色極粗粒砂(しまりやや強い、粘性やや少ない、5Y3/1オリーブ黒色シルト質砂が少量混じる:008NR-15層)
57. 5Y6/2灰オリーブ色極粗粒砂(しまりやや強い、粘性少ない)

## 第 99-2 図 惣作遺跡 12 区西壁土層断面図土色



第 100 図 惣作遺跡 12 区第 3 面平面図 (S = 1/250)

## 第3章 遺物

### 第1節 遺物の記述

遺物番号の前に遺物記号である焼き物 E、石製品 S、金属製品 S、木製品 W、その他 X が付けられるが、本報告書では焼き物の E 番号については省略して記述している。縮尺については、掲載頁内に明記した。

### 第2節 土器・土製品

各遺物の時期については、下記の文献の型式・時期区分を参照した。また墨書の解説については愛知教育大学 西宮秀紀氏のご教示を得た。

赤塚次郎 1990「V 考察」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 10 集

赤塚次郎 1994「付論 1 松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 48 集

石黒立人・宮腰健司 2007「伊勢湾周辺地域における弥生土器編年の概要と課題」『伊藤秋男先生古希記念考古学論文集』

城ヶ谷和広 2015「第 4 章 第 5 節 編年論」『愛知県史 別編 窯業 1 古代 猿投系』

中野晴久 1994「赤羽・中野「生産地における編年について」」『「中世常滑焼をおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所

中野晴久 1995「生産地における編年について」『常滑焼と中世社会』小学館

藤澤良祐 1990「付論 2 山茶碗と中世社会」『尾呂—愛知県瀬戸市 定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

#### 1 宮下遺跡

#### 平成 23 年度調査 (11 区)

##### (1) 遺構内出土 (第 101・102 図)

**013SK** 1～6 は廻間 III 式期～松河戸式にかけての土器群で、013SK・017SD・018SD・020SD の複数の遺構から出土したものが接合している。1 の小型壺は外面に煤・炭化物が付着している。

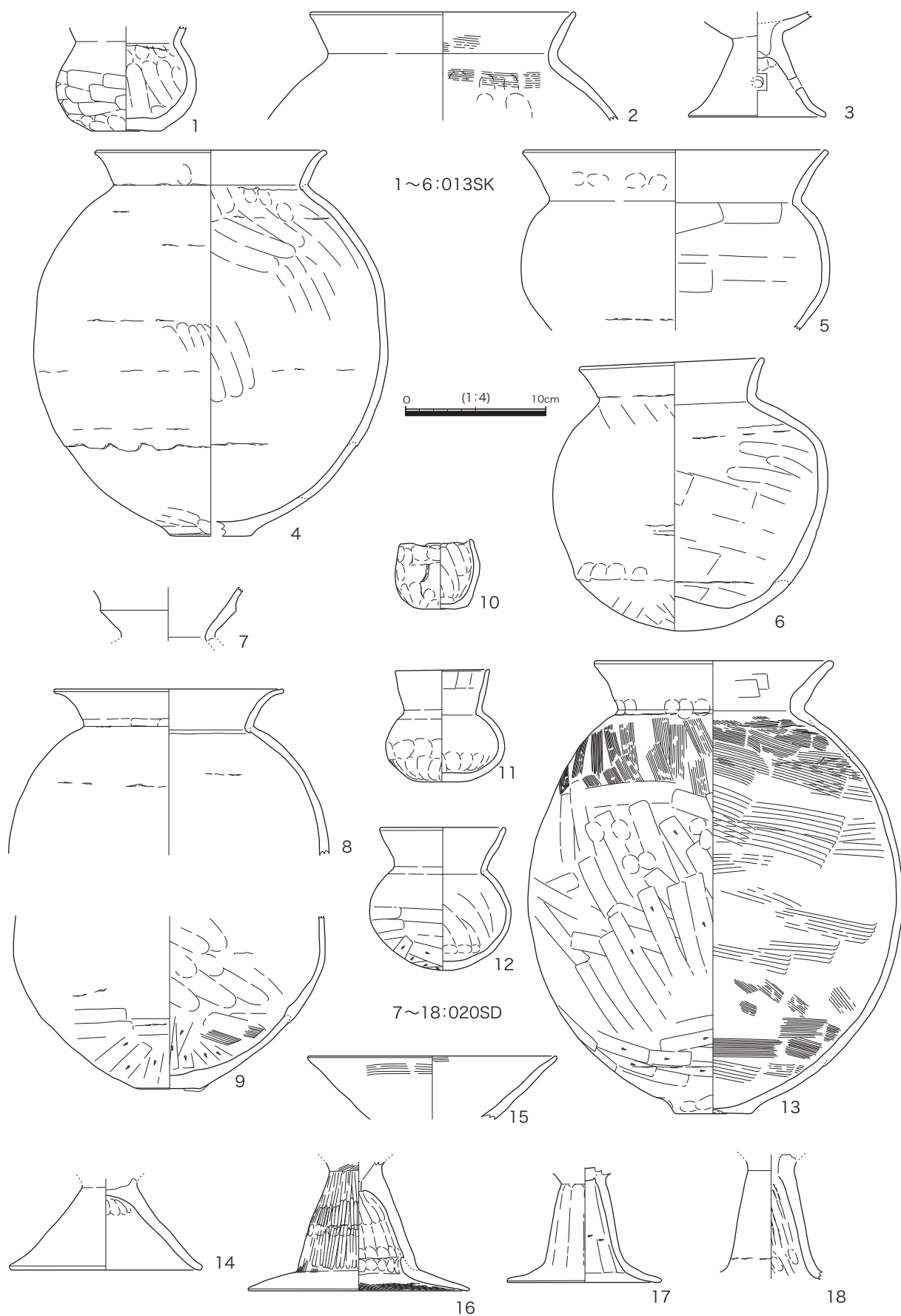
**020SD** 8・9・13 は円形の丸い体部をもつ甕で、く字状口縁甕で外面はイタナデ調整されている。

12 の小型壺は外面に煤・炭化物が付着している。16～18 は高坏の屈折脚で、16 は坏部との接合部が穿孔されている可能性がある。時期は松河戸式期。

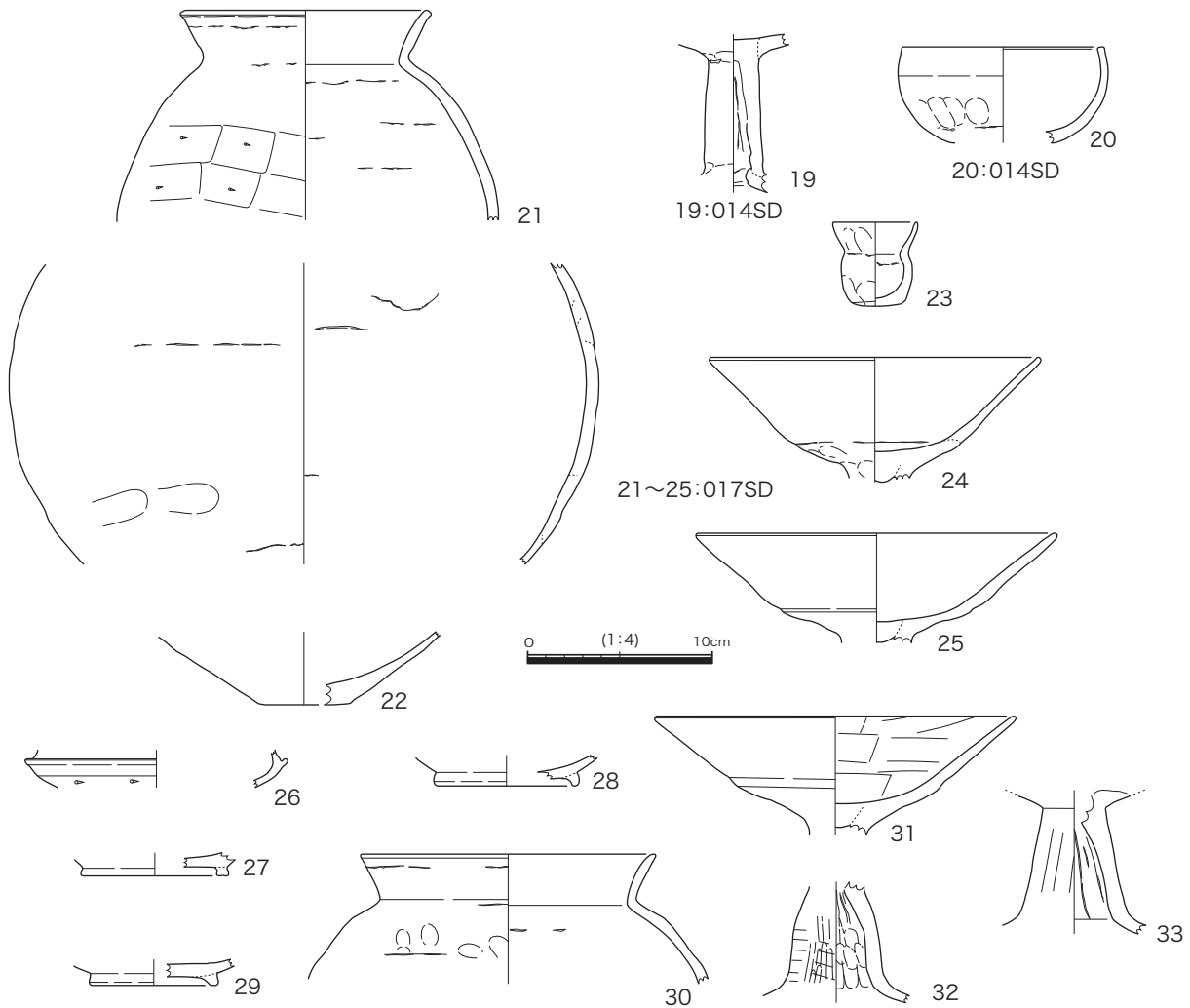
**017SD** 21～25 の甕・高杯も 020SD と同時期の遺物群である。

##### (2) 遺構外出土 (第 102 図)

26 は坏蓋の身で 7 世紀中葉頃に比定される。27 は 8 世紀後半の有台坏。28 は 0-53 窯式の灰釉陶器碗。



第 101 図 宮下遺跡 11 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)



第 102 図 宮下遺跡 11 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)

## 平成 25 年度調査 (13A 区・13B 区・13C 区)

### (1) 遺構内出土 (第 103 図)

**017SK** 34 は 0-53 窯式の灰釉陶器碗。

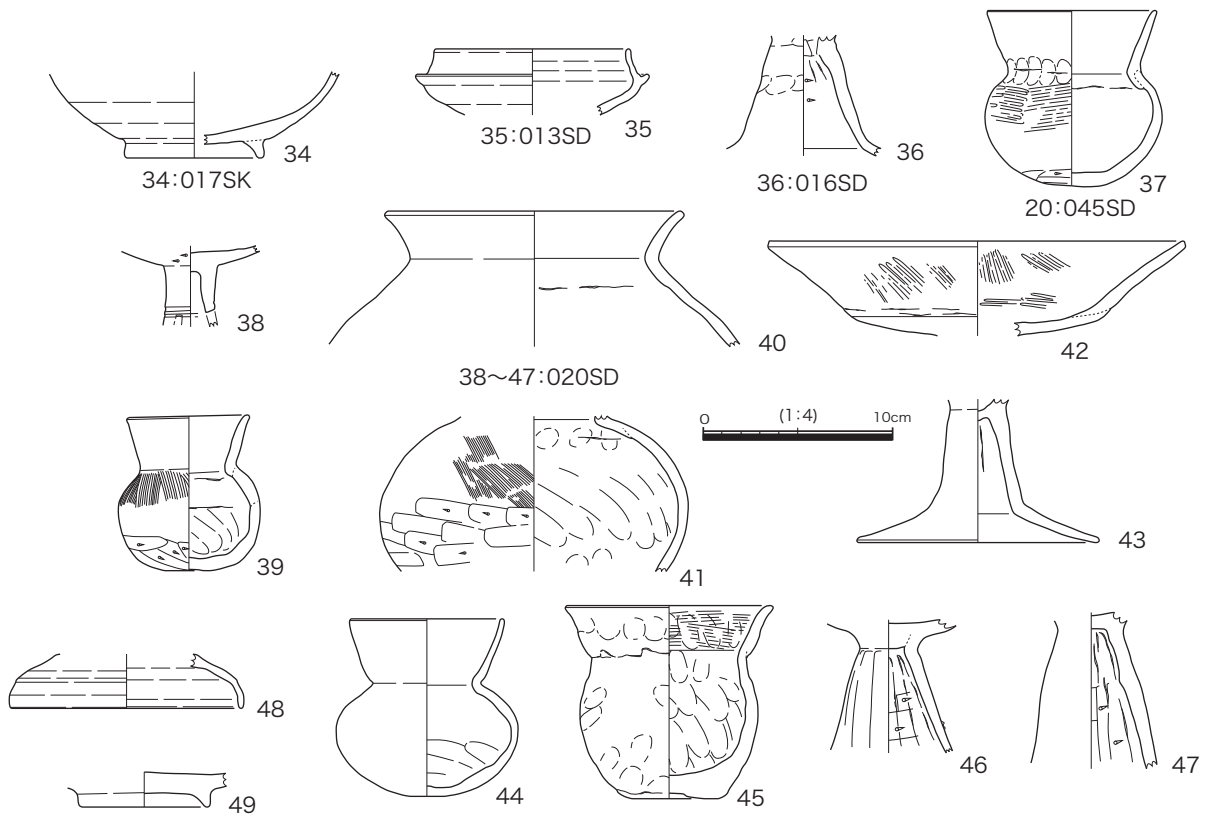
**013SD** 35 は坏蓋の身で H-15 窯式に比定される。

**045SD** 小型壺 37 は溝の下層から完形で出土している。

**020SD** 量は多くないが、上層・下層とのほぼ同じ高さで出土している。38～41 が上層、43～45 が下層から出土している。また 42 の高坏の坏は上層のものと下層のものが接合している。46・47 は 020SD のトレンチから出土している。38 は 3 方向に透孔がある須恵器高坏で、H-44～H-15 窯式に比定される。溝内出土の土器は松河戸式期であるので、他のものに比べ時期は新しくなる。

### (2) 遺構外出土 (第 103 図)

48 は I-17 窯式の須恵器蓋で、49 は第 3～4 型式の山茶碗の高台部。



第 103 図 宮下遺跡 13A 区・B 区・C 区出土土器・土製品 (S = 1/4)

## 2 下懸遺跡

### 平成 21 年度調査 (09A 区・09B 区・09C 区・09D 区)

#### (1) 遺構内出土 (第 104 ~ 109 図)

**09A 区 061SD** 50 は 8 世紀の横瓶の口縁部か。51 は 0-53 窯式の灰釉陶器皿で底部外面に、筆ならし状の不定な墨書が書かれており、中央部は「子」の可能性もある。52 はやや軟質の須恵器の無台坏で、9 世紀前半に比定される。同じ溝である 09B 区 009SD で出土したものと接合している。

**09B 区 009SD** 09A 区 061SD と連続する溝である。53 は三河型の甕。

**09B 区 022SX** 54 はく字状口縁の甕。内面には頸部までケズリ調整がみられる。

**09C 区 012SN** 55 は 09C 区の水田遺構から出土した S 字状口縁台付甕 B 類の口縁部。混入したと思われる。

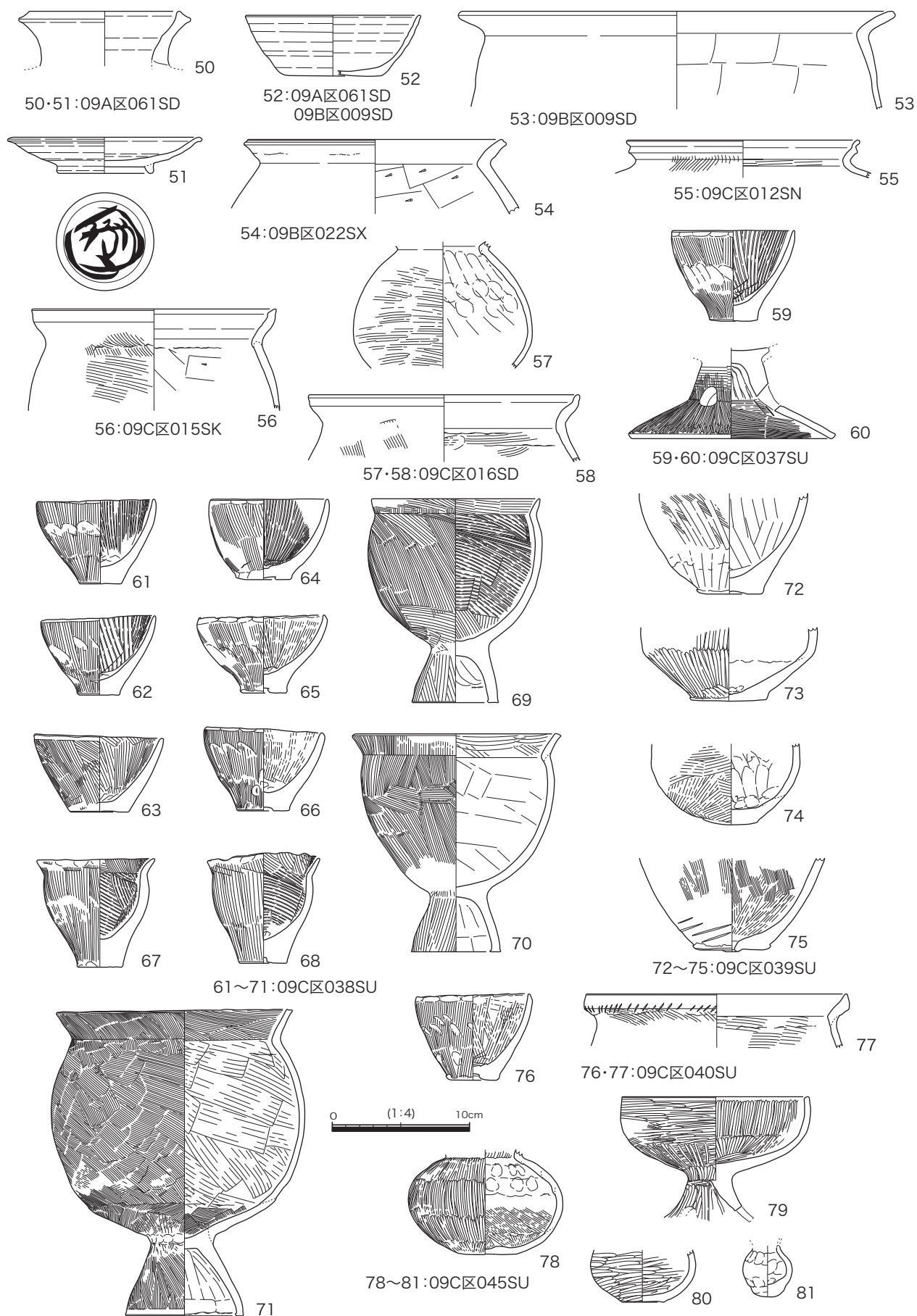
**09C 区 015SK** 56 は受口状口縁甕の口縁部から体部片で、口縁部端が、外反する面をなす。

**09C 区 016SD** 57 は直口壺の体部か。横位の細いミガキ調整がなされている。58 は受口状口縁甕。

**09C 区 037SU** 59 は小型の鉢。底部がやや突出し、内面に粗く、やや深いイタナデ調整がなされる。60 は屈折する高坏の脚部。

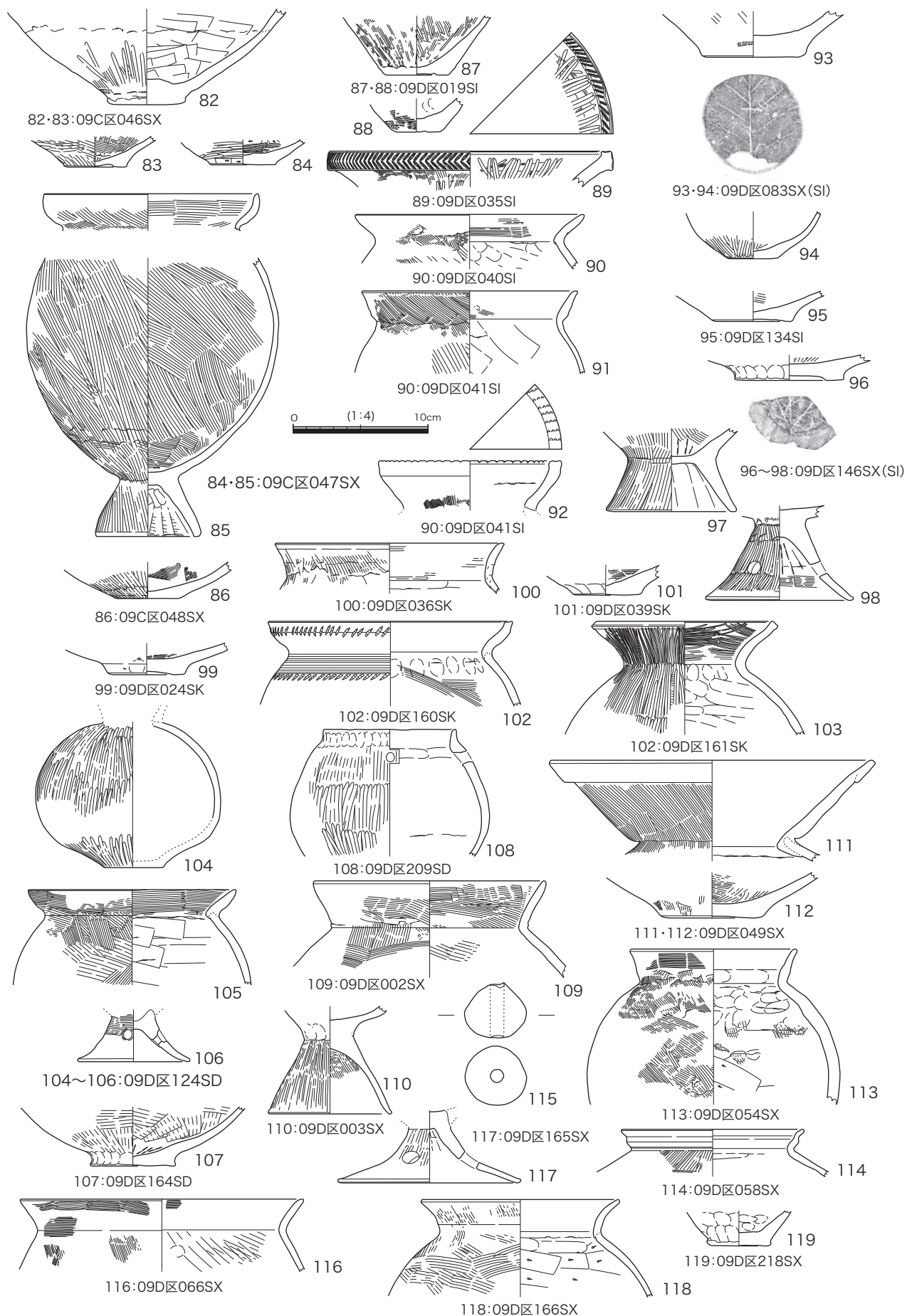
**09C 区 038SU** 61 ~ 68 は小型鉢。それぞれ外面は縦位のハケ調整、内面は粗く、やや深いイタナデ調整がなされる。底部は 61 ~ 63 は平底で、64 ~ 66 は環状底となる。67・68 は口縁部がゆるやかに折れ、く字状口縁甕のような形となるもので、67 は平底、68 は環状底となる。69 ~ 71 は、体部の上下幅がやや短いく字状口縁台付甕。



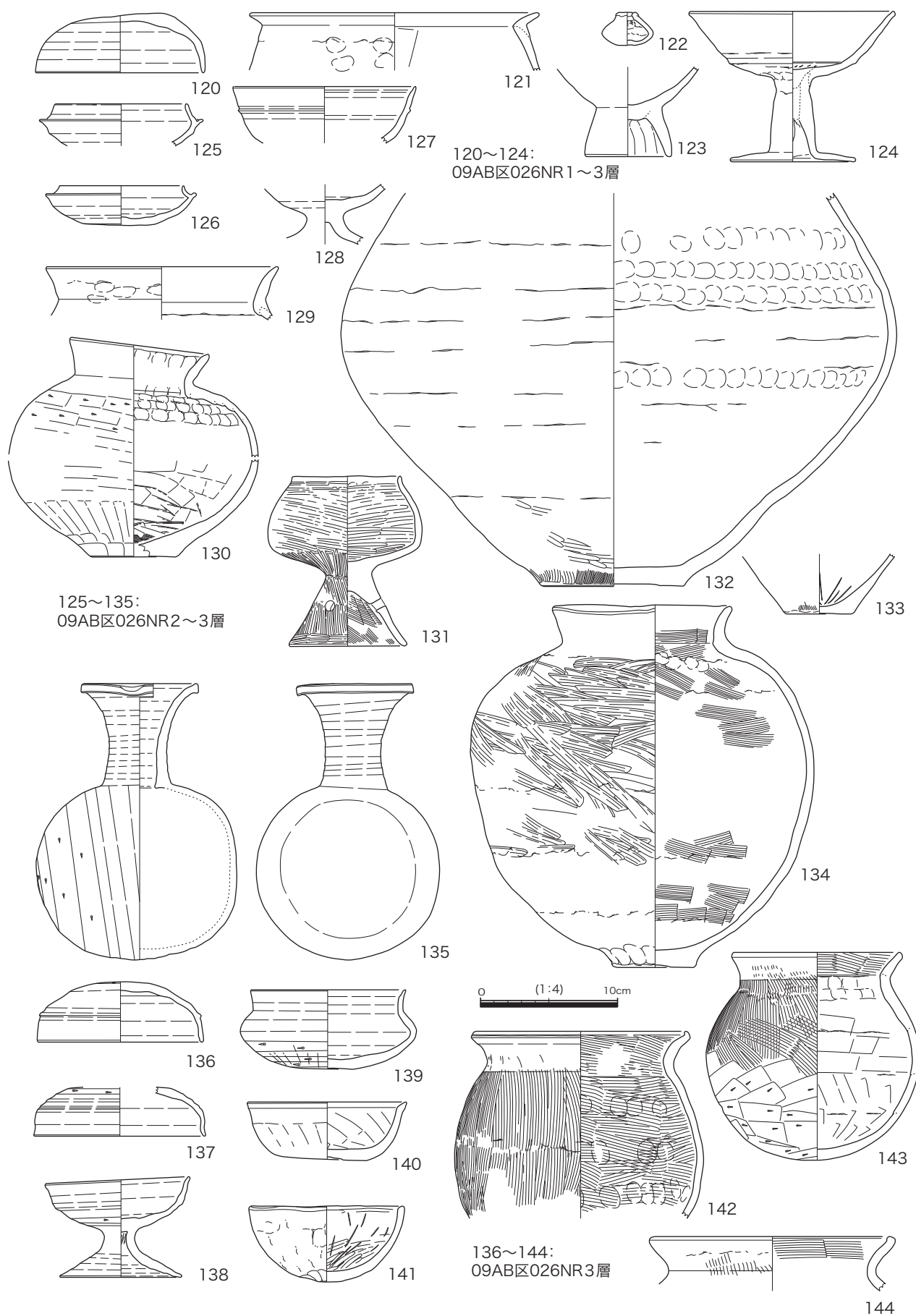


第 104 図 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)

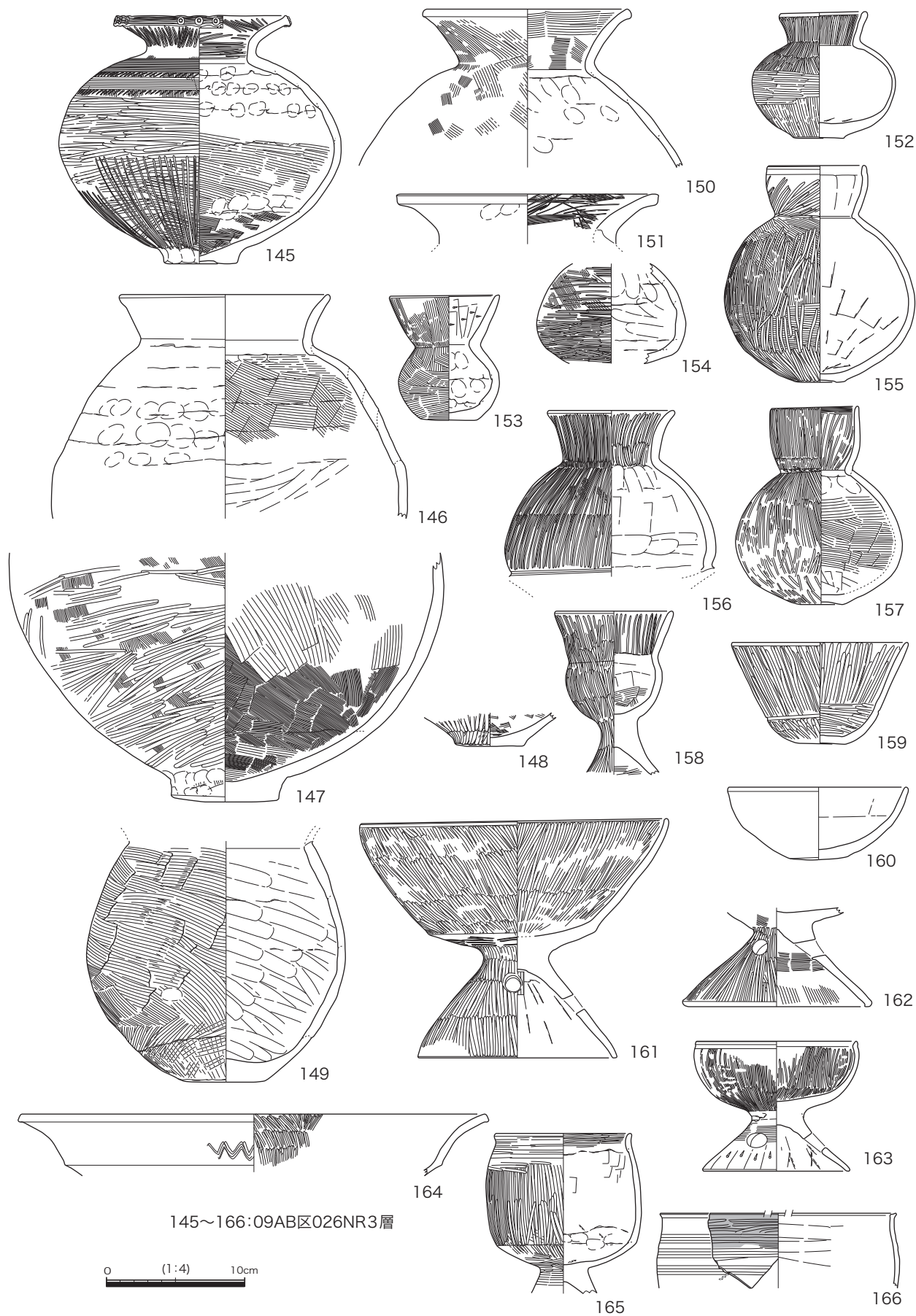




第105図 下懸遺跡09区出土土器・土製品2 (S = 1/4)

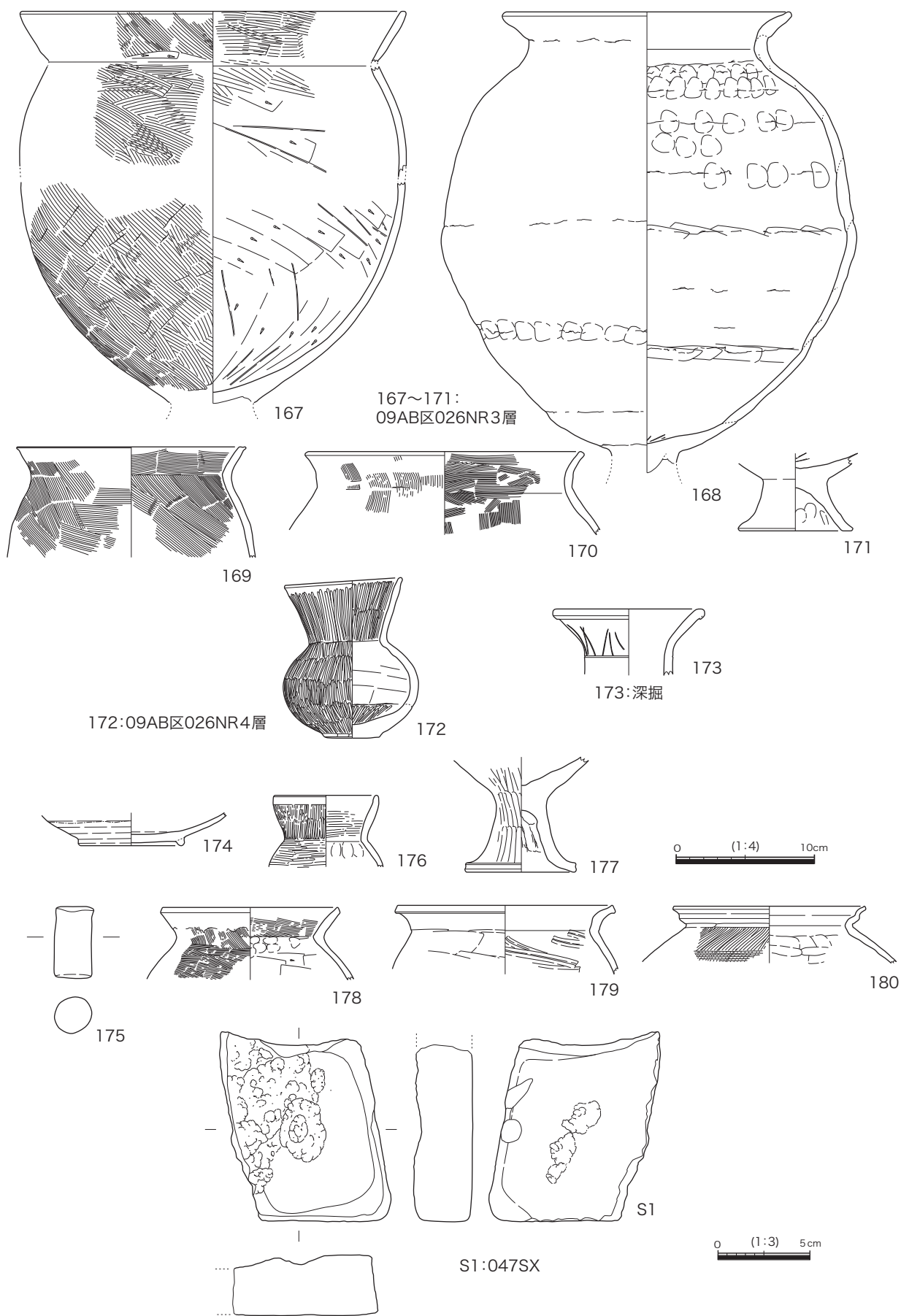


第 106 図 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)

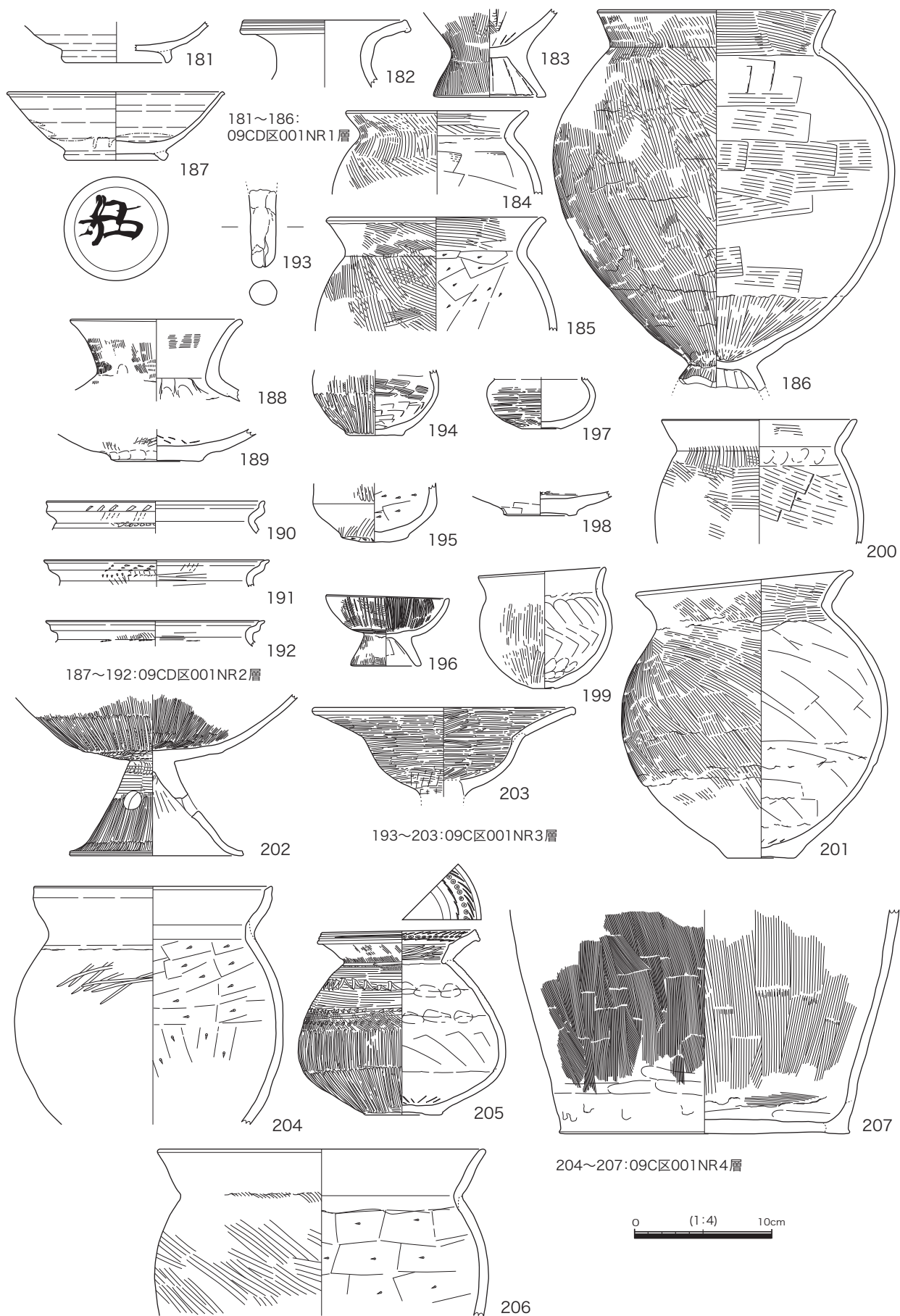


第 107 図 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 4 (S = 1/4)





第 108 図 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 5、石製品 (S = 1/4、1/3)



第 109 図 下懸遺跡 09 区出土土器・土製品 6 (S = 1/4)

09C 区 039SU 72～74 は壺の体部から底部。75 は有孔鉢で、底部中央に焼成前に孔が穿たれる。体部下端にはヘラによる平行な沈線が描かれる。

09C 区 040SU 76 は環状底の小型鉢。77 は口縁端部がやや肥厚する受口状口縁甕で。口縁部の屈折部に連続刺突が施される。

09C 区 045SU 79 は横位・縦位のミガキ調整がなされる椀形高坏で、81 は手捏ねの小型土器。

09C 区 046SX 82・83 は壺体部下半から底部片。

09C 区 047SX 85 は口縁部と体部の接合点は確認できなかったが、同一個体と思われる受口状口縁甕である。

09D 区 035SI 89 は口縁部端が肥厚して外面と上面に面をもち、外面は羽状の、内面は斜位の連続刺突が施されている。

09D 区 041SI く字状口縁甕の 91 は、口縁部がやや肥厚して不定形な有段をなす。

09D 区 077SI 92 は受口状の口縁を呈する壺で、端部上面に二枚貝による連続刺突が施される。

09D 区 083SX (SI) 93 の壺底部外面に木葉痕が残る。

09D 区 146SX (SI) 96 は環状底の底部で木葉痕が残る。97 はやや大型の台付甕脚部。98 の高坏脚部は被熱している。

09D 区 160SK 102 は受口状口縁甕で、口縁部端面は水平な面をなす。口縁部屈曲部には連続刺突が、体部上部には横位の直線文とその下に斜位の連続刺突がなされる。

09D 区 209SD ミガキ調整された短頸壺 108 は、口縁部やや下に焼成前の穿孔がみられるが、個数は不明である。

09D 区 003SX 110 は脚付壺の脚部と考えられ、ミガキ調整がなされる。

09D 区 049SX 111 は太頸壺の口縁部で、口縁端部が折り返されて面をなす。

09D 区 058SX 114 は S 字状口縁台付甕 C 類の口縁部となる。

09A・B 区 026NR 1～3 層にわたって接合片が出土した須恵器蓋 120 は、やや砂粒の多い胎土をもつ。時期は H-44 窯式。また同じく 1～3 層にわたって接合片が出土したものに、屈折脚の高坏がある。121～123 は 1 層より出土している。125～135 は 2～3 層にわたって出土する。須恵器 125 は H-15 窯式の、須恵器 126 は I-101 窯式坏身となる。須恵器 127 は H-44～H-15 窯式の高坏の坏部。128 は須恵器高坏の脚部から坏部片。130 は体部がやや横位に広がる短頸壺で、外面がケズリ・イタナデ調整される。131 のワイングラス形の高坏は、坏部内外面に横位のミガキ調整がなされる。132 は大型の壺。134 は体部がやや歪で、肩が張る球形を呈する。外面にはやや細いイタナデ調整がなされる。135 は H-15 窯式の須恵器提瓶で、口縁部の一部が片口状にやや外反する。

136～171 は 3 層から出土している。136・137 は須恵器坏蓋で、136 は H-44 窯式、137 が H-15 窯式に比定される。138 は須恵器高坏で、I-101 窯式に、須恵器短頸壺の 139 は H-15～I-101 窯式となる。140・141 は椀で、140 は平底で口縁部がわずかに外反するもの、141 は丸底で、ナデ・イタナデ調整される。142～144 は甕で、142 は口縁部端が上部に摘み上げられ、144 は端部がわずかに肥厚する。143 は円形の体部をもつ小型甕で、体部下半にはケズリ調整が施されている。

145 は横に長い体部をもつ加飾太頸壺で、口縁部端面には擬凹線と 4 箇所貼付浮文、体部には横位の直線文と斜位の連続刺突が施される。また体部外面の下半部は、横位のミガキ調整がなされた後に細い縦位のミガキがなされる。149 はやや縦長の体部をもつ壺か。155・157 はヒサゴ形壺で、外面には細かい縦位のミガキ調整がみられる。156 の直口壺は下部が器台形となる複合土器と考えられる。158 は脚が付く小型の壺。159 は口縁部と体部の境界がわずかに凹むだけの鉢で、ミガキ調整がなされる。164 は山中式の高坏の坏部で、外面に波状文が描かれる。165 はワイングラス形の高坏と考えられるが、坏部は筒状に縦に長くなる。166 は鉢か大型のワイングラス形の高坏と考

えられ、横位の直線文と外面上部には赤彩が施される。

167・168 は台部が剥離しているやや大型の甕で、167 はハケ調整、168 はナデ調整がなされる。172 は4層から出土した直口壺で、縦位の細いミガキ調整がみられる。173 は深掘りにおいて、現調査の基盤層とした層から出土した瓜郷式の細頸壺で、白色の砂粒を多く含む。

**09C・D区 001NR** 181～185 は1層から出土している。181 はK-90 窯式の灰釉陶器碗。182 は口縁下端部がやや肥厚し、外面に擬凹線が巡る壺。186 は1層と3層出土片が接合したく字状口縁甕で、脚部が打ち欠かれて、甕が自立できるようにしている。187～193 は2層から出土している。187 はK-90 窯式の灰釉陶器の碗で、「□」または「□□」文字が書かれるが、判読は不明である。190～192 はS字状口縁台付甕で、190・191 はA類、192 はB類に比定される。193 は製塩土器の脚部。194～201・202・203 は3層から出土している。196 は碗形高坏と考えられるが、脚部が太く短い。199・201 は平底甕で、199 は小型でやや凹んだ底部をもち、201 はわずかに上げ底になる。202 の高坏は脚部端部が外湾して折れる。3層よ4層出土片が接合している。203 は口縁部が大きく逆ハ字状に開く高坏で、内外面とも細かいミガキ調整がなされる。204～207 は4層から出土している。204 はわずかに内湾する口縁部をもつ受口状口縁甕で、口縁部端面は外傾し面をなす。205 は小型の加飾壺で、胎土は極めて精良である。口縁部外面には擬凹線が、内面にはイタと半裁竹管の連続刺突、体部外面には直線文と山形文、さらにその下位にはイタ角と半裁竹管の連続刺突が巡る。207 は大型の筒状土器であるが、器種は不明。底部は広い平底となる。

## (2) 遺構外出土 (第108図)

174 はH-72 窯式の灰釉陶器の碗。175 は円柱状の土師質の土製品で、上部は接合面となる可能性もある。180 はS字状口縁台付甕C類。

## 平成25年度調査 (13A区・13B区)

### (1) 遺構内出土 (第110～113図)

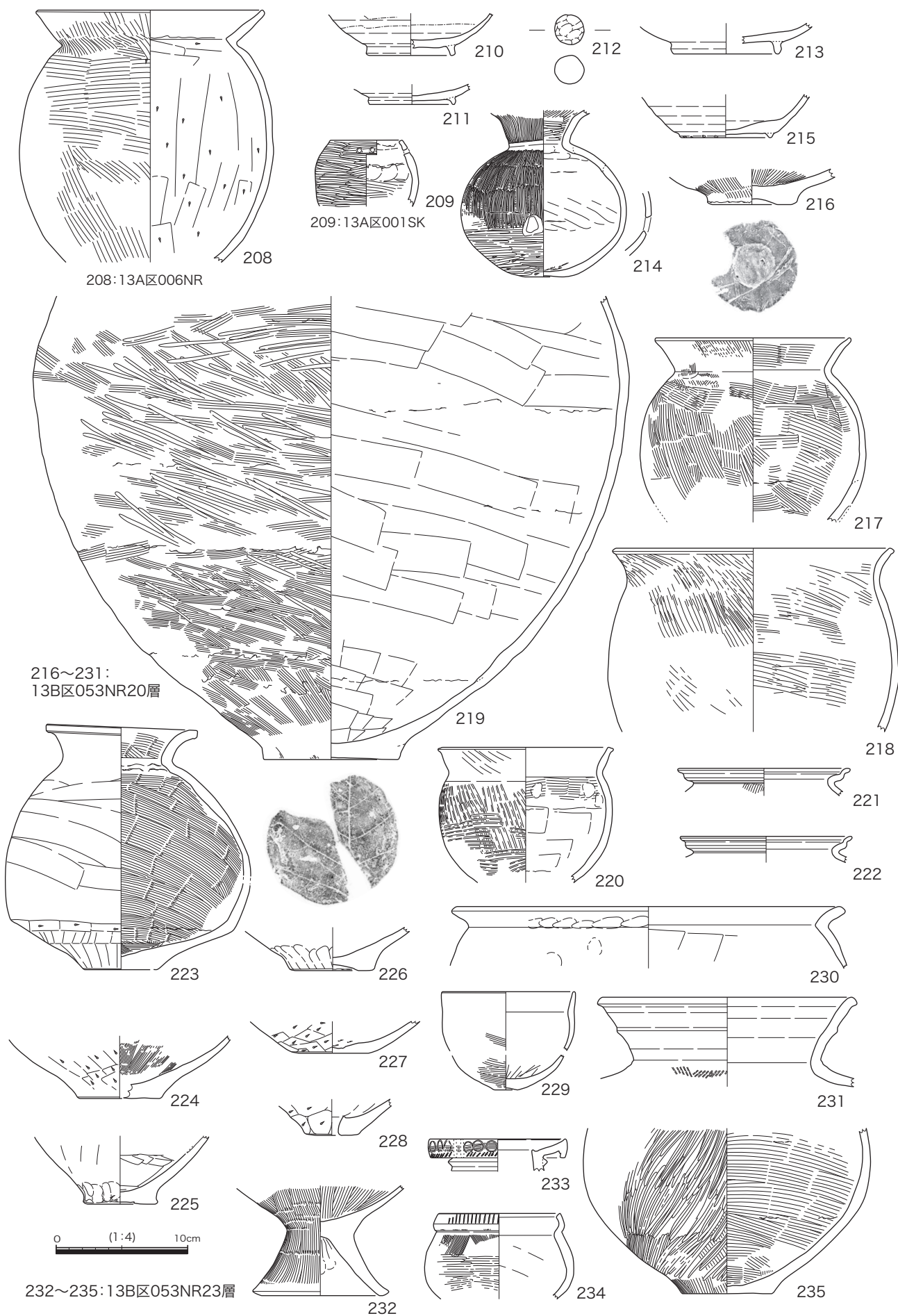
**13A区 006NR** 208 はやや内湾する口縁部をもつ甕で、粗い条痕状のハケが施される。外面は器面の剥離が激しい。

**13A区 001SK** 209 は細かい横位のミガキ調整がなされる鉢で、上部に2つの焼成前穿孔がみられるが、穿孔箇所数は不明である。

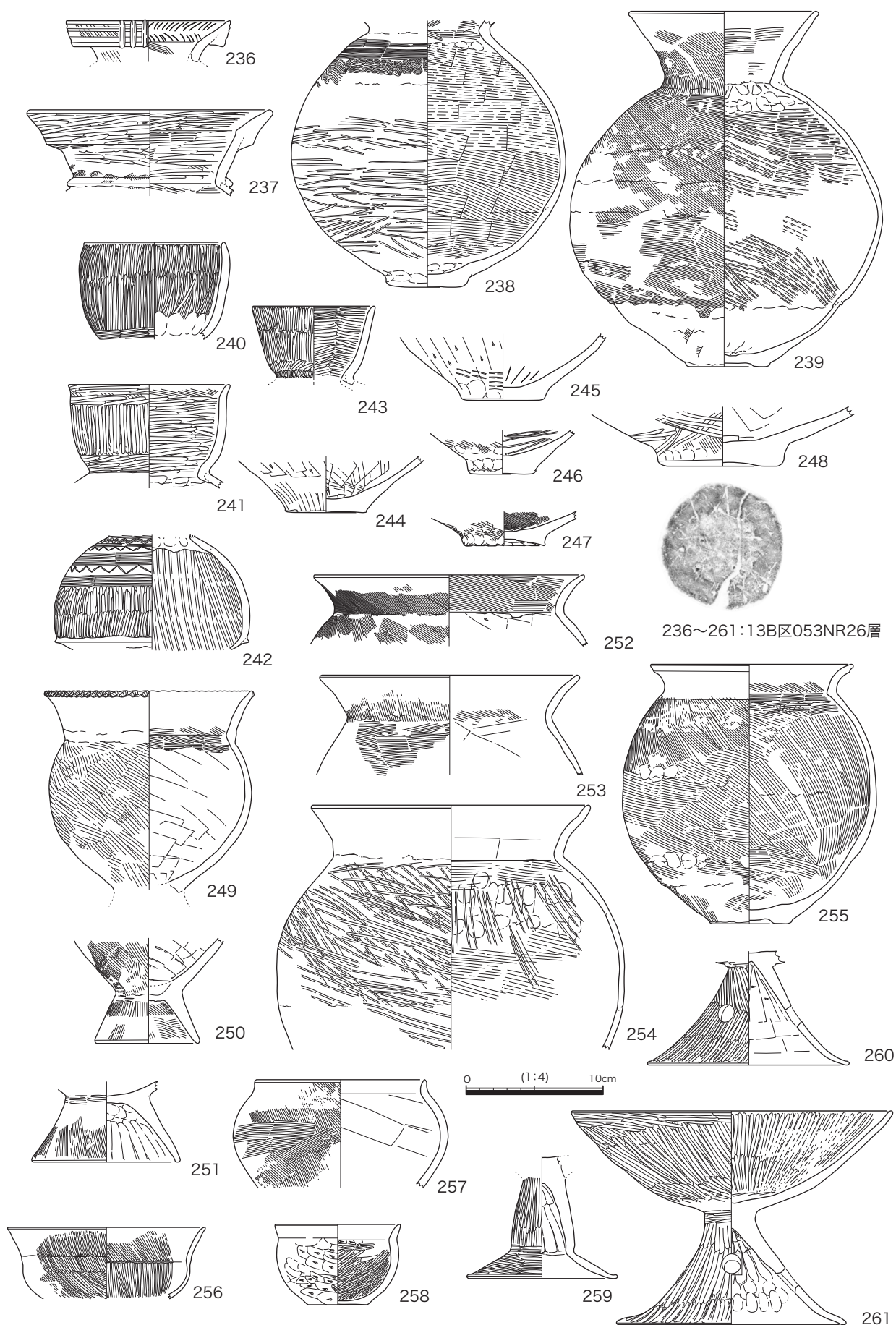
**13B区 053NR** 219 の大型壺は20層と23層出土片が接合している。外面はハケ・ミガキ調整がなされ、底部外面には木葉痕がみられる。220と223 は20層・26層・44層出土片が接合している。220 は小型の甕で条痕状の粗いハケが施されている。223 は、体部最大径が体部下半になるもので、ナデ・ケズリ・ハケ調整がなされる。217・218・221・222・224～231 は20層出土のものである。221・222 はS字状口縁台付甕C類。228 はケズリ調整される有孔鉢。229 は上下が接合しないが、やや上げ底の鉢になると思われる。230 は三河型甕。231 は須恵器甕の口縁部で、8世紀代に比定される。232～235 は23層から出土している。233 は加飾太頸壺で、頸部が垂直に立ち上がる。234 は受口鉢で、口縁部外面に連続刺突が施されている。

236 は26層と44層出土片が接合している。口縁部外面には擬凹線と棒状浮文が、内面には羽状の連続刺突が施されている。237～261 は26層から出土している。237 は口縁部が肥厚して有段状に面をなすもので、頸部に突帯が巡る。全面が横位のミガキ調整がなされる。238 は加飾太頸壺で、体部は円球状に膨らみ、体部上半には直線文と細かい波状文が施される。また体部下半は細かいミガキ調整がなされる。239 は大型の直口壺で、環状底をなす。241 は内湾する口縁部をもつヒサゴ形壺で、



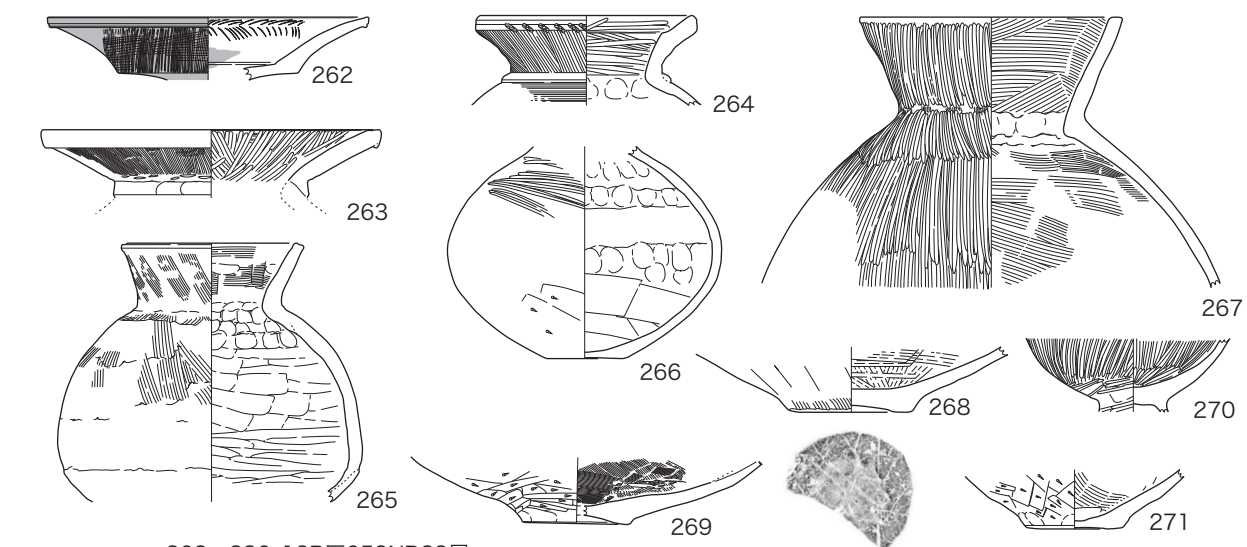


第110図 下懸遺跡 13A・B区出土土器・土製品1 (S = 1/4)

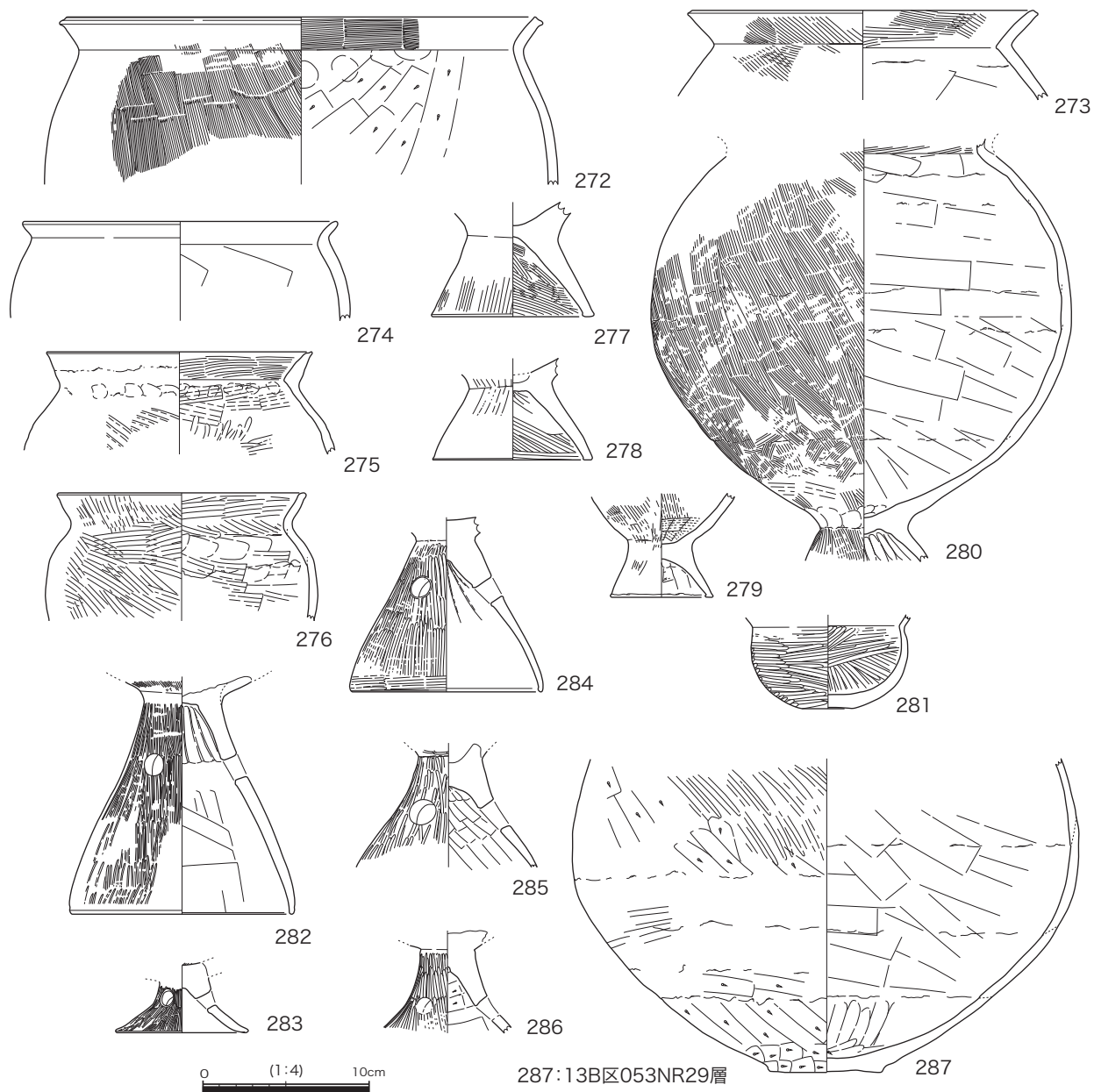


第 111 図 下懸遺跡 13A・B 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)

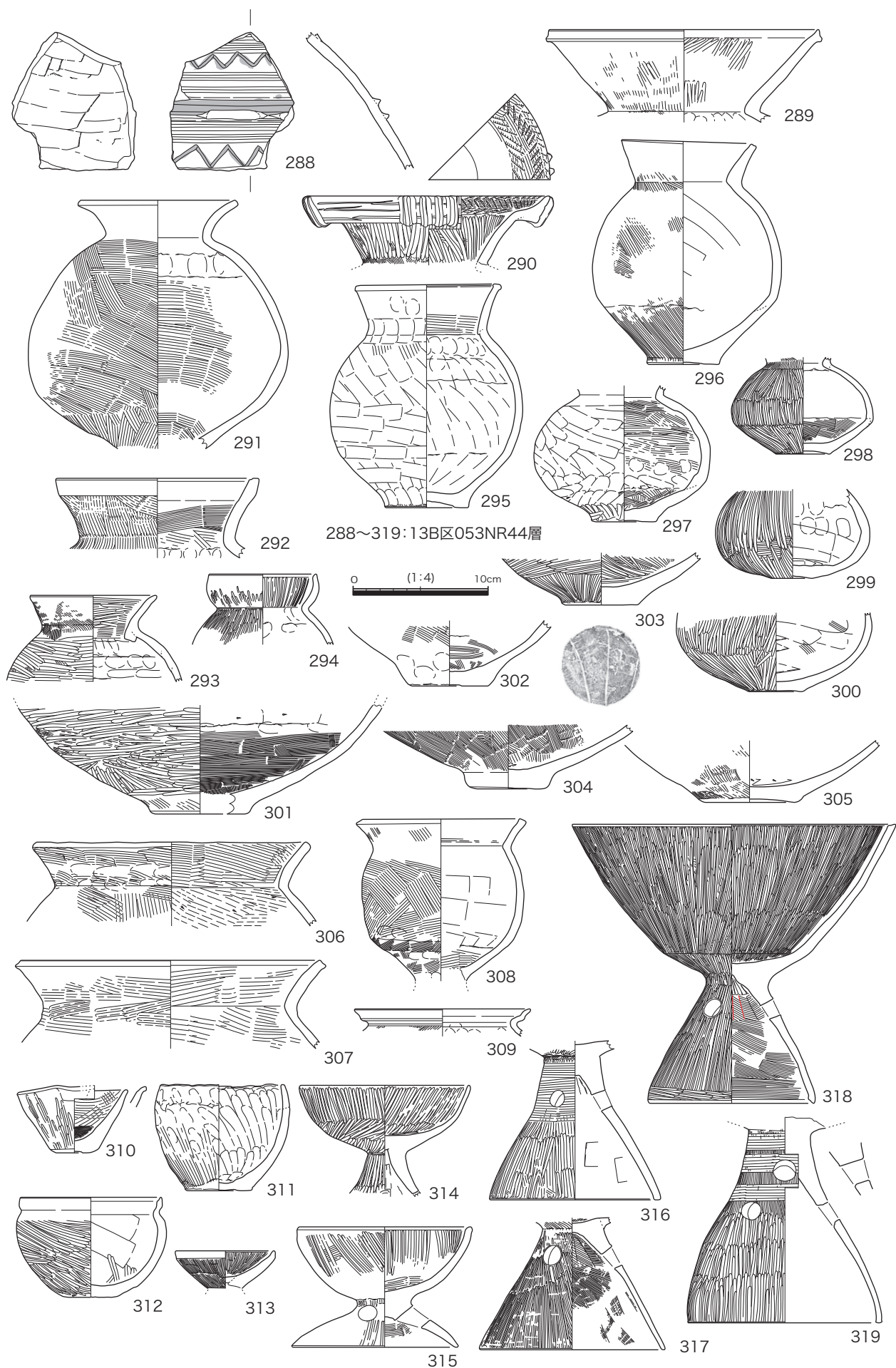




262~286:13B区053NR28層



287:13B区053NR29層



ミガキ調整がなされる。242 は加飾壺と器台の複合土器と思われる。体部外面上半には横位の直線文と山形文が施され、ミガキ・イタナデ調整がなされる。249 は口縁部が体部に比して長く逆八字状に延びる甕で、端面には斜位の連続刺突がなされている。254 の甕は、体部外面に粗く、やや不定方向のハケが施されている。255 は環状底をもつ平底甕で、口縁部はやや外湾して延び、端部がやや凹んだ面をなす。256 はミガキ調整が、258 はケズリ・ナデ調整がなされる鉢。259 は屈折脚高坏の脚部で、上部が縦位、下部が横位のミガキ調整がなされる。261 は4方向に透し孔があるが、隣り合うものは高さが異なり、向かい合うものは同じ高さに穿たれている。

262～286 は28層から出土している。262 は外面に赤彩が施される二重口縁壺の口縁部。264 は内面に段をもつ口縁部の端面下部に斜位の連続刺突が施されている。267 は大型の直口壺で、縦位のミガキ調整がなされる。270 の器種は不明であるが、脚台付壺になる可能性も考えられる。272 は頸部があまり絞られない甕で、口縁部端面は内傾して面をなす。287 の大型壺は29層から出土している。

288～319 は44層から出土している。288 はパレススタイル壺の体部で、突帯と山形文には赤彩が施されている。290 は加飾太頸壺で、口縁部は内面に段をもって折れ、斜め上方に延びて外傾する面をなす。口縁部端面には不明瞭ではあるが、擬凹線が巡り、棒状浮文が取り付けられる。内面は羽状の連続刺突。295・296 は直口壺に分類され、両者とも底部が上げ底となる。303 は底部外面に木葉痕が残る。310 はミガキ・ハケ調整がなされる鉢で口縁部の一部が外に折れて片口状を呈する。311 は口縁部が波状となる鉢で、ナデ調整される。312 は斜位のミガキ調整が施される鉢。319 の高坏の脚部は2段の透し穴が3方向に穿たれるが、それぞれの位置が異なっている。

## (2) 遺構外出土 (第110図)

210・211・213 は0-53 窯式の灰釉陶器碗。214 の直口壺は細かいミガキ調整がなされ、体部中央に焼成後の穿孔がみられる。216 の壺底部外面には植物の茎のような痕跡がみられる。

## 平成25年度調査 (13C区)

### (1) 遺構内出土 (第114～117図)

**001SX** 320・321 は口縁部端がわずかに上方に延びて面をなす太頸壺で、320 は斜位の連続刺突が施される。322 は内面と外面に竹管を束ねた工具による連続刺突が施される。327 は凹線文系土器の細頸壺、328 は古井式の壺になる。

**011SI** 329 の太頸壺の口縁部端面には斜位の連続刺突が施される。

**017SI** 331 の壺口縁部と体部には接合部はないが同一個体と考えられ、322 も同じものになる可能性がある。322 の底部外面には木葉痕が残る。333 は脚台付壺の脚部か。334 は内湾する、335 はゆるやかに外湾する口縁部をもつ。

**021SI** 加飾太頸壺 336 の口縁部内外面には赤彩が施される。

**035SI** 339 の甕は口縁部がく字状に急激に折れ、内面が平坦な面をなす。体部内面は頸部までケズリ調整がみられる。

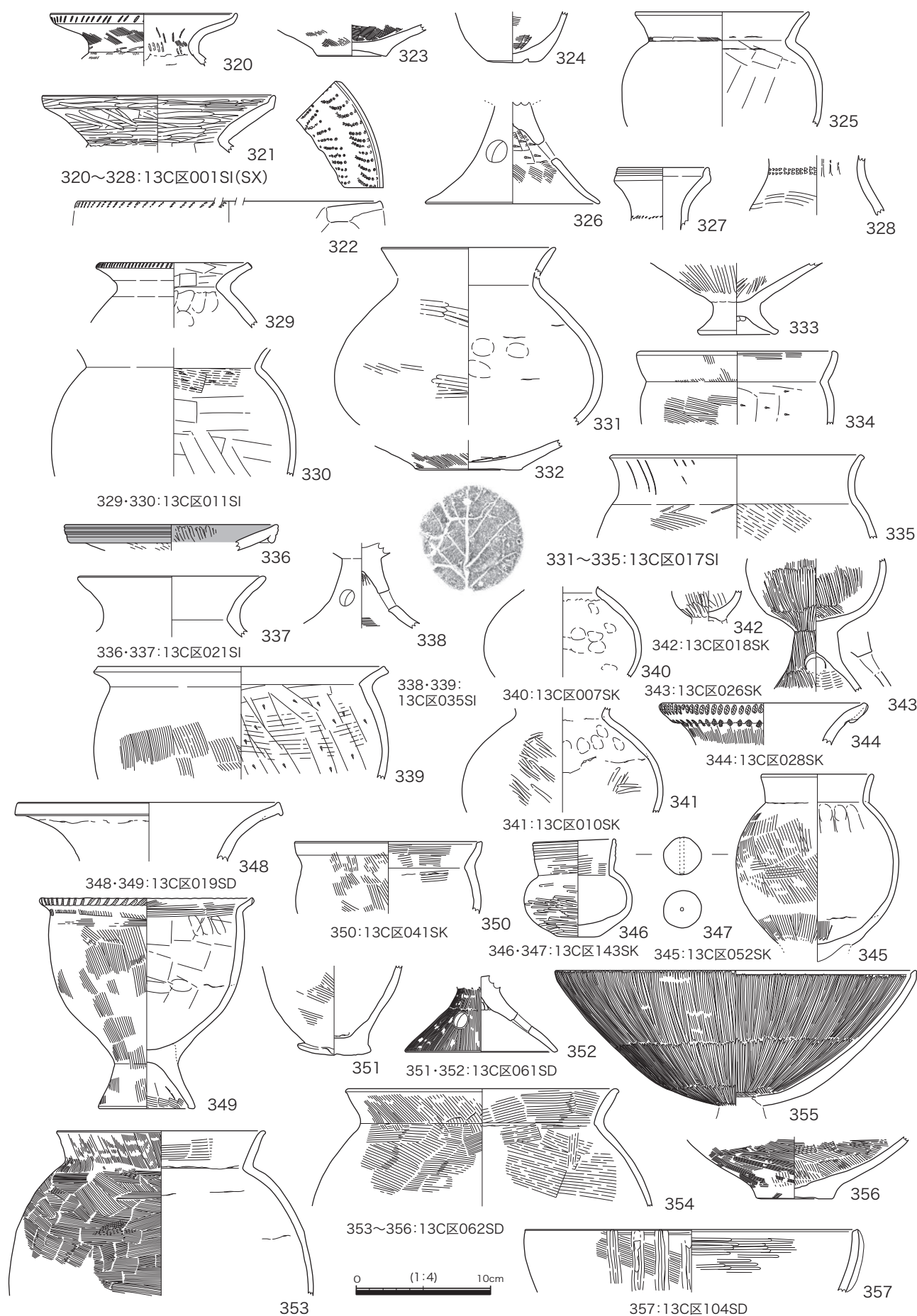
**026SK** 344 は折り返した口縁部をもち、有段状の面をなす。外面部と下端にはやや太い連続刺突がなされている。

**052SK** 345 の甕は直立して延びる口縁部をもつ。体部もやや縦長である。

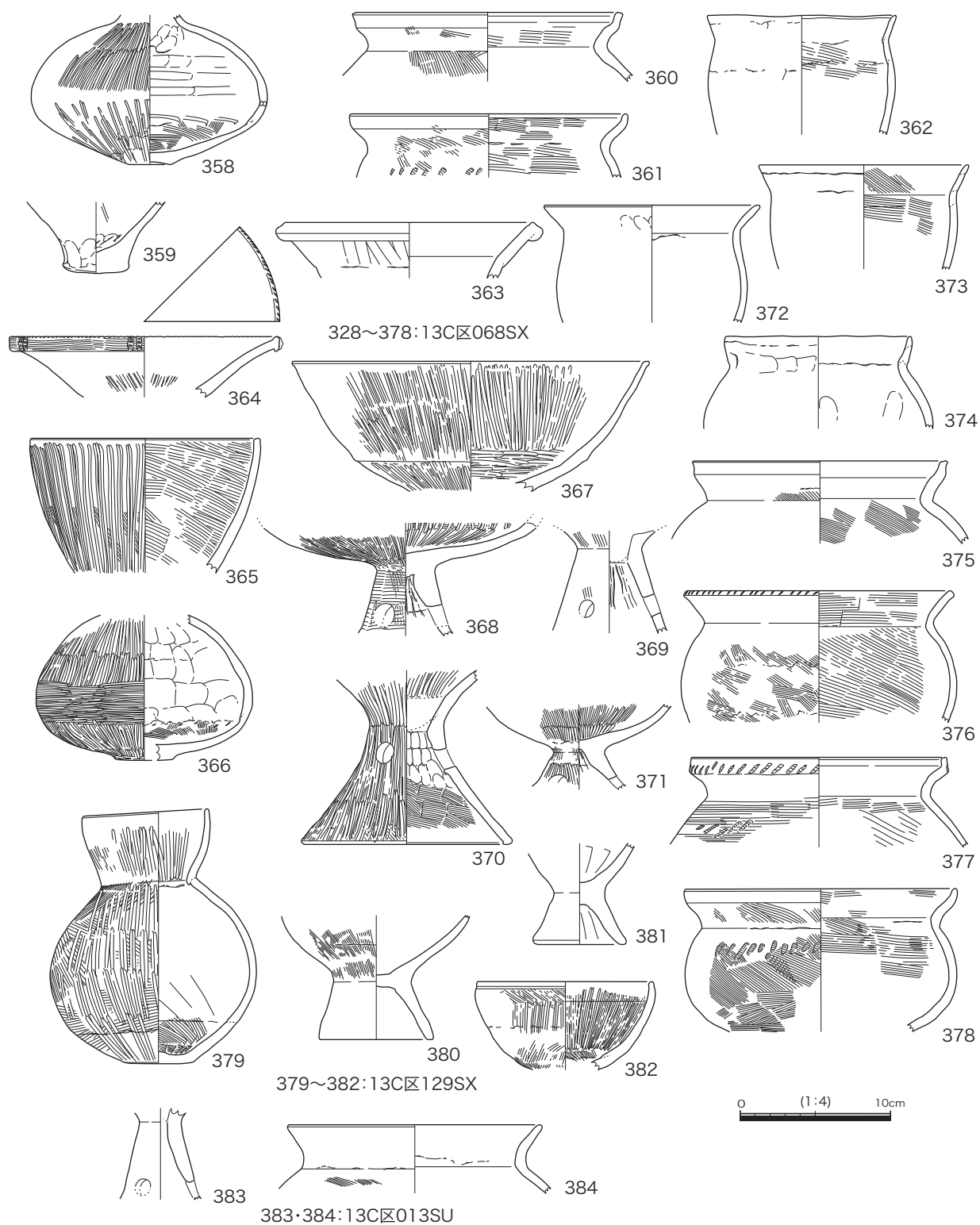
**143SK** 346 は口縁部上端に直線文が巡る直口壺。347 は小さな孔を有する土玉。

**019SD** 349 は口縁部が短く折れる甕で、外面には連続刺突がなされる。



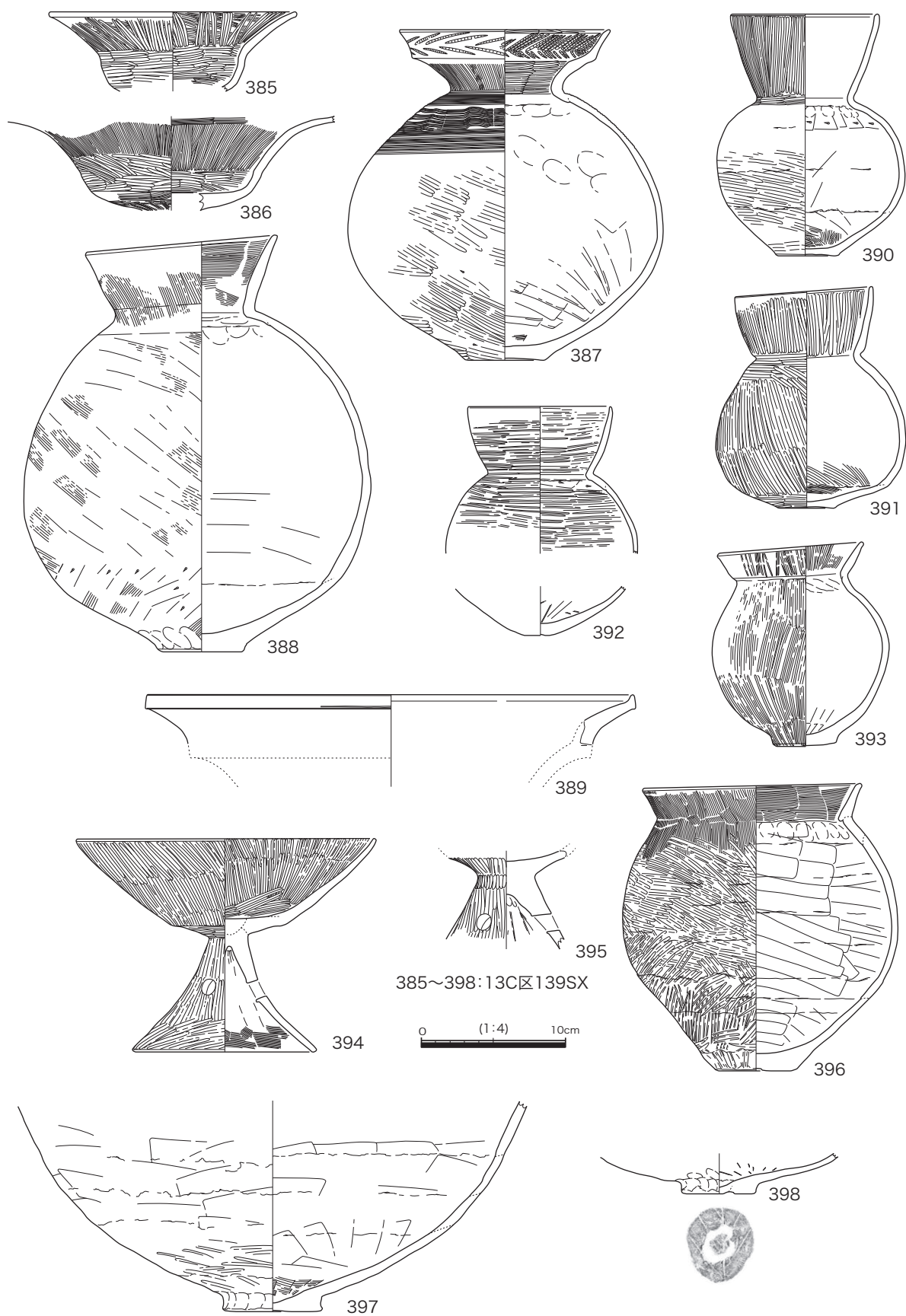


第114図 下懸遺跡 13C区出土土器・土製品1 (S=1/4)

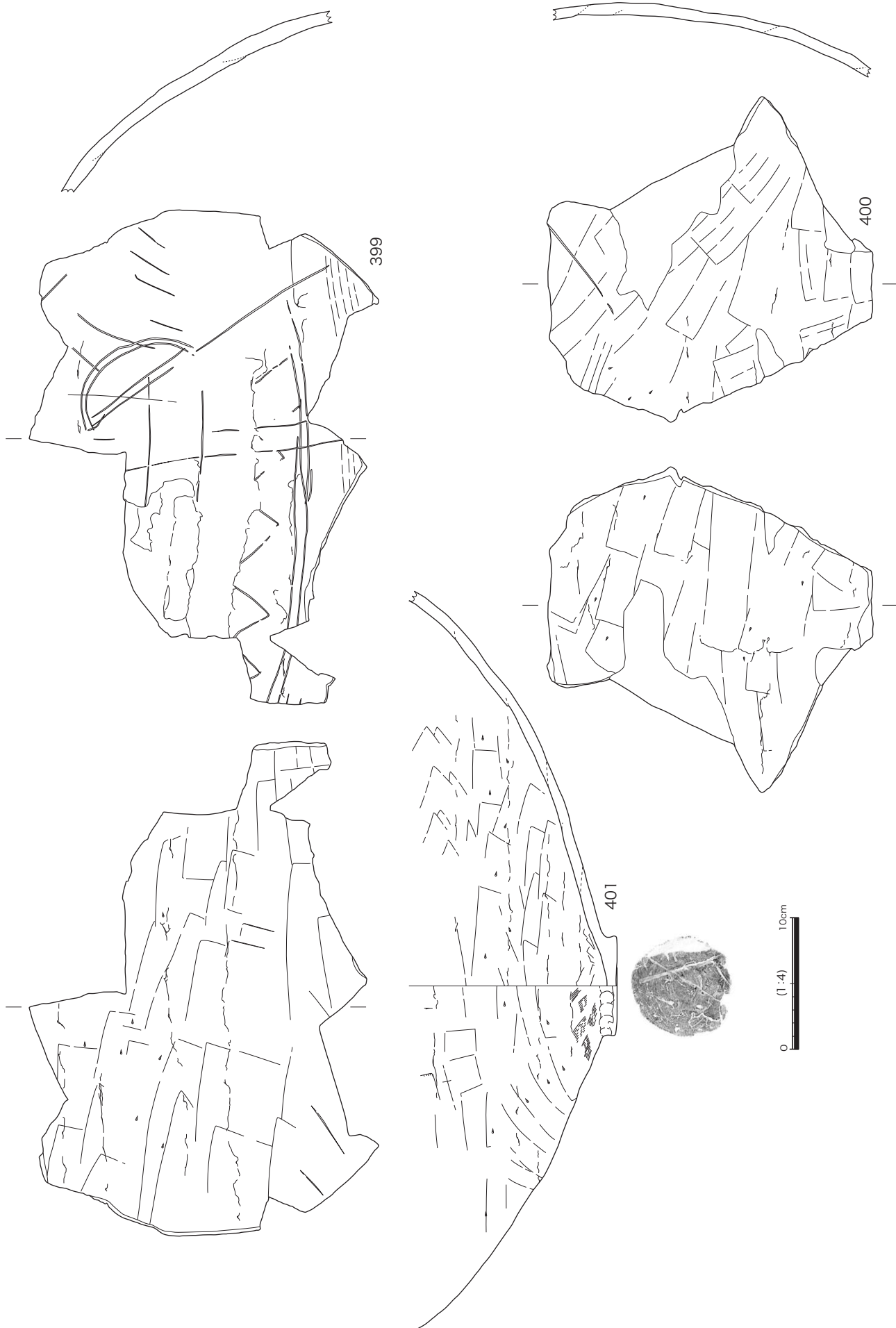


第 115 図 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)





第116図 下懸遺跡13C区出土土器・土製品3 (S = 1/4)



第 117 図 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 4 (S = 1/4)

**062SD** 355 は受部と立ち上がり部に稜線がない高坏の坏部で、内面には輪状に煤・炭化物が付着する。357 は大型の有段壺口縁部の口縁部と思われ、4 条の棒状浮文が貼付される。

**068SX** 363・372～374 は下層から、375 は下層と最下層片が接合し、364～371・376～378 は最下層から出土している。358 は体部が横長な直口壺。360・361・375・377 は受口状口縁甕で、361 は体部に、377 は口縁部外面と体部に斜位の連続刺突が施される。378 は受口状口縁をもつ鉢で、体部に連続刺突が巡る。370 は坏部と脚部の充填部が剥離した高坏。

**129SX** 379 はミガキ調整されたヒサゴ形壺、382 は、椀形の高坏になる。

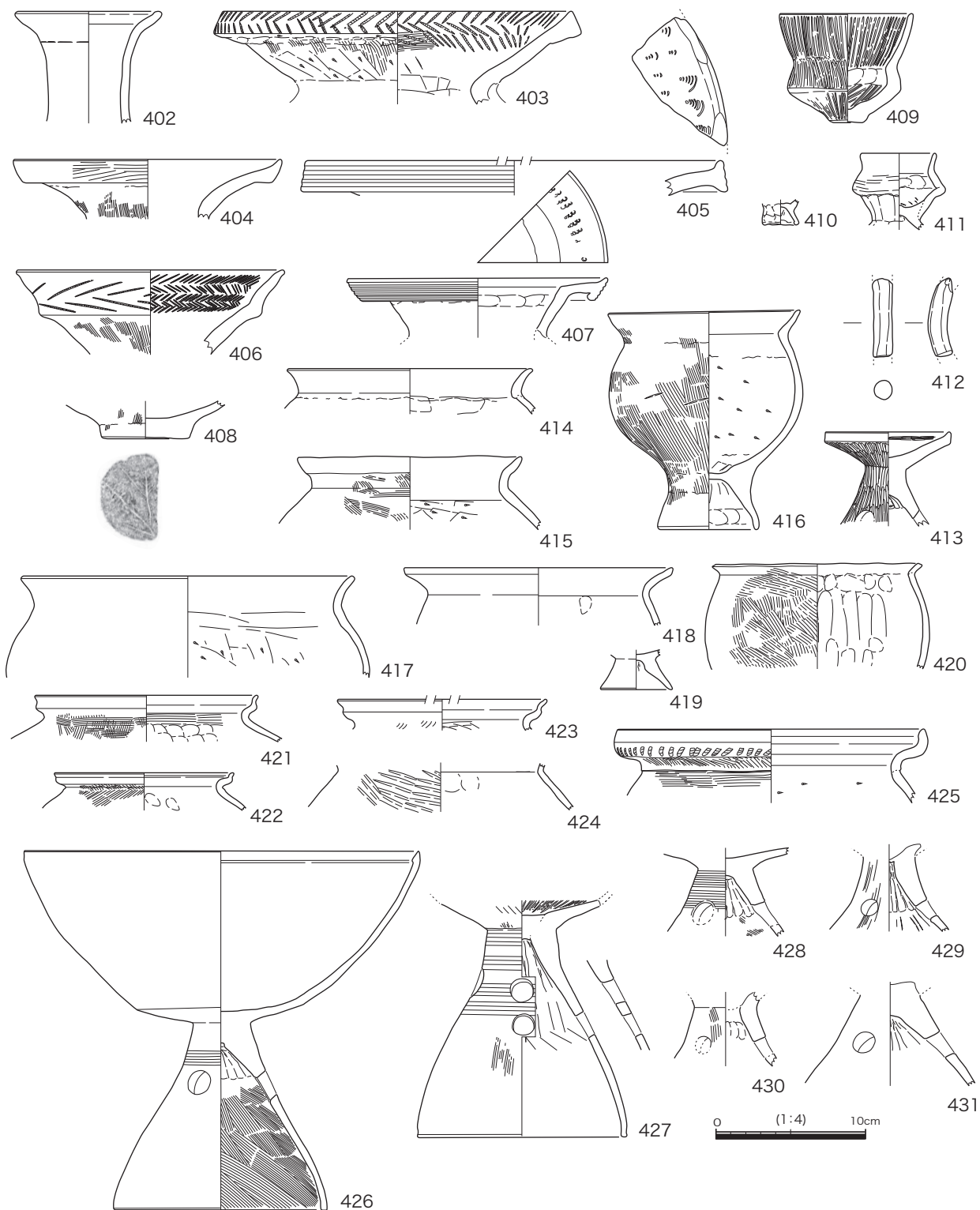
**139SX** 385・386 は口縁部が大きく外に開く高坏の坏部で、丁寧なミガキ調整がなされる。387 は柳ヶ坪型土器で、有段口縁を有する。口縁部内外面には羽状の連続刺突が、体部外面上半には直線文と波状文が施されている。388 は太頸壺で、外面はハケ調整の後イタナデ・ケズリ調整がなされる。389 は二重口縁部の口縁部か。390～392 はヒサゴ形壺で、392 は横位のミガキ調整がなされる。396 はく字状口縁を有する平底甕で、体部外面には条痕状の粗いハケ調整がなされている。399～401 は大型壺片で、接合はしなかったが同一個体と考えられる。401 の底部は小さく、外面に木葉痕が残る。399・400 の外面には細い工具による線刻が施されている。399 は、横に延びる 2 条の沈線とその上で間隔を空けて平行に走る 2 条の沈線、さらに直交して平行に走る 2 条の沈線があり、横位の 2 条の沈線の上部には山形文状も文様がある。またその右側には 2 条の沈線で描かれる、左に傾いた D 字状の線刻がある、下端部の 1 条が右下に延びる。その他複数の斜位の沈線があるが、線刻かどうかははっきりせず、調整痕の可能性もある。400 の外面にも 1 条の斜位の沈線が走る。

## (2) 遺構外出土 (第 118～120 図)

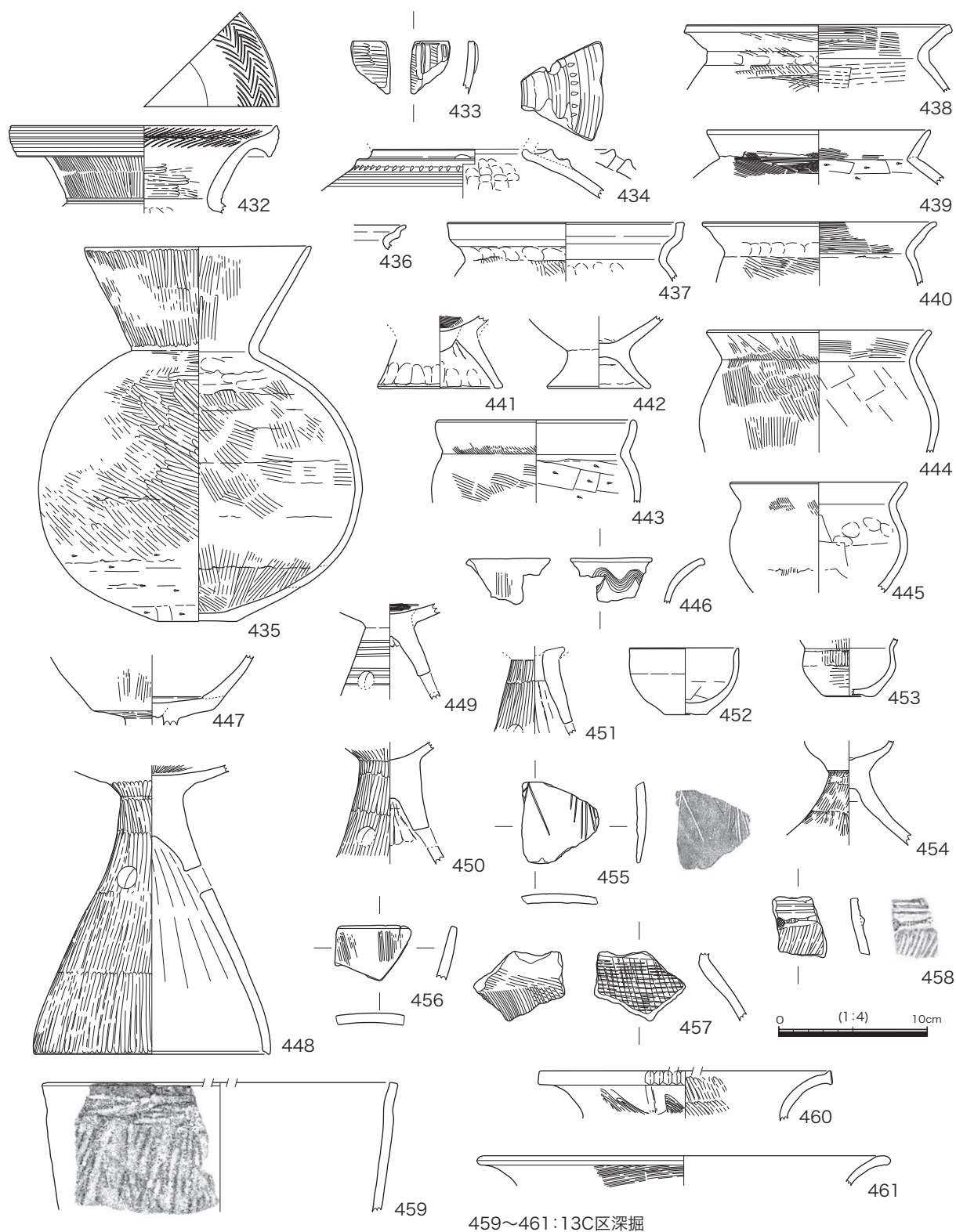
402 は弥生時代中期の細頸壺。403 は口縁部が肥厚して面をなす加飾太頸壺で、内外面に羽状の連続刺突がなされる。406 は柳ヶ坪型土器。407 は口縁部が横に屈曲して端部が上下に肥厚して面をなす加飾太頸壺で、内面には竹管もしくは棒状工具を束ねたものによる連続刺突がある。410・411 は手捏ねの小型土器。421～423 は S 字状口縁台付甕で、B 類または C 類か。424 はタタキ成形がなされる甕。425 は受口状口縁甕で、口縁部下端に連続刺突が巡る。426 は坏部端面が外傾する面をなす。427 は上下 2 段に透し孔が穿たれるが、上下の地点が異なっており、1 箇所のみ同じ方向で穿たれる。

432 は口縁部がゆるやかに外反する加飾太頸壺で、外面に擬凹線、内面には羽状の連続刺突がなされる。433 は棒状浮文が貼付される壺口縁部か。434 の加飾壺の突帯間には 1 孔の焼成前穿孔がある。435 は大型の直口壺で、ミガキ・ケズリ・ハケ調整がなされている。455 はハ字状の沈線文が描かれる弥生時代の壺。456 は側面が研磨された土器片で、上下面もわずかに研磨されている。457 はタタキ成形された甕で、弥生時代の凹線文期に比定される。458 は突帯及びき条線に二枚貝が用いられる条痕土器で、壺になるか。時期は、縄文時代晩期末か弥生時代中期前葉のどちらかであろう。459 はやや粗い条痕調整がされる深鉢で、縄文時代後期後半に比定される。460 は古井式の壺、461 は朝日式の条痕甕か。457・459～461 は深掘りをした時に調査時の基盤層から出土している。

462 は須恵器坏蓋で 8 世紀前半に比定される。463・464 は須恵器長頸瓶。466～471 は灰釉陶器の椀で、466～470 は O-53 窯式に、471 は H-72 窯式に比定される。471 の底部外面には、3 字が縦に描かれる。文字は「□□□」か「□□房」と判読される。472 は須恵器壺または甕。473～475 は山茶碗である。476 は平瓦片で、上面や破面には煤・炭化物が付着する。

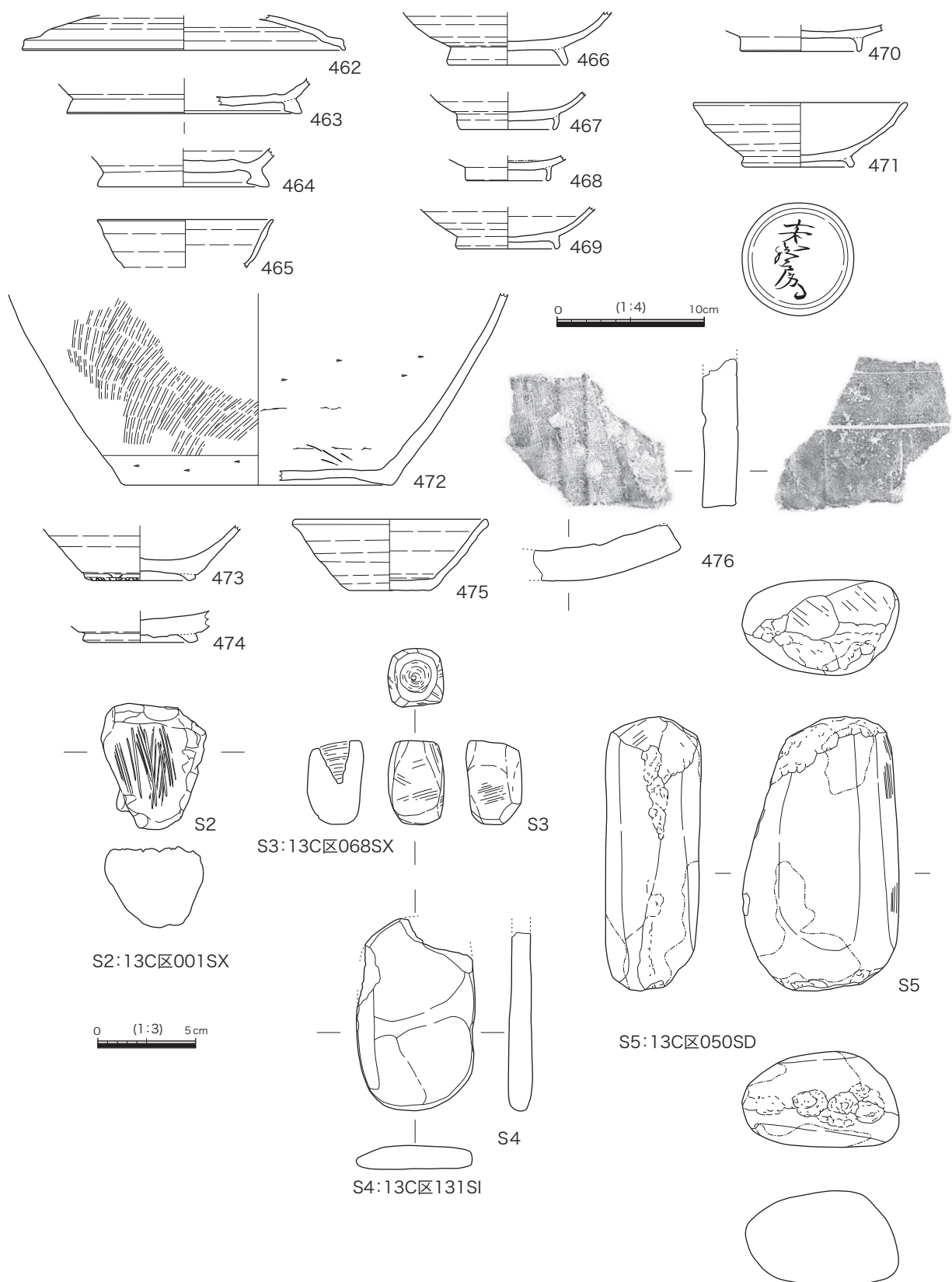


第 118 図 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 5 (S = 1/4)

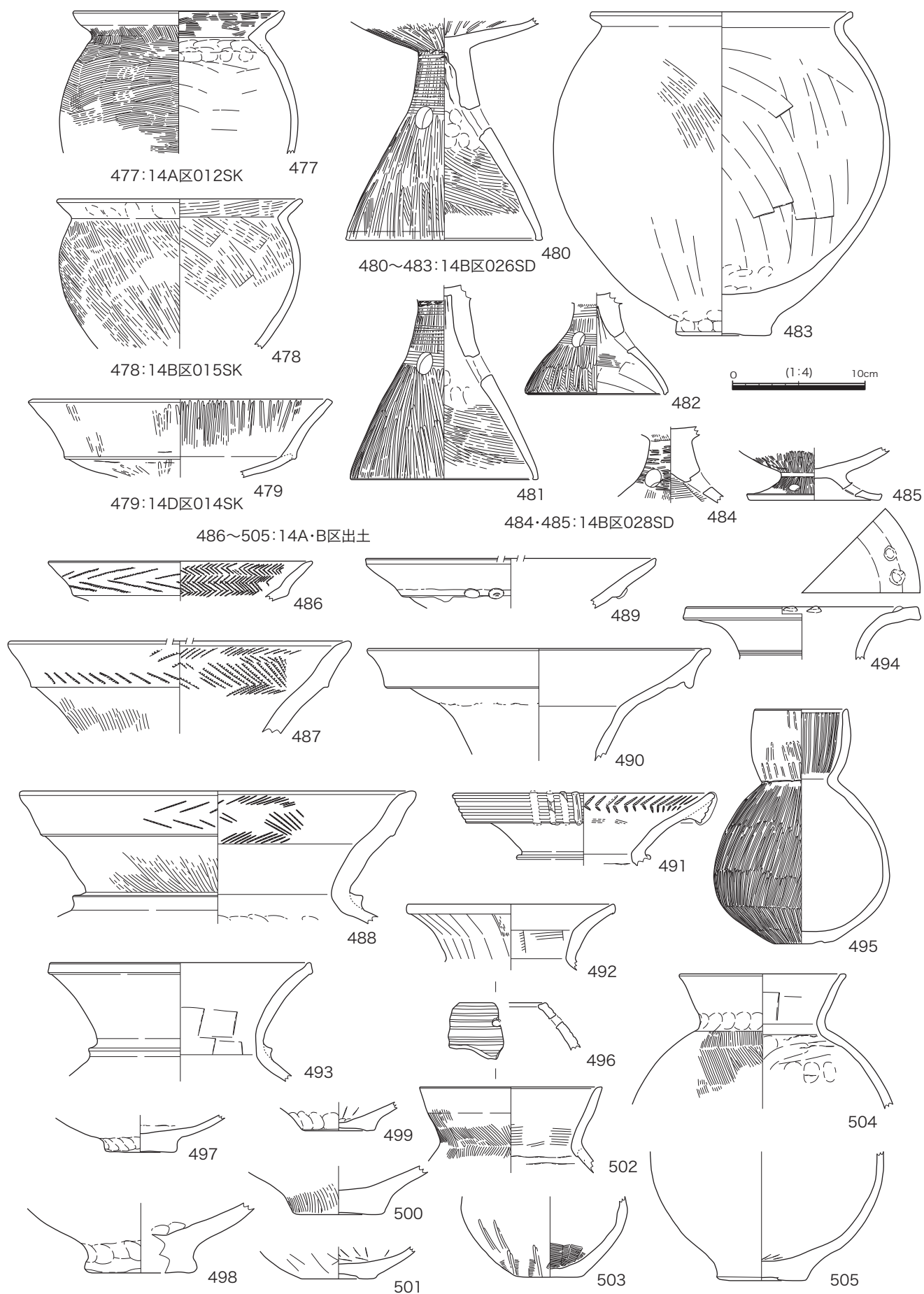


第119図 下懸遺跡 13C区出土土器・土製品6 (S = 1/4)



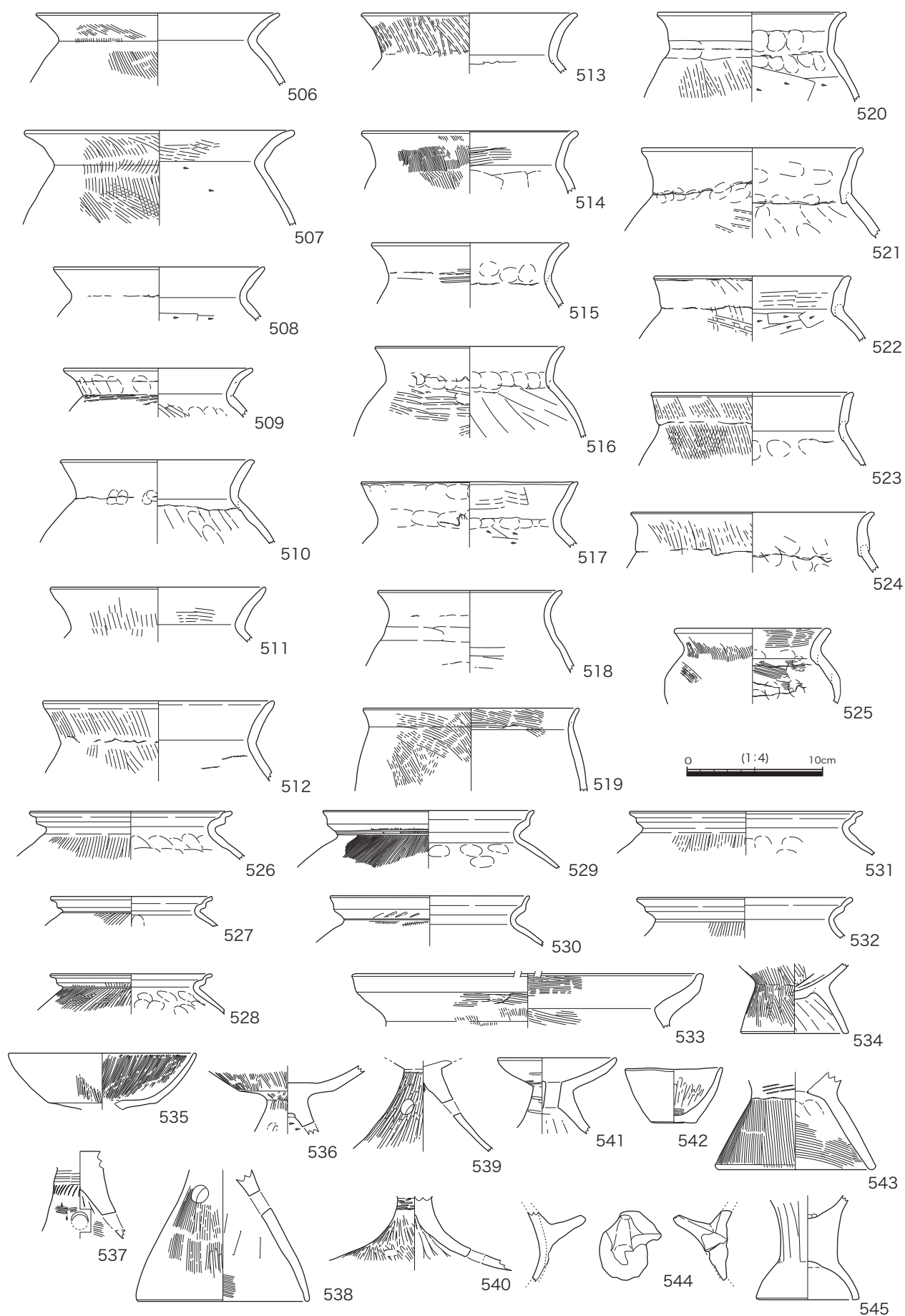


第 120 図 下懸遺跡 13C 区出土土器・土製品 6、石製品 (S = 1/4、1/、1/3)





506~545: 14A・B区出土



第 122 図 下懸遺跡 14A・B・C・D 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)

## 平成 26 年度調査 (14A 区・14B 区・14C 区・14D 区)

### (1) 遺構内出土 (第 121 図)

14A 区 012SK 477 は口縁部がわずかに内湾する甕。

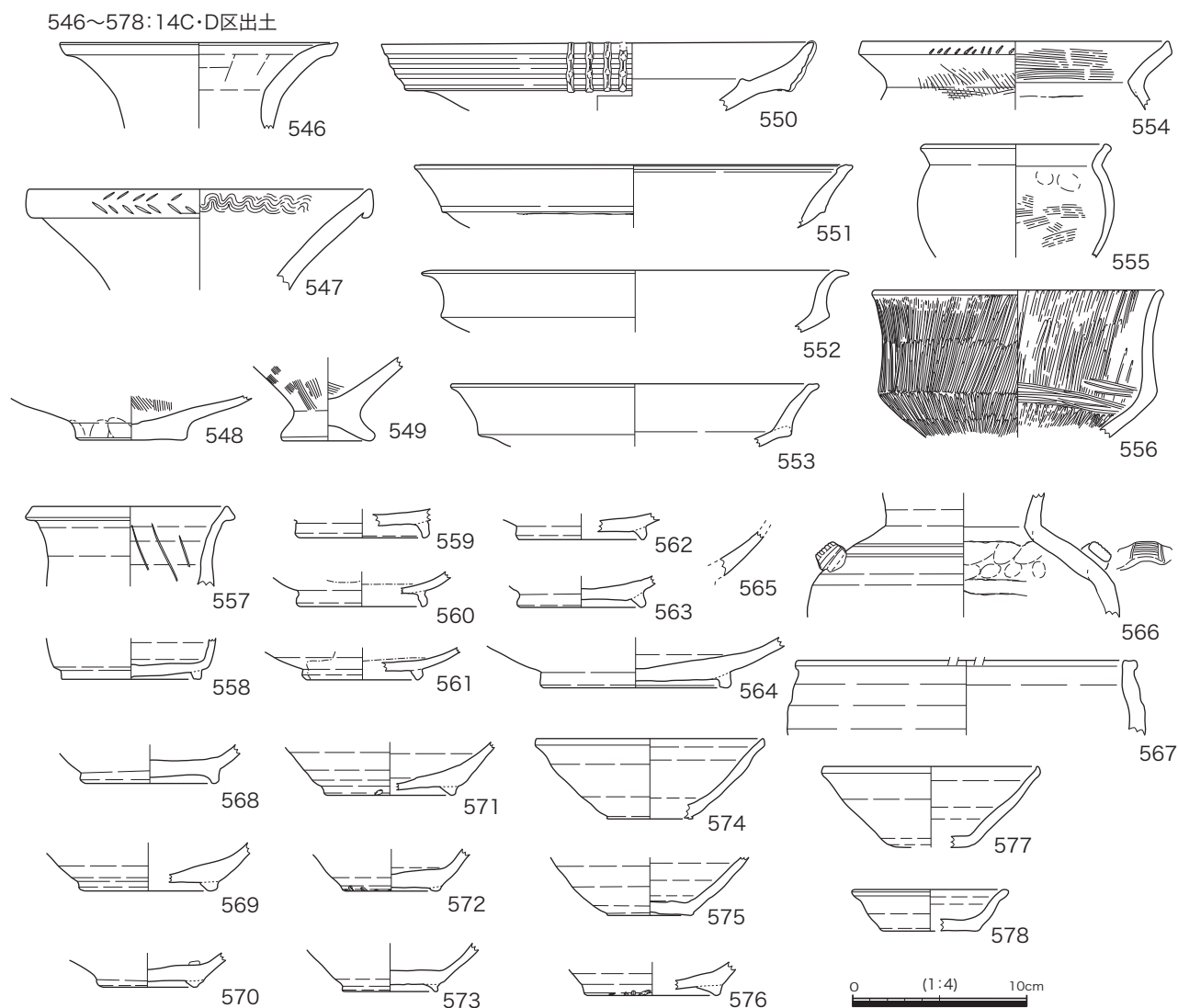
14D 区 014SK 479 は山中式の無飾の高杯の坏部。

14B 区 026SD 480・481 はやや長脚の高杯の脚部。483 は短く折れる口縁部をもつ平底の短頸壺。底部は厚く、外面では条痕状のハケ調整がわずかに確認できる。

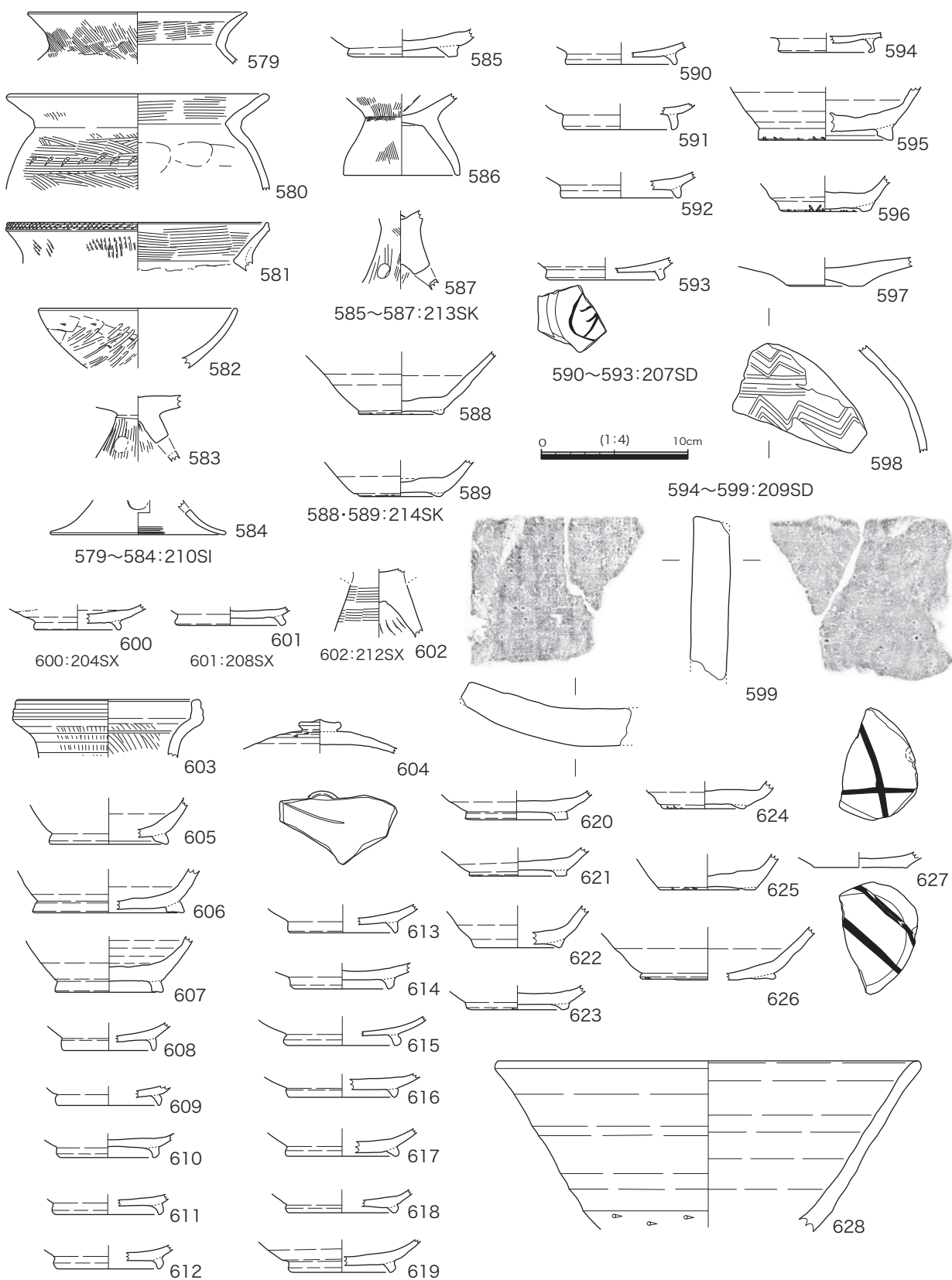
14B 区 028SD 485 は脚台付壺の脚部か。3 方向に透し孔が穿たれる。

### (2) 遺構外出土 (第 121 ～ 123 図)

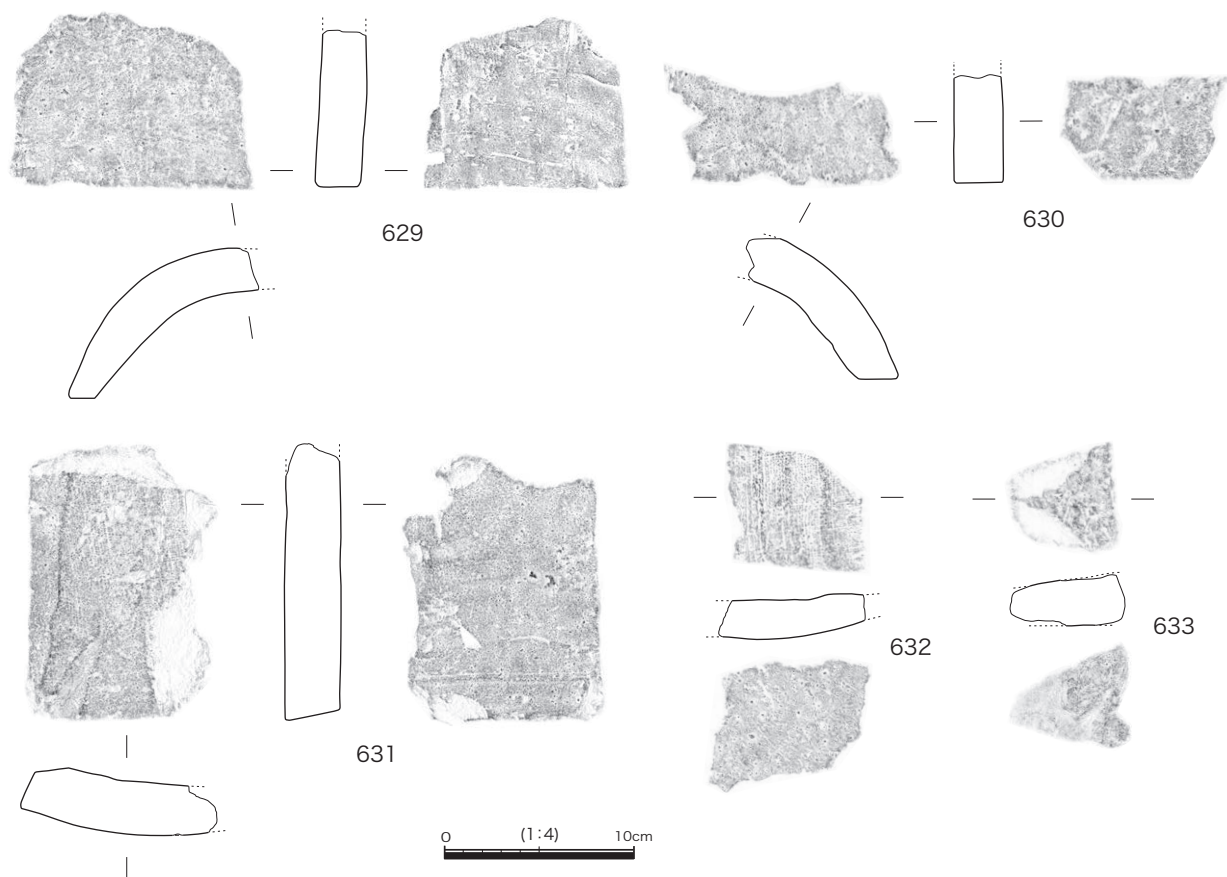
486 ～ 488 は広義の柳ヶ坪型土器になる。489・490 は二重口縁壺で、489 の口縁部下端には円形浮文が貼付されている。491 は加飾太頸壺で、口縁部外面には擬凹線と棒状浮文、内面には羽状の連続刺突が施される。494 は 2 個の貼付浮文と 1 条の沈線が巡る。時期は弥生時代中期か。495



第 123 図 下懸遺跡 14A・B・C・D 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)



第 124 図 下懸遺跡 15 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)



第 125 図 下懸遺跡 15 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)

はヒサゴ形壺。496 は無頸壺で、外面には直線文が巡り、焼成前穿孔がある。

506 ～ 525 はく字状口縁甕で、513・516・520・523 には条痕状の粗いハケ調整がなされる。526 ～ 532 は S 字状口縁台付甕で、全て C 類に分類される。537 は直線文と二枚貝による連続刺突が施される高杯の脚部。544 はヘラ成形がされる把手状の土器であるが、時期は不明である。545 は弥生時代中期の古井式の甕脚台部。

547 は口縁部端が折り返されるように下方に延びる太頸壺で、外面には羽状の連続刺突、内面には波状文が描かれる。549 は短い脚台部が付く甕か。551 ～ 553 は無飾の山中式高杯の坏部。556 は大型のワイングラス形の高杯の坏部か。縦位のやや細いミガキ調整がなされる。557 は 7 世紀代の須恵器壺または横瓶の口縁部になる。558 は須恵器有台坏で、O-10 窯式に比定される。559 ～ 564 は灰釉陶器碗で、559・560 は K-90 窯式、561・562 が O-53 窯式、563 は H-72 窯式に比定され、大型碗である 564 は K-14 窯式になる。565 は浅黄緑色を呈する釉陶器片。566・567 は中世後期のもので、566 は古瀬戸の瓶、567 は鉢になる。568 ～ 578 は山茶碗で、概ね南部系山茶碗の第 7 型式から第 9 型式に比定される。

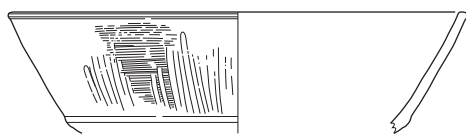
## 平成 27 年度調査 (15 区)

### (1) 遺構内出土 (第 124 図)

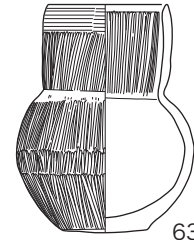
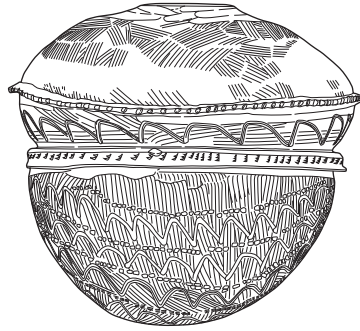
**210SI** 579 ～ 581 はく字状口縁甕で、580 は体部外面にイタによる連続刺突、581 は口縁部端面に細かい連続刺突が施される。また外面には粗いハケ調整がみられる。

**213SK** 585 は山茶碗の底部で、破面が打ち欠かれている可能性がある。

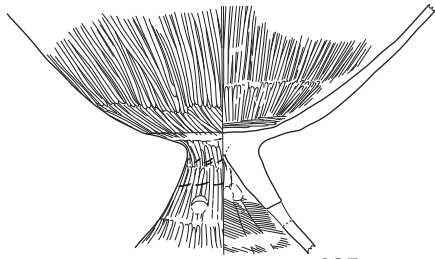




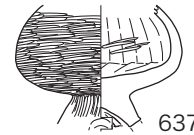
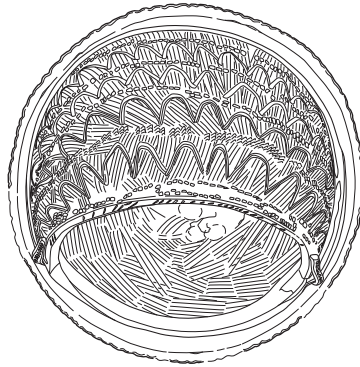
634: A区045SD(112SZ) 634



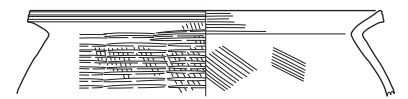
636



635: A区046SD(115SZ) 635

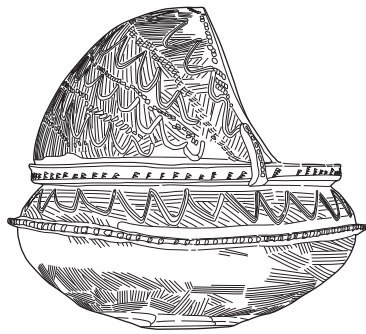


637

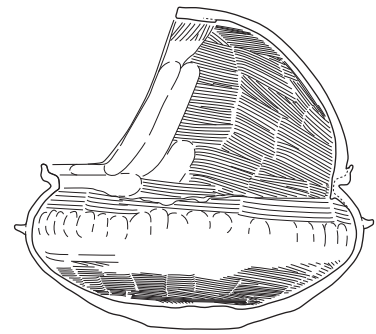


638

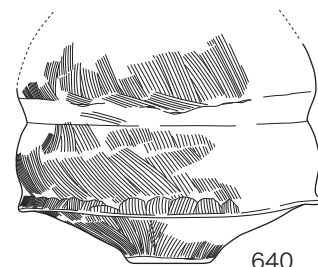
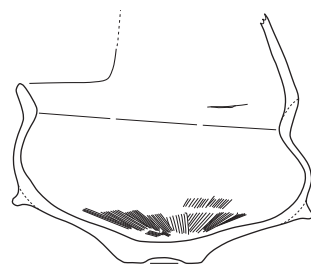
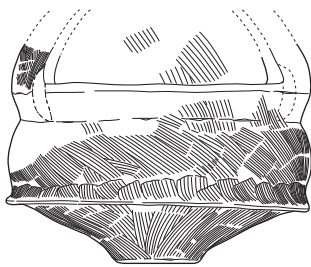
636~638: A区048SD(116SZ)



639: A区025SD(113SZ)

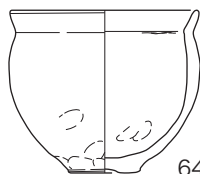


639

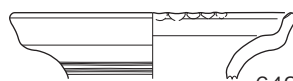


640

640・641: A区055SK(113SZ)

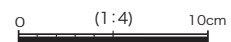


641

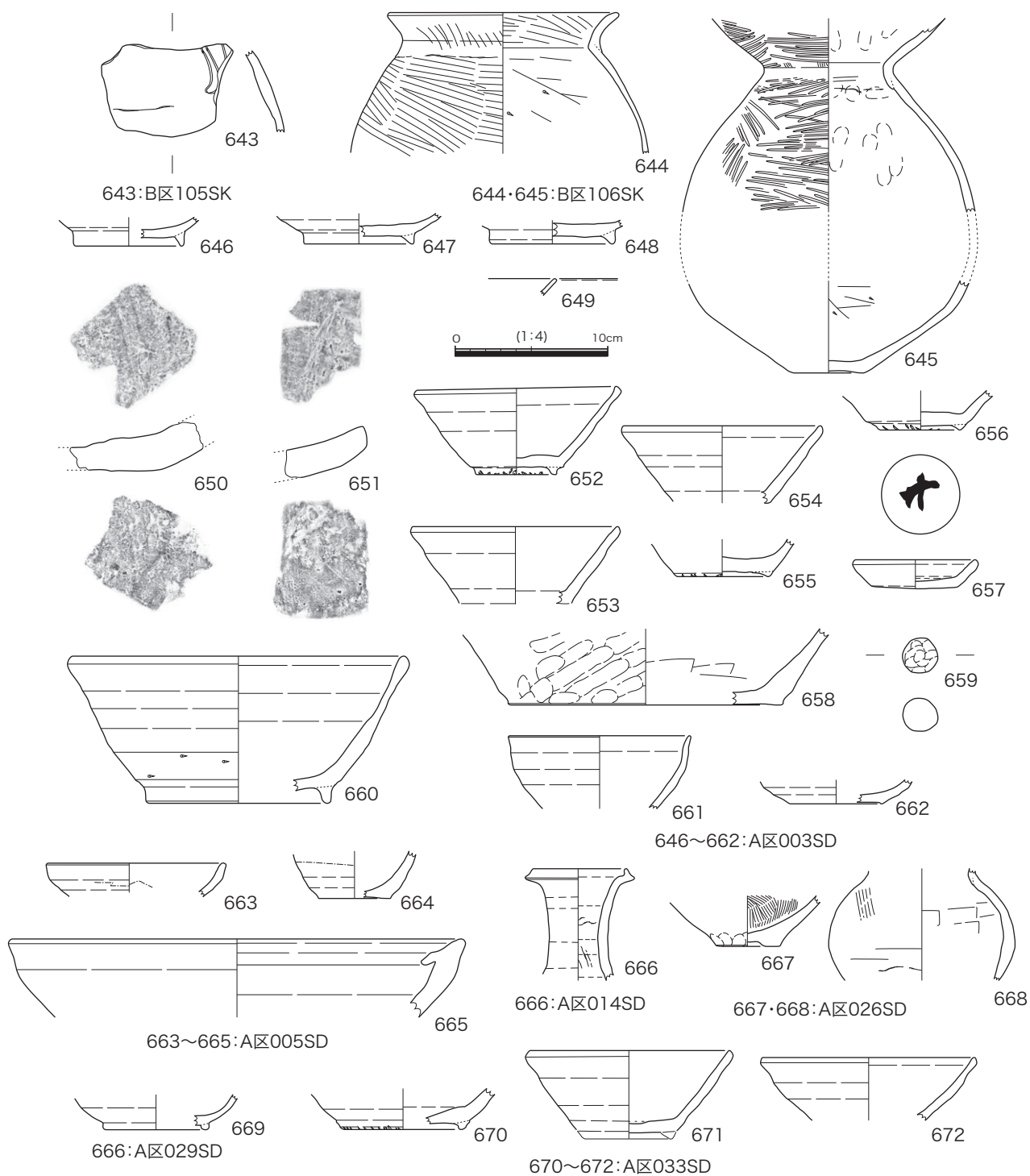


642

642: A区051SD(114SZ)

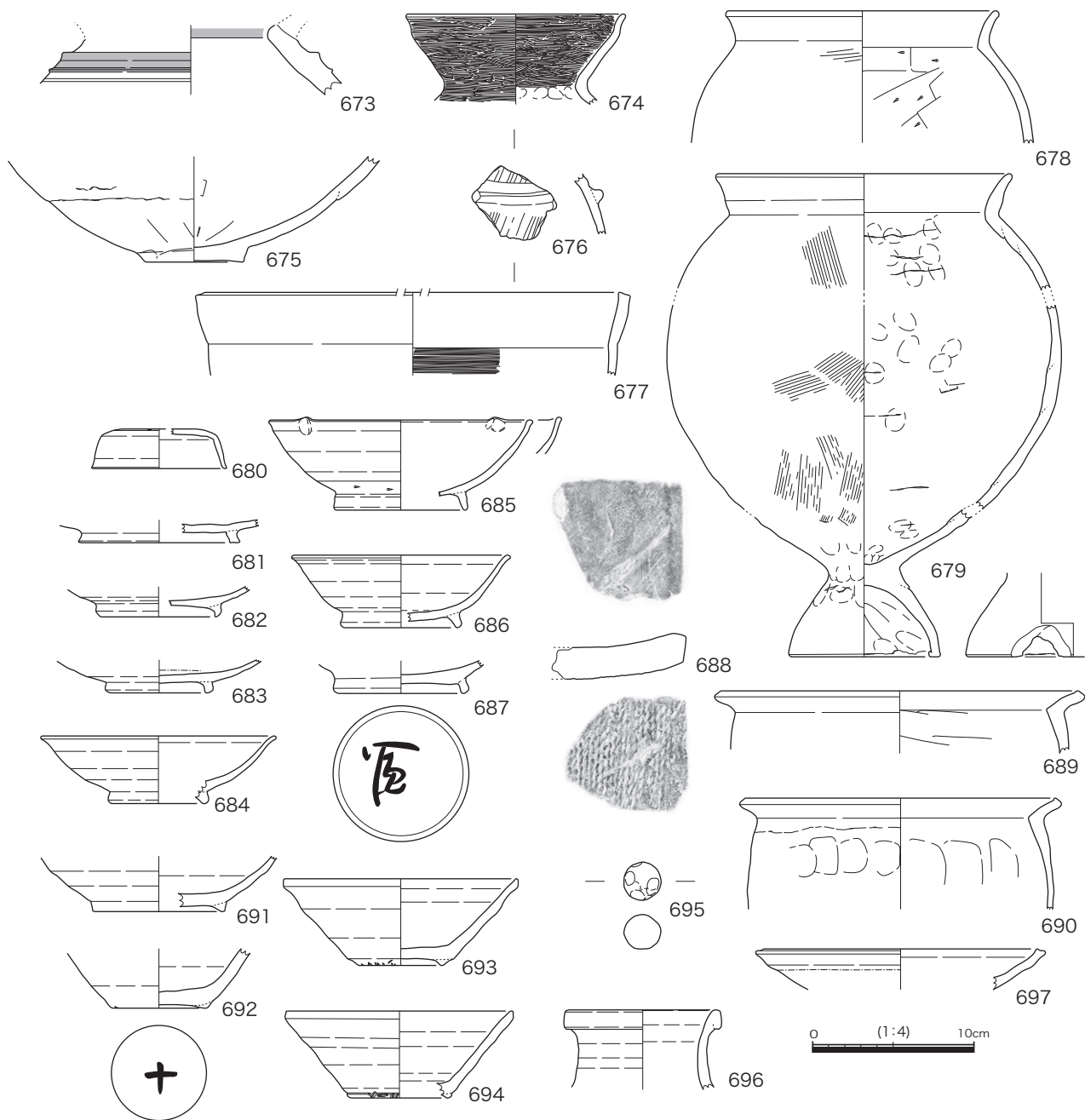


第 126 図 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)

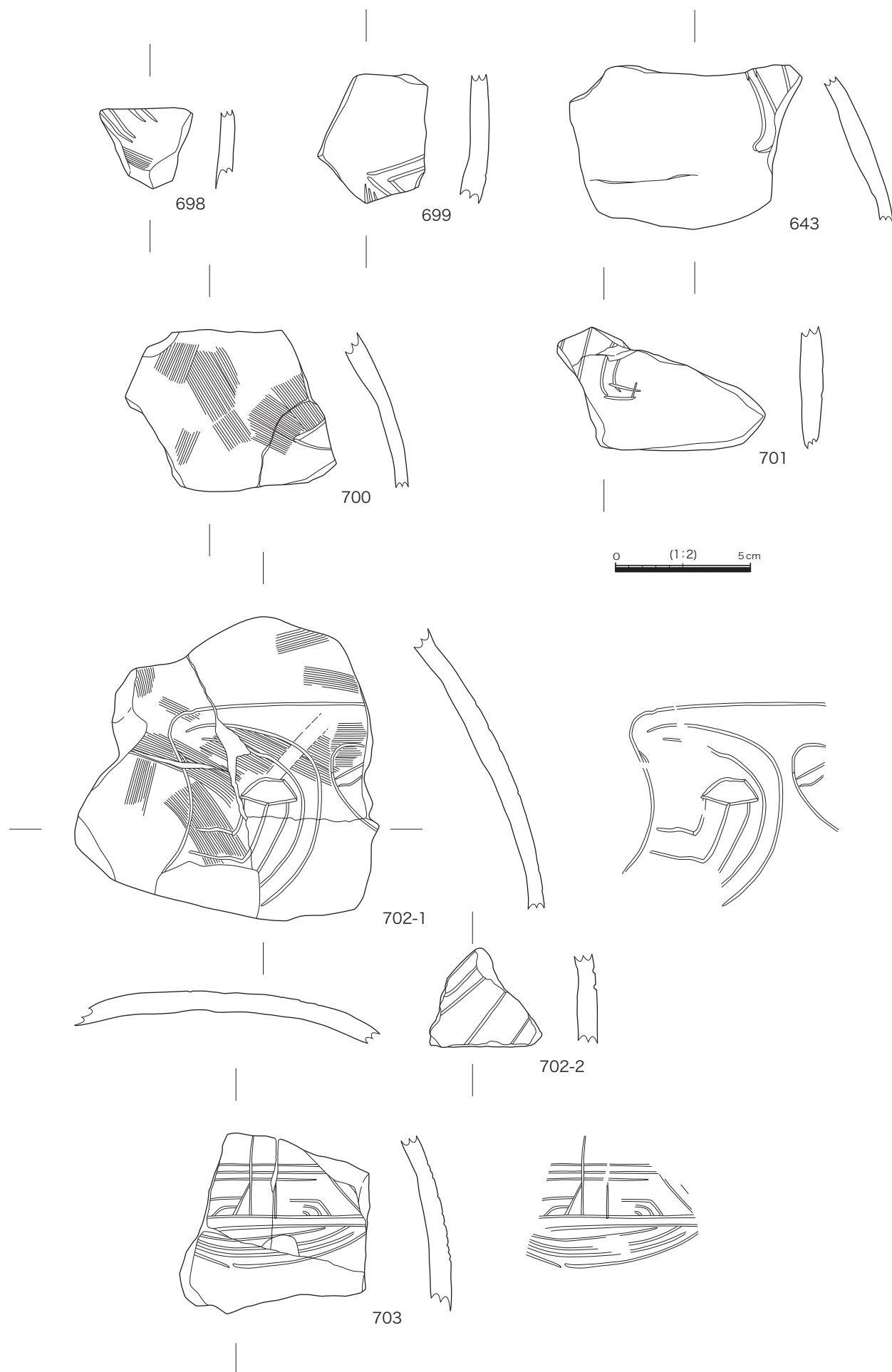


第 127 図 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 2 (S = 1/4)





第 128 図 五反田遺跡 10A・B 区出土土器・土製品 3 (S = 1/4)



207SD 590～594は灰釉陶器の椀の底部で、590・594がK-90窯式、591～593がO-53窯式に比定される。593の底部外面には墨書が描かれている。596は山茶碗の底部。598は加飾壺の体部で、直線文と山形文が描かれている。599は平瓦。

204SX 600はO-53窯式の灰釉陶器の底部。

208SX 601はO-53窯式の灰釉陶器の底部。

## (2) 遺構外出土 (第124・125図)

603は凹線文系土器の受口壺。604は8世紀後半の摘みが付いた蓋。605～607は9世紀代の長頸瓶。608～618はO-53窯式の、619はH-72窯式の灰釉陶器の椀。620～627は山茶碗の椀。627は破面が打ち欠かれており、底部内外面には黒色の火樫がみられる。628は常滑産の鉢。

629・630は丸瓦、631～633は平瓦。631・633は被熱し、破面も含め煤・炭化物が付着している。

## 3 五反田遺跡

### 平成22年度調査 (10A区・10B区)

#### (1) 遺構内出土 (第126・127図)

112SZ 045SDから出土した高杯634は、縦位のミガキ調整がなされた直線的に逆ハ字状に開く坏部をもつ。

113SZ 639は025SDから出土した手焙り形土器。体部はS字状の口縁をもち、刻みが施された突帯が巡る。口縁部外面には連続刺突、体部上半には山形文がみられる。覆部の外面には山形文とイタ角による連続刺突が交互に施されている。また端面には、斜位の連続刺突がなされる。640・641は055SKから出土している。640は手焙り形土器で、体部はく字状口縁をなし、下方を向く突帯が巡る。641は短い口縁部をもつ小型甕で、ナデ調整がなされる。

114SZ 051SDから出土した642は古井式の受口口縁壺で、混入品と考えられる。

115SZ 635は046SDから出土した、ミガキ調整された高杯の坏部から脚部片。

116SZ 636～638は048SDから出土している。636のヒサゴ形壺は、細かい縦位のミガキ調整が施され、口縁部端外面にはクシ状工具による横位の直線文が巡る。器面は小孔や剥離が目立つ。637は脚台付壺で、横位のミガキ調整がされる。内外面とも煤・炭化物が付着する。638は凹線文系土器の甕で、タタキ成形・ハケ調整がなされる。混入品と考えられる。

105SK 643は壺体部片で、下端が左に曲がる縦位のU字状の線刻とそれに平行する1条の直線が線刻される。

106SK 645の壺は体部と底部の接合点はないが、同一個体と思われる。口縁部は逆八字状に大きく開き、不整方向のミガキ調整がなされる。

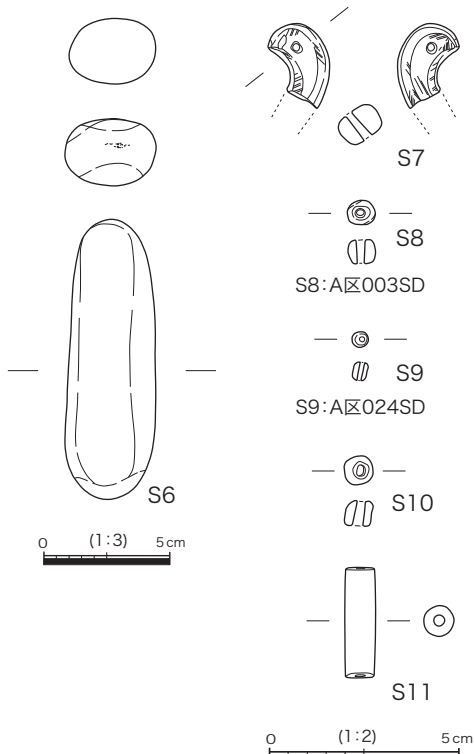
003SD 646～648はH-72窯式の灰釉陶器の椀。649は緑色を呈する緑釉陶器の口縁部。650・651は平瓦。652～656は山茶碗の椀。656の山茶碗は底部外面に「十」字状の墨書が書かれている。658・660は常滑産の甕と鉢。661は鉄釉の天目茶碗で、662は白色の織部釉が施される。

005SD 663は灰釉が施される古瀬戸の小天目茶碗。664も灰釉が施される。665は常滑産の焼締陶の鉢で、近世以降のものと考えられる。

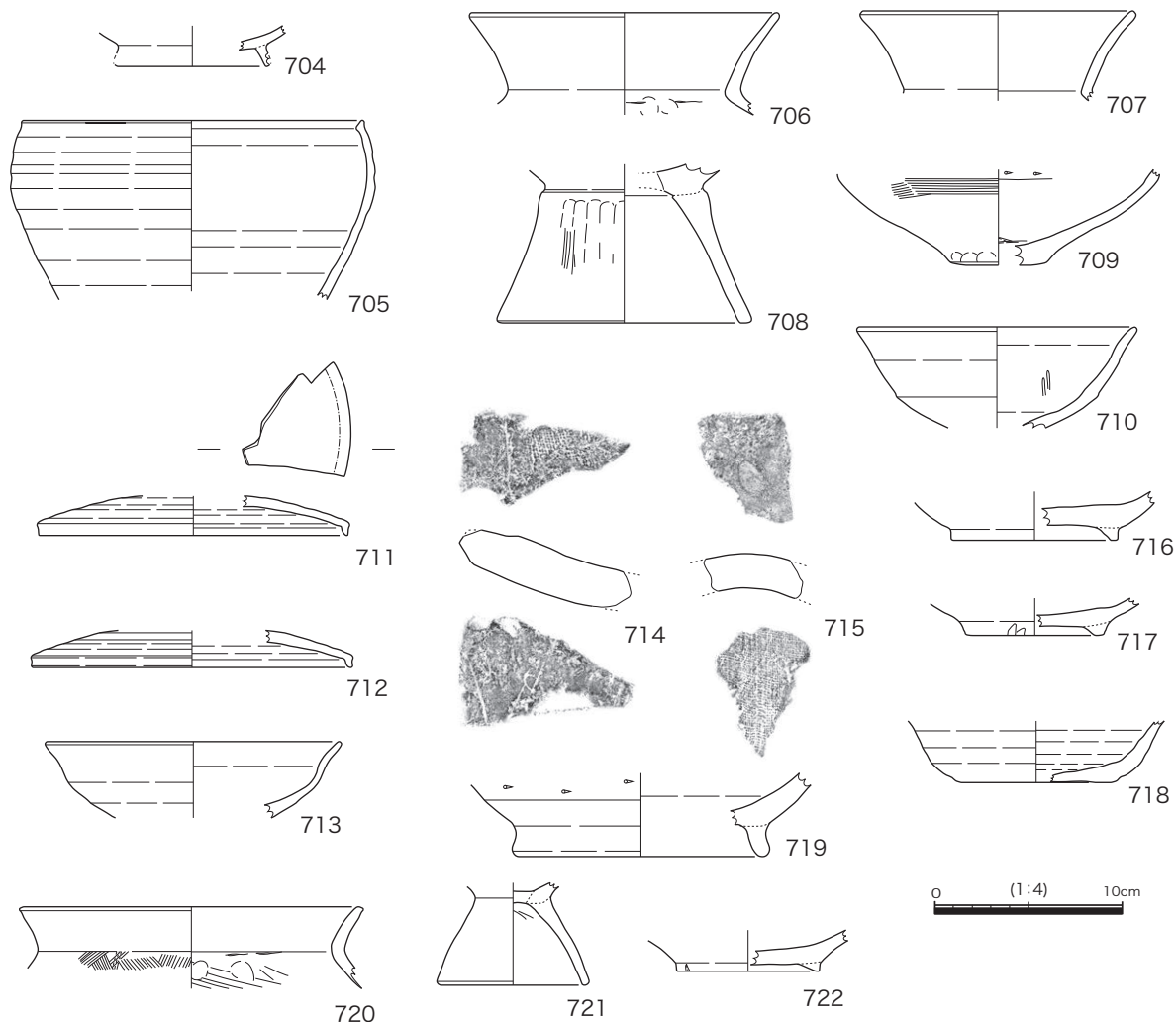
014SD 666は7世紀後半の長頸壺の口縁～頸部。

019SD 669はK-14窯式の灰釉陶器の椀。

033SD 670～671は南部系山茶碗の第7型式から第8型式に比定される。



第 130 図 五反田遺跡 10A・B 区出土石製品  
(S = 1/2、1/3)

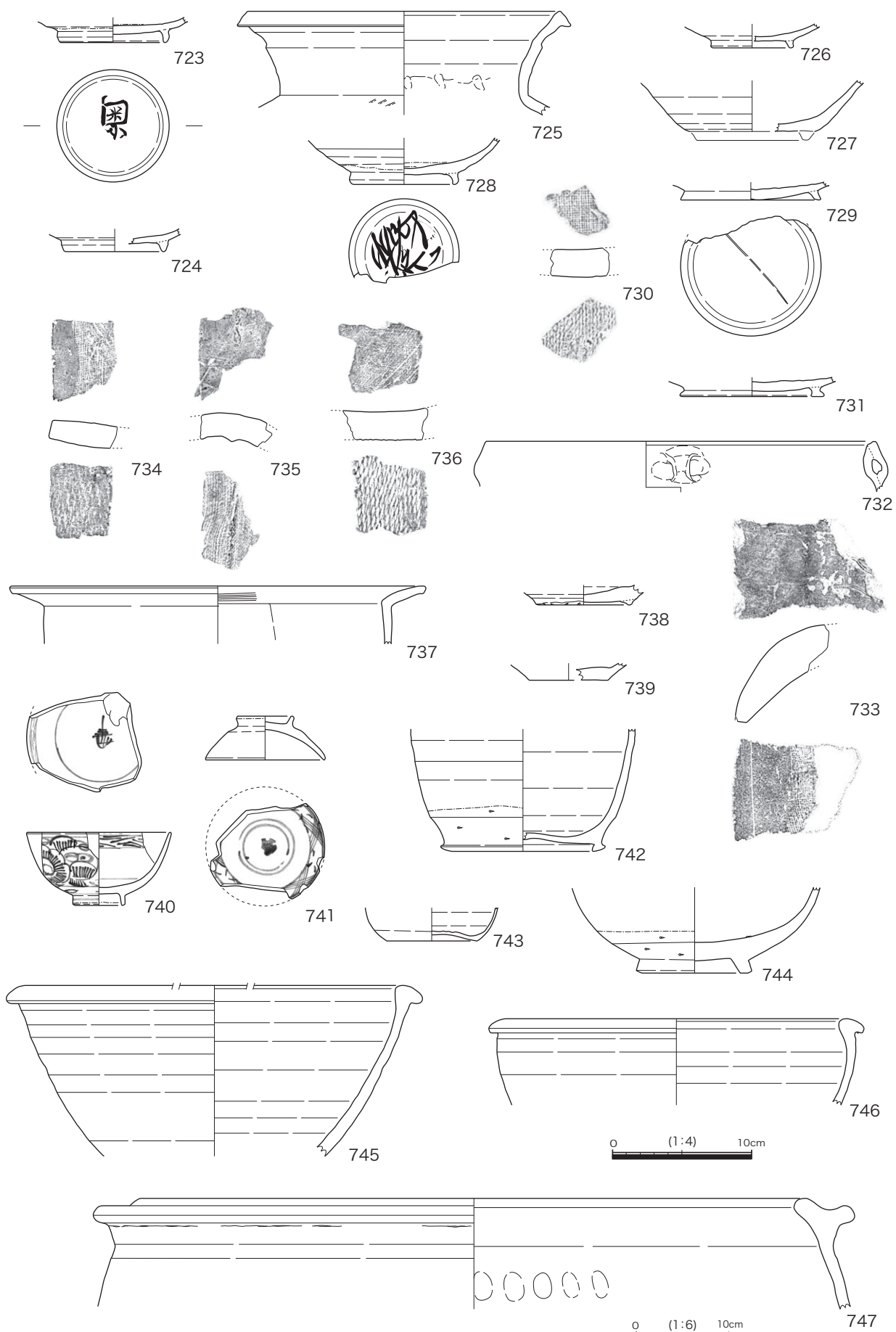


第 131 図 五反田遺跡 13 区出土土器・土製品 (S = 1/4)

## (2) 遺構外出土 (第 128 図・129 図)

673 は体部の突帯部と頸部内面に赤彩が施された加飾太頸壺。674 は細かい横位のミガキ調整はされる、受口壺。676 は突帯が巡る条痕土器片で、縄文時代晩期末と考えられる。679 のく字状口縁甕は、接合点はないが同一個体と考えられる。脚部下端が打ち欠かれている可能性がある。680 は 7～8 世紀の須恵器の蓋、681 は 8 世紀後半以降の有台盤になる。682・683 は K-90 窯式、684 は O-53 窯式、685～687 は H-72 窯式の灰釉陶器の碗になる。687 の底部外面には墨書が書かれる。1 字と考えられるが判読は難しい「□」。また「官」の可能性もあるが、現状では断定できない。691～694 は山茶碗の碗で、692 の底部外面には「十」の墨書が書かれる。696 は古瀬戸後期の壺口縁部。

698～703 は線刻土器で、全て壺片に描かれていると考えられる。699・700 は横位の山形が、701 は下端が右に曲がる縦位の U 字状の線刻とそれに平行する 2 条の直線が線刻される。702-1 は人面の線刻と考えられる。顔の輪郭線と思われる線刻は、横位の線が直線であるが、左側



第 132 図 惣作遺跡 11A・B 区出土土器・土製品 1 (S = 1/4)

の縦位の線は内湾する。中央部は他の人面文と同様に、左側の目の下に3条、目と目の間に3条の弧状線が描かれる。702-2は接合しないが、702-1と同一個体と考えられ、4条の線刻がある。703は2帯の横位の直線と、その間と下に弧状の線刻が描かれる。弧状線は上下の湾曲方向が対応し、楕円形をなす。

## 平成25年度調査（13区）

### （1）遺構外出土（第131図）

705はNN-32～O-10窯式の須恵器の鉢。711・712は須恵器坏蓋で、711はC-2窯式、712はNN-32～O-10窯式に比定される。708は大型の脚台部で、ナデ・イタナデ調整される。時期は不明。714は平瓦、715は丸瓦。716～718・722は山茶碗の椀。719は常滑産の鉢の底部。

## 4 惣作遺跡

### 平成23年度調査（11A区・11B区）

#### （1）遺構内出土（第132図）

**069SI** 723はK-90窯式の灰釉陶器の椀で、底部外面には墨書がある。墨書は1字と考えられるが判読は難しい「□」。文字は「奥」の可能性はあるが下部が「小」と読め、文字として成立しない。

**002SX** 725はO-10窯式の須恵器の甕口縁部。

**003SX** 726はH-72窯式の灰釉陶器の椀で、727は山茶碗。

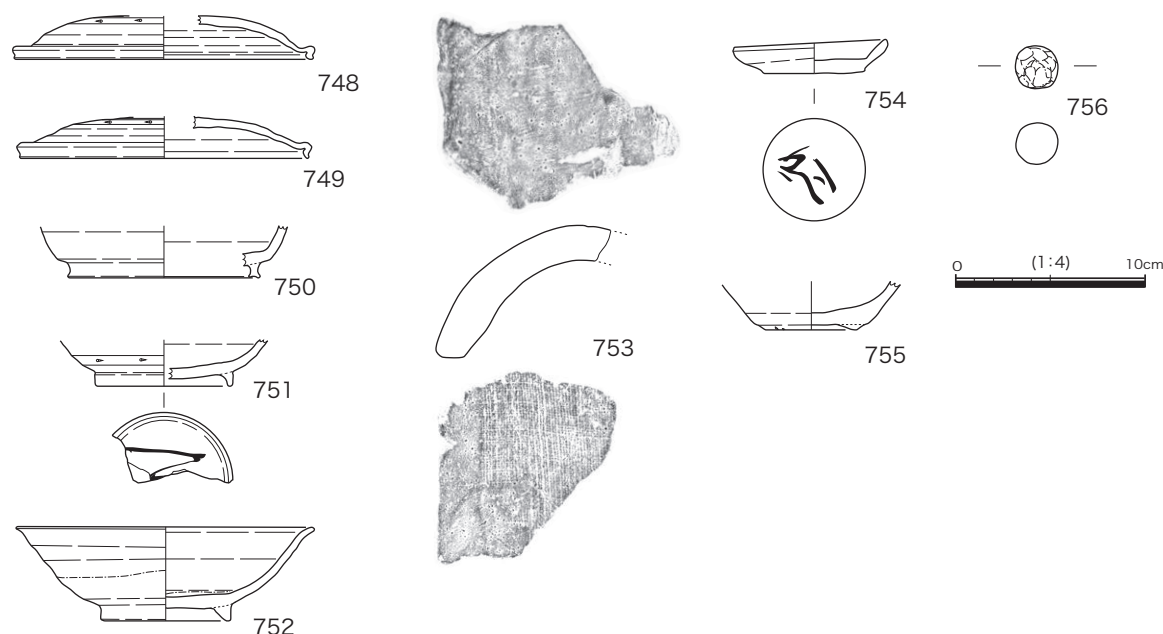
**004SX** 728はK-90窯式の灰釉陶器の椀で、底部外面に判読不明な筆ならし状の墨書がみられる。

**005SX** 729は8世紀後半の須恵器の盤か椀。730は平瓦。

**106SX** 732は17世紀の内耳鍋。

**001NR** 734・736は平瓦で735は丸瓦になる。737は三河型甕。

**097NR** 738・739は山茶碗。740は呉須絵が描かれる椀。741は肥前の蓋で、外面に青磁釉、内面に呉須絵が描かれる。。742・743は鉄釉が施され、742半胴、743は壺または瓶。744・745・746は施釉される捏鉢。747は常滑産の甕。740～747の時期は18世紀後半以降と比定される。



第133図 惣作遺跡 11A・B区出土土器・土製品2（S = 1/4）



## (2) 遺構内出土 (第 133 図)

748・749 は須恵器坏蓋で、O-10 窯式に比定される。750 は須恵器有台坏の底部で、8 世紀後半に比定される。751 は K-90 窯式の灰釉陶器で、底部外面に墨書がなされる。752 は百代寺窯式の灰釉陶器の椀。753 は丸瓦。754 の山茶碗の小皿の底部外面に判読不明な墨書がみられる。

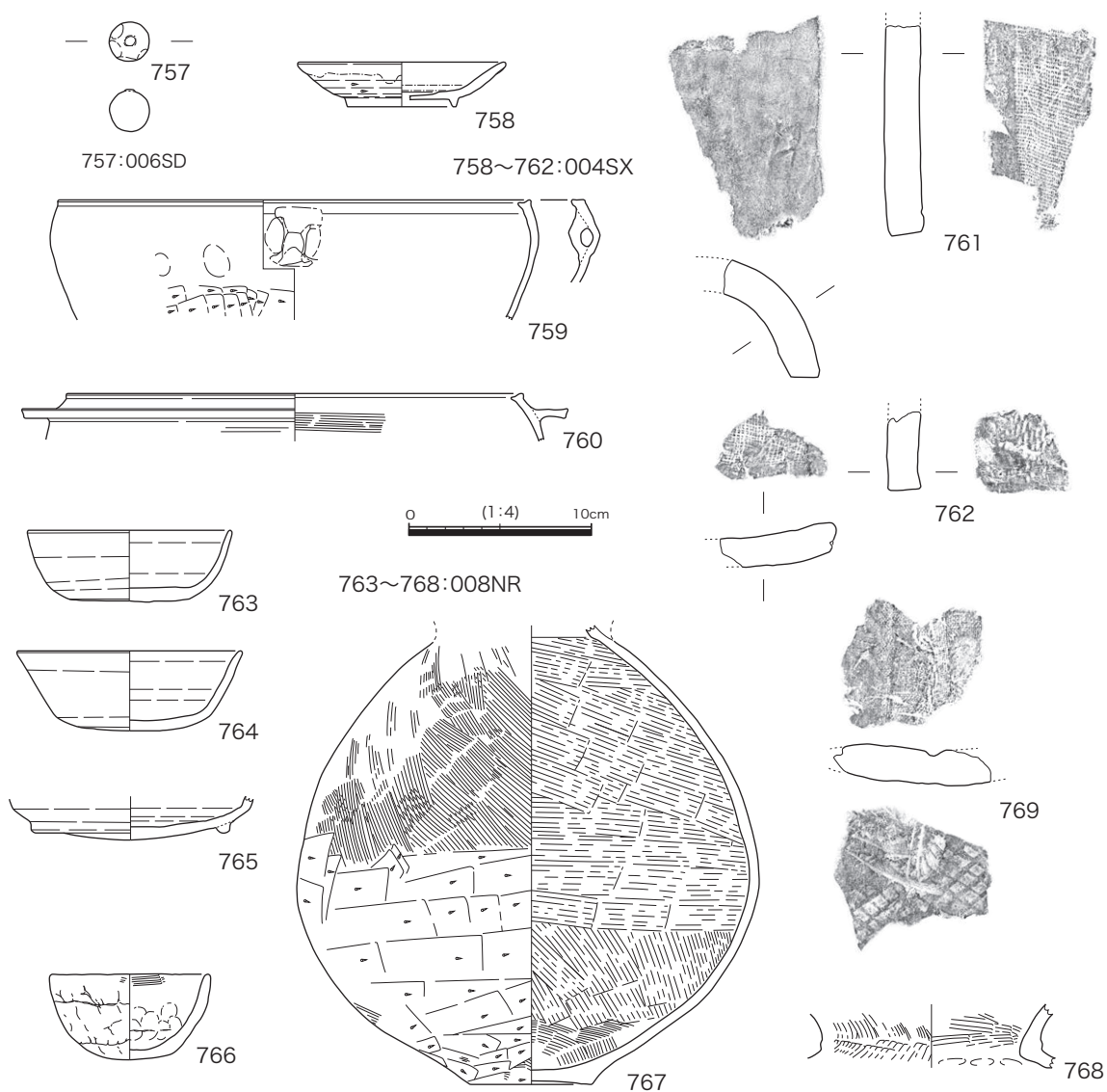
## 平成 24 年度調査 (12 区)

### (1) 遺構内出土 (第 134 図)

006SD 757 の陶丸の上部には円形の粘土塊が付着する。

004SX 758 は灰釉が施される皿で、18 世紀代に比定される。759 は 17 世紀の内耳鍋、760 は 14 ～ 15 世紀の羽釜型鍋。761 は丸瓦、762 は平瓦となる。

008NR 763 ～ 765 は須恵器の坏で、763 は I-41 ～ C-2 窯式、764 は I-41 窯式、765 は I-41 ～ C-2 窯式に比定される。766 の土師質の椀は、被熱されて外面がひび割れたような状態となる。



第 134 図 惣作遺跡 12 区出土土器・土製品 (S = 1/4)

### 第3節 石製品（第108・120・130図）

#### 下懸遺跡平成21年度調査（09C区 第108図）

09C区047SXより出土した凝灰質砂石の台石S1は、上面中央部にやや大きく深い敲打痕があり、下面にもわずかに敲打痕が確認できる。また上下面を含め、欠損部以外の側面には研磨された痕跡がみられる。

#### 下懸遺跡平成25年度調査（13C区 第120図）

S2は001SXから出土した軽石の砥石で、上面の平坦面に条線がみられる。S3は068SXから出土した軽石の不明製品で、研磨されて長方体に整えられている。小口部の上面には螺旋状の穿孔痕があり、中央部まで孔が穿たれている。S4は131SIから出土した凝灰質砂石の磨石で、楕円形を呈すると思われるが、一部欠損している。全体に研磨痕が残る。S5は凝灰質砂石は叩石で、上下面と側面の一部に敲打痕がみられる。また側面には研磨痕残る。

#### 五反田遺跡平成22年度調査（10A区・10B区 第130図）

S6は砂石で、全体に研磨され、上下面にわずかに敲打痕がみられる。S7は瑪瑙の勾玉で下半部は欠損している。S8～S10はガラス小玉で、S8がA区003SD、S9がA区024SDから出土している。S8・S10のやや大型のものが青～藍色、小型のS8が水色～青色を呈する。重さは、S8が0.5g、S9が0.2g、S10が0.6gを量る。S11は熔結凝灰岩の管玉で、長さ2.9cm、幅・厚さ0.8cmを測り、重さ2.9gである。

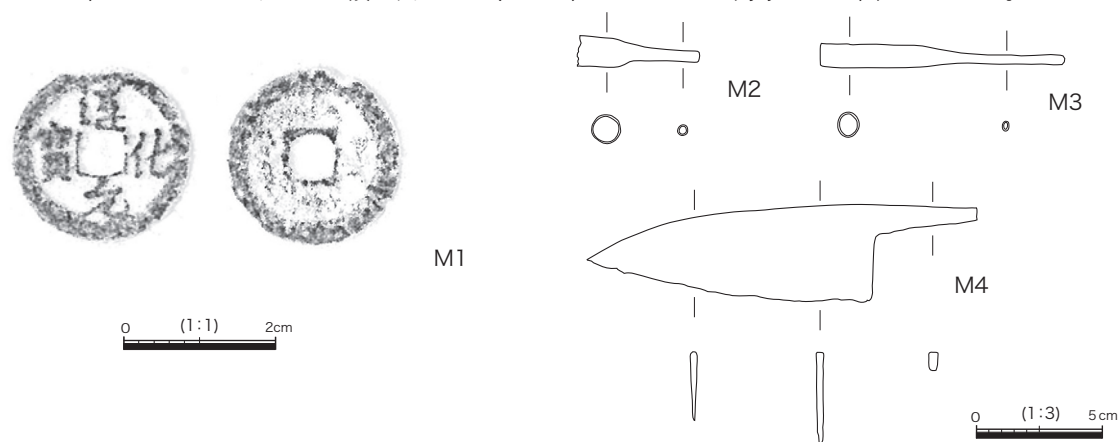
### 第4節 金属製品（第135図）

#### 下懸遺跡平成25年度調査（13A区）

M1は13A区004SXから990年初鑄の北条銭「淳化元寶」が出土している。M2は13A区から出土したキセルの吸い口。

#### 惣作遺跡平成24年度調査（11A区・B区）

11A区002SXからキセルの吸い口M3が、11B区097NRから刀子M4が出土している。



第135図 下懸遺跡13A・B区、惣作遺跡11A・B区出土金属製品（S = 1/1、1/3）

## 第5節 木製品

今回の報告では、下懸遺跡 09A 区・09B 区・09C 区・13B 区、五反田遺跡 10A 区・10B 区・13 区、惣作遺跡 12 区の 3 遺跡 7 調査区から、古墳時代初頭から近世にかけて、合計 368 点の木製品を掲載した。

上記の遺跡および調査区ごとに、所属時期の古いものから新しいものへ、さらにそのなかで器種別に文房具、掘削具、農具、工具・雑具・調度、紡織具・編み具、容器・食事具、武器、漁撈具・運搬具、祭祀具、建築材、土木材、板、棒、分割材、残材、丸太の順に記述を進めていく。

### 1 下懸遺跡

#### 平成 21 年度調査 (09A 区)

下懸遺跡 09A 区は、026NR の 2 層・3 層・4 層から木製品が出土している。それぞれの層位から出土した土器の所属時期は、おおむね 2 層—7～8 世紀、3 層—6 世紀末～7 世紀、4 層—廻間 I 式期並行後半だが、特に 3 層は廻間 I 式期並行と考えられる木製品が大多数を占めている。

##### 026NR-4 層 (第 136 図)

**建築材** W1 は梯子の下半部でステップが 2 段分残る。クリの芯持ち丸木を用い、ステップの切り込みがきわめて浅いのが特徴である。W2 は垂木。ヒノキの削り出し材を用いる。

**板** W3 はスギの板目の板。

**棒** W4 はヒノキの角棒。

##### 026NR-3 層 (第 137～141 図)

**掘削具** W5 は伊勢湾型曲柄鍬の軸部で、紐掛け用の刻みは樋上分類の D 類 (樋上 2000)。クヌギ節の柁目材を用いる。4 層からの混じり込みと考えられる。

**工具・雑具・調度** W6 はクスノキ製の一木の腰掛で、ハの字状に踏ん張る脚部を有する。W7 は火鑽白で、ヒノキの角材を用いている。

**容器・食事具** W8 は浅い楕円形の皿で、図面上の右側に穿孔を有する。樹種はアカガシ亜属の横木取り。W9 は長軸が 110cm を超える大型の槽で、樹種はクリ。W10 はスダジイ製の浅い槽で、片側のみに明確な立ち上がりをもつ。

**武器** W11 は木鍬で、長い茎を有する。実用の鍬ではなく、祭祀具の可能性がある。樹種はスギ。

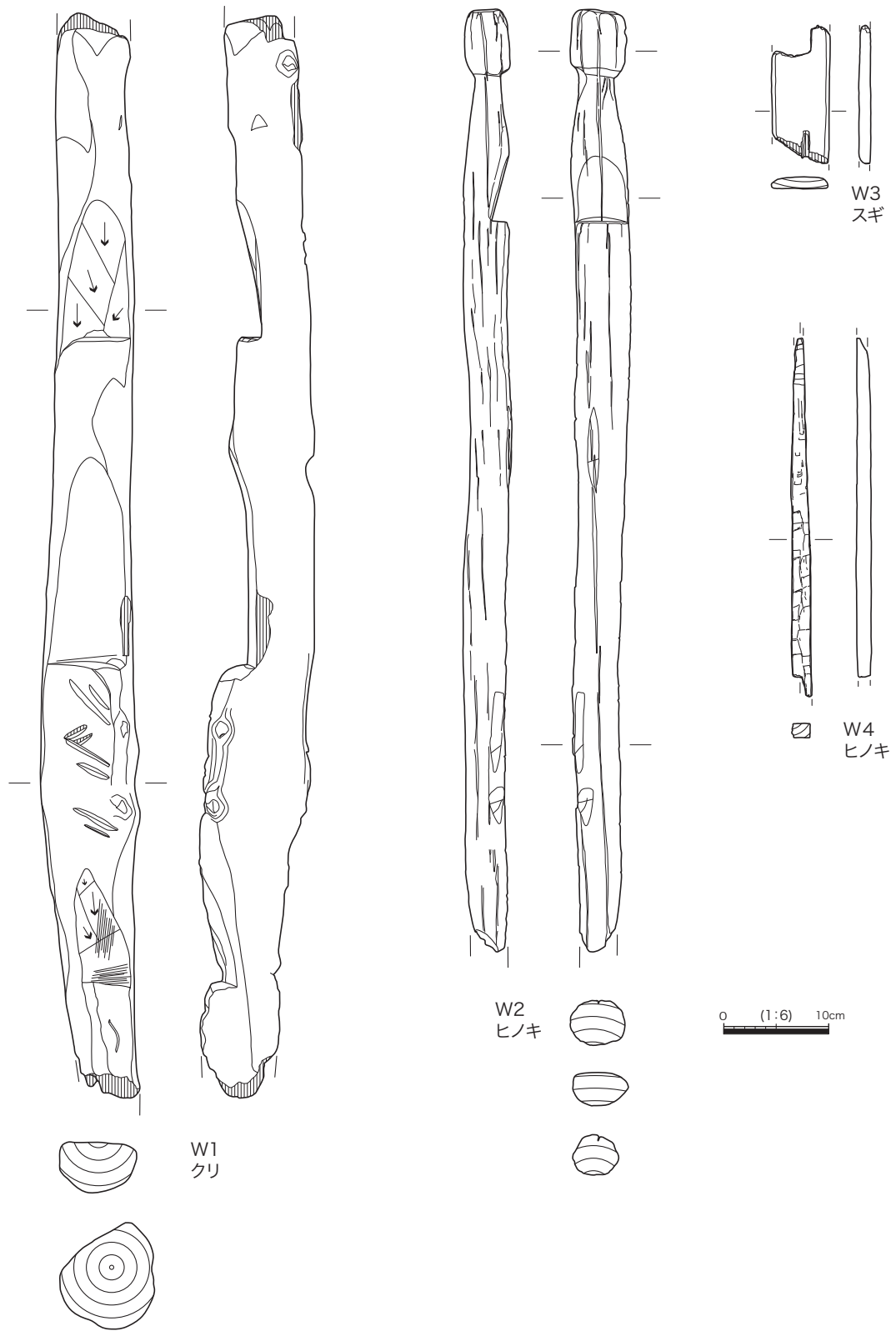
**祭祀具** W12 は斎串の下半部で、樹種はサワラ。

**建築材** W13 はヒノキの芯持ち材の柱で、チョウナによる面取りと加工痕が明瞭に残る。また、図面上の上端部付近に段を作り出しており、同様の細工をもつ柱は後述する下懸遺跡 09C 区 001NR の W291・319 のほか、やはり下懸遺跡 00A 区の NR02 埋土 2 群からも出土している (愛知県埋蔵文化財センター 2009)。おそらく本来の所属時期は W5 と同じく廻間 I 式並行期と考えられる。W14 はスギの柁目材を用いた有段の厚板で、掘立柱建物の床材などの建築材である可能性が高い。W15 はヒノキの角棒で、図面上の上半部に別材を組み合わせるための段を有する。これも建築材であろう。W16 はサワラの角棒で、図面上の下端部に柄状の突起を作り出す。W29 はヒノキの追柁目材を用いた板で、図面上の下端部付近に方形の穿孔をほどこす。

**土木材** W37 は矢板で、クリの追柁目材の下端部を斜めに削り出す。W23～25 は杭で、樹種は W23・25 がヒノキの芯持ち材で W24 がスギの削り出し材。

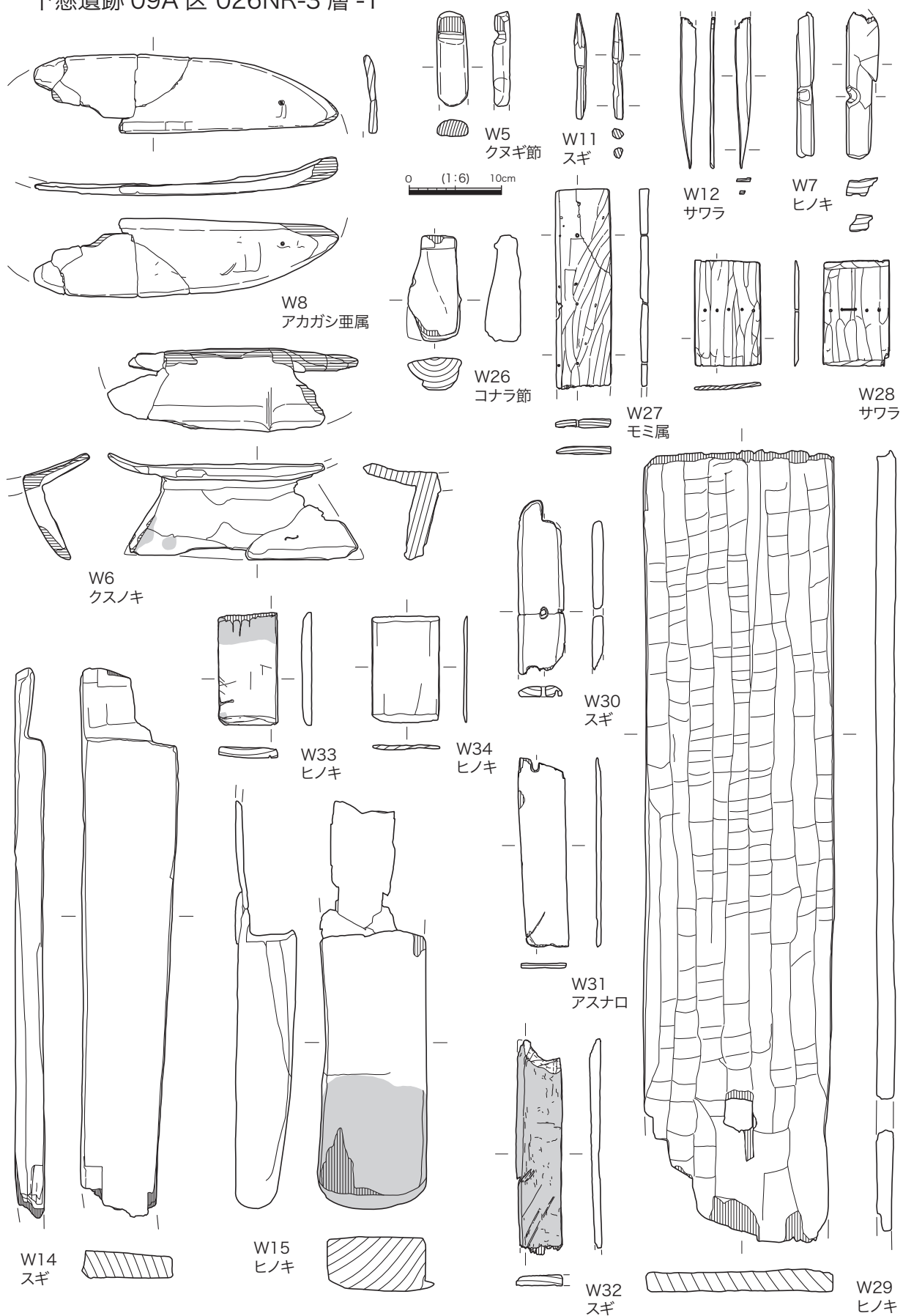
**板** W27・28・30 は穿孔板。W27 はモミ属の板目材で、小孔が不規則に多数開けられている。W28 はサワラの板の中央に 5 ケ所穿孔をほどこし、一部に紐でかがった痕跡が残る。W30 はスギ

下懸遺跡 09A 区 026NR-4 層



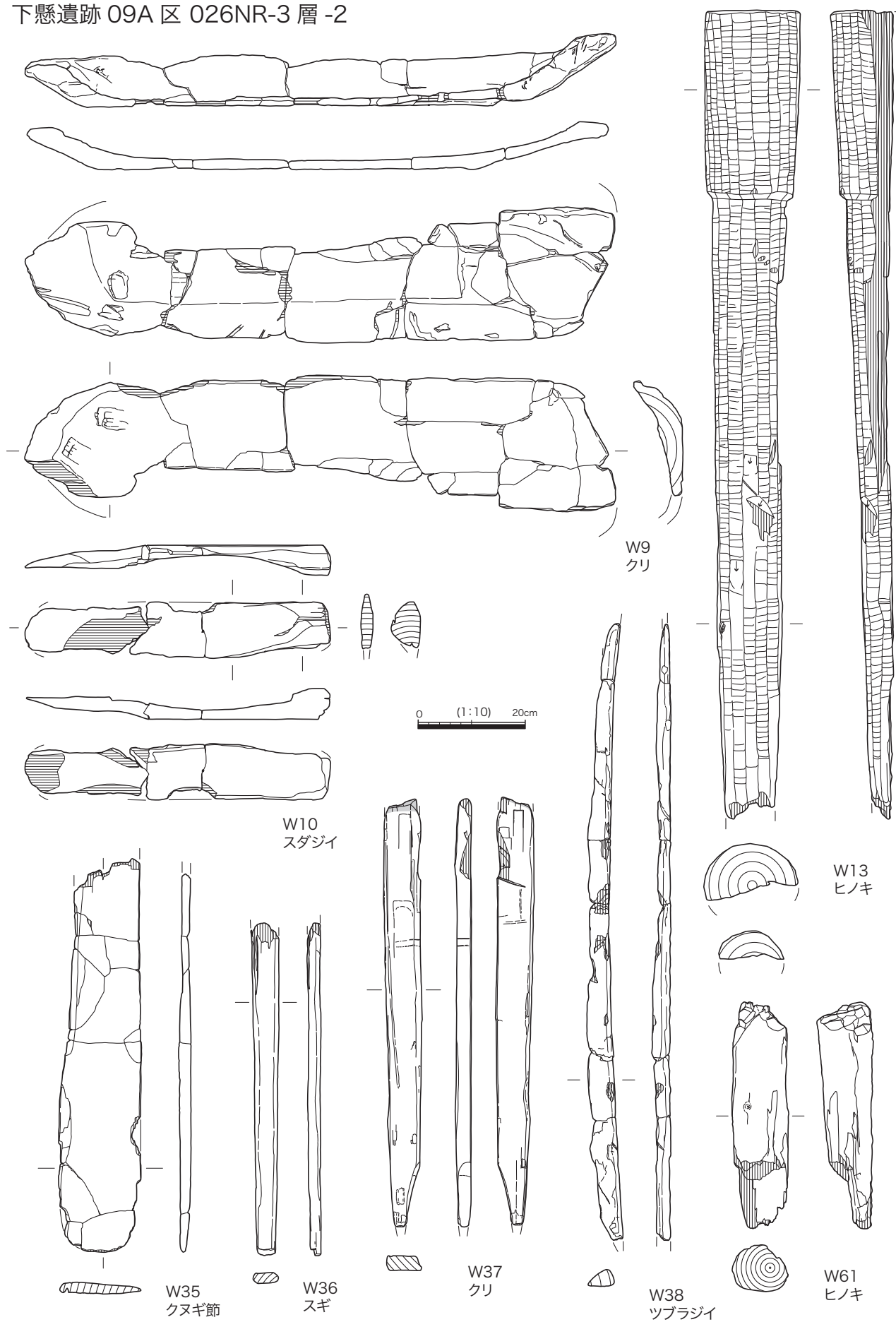
第 136 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 1 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-3 層 -1



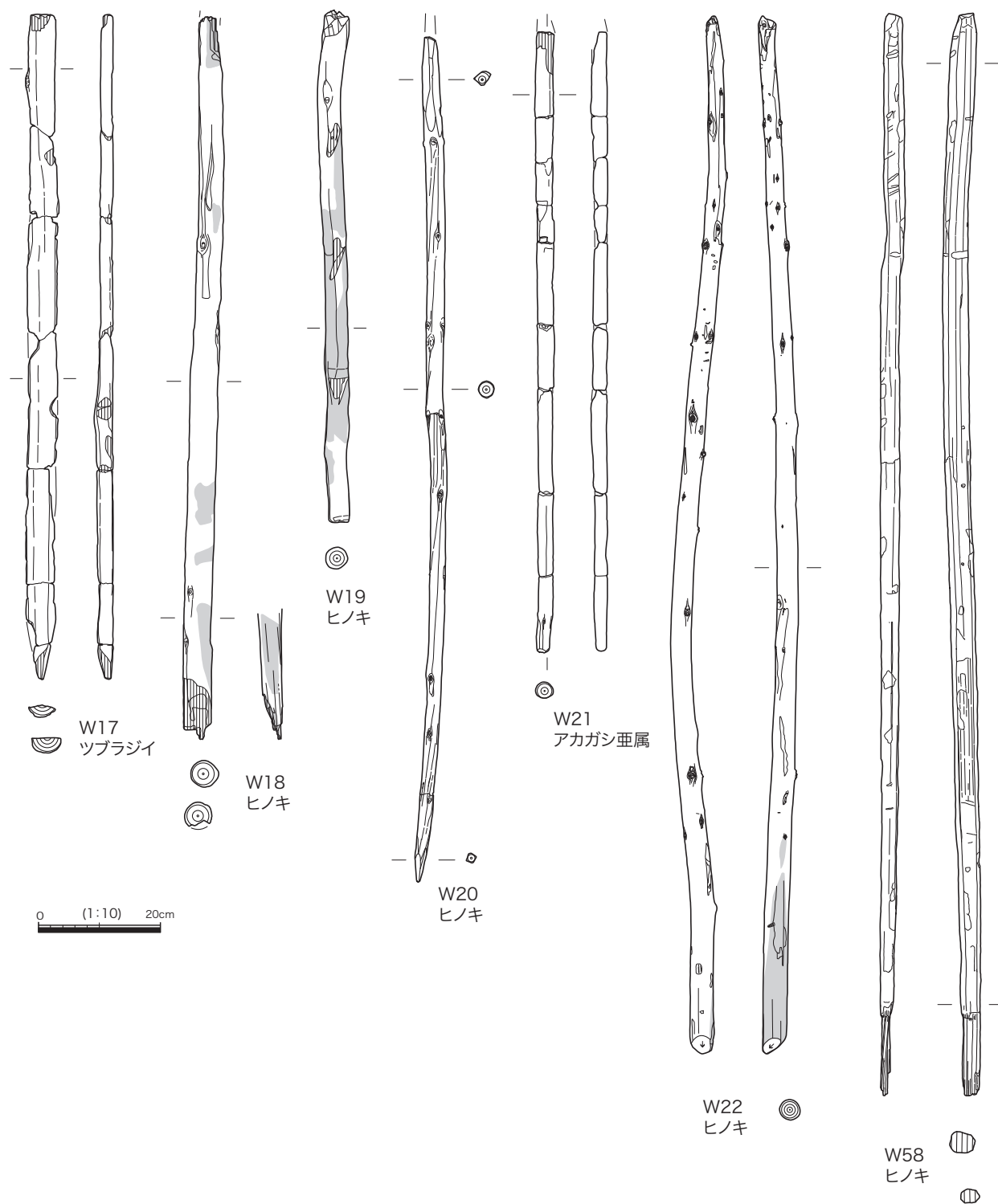
第 137 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 2 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-3 層 -2



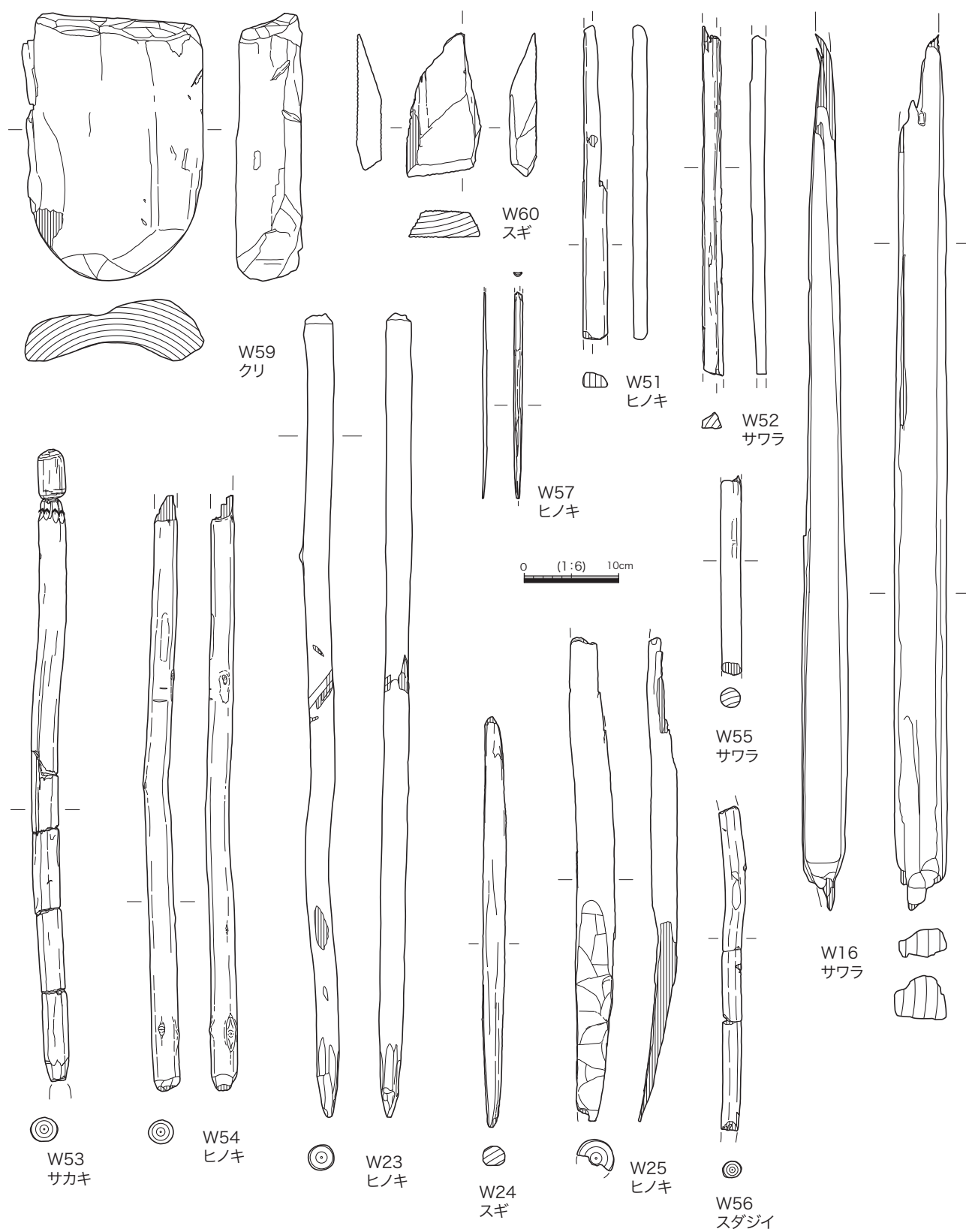


下懸遺跡 09A 区 026NR-3 層 -3



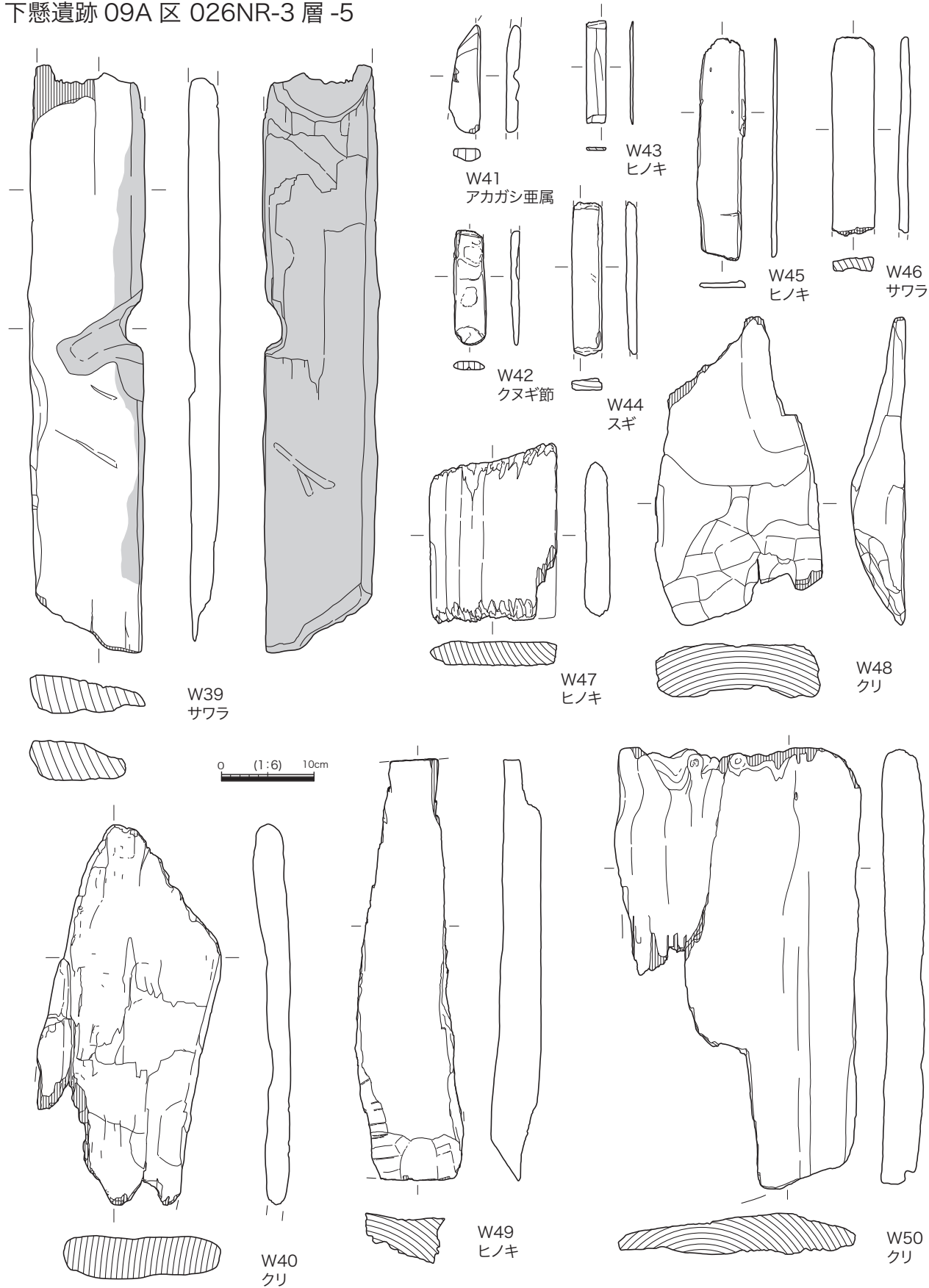
第 139 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 4 (S = 1/10)

下懸遺跡 09A 区 026NR-3 層 -4



第 140 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 5 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-3 層 -5



第 141 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 6 (S = 1/6)

の板目材の中央に1ヶ所穿孔をほどこす。W31はアスナロの板で、図面上の上端部中央に抉りをもつ。W32はスギの板目材で全面炭化している。W33・34は図面上の上下両端部を斜めに面取りしたヒノキの板目材。W28とほぼ同形であることが注目される。W35・42はクヌギ節の柱目材を用いた板で下端部がゆるやかに丸くなる。曲柄平鋏など掘削具の身であった可能性を有する。W41はアカガシ亜属の柱目材で、これも掘削具の一部である可能性が高い。W36・60はスギの追柱目材、W40はクリの柱目材、W43・47はヒノキの柱目材、W44はスギの板目材、W45はヒノキの追柱目材、W46はサワラの柱目材、W48・50・59はクリの板目材、W49・57はヒノキの板目材、を用いた板。棒 W26はコナラ節の1/2分割材を用いた有段角棒。W53はサカキの有頭丸棒で、有頭部がW18～22・54～56は丸棒で、樹種はW21がアカガシ亜属、W55がサワラ、W56がスダジイである以外はすべてヒノキの芯持ち材。W51・58はヒノキの角棒。

分割材 W17はツブラジイの1/2分割材。W38は同じくツブラジイの1/8分割材。W39はサワラの1/8分割材。W52はサワラの1/4分割材。

丸太 W61はヒノキの芯持ち丸太。

#### **026NR-2層（第142～144図）**

掘削具 W62は馬鋏（代掻）の台木で、3本分の歯を挿入するための方形の穿孔と、それに直交する面には引き棒のための方形の穿孔がある。樹種はマツ属複雑管束亜属の芯持ち材。

容器・食事具 W63は楕円形の曲物底板で、長軸方向の側縁に長方形の突起を作り出す。樹種はヒノキの板目材。

祭祀具 W64・65は斎串で、いずれもヒノキの板目材を用いる。

板 W66・67はアカガシ亜属の芯持ち材による同形同大の有頭板。W68・69はクヌギ節の板目材を用いた板。

棒 W70はヒノキの、W72・73はクヌギ節の丸棒。

分割材 W71はクヌギ節の1/8分割材。

#### **026NR（層位不明 第145～147図）**

工具・雑具・調度 W74はW6と同形式の一木の腰掛で、樹種はクリ。

容器・食事具 W75は合子（曲物容器か）の蓋で、サワラの1/2分割材を横木取りで削り抜いてつくり出す。外縁部は身の立ち上がりから笠状に突出する。上端に穿孔があり、紐がかけられていた可能性がある。廻間Ⅰ式並行期のものか。W76はコウヤマキ製の大型の方形槽で、短辺側の底部に低い脚がつく。W77は長軸方向が61.4cmを測る大型の曲物底板で、転用のために両サイドをカットしている。樹種はアスナロの板目材。

建築材 W78はクヌギ節の芯持ち材を用いた梯子。完形品でステップが5段。上端部には高床建物の出入り口の床板に固定するための柄を作り出し、下端部は地面に突き刺すために二又に分かれる。W79はコナラ節芯持ち材の円柱で、W80はサカキの芯持ち材の角柱。W81は大きな方形の穿孔をもつ横架材で、樹種はサカキ。

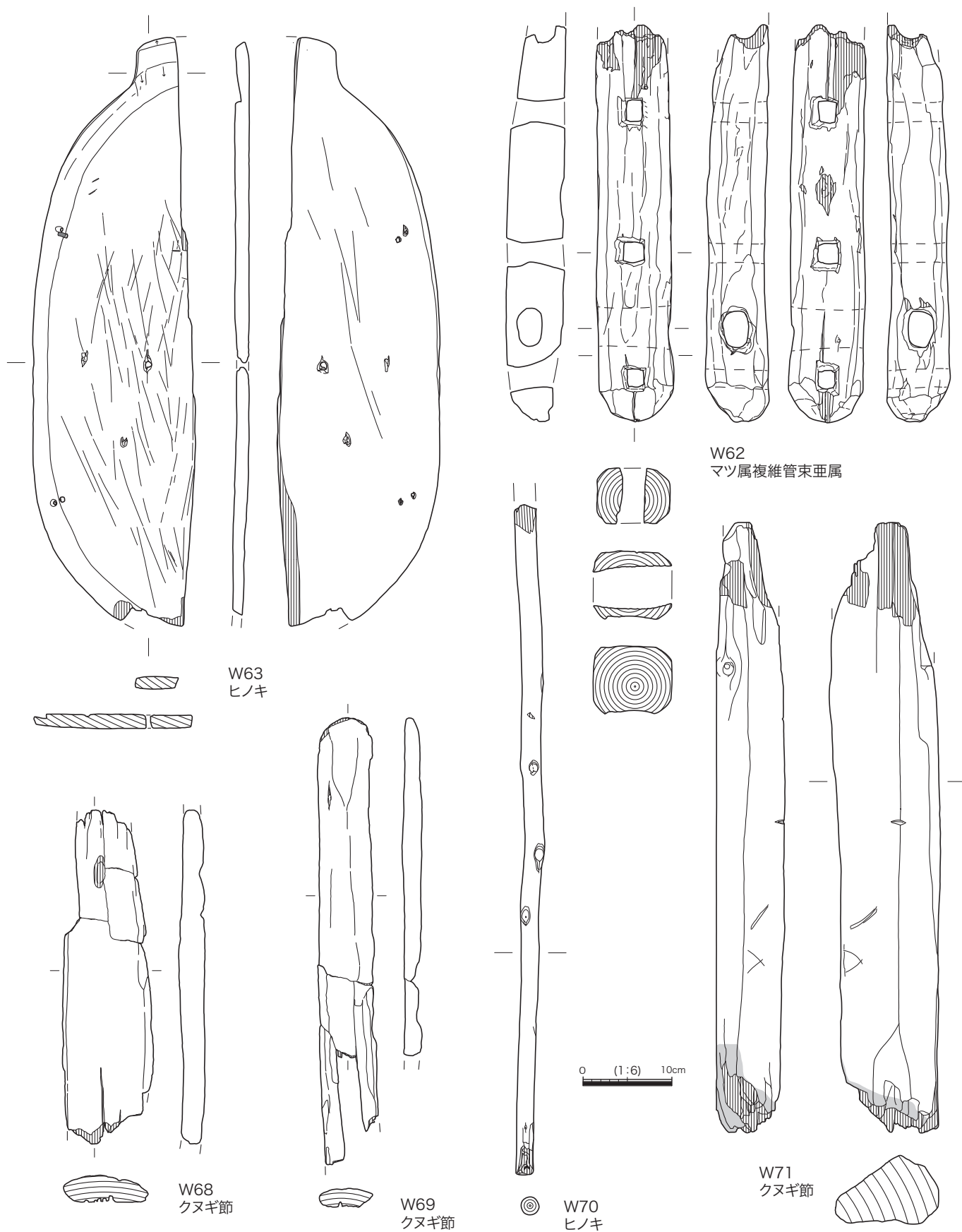
板 W82・84はヒノキの柱目材を用いた穿孔板。W83はトネリコ属の柱目材の板で、中央部に長軸方向に2ヶ所浅い溝を刻む。厚みがあるため、建築材であった可能性がある。

棒 W85はアカガシ亜属の、W86はサワラの角棒。

分割材 W87・88はクヌギ節の1/8分割材。W89はサワラ、W90はクリの1/2分割材。

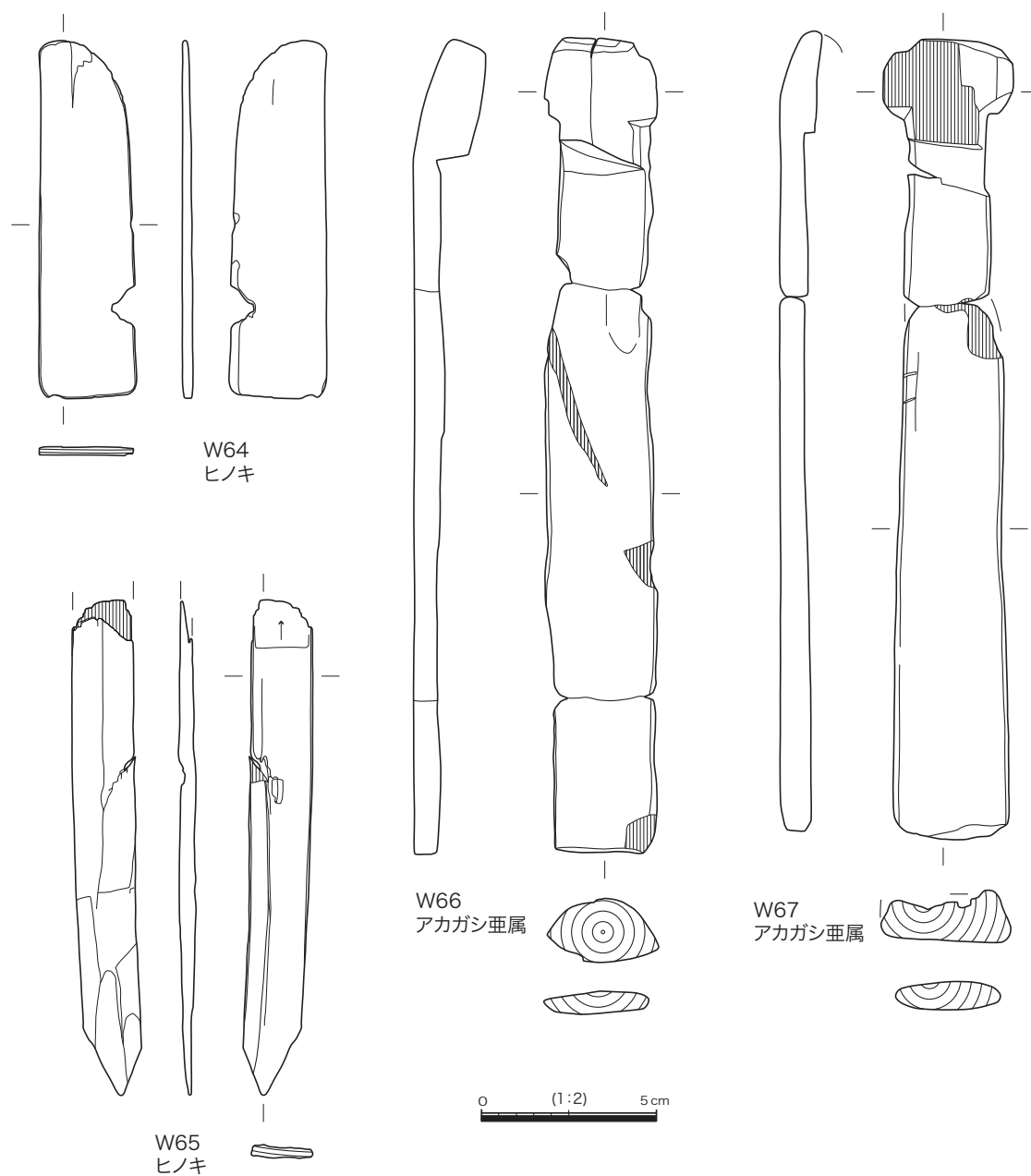
丸太 W91はクリ、W92はアスナロの芯持ち丸太。

下懸遺跡 09A 区 026NR-2 層 -1



第 142 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 7 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-2 層 -2



第 143 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 8 (S = 1/2)

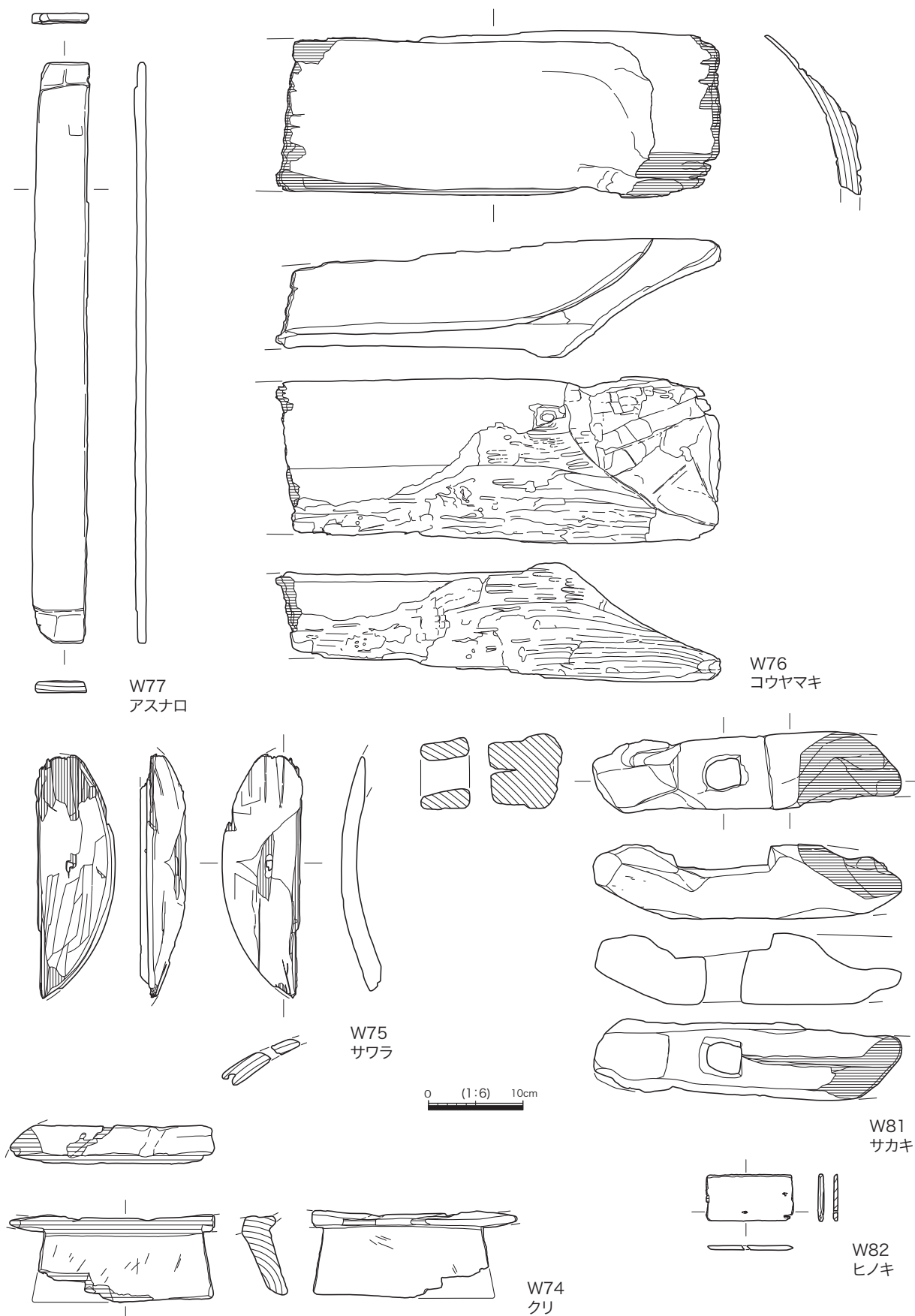


下懸遺跡 09A 区 026NR-2 層 -3



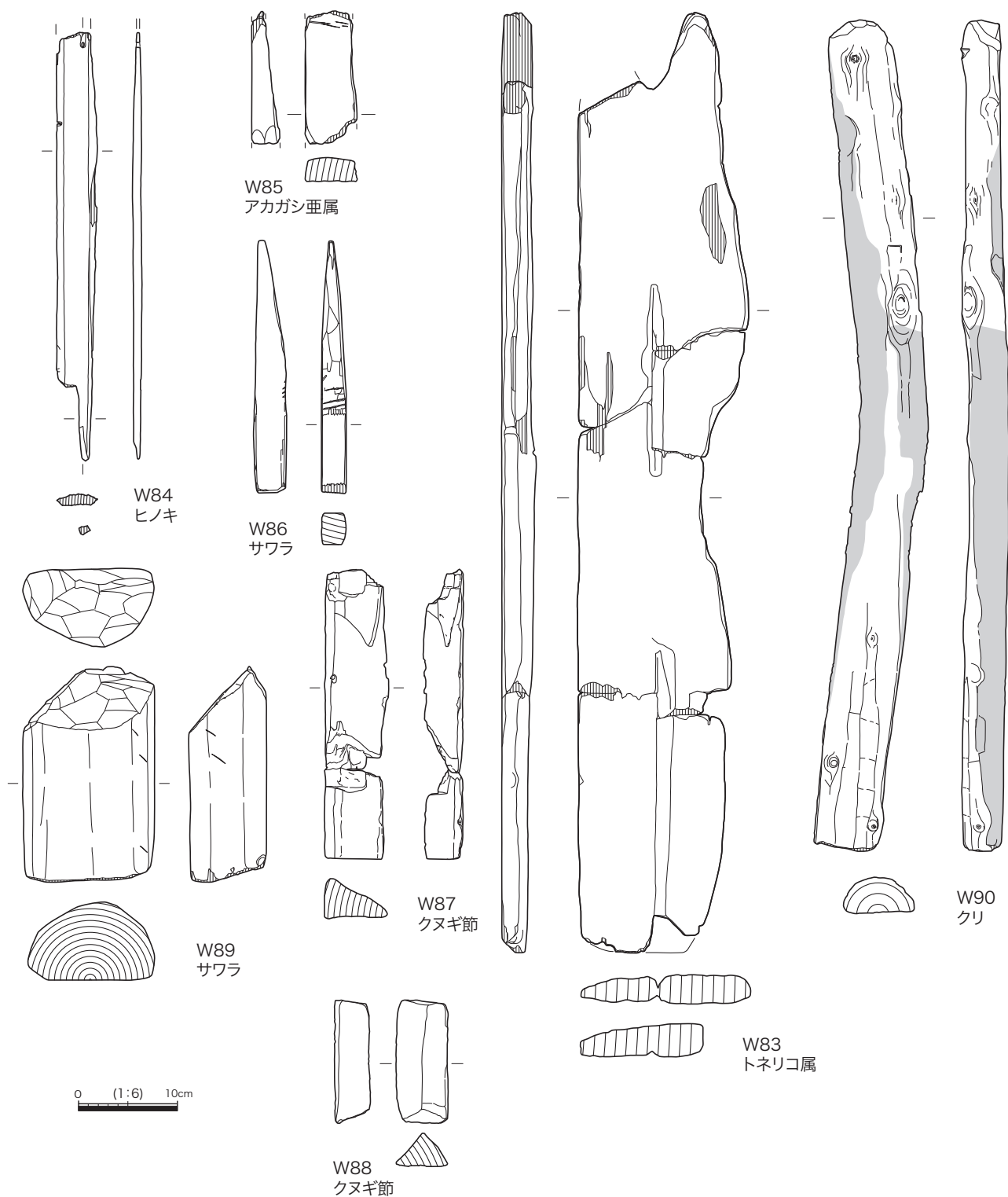
第 144 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 9 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-1



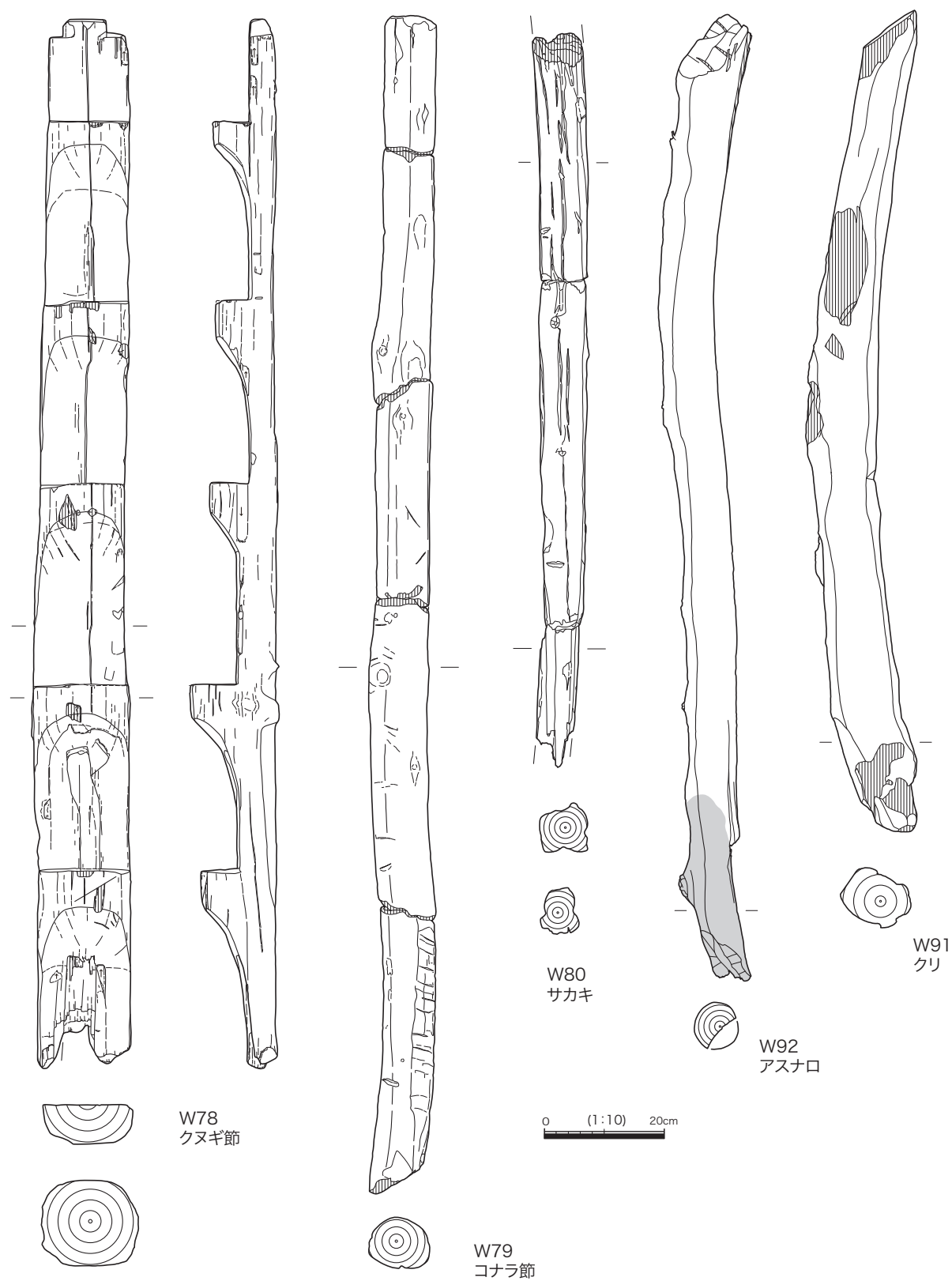
第 145 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 10 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-2



第 146 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 11 (S = 1/6)

下懸遺跡 09A 区 026NR-3



第 147 図 下懸遺跡 09A 区出土木製品 12 (S = 1/10)

## 平成 21 年度調査 (09B 区)

下懸遺跡 09B 区は 026NR の 1 層・2 層・3 層から木製品が出土しており、特に 3 層の木製品群は 162 点と、本報告書において最もまとまった出土点数を占めている。それぞれの層位から出土した土器の所属時期は、1 層—7～9 世紀、2 層—7～8 世紀、3 層—6 世紀末～7 世紀と廻間 I 式期末～II 式並行期の土器が混じる。この 09B 区もまた、3 層の木製品のうちのほとんどが廻間 I 式期末～II 式並行期に属すると思われる。

### 026NR-3 層 (第 148～165 図)

**掘削具** W93～97・149 は伊勢湾型曲柄鋤。うち、W149 が平鋤、W96 が二又鋤、W94・95・97 が三又鋤の刃部である。W93～97 は樹種にアカガシ亜属で、W149 のみクヌギ節を用いており、この鋤の起源地である尾張平野部では二又鋤・三又鋤にアカガシ亜属、平鋤にはコナラ節・クヌギ節・クリを使用することから、W93 は二又鋤か三又鋤の上半部である蓋然性が高い。W98 はこの伊勢湾型曲柄鋤用の膝柄で、サカキの枝分かれ部分を用いる。W99 は一木の平鋤で、掬い部の片側にのみ足掛け（右足）用の段をつくり出す。柄部が太く、全体に厚みがあることから、未成品の可能性がある。樹種はクヌギ節の柁目材。W100 は一木平鋤の柄部で、握り部の中央に小孔を穿つ。樹種はサカキの柁目材。W101 は杵型田下駄の杵木で、樹種にはコウヤマキを用いる。

**工具・雑具・調度** W102 はクリの柁目材を用いた厚板で、片面に刃物傷が多数ついていることから、作業台として使用されたと考えられる。W103 は火鑢臼で、サワラの角棒を用いる。W104 は前述の W6・74 と同形式の一木の腰掛けで、脚の下端部をわずかに欠損する他は、ほぼ完形。樹種はヤナギ属を用いる。W105 は肘掛け（脇息）で、短辺側の端部近くに長方形の穿孔をほどこし、うち片側には脚の柄部分がわずかに遺存している。樹種はサワラの板目材。W107 は平面が長楕円形で一方の面の中央をやはり楕円形に若干掘り凹めている。それとは逆の面には刃物傷が残ることから、ここでは作業台として報告しておく。樹種はコナラ節の芯持ち材。

**紡織具・編み具** W111 はムシロやコモ編み用の編み台で、長辺の片側にのみ刻みが入る。樹種はサワラの板目材。

**容器・食事具** W106 は刳物容器。クリの芯持ち丸木を刳り貫き、外面には溝を切る。W108 は脚付槽で、立ち上がり部は欠損している。樹種はクリの横木取り。W109 もクリの板目材による槽だが、脚はない。W110・196・237 はいずれもスギのわずかな残片だが、その形状から槽の一部とみられる。

**武器** W112 は全長 71.6cm と小型の丸木弓。古墳時代初頭以降は丸木の弓がほとんどその姿を消すことから、舞錐など工具としての弓であった可能性がある。樹種はスギの芯持ち材。W113 は赤彩の楯。全面に小孔を穿ち、糸かがりをほどこす。図面上の右面には L 字状に、左面には下端部付近のみに赤彩をおこなう。

**建築材** W114～118 は梯子。うち、W116～118 はほぼ完形品で、W116 は 3 段、W117・118 は 4 段のステップを数える。W116 は上端部を丸く仕上げる。W114 はきわめて華奢な作りで 3 段分、W115 は 2 段分のステップが残る。樹種は W114・118 がスダジイ、W115 がクリ、W116 がヒノキ、W117 がナシ亜科。W124 は図面上の下端部にのみ方形の挟りをほどこす厚板で、コナラ節の板目材を用いる。建築材と思われるが、片側の面には刃物傷が残る。W125 はヒノキの板目材を用いた厚板で、図面上の上端部付近に 1 ケ所、下端部付近に 2 ケ所の挟りを入れる。建築材の一部である可能性が高い。W126 はクスノキの追柁目材の厚板で、2 ケ所にスリバチ状の穿孔をほどこす。建築材（横架材）の一部と考えられる。W119～123・242 は、いずれも掘立柱建物の柱材と思われる。いずれも芯持ち材で、樹種は W119・120・123 がクヌギ節、W121・242 はサカキ、W122 はコナラ節。W127 もクヌギ節の芯持ち材で、柱の可能性がある。

**土木材** W128～140は杭で、樹種はW128・136・140がクヌギ節、W129・138がクリ、W130・131・133～135がヒノキ、W132がネズコ、W137がスダジイの芯持ち材。

**板** 141～143は有段板。W141はクリの柵目材を用い、片面の中央部を凸字状に厚く作る。W142はマツ属複雑管束亜属の板目材で、5ヶ所の低い山を作り出している。W144はヘラ状で、図面上の上端部に突起を有する。樹種はヒノキの板目材。W144・145は有挾板。W144はヒノキの割り出し材で、図面上の上端部付近に浅い溝を刻む。W145はスギの板目材で、図面上の下端部を斜めに割り出し、左側縁の中央部にV字状の切り込みを入れる。W146～148は穿孔板。W146はサワラの追柵目材で、短辺の両側縁付近に長方形の穿孔を2ヶ所、長辺側の左下付近に円形の小孔を1ヶ所穿つ。W147はサワラの柵目材で、中央部に長楕円形の穿孔をほどこすとともに、図面上の下端部にも切り込みを入れる。W148はヒノキの柵目材で、図面上の中央部やや右寄りに穿孔、下端部に切り欠きをほどこす。W150～190・193・194・197・203・204・210・213・226～228・247・249・251・287・288は板。樹種はW150・159・227がクリの板目材、W151・174がヒノキの追柵目材、W152・161・164・172がサワラの柵目材、W153～155はツブラジイの板目材、W156・162はツブラジイの柵目材、W157・158・226・228がクリの柵目材、W160・182・189がクヌギ節の柵目材、W163・204がモミ属の追柵目材、W165がアスナロの追柵目材、W166・177・179・180・213がヒノキの柵目材、W168・170・175・185がスギの板目材、W167・169・173・176・251がサワラの板目材、W171・181・287がスダジイの柵目材、W178がクワ属の柵目材、W210がヒノキの板目材、W183がコウヤマキの柵目材、W184・188・197がモミ属の柵目材、W186がモミ属の板目材、W187・193がコナラ節の柵目材、W190がヤナギ属の板目材、W194・249がコウヤマキの板目材、W203がサワラの追柵目材、W247がアスナロの板目材、W288がスダジイの板目材。

**棒** W191・192・195・198～202・205～207・209・211・212・214・217・218・222は角棒。樹種は、W191・201・205・209・218がサワラ、W192・200・212がクリ、W195・202がクヌギ節、W198がアカガシ亜属、W199・207・217がヒノキ、W206がクワ属、W211がスダジイ、W214がスギ、W222がアスナロ。W208・215・216・219～221・223・224は丸棒。樹種はW208・215・219・221・223がヒノキ、W216がサワラ、W220がサカキ、W224がコウヤマキ。

**分割材** W225・229～235は1/8分割材で、樹種はW225がアカガシ亜属、W229・230がクヌギ節、W231がスダジイ、W232・235がクリ、W233がコナラ節、W234がコウヤマキ。W236・238・239・244・245は1/4分割材で、樹種はW236がクリ、W238・244・245がスダジイ、W239がヒノキ。W240はクヌギ節、W241はクリの1/2分割材。

**残材** W248はコウヤマキ、W250はヒノキの残材。

**丸太** W243はヒノキ、W246はコナラ節、W289はクリの芯持ち丸太で、W243・248は丁寧に面取りをした痕跡が残る。

## 026NR-2層（第165～168図）

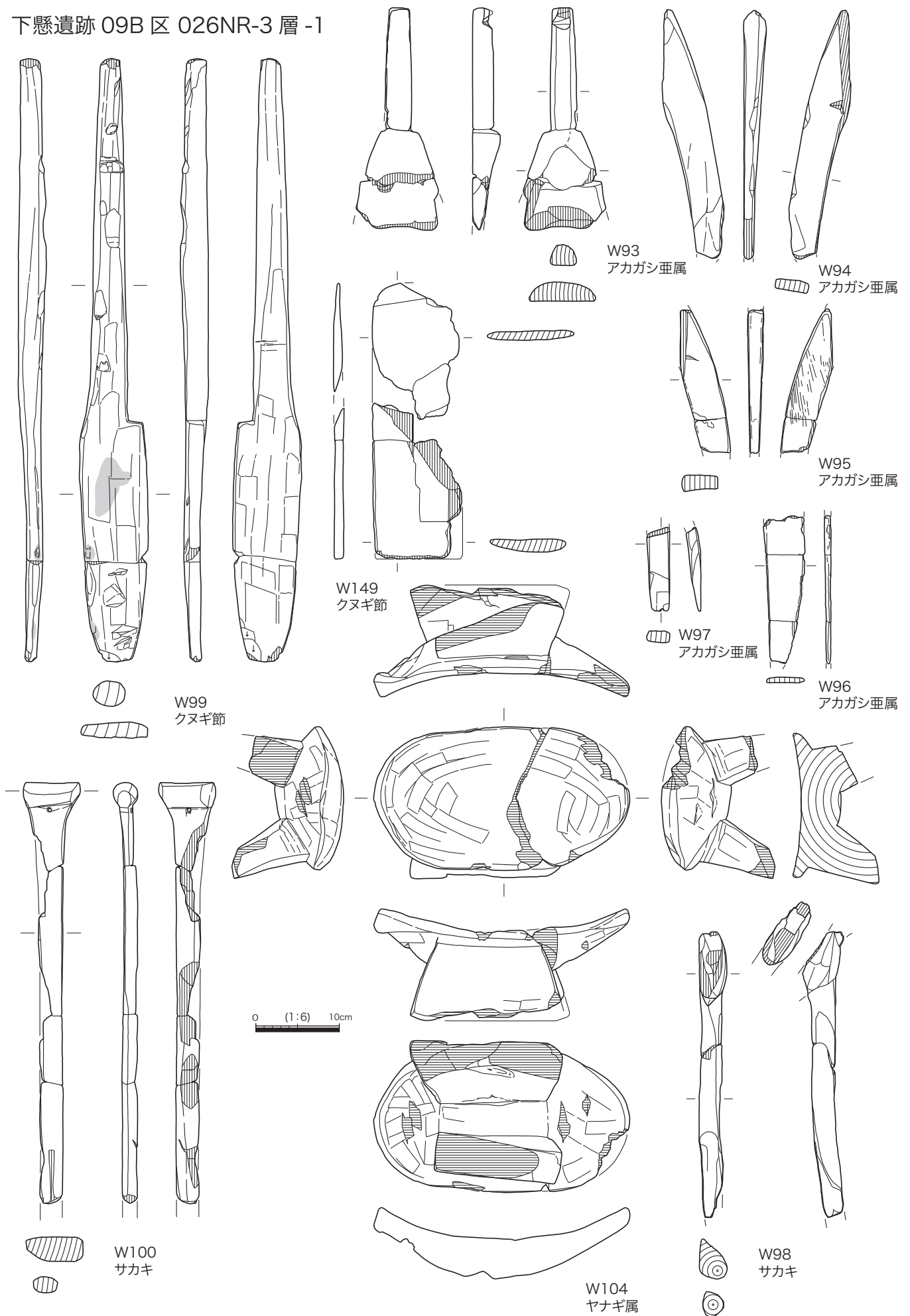
**文房具** W252はサワラの柵目板を用いた木簡で、折り切られた下部である。破損しているが、一部下端が確認できる。最大幅は3.8cm、下端からの残存長13.8cm、厚さ0.3cmである。「□□米物受被□□」と釈文され、2字目は「算」、7字目は「賜」の可能性があり、時期は7世紀から9世紀になる（永井2011）。

**農具** W253は田下駄の足板で、サワラの板目材の転用材を用いる。

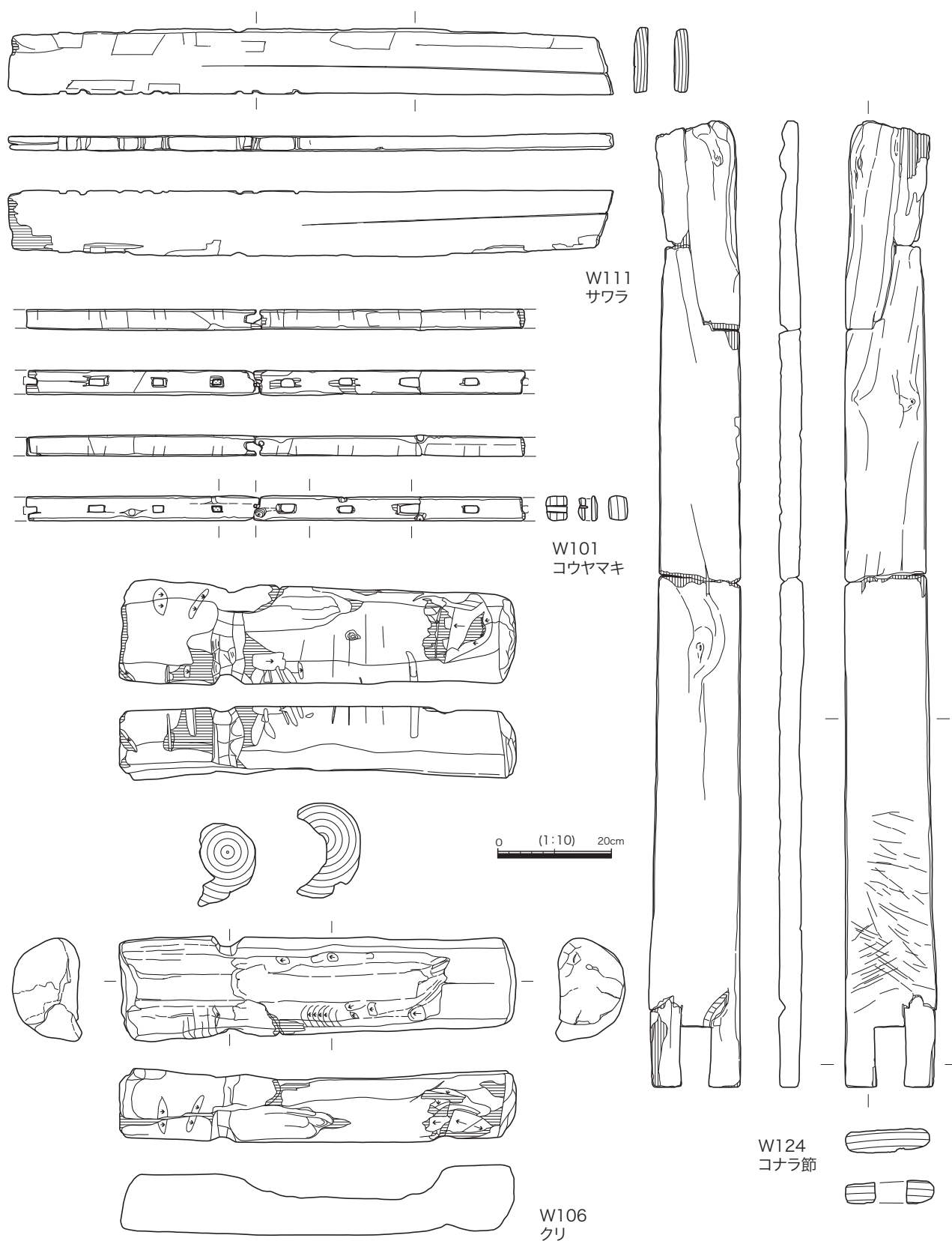
**容器・食事具** W254～259は曲物の底板で、W260はその側板。うちW254・255・259は分割して穿孔をほどこすなど、異なる用途に転用している。また、W256も内外両面に多量の刃物傷が残ることから、俎板として利用されたことがわかる。樹種はW254・258がサワラの柵目材、W255



下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -1

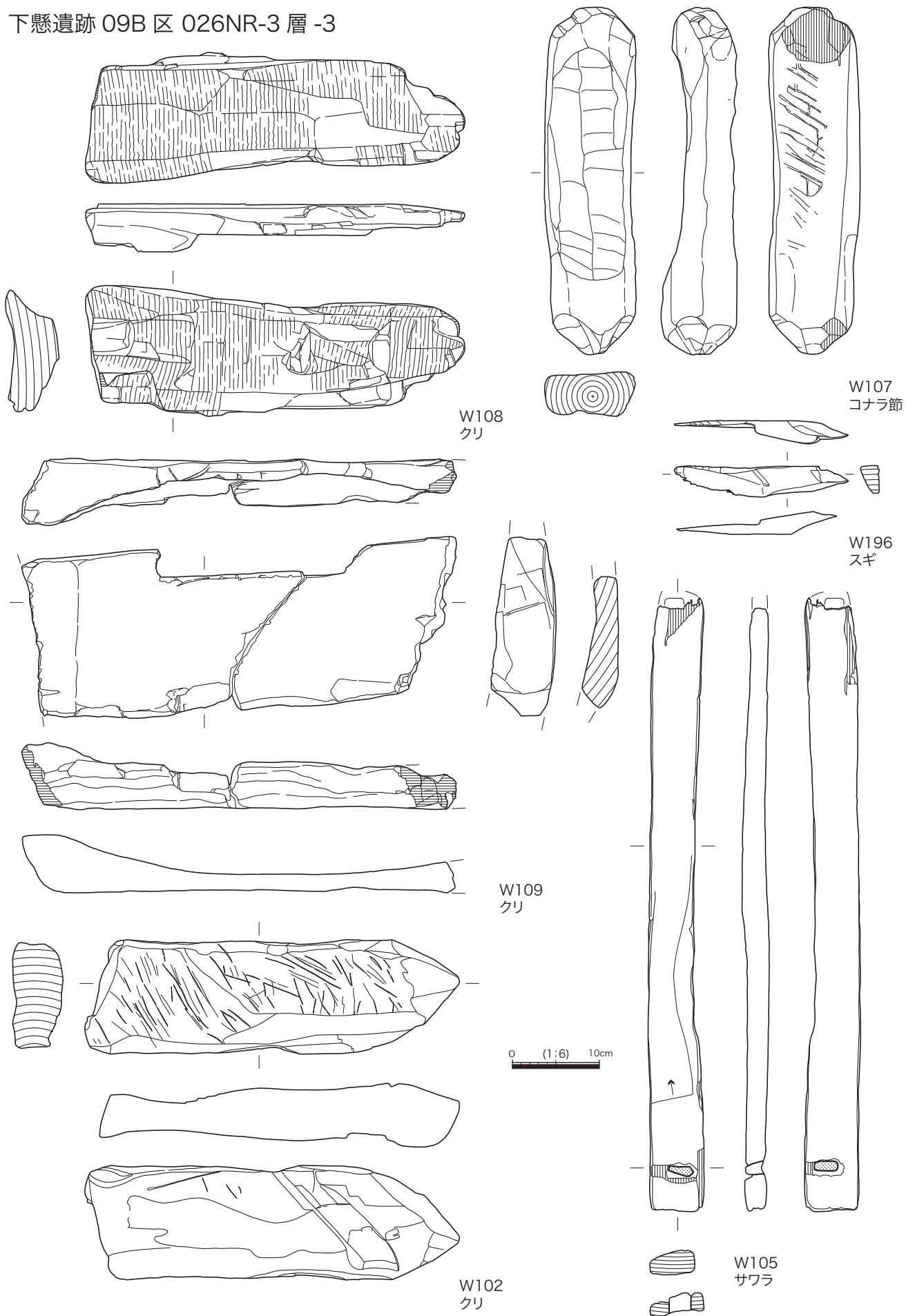


下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -2



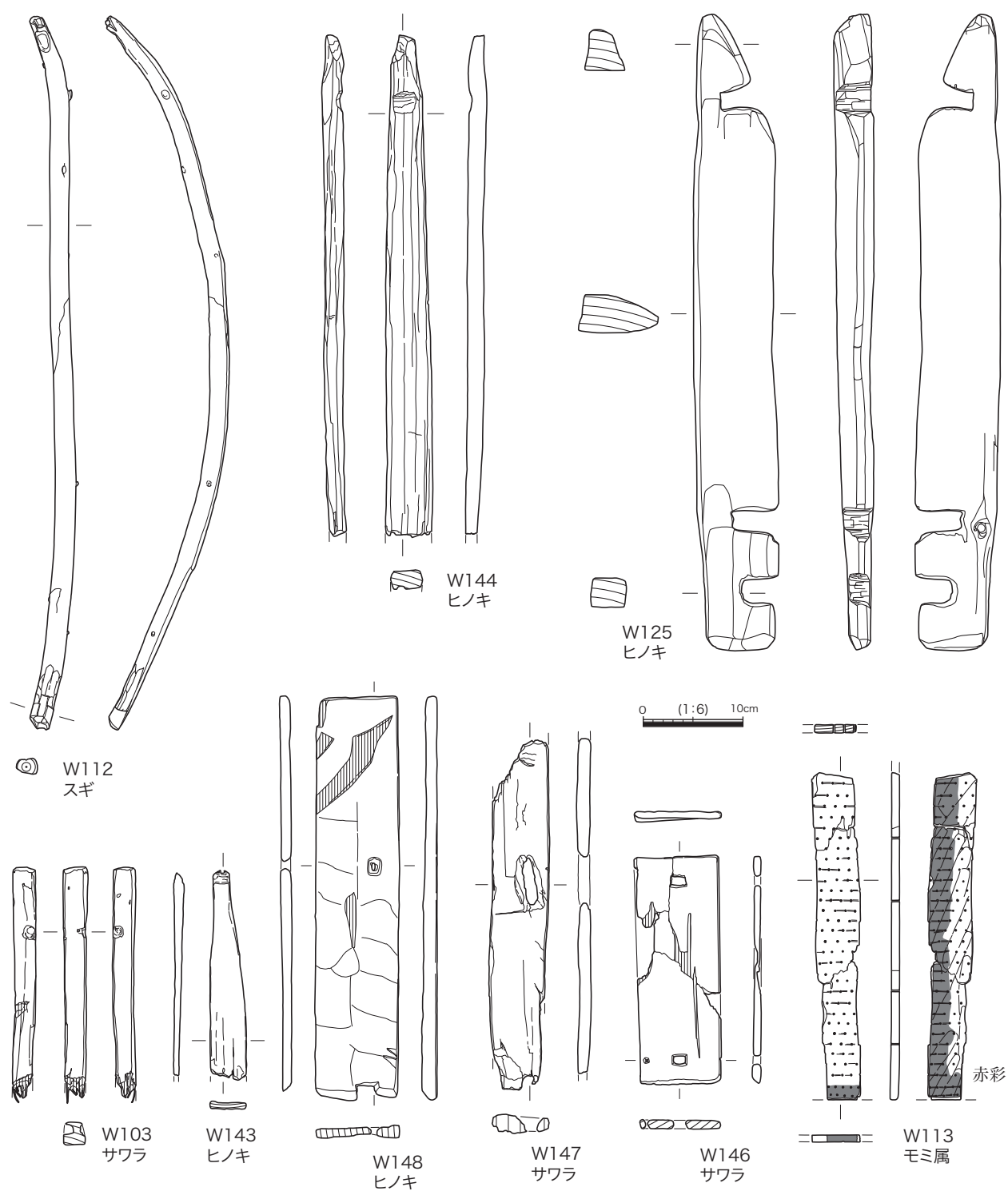
第 149 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 2 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -3



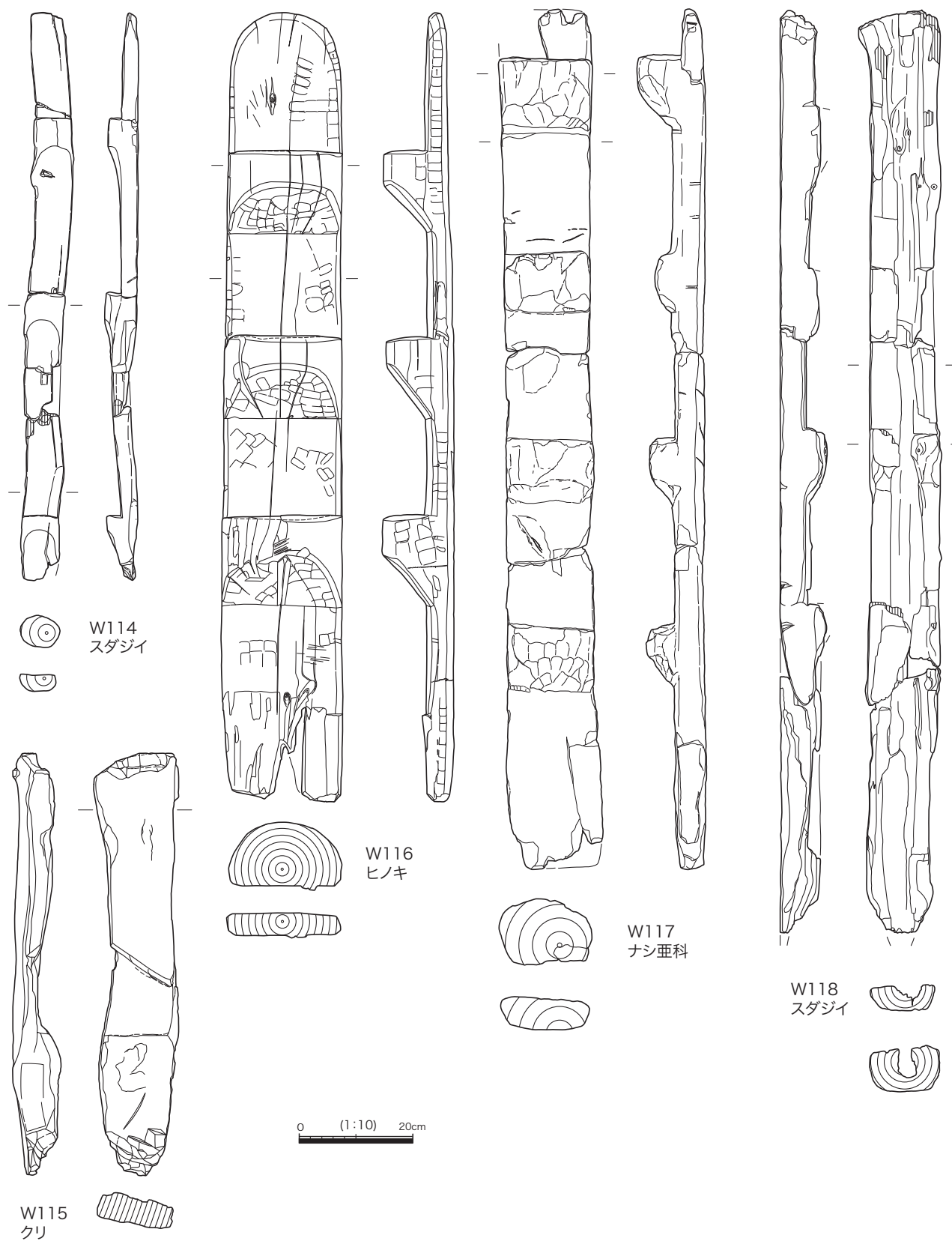
第 150 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 3 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -4



第 151 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 4 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -5



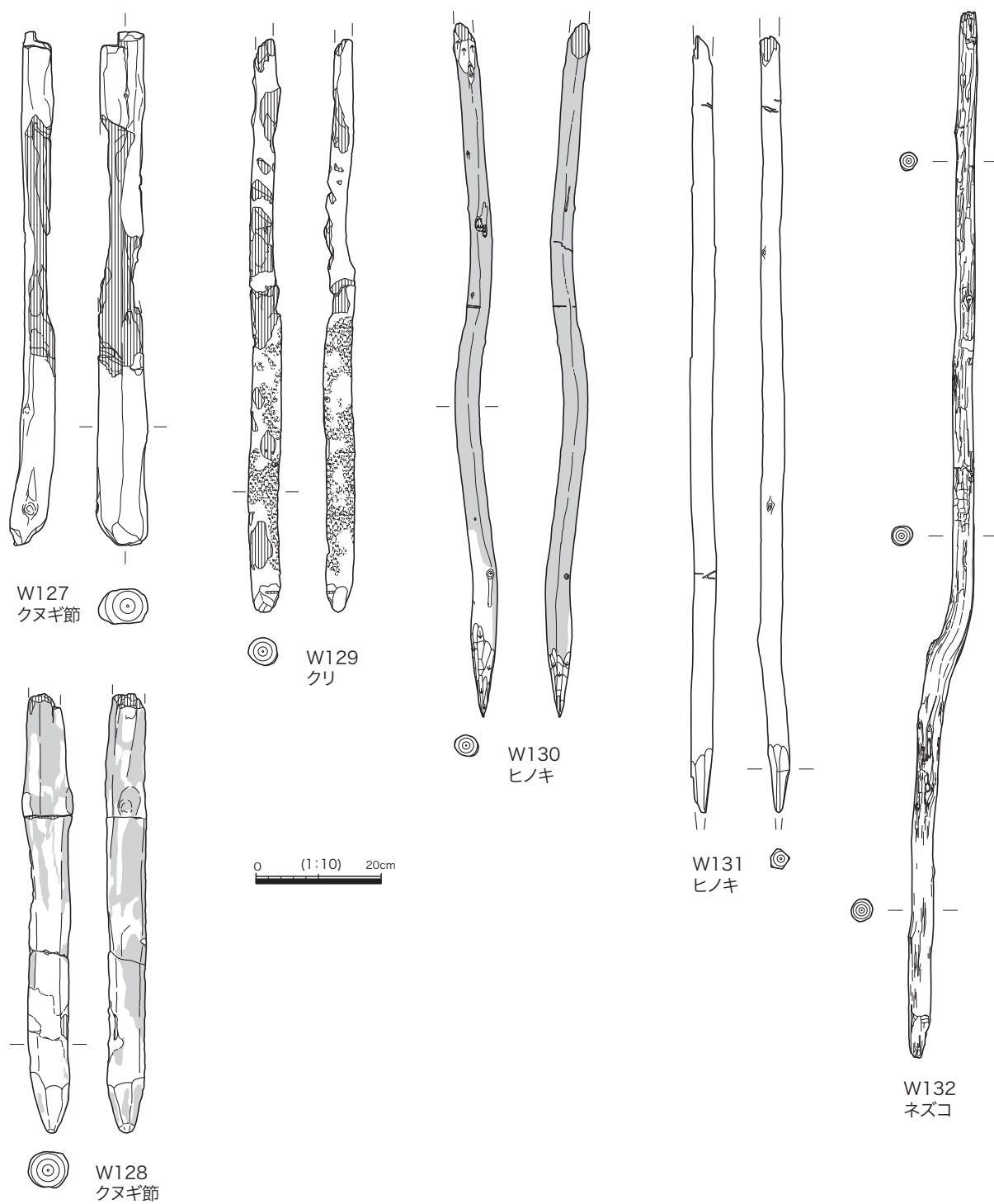
第 152 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 5 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -6



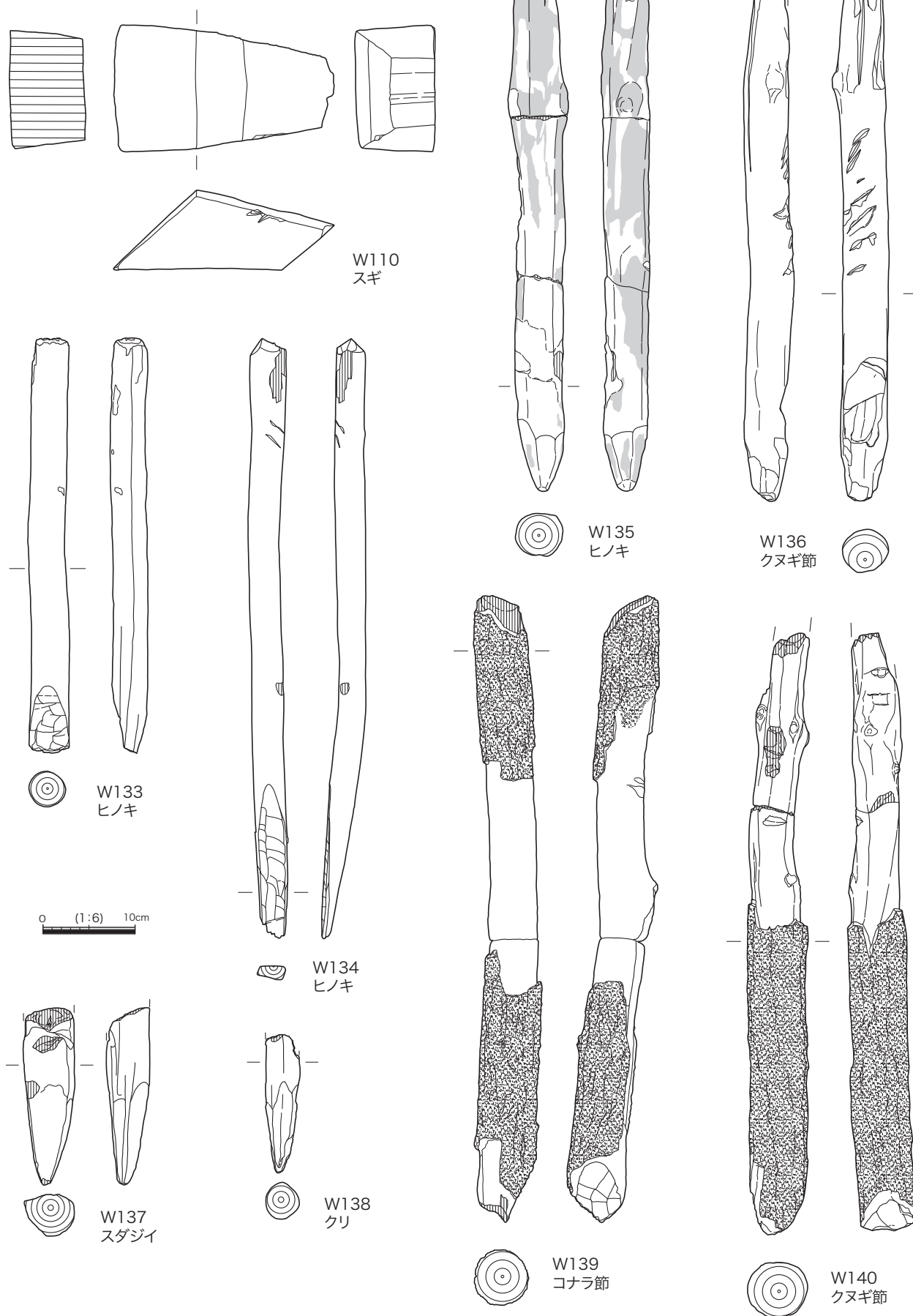


下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -7

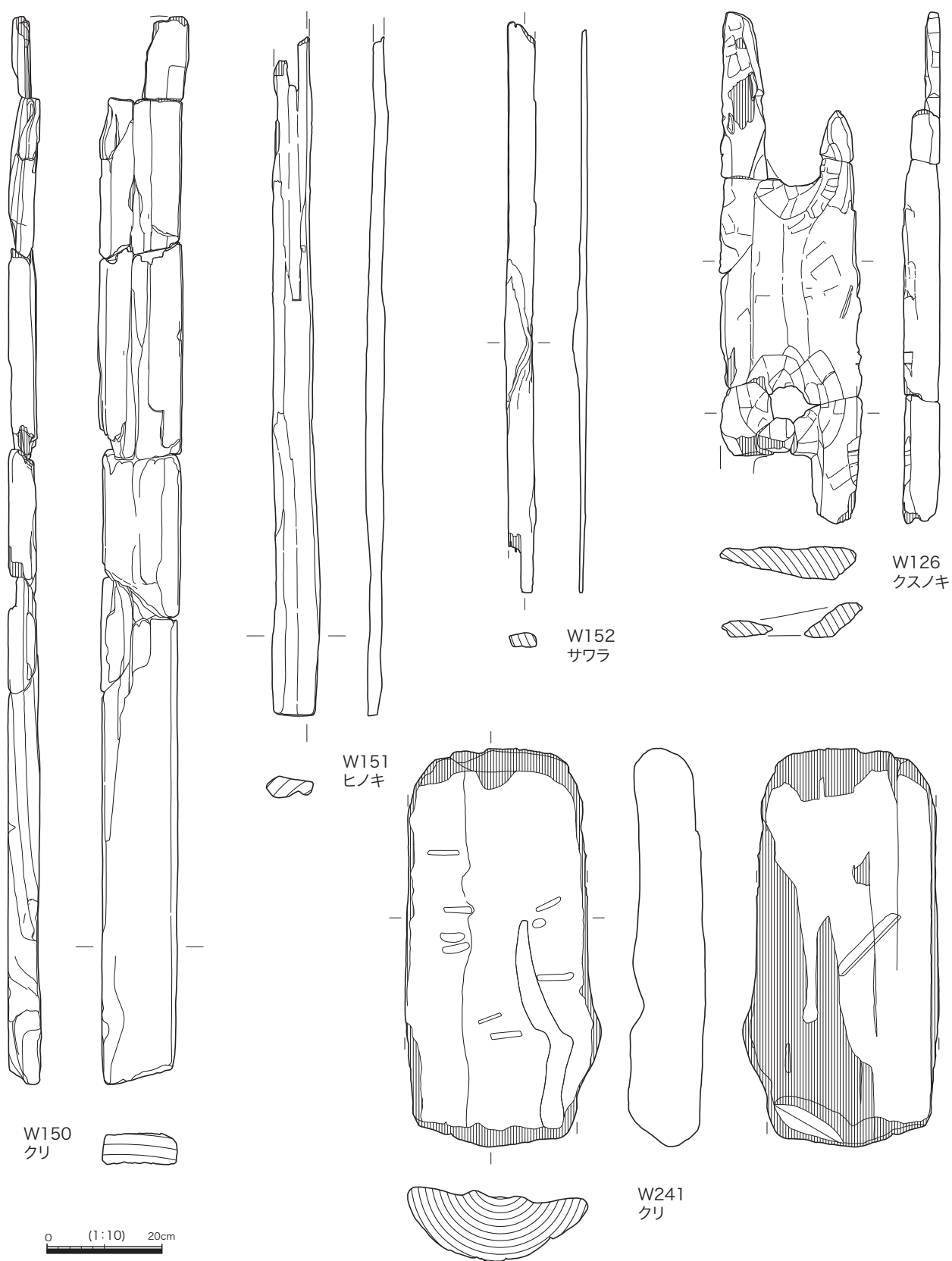


第 154 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 7 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -8

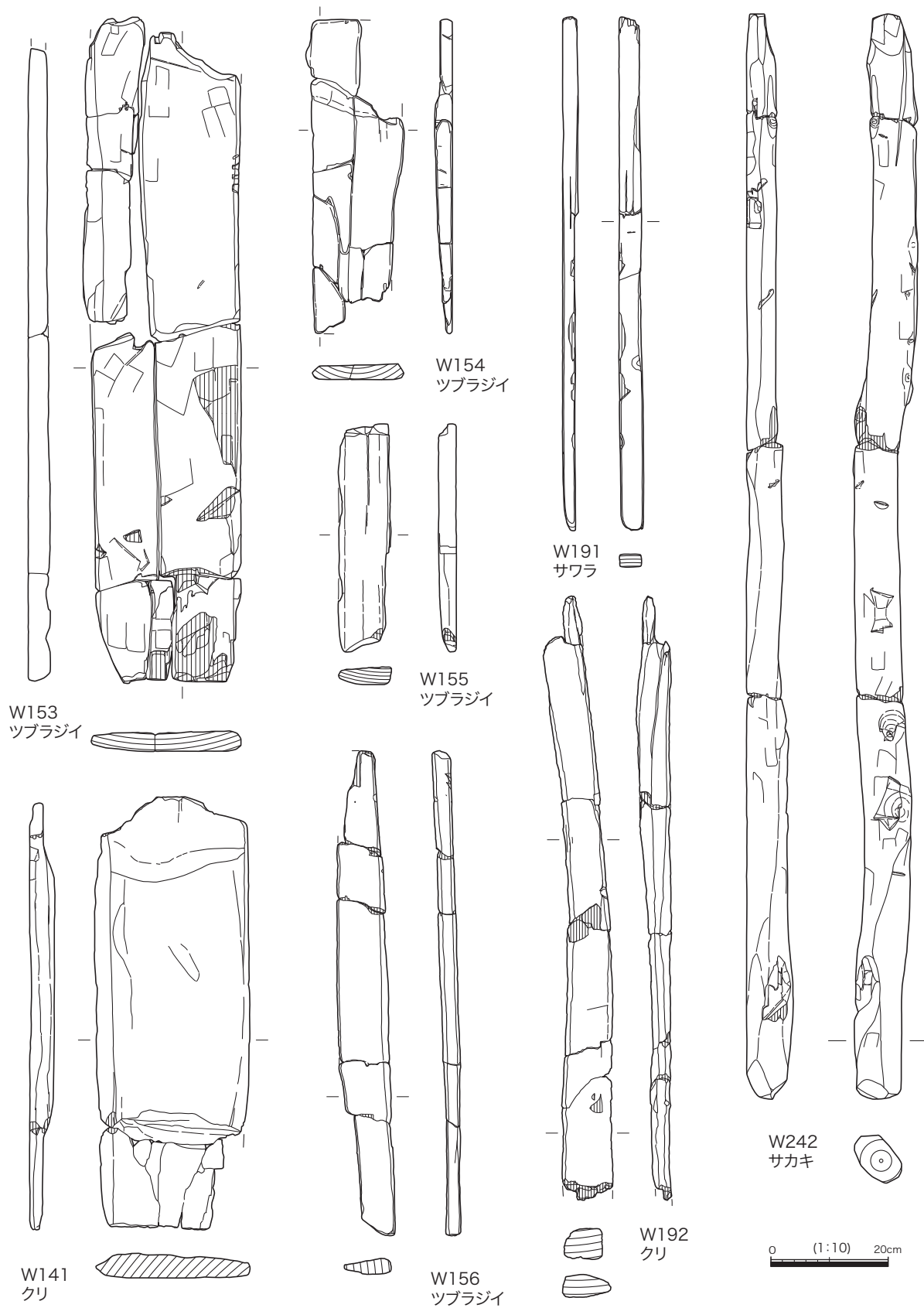


下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -9



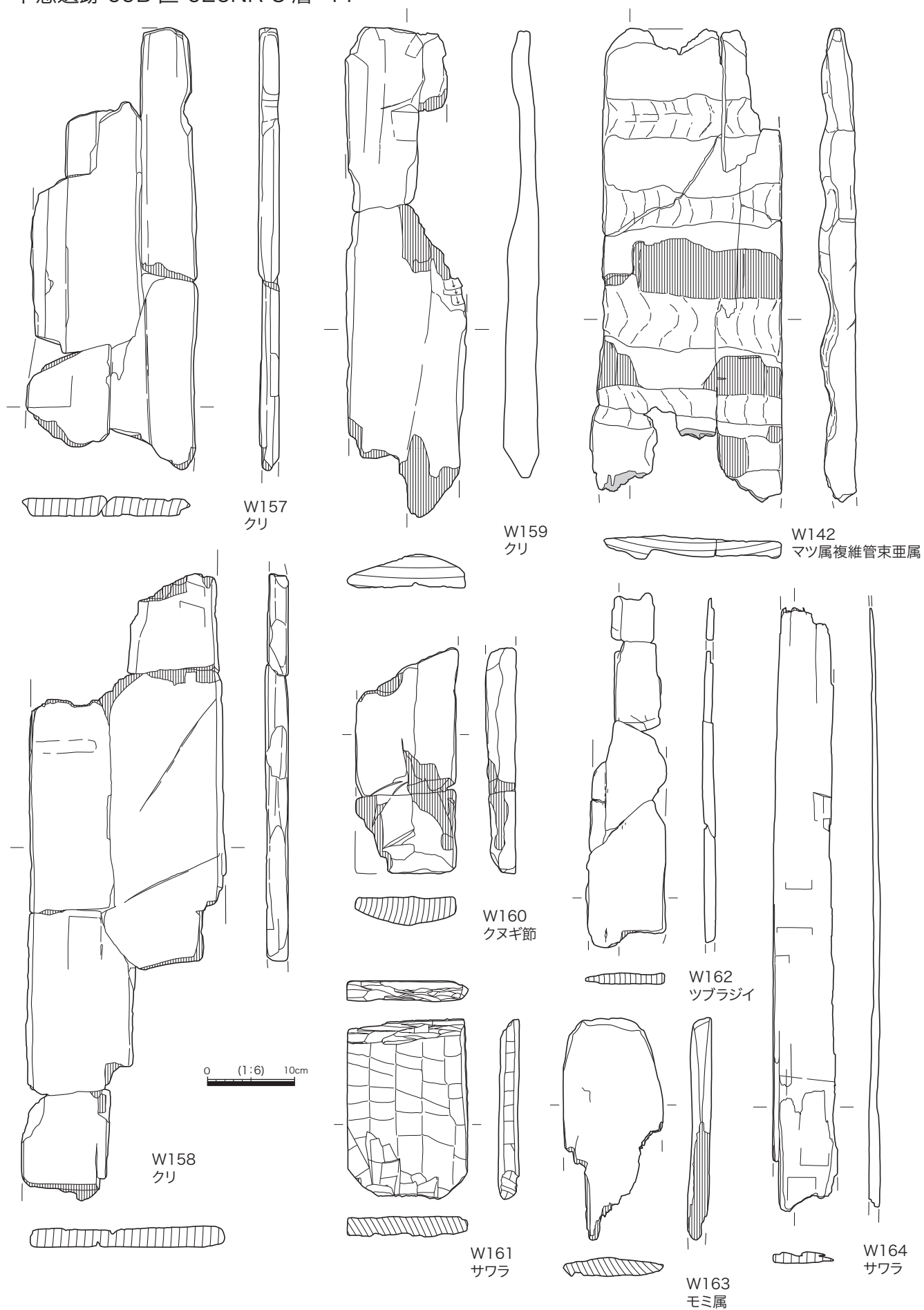
第 156 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 9 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -10



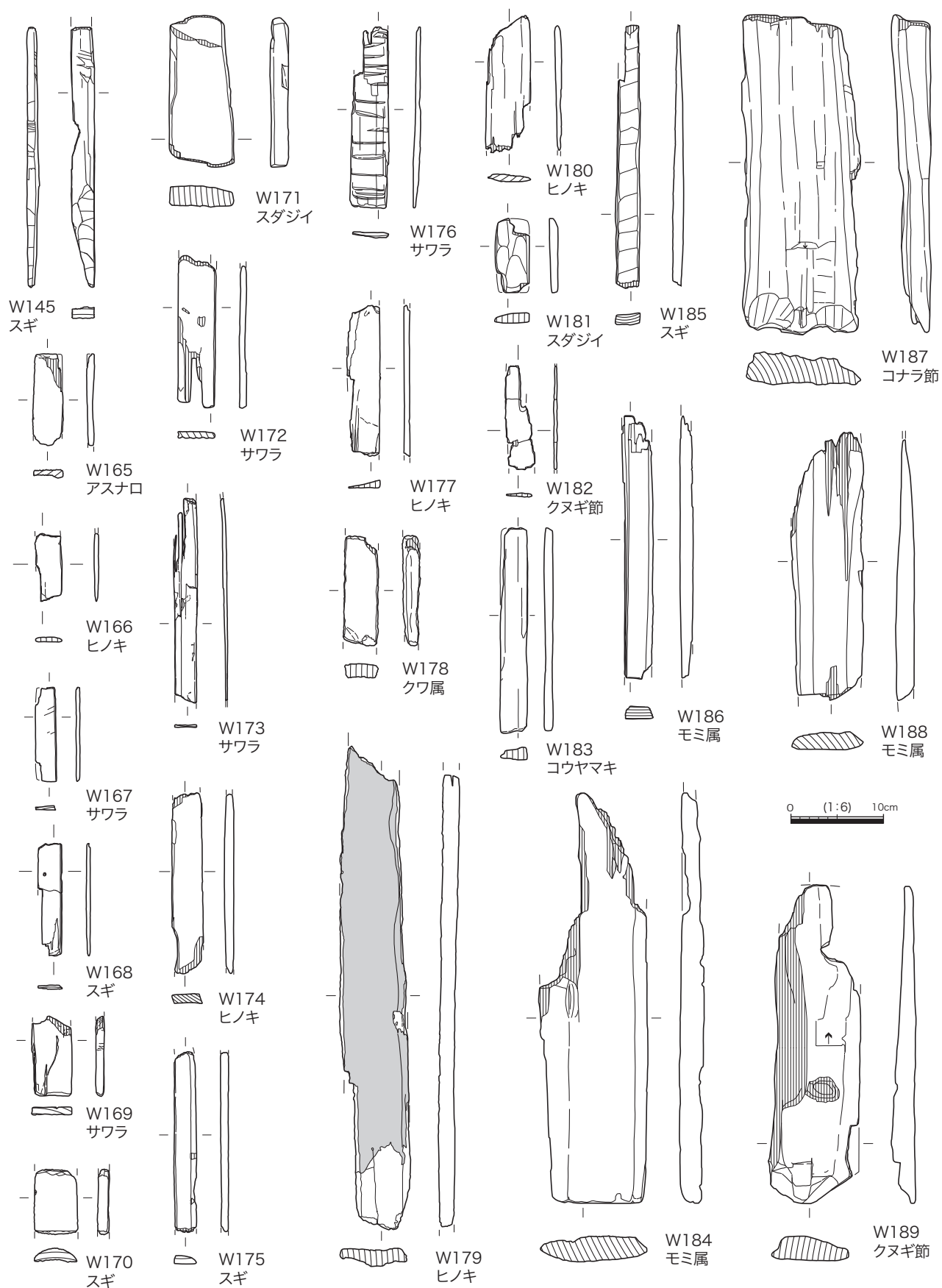
第 157 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 10 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -11



第 158 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 11 (S = 1/6)

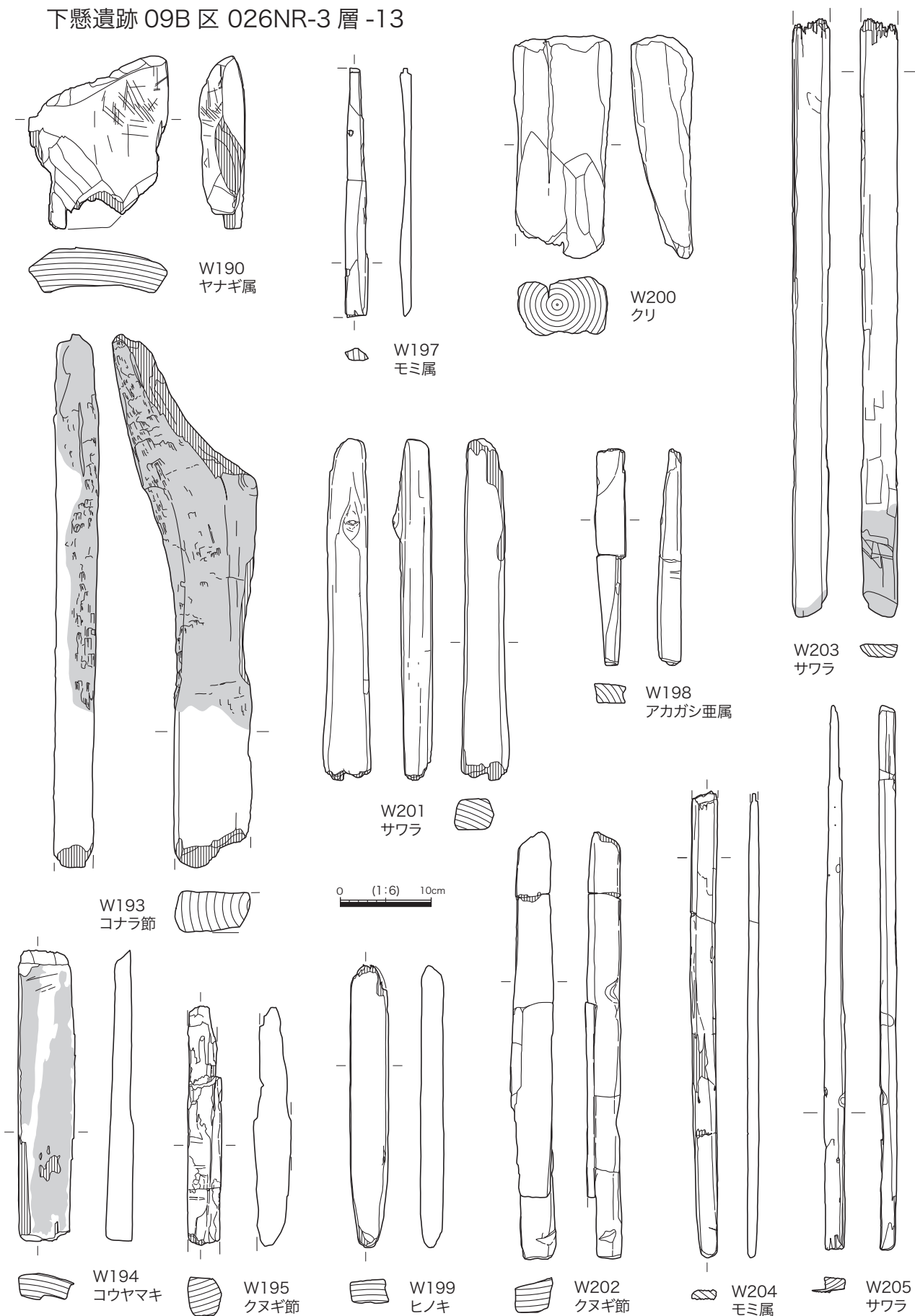
下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -12



第 159 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 12 (S = 1/6)

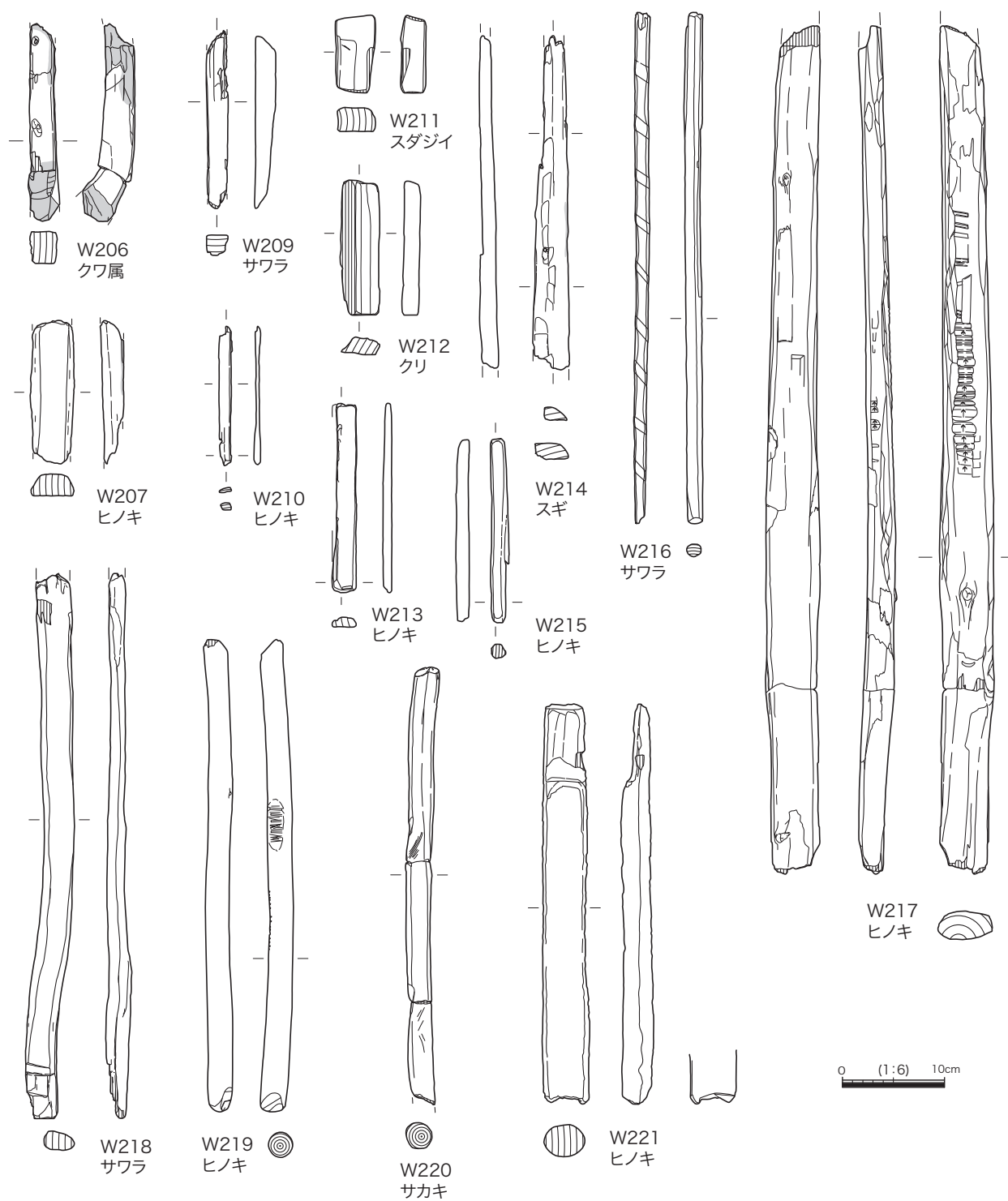


下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -13



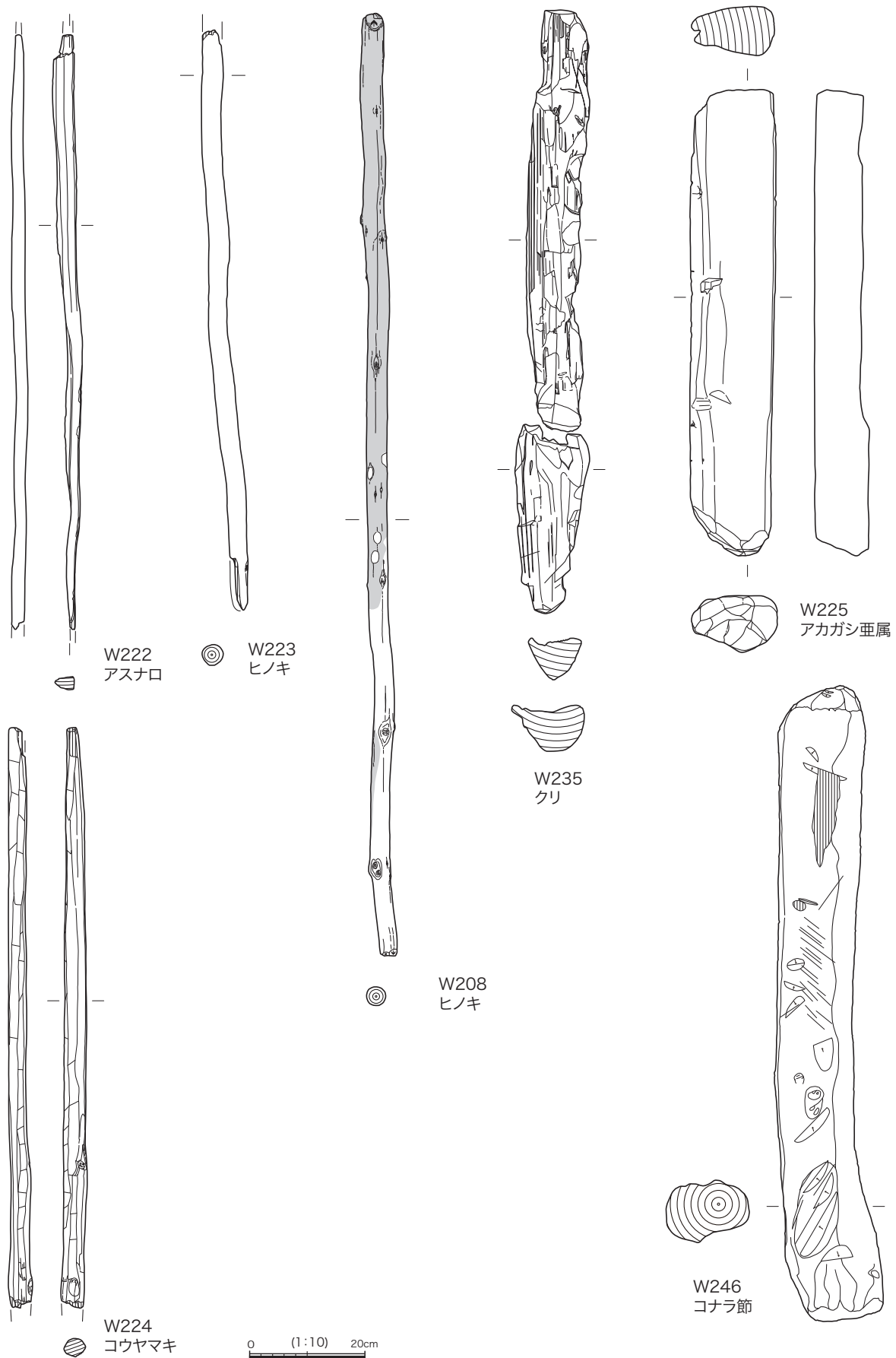
第 160 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 13 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -14



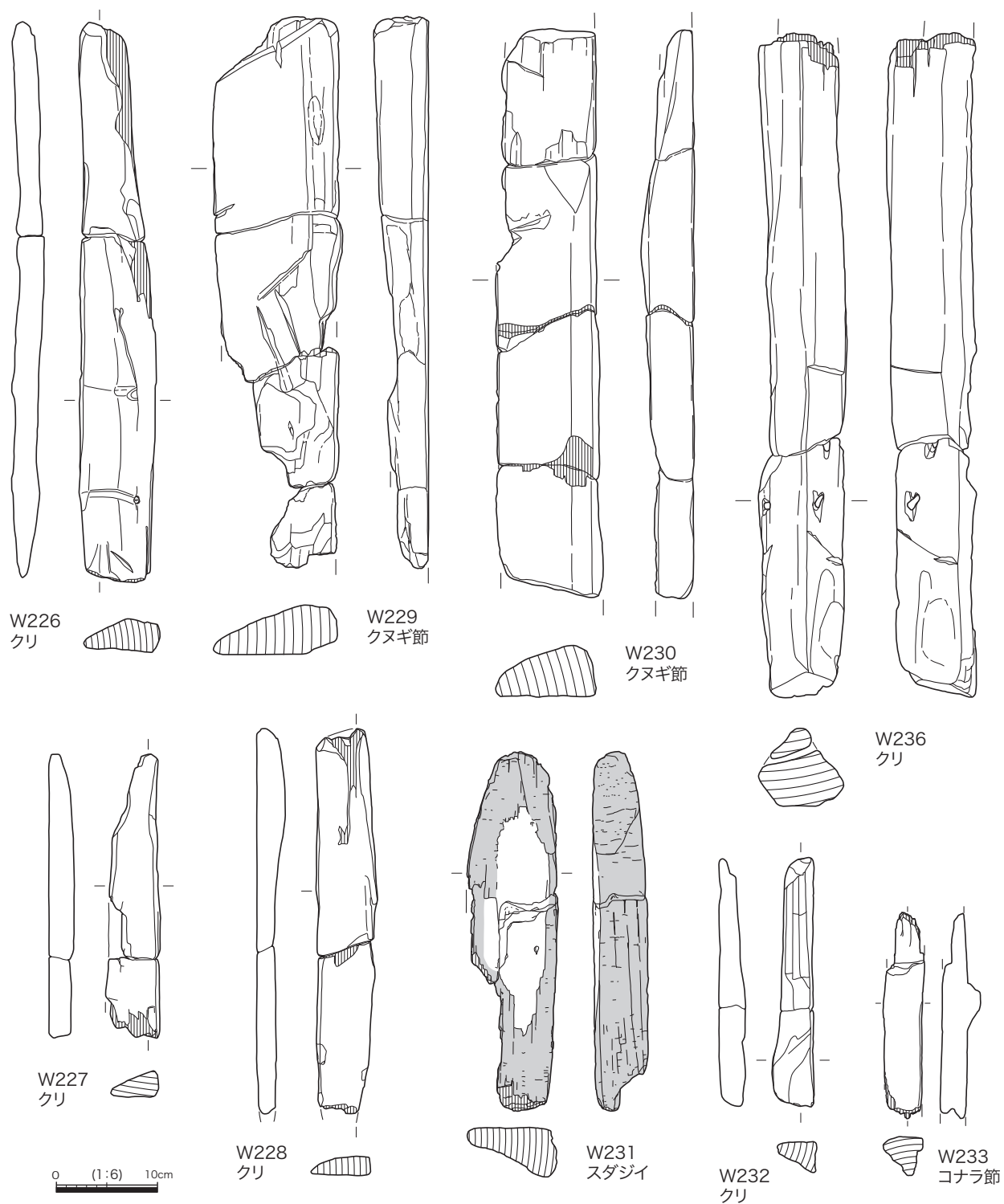
第 161 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 14 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -15



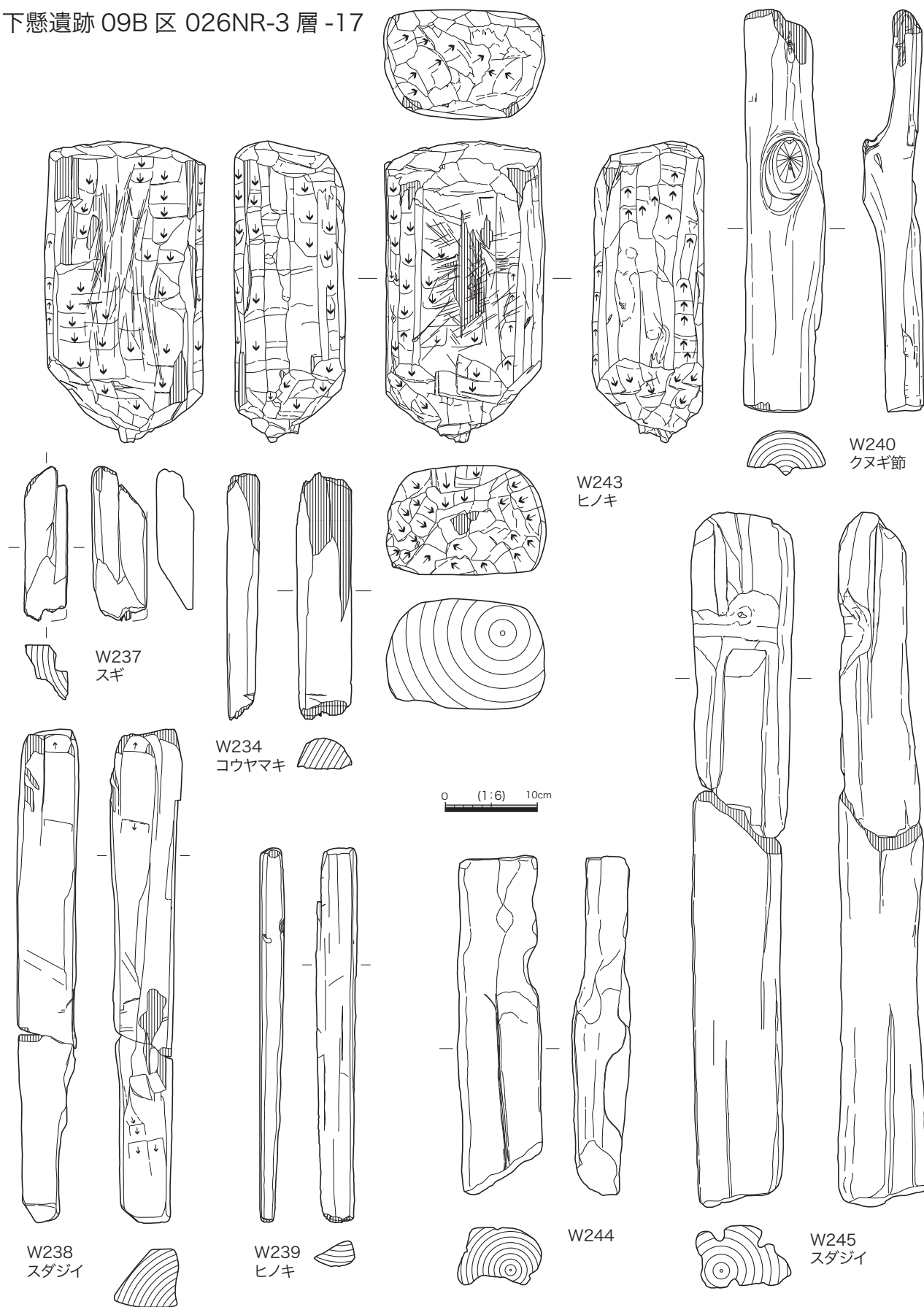
第 162 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 15 (S = 1/10)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -16



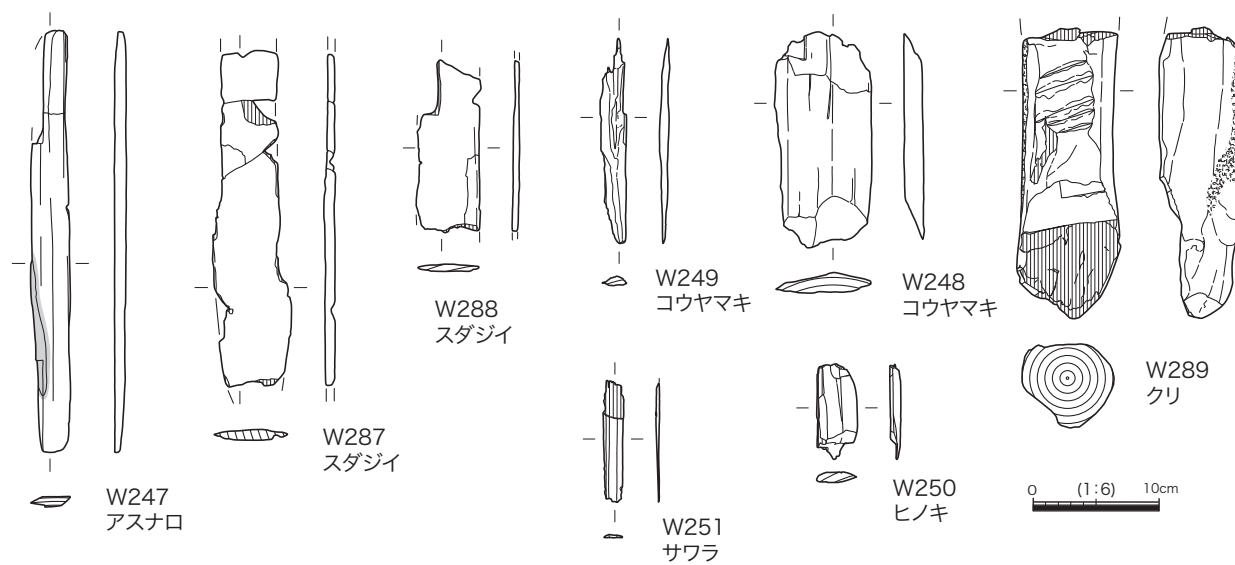
第 163 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 16 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -17

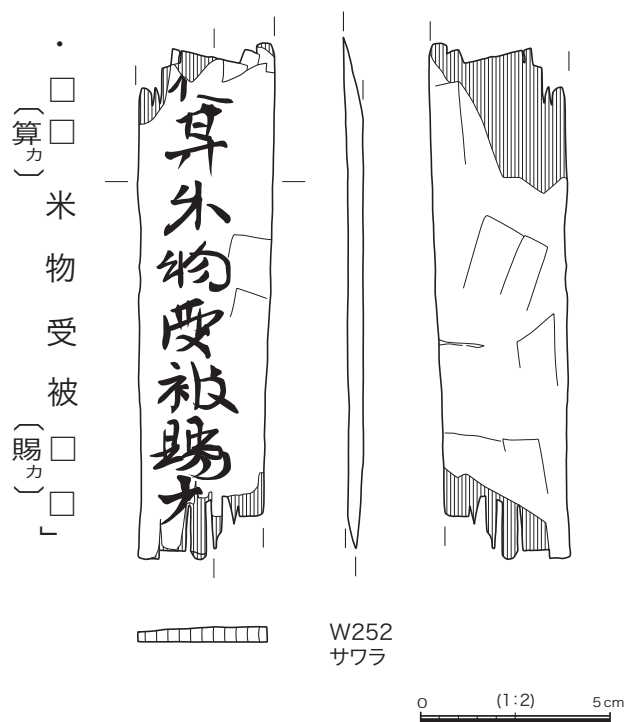


第 164 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 17 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-3 層 -18



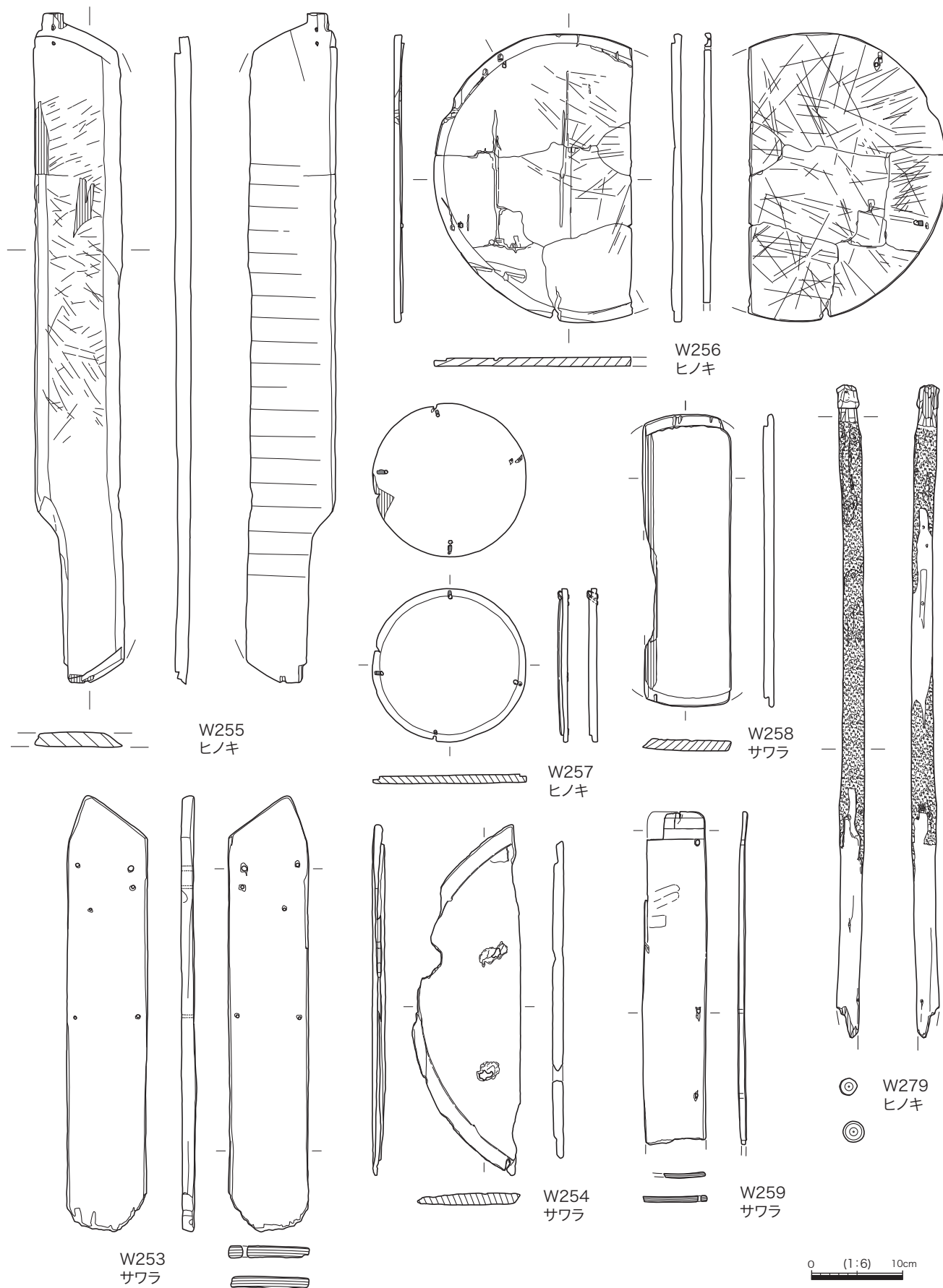
下懸遺跡 09B 区 026NR-2 層 -1



第 165 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 18 (S = 1/6、1/2)

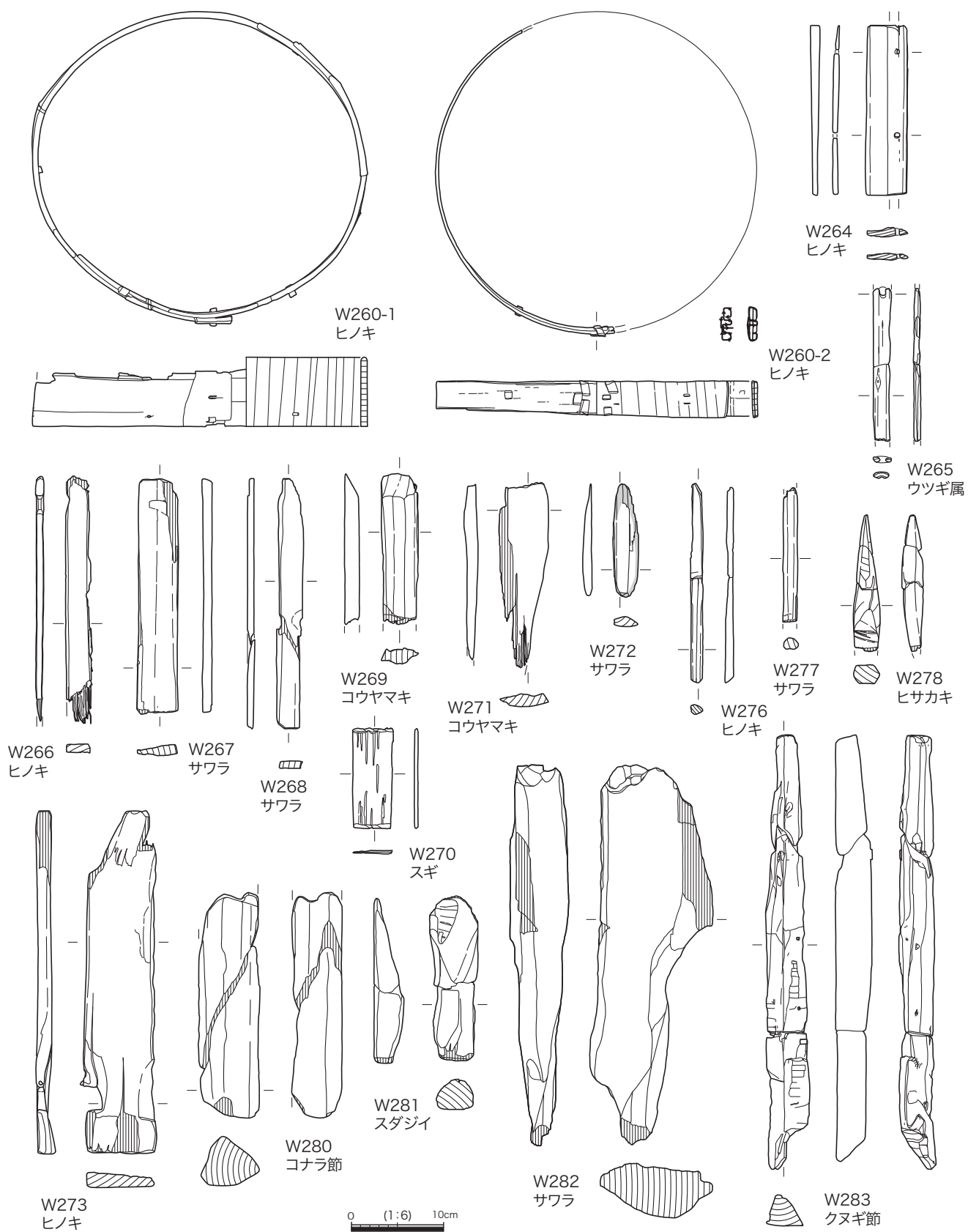


下懸遺跡 09B 区 026NR-2 層 -2



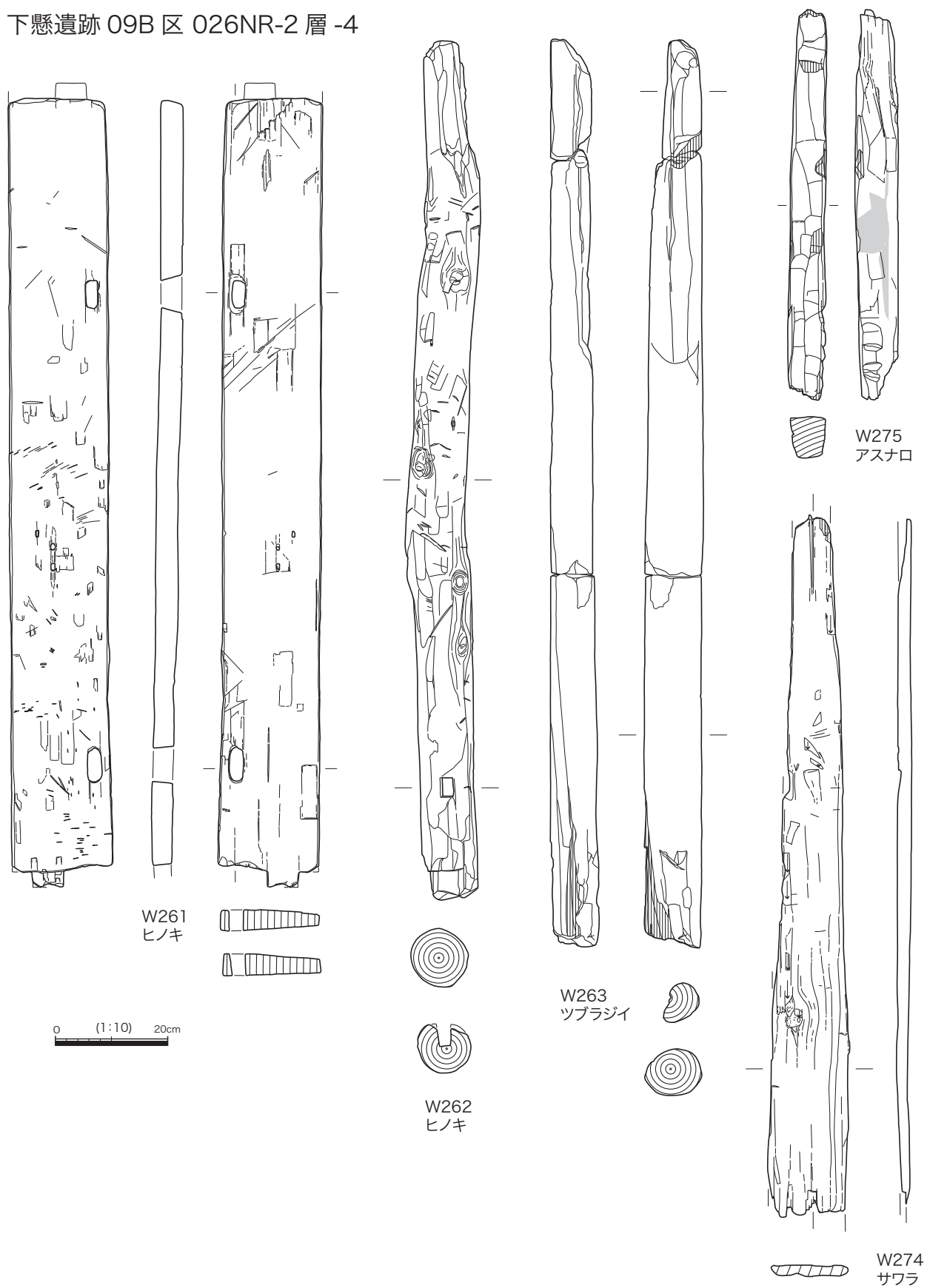
第 166 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 19 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-2 層 -3



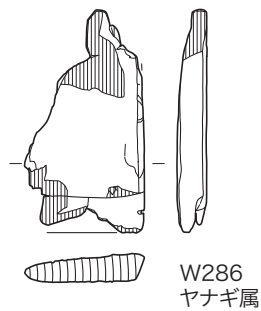
第 167 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 20 (S = 1/6)

下懸遺跡 09B 区 026NR-2 層 -4



第 168 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 21 (S = 1/10)

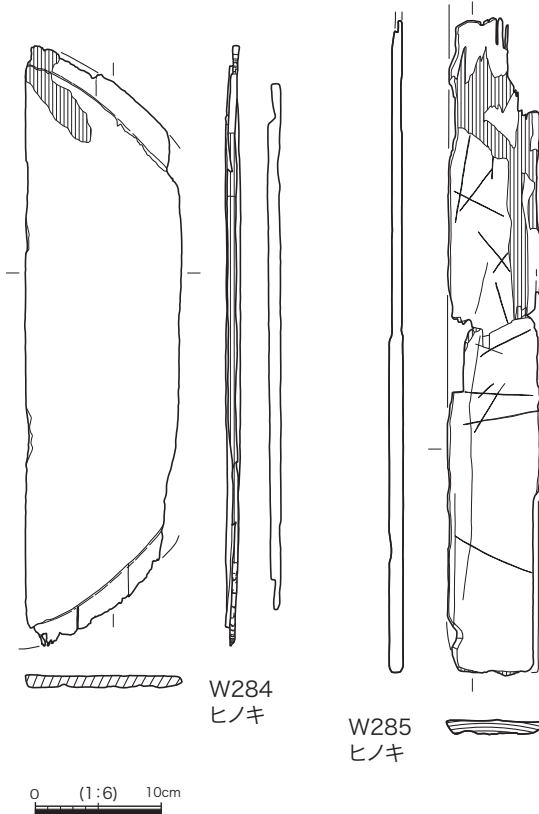
## 下懸遺跡 09B 区 026NR-2 層 -5



W286  
ヤナギ属

0 (1:6) 10cm

## 下懸遺跡 09B 区 026NR-1 層



W284  
ヒノキ

W285  
ヒノキ

0 (1:6) 10cm

第 169 図 下懸遺跡 09B 区出土木製品 22  
(S = 1/6)

～ 257・260 がヒノキの桁目材、W259 がサワラの板目材。

**建築材** W262・263 は掘立柱建物の柱材で、W262 には柄穴が開けられている。樹種は W262 がヒノキの芯持ち材で、W263 がツブラジイの芯持ち材。W261 は図面上の下端部に出柄をもち、長辺の右側に 2 ケ所の縦長方形、上端部に横長方形の穿孔をほどこす。ヒノキの桁目材の厚板で、建築材と思われる。

**板** W264・265 は穿孔板。W264 はヒノキの板目材で、図面上の長辺右側に 2 ケ所穿孔をほどこす。W265 はウツギ属の板目材で、図面上の上端部に小孔を開ける。W266・273 は有挟板。W266 は図面上の上端付近、W273 は下端部付近の左側縁に挟りをほどこすヒノキの追桁目材。W267・268・270～272・274・286 は板で、樹種は W267・268・274 がサワラの桁目材、W270 がスギの追桁目材、W271 がコウヤマキの追桁目材、W272 がサワラの追桁目材、W286 がヤナギ属の桁目材。

**棒** W275 はアスナロの角棒。W279 は樹皮付きのヒノキの芯持ち丸木を用いた有頭丸棒。W276～278 は丸棒で、樹種は W276 がヒノキ、W277 がサワラ、W278 がヒサカキ。

**分割材** W280～283 は 1/4 分割材で、樹種は W280 がコナラ節、W281 がスダジイ、W282 がサワラ、W283 がクヌギ節。

**残材** W269 は木材加工で出たいわゆる残材（端材）で、樹種はコウヤマキの桁目材。

### 026NR-1 層 (第 169 図)

**容器・食事具** W284 は曲物底板で、樹種はヒノキの桁目材。

**板** W285 はヒノキの板目材で、表面に刃物痕が残る。

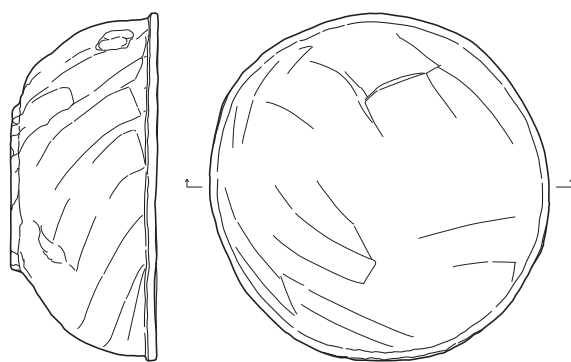
### 平成 21 年度調査 (09C 区)

下懸遺跡 09C 区は 001NR の 1・2・3・4 層から木製品が出土している。それぞれの層位から出土した土器の所属時期は、1 層—9 世紀後半～10 世紀前半、2・3・4 層—廻間Ⅱ～Ⅲ式並行期である。

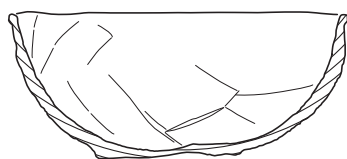
### 001NR-4 層 (第 170・171 図)

**容器・食事具** W290 はクスノキ科の横木取りによる大型の刳物鉢。低い高台がつき、口縁部はわずかに外反する。

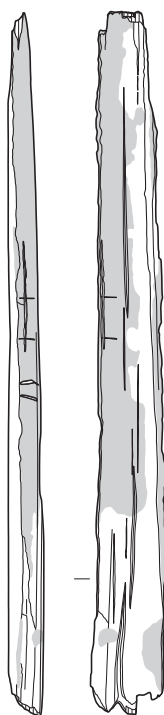
**建築材** W291 は全長が 277cm を測る掘立柱建物の柱材で、図面上の上端部付近に段を設ける。



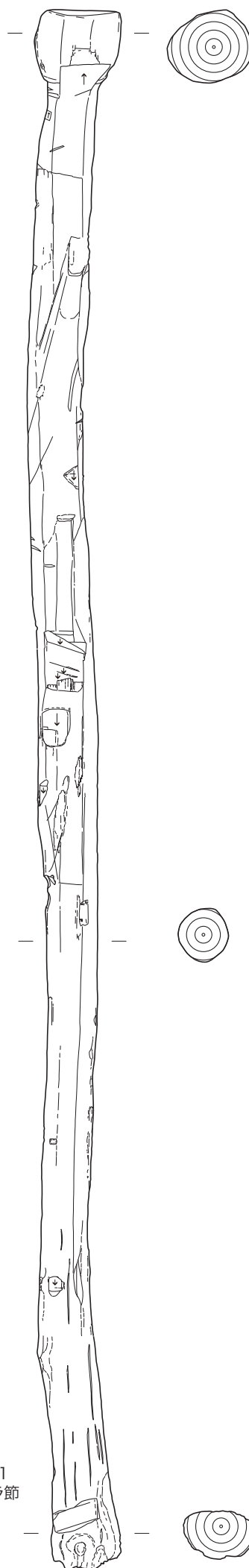
W290  
クスノキ科



0 (1:10) 20cm

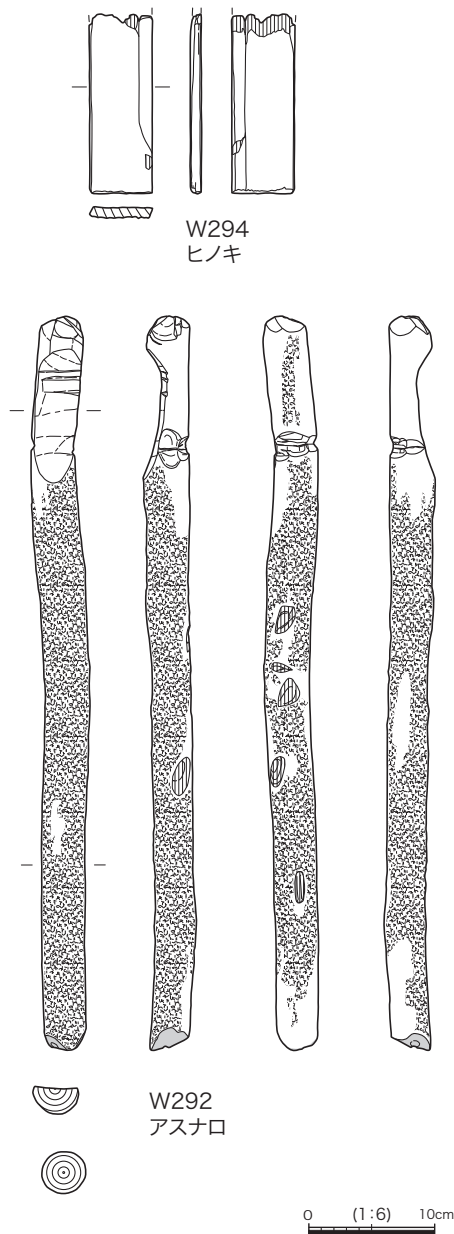


W293  
アスナロ



W291  
コナラ節

下懸遺跡 09C 区 001NR-4 層 -2



第 171 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 2  
(S = 1/6)

右側には縦方向に V 字状の切れ込みを入れる。W314 はヒノキの追柁目材の板。

棒 W315 はヒノキの角棒。

001NR-1 層 (第 175・176 図)

農具 W-316 は曲物底板を転用した田下駄の足板で、樹種はヒノキの板目材を用いる。

容器・食事具 W317・318 は同一個体の方形曲物の底板で、曲物としての機能を停止したのち、図面上の縦方向にまず分割し、さらに横方向に割り取っている。W317 も上下に 2 分割されるが、その割れた位置が W318 とほぼ同じ長さであることから、この上下の分割も意図的なものであることがわかる。W317 の上半部と W318 には多数の小孔が穿たれているが、W316 のような田下駄足板

W292 は垂木で、アスナロの樹皮付き丸太を用いる。

W293 は建築材の可能性を有するアスナロの角棒。

板 W294 はヒノキの柁目材の板。

001NR-3 層 (第 172・173 図)

掘削具 W295 は伊勢湾型曲柄平鍬 I 類で、軸部の上端は欠損している。樹種は、当該地域においては珍しくアカガシ亜属の柁目材を用いる。W296 は用途不明だが、形状と樹種(クヌギ節の柁目材)から、掘削具か農具の一部とみられる。

容器・食事具 W297 は小型の脚付槽で、樹種はクリ。底部には長辺方向に 2 本の長い脚がつく。W298 は平面が隅丸長方形を呈する曲物底板で、内面には刃物痕が残る。樹種はヒノキの板目材。W299・300 は曲物側板で、樹種は W299 がヒノキの板目材、W300 がヒノキの柁目材。

建築材 W301 は掘立柱建物の出入り口を構成する楣で、扉の軸と方立の穴が両側にあることから、両開きの建物に用いられたことがわかる。樹種はヒノキの追柁目材。W302 はクヌギ節の芯持ち丸木の柱材で、上部に横架材を受けるための加工がほどこされている。

土木材 W303 はサワラの芯持ち丸木材で、下端部を尖らせることから杭と考えられる。

板 W304・305 はクリの柁目材の板。

棒 W306 はヒノキの芯持ち丸棒。

001NR-2 層 (第 174 図)

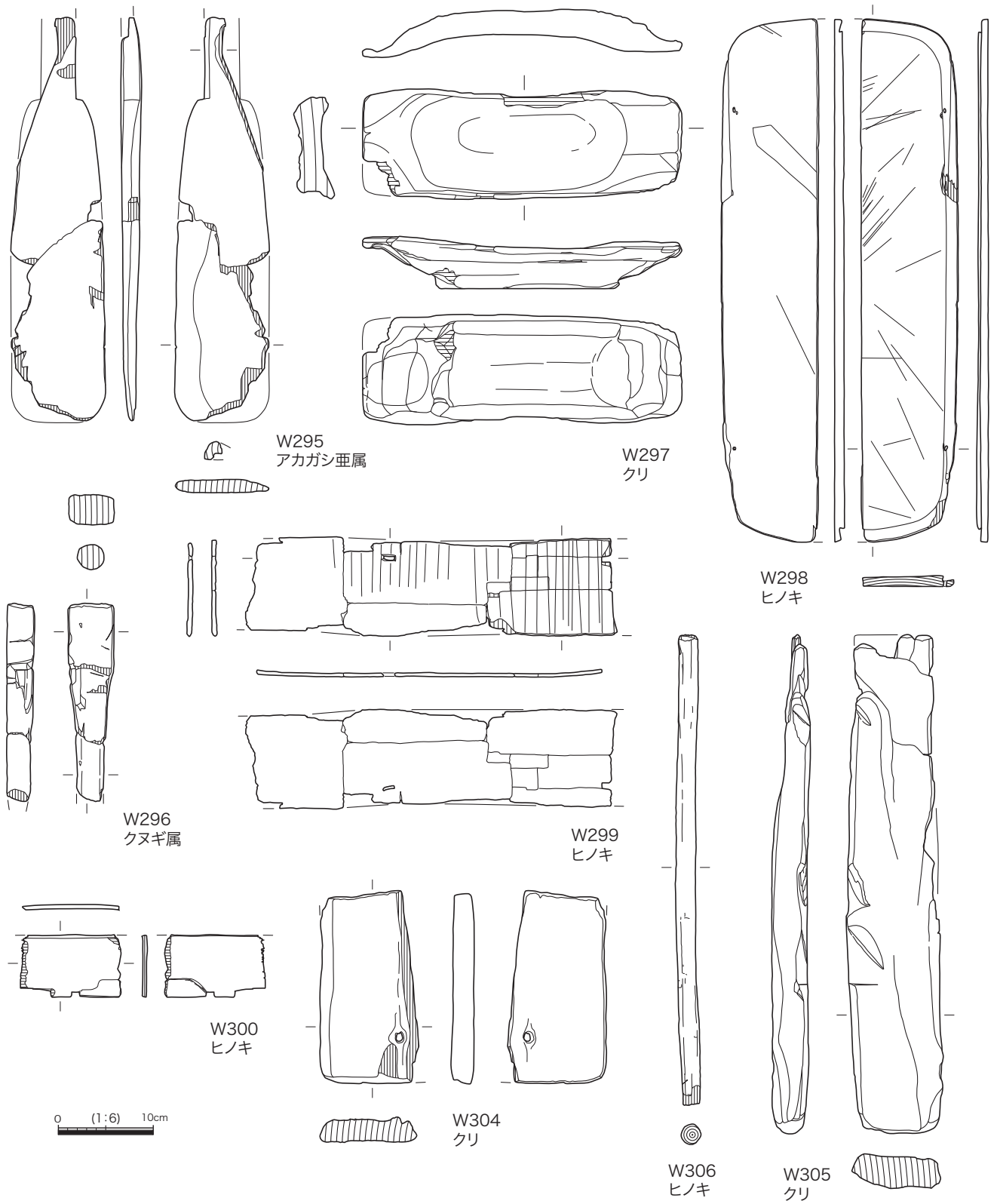
容器・食事具 W308 は器台の可能性を有する筒形。コウヤマキの芯持ち丸木を削り抜いて作られている。W309 は円形の曲物底板で、樹種はヒノキの柁目材。W310 は楕円形で長軸側の両端部に耳がつく曲物底板で、樹種はネズコの板目材。

土木材 W312・313 は杭で、樹種は W312 がヒノキ、W313 がマツ属複雑管束亜属の芯持ち丸木。

板 W307 は上端部の側縁に抉りを入れる有抉板で、樹種はヒノキの板目材。W311 はヒノキの厚板で、長辺の

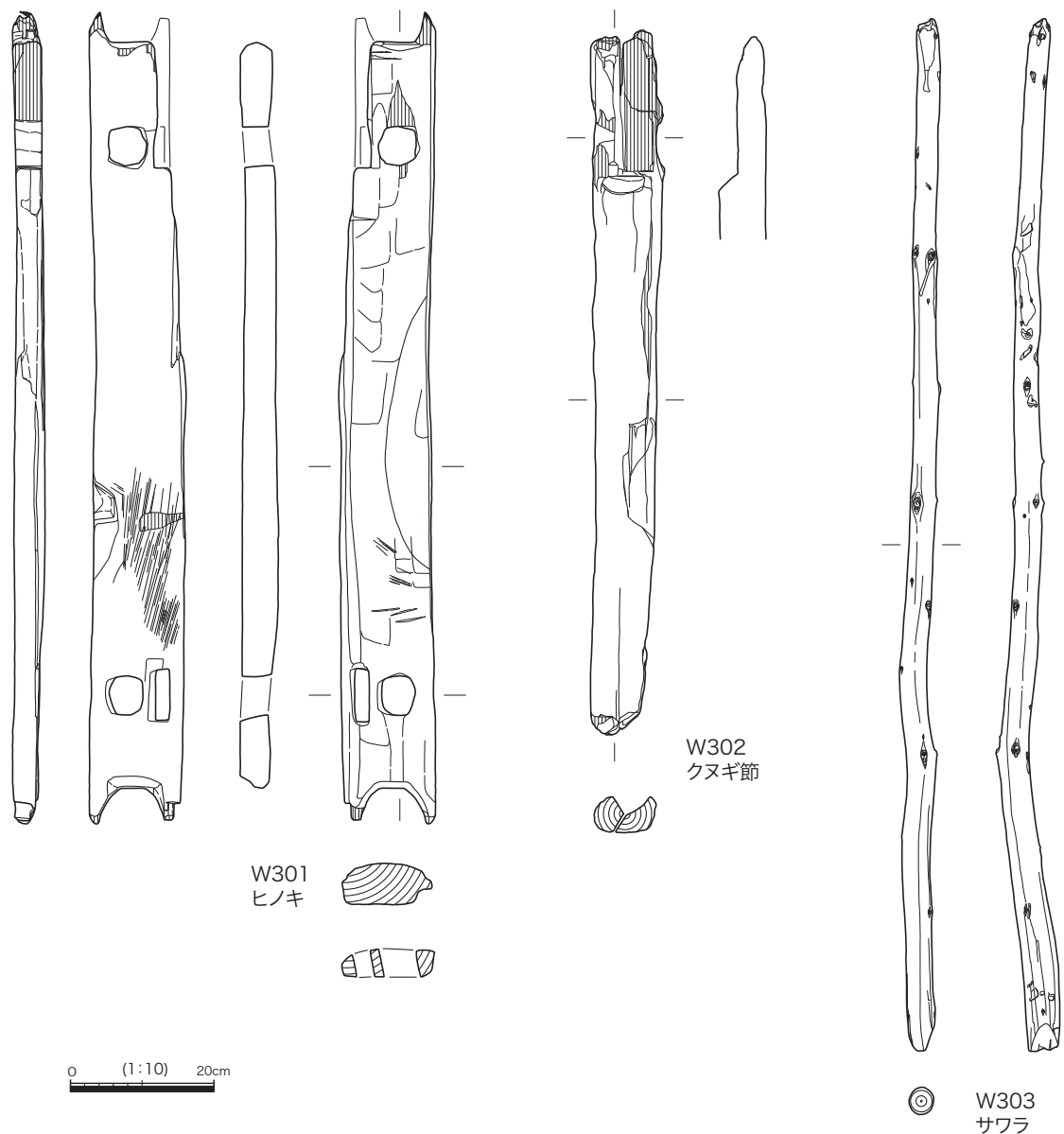


下懸遺跡 09C 区 001NR-3 層 -1



第 172 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 3 (S = 1/6)

下懸遺跡 09C 区 001NR-3 層 -2



第 173 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 4 (S = 1/10)

とは孔の位置が異なるため、転用後の用途は不明である。樹種はサワラの柁目材を用いる。

**建築材** W319 は、前述の W13・291 と同形の突起部を有する柱材で、樹種はコナラ節の芯持ち丸木。

W320 はクスノキ科の 1/2 分割材で、建築材として用いられた可能性が高い。

**板** W321 はヒノキの板目材の板。

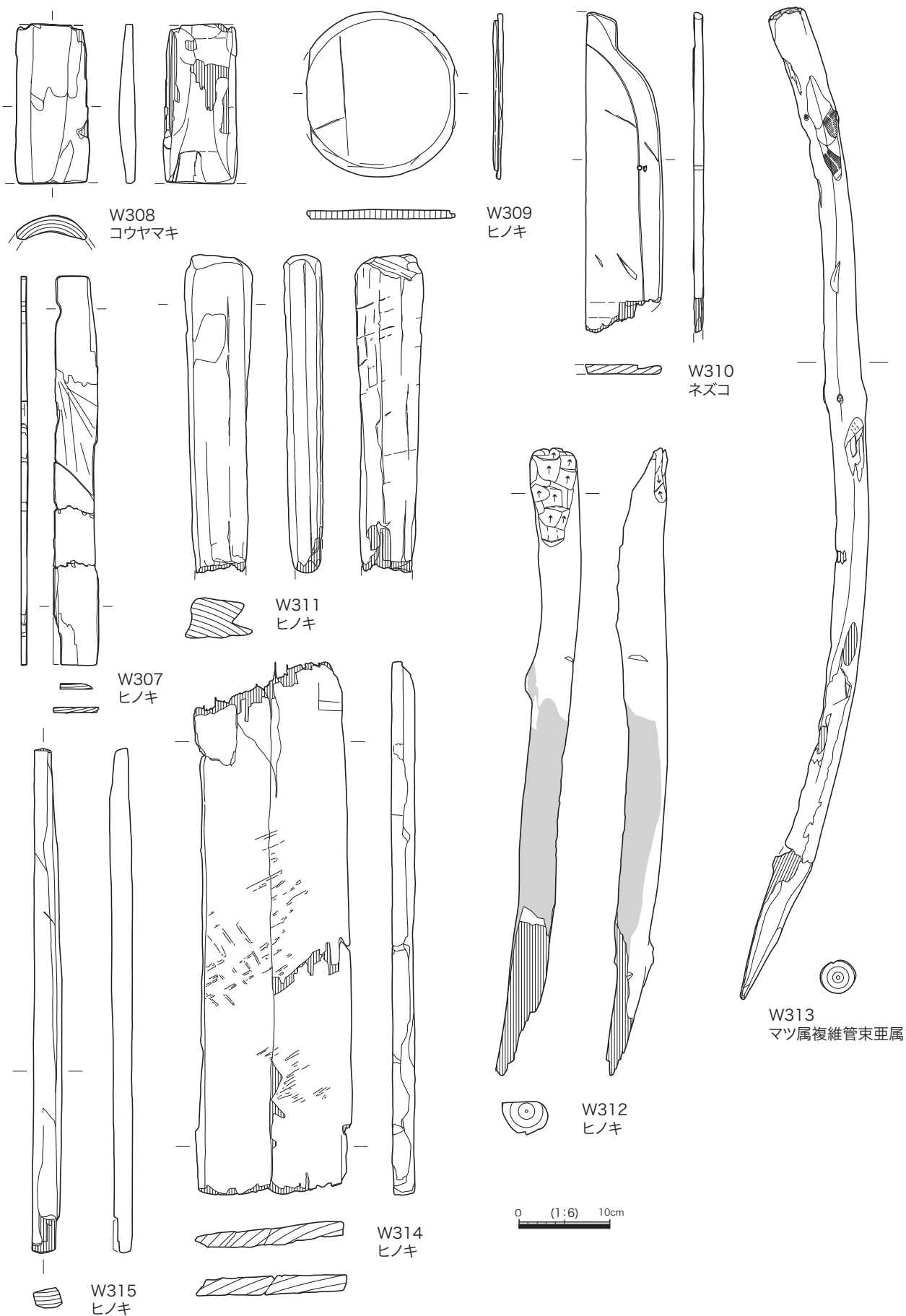
**棒** W322 はアスナロの角棒。W323 ~ 325 は丸棒で、樹種は W323 がアスナロ、W324 がヒノキ、W325 がコウヤマキ。

**001NR (層位不明 第 177 図)**

**容器・食具** W326 はスギの板目材を用いた小型の槽で、立ち上がりが強く外反する。

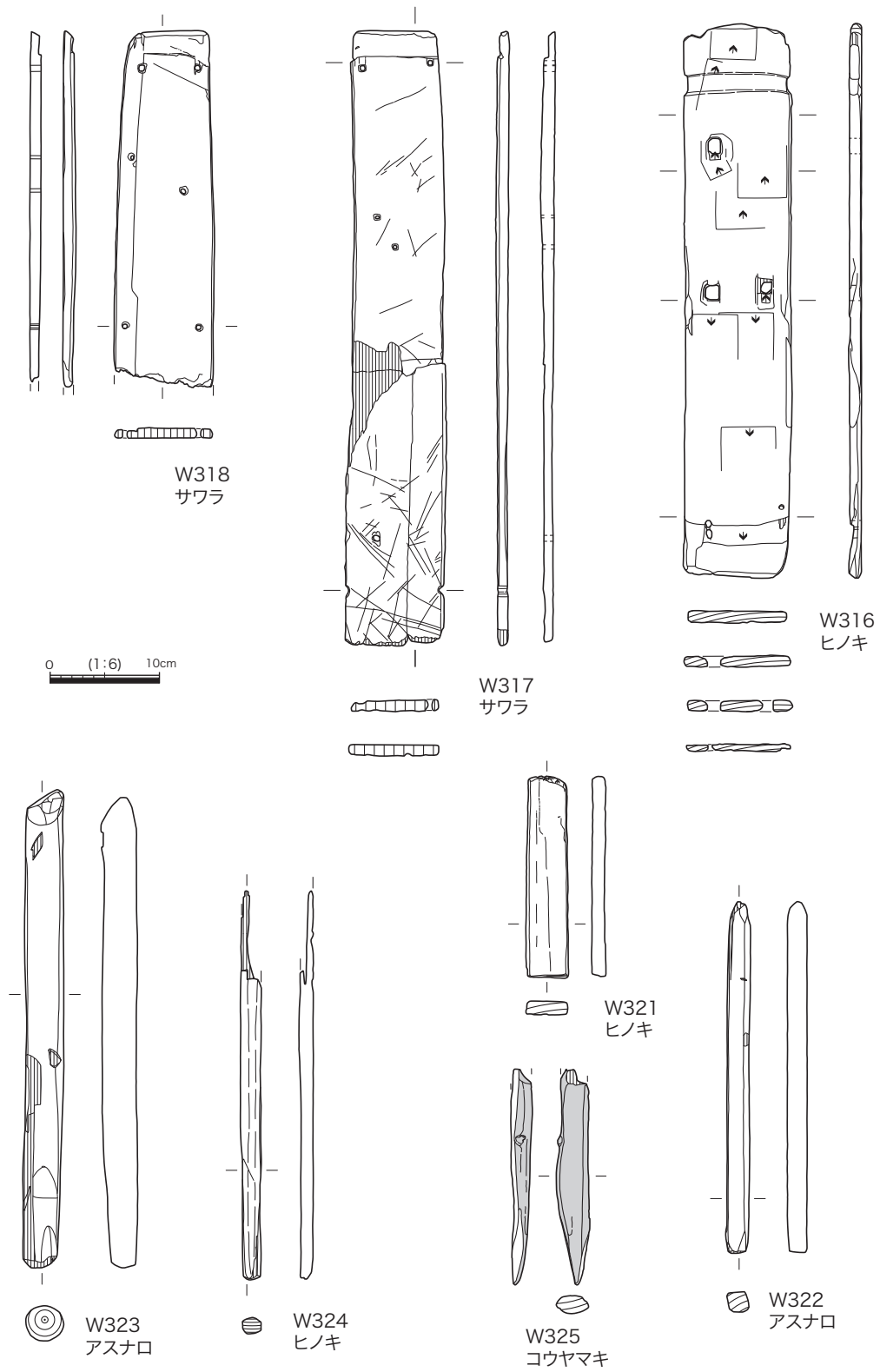
**建築材** W329 は有扶丸棒で、垂木の可能性が高い。樹種はサワラの芯持ち丸木。

下懸遺跡 09C 区 001NR-2 層



第 174 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 5 (S = 1/6)

下懸遺跡 09C 区 001NR-1 層 -1



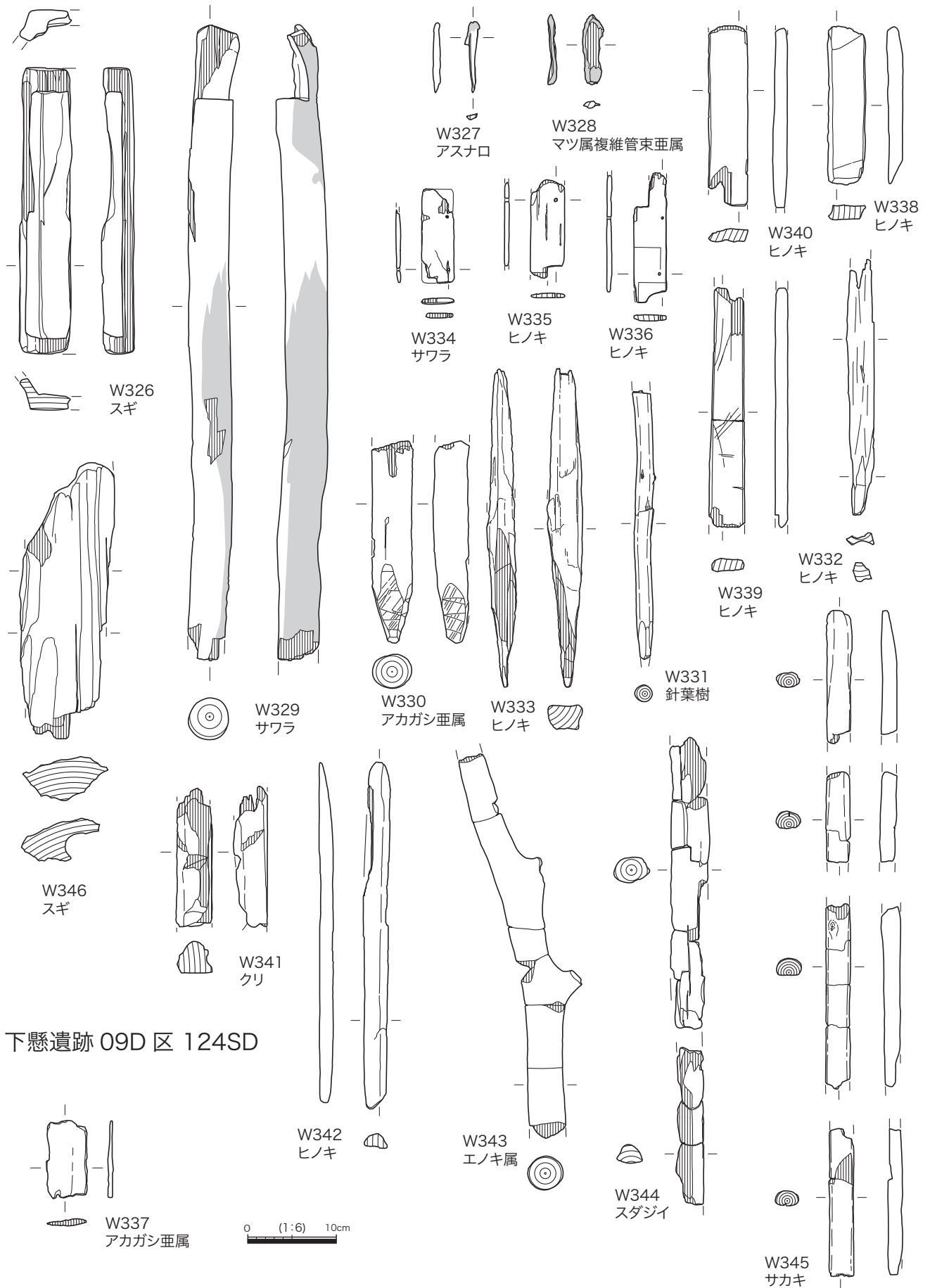
第 175 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 6 (S = 1/6)

下懸遺跡 09C 区 001NR-1 層 -2



第 176 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 7 (S = 1/12)

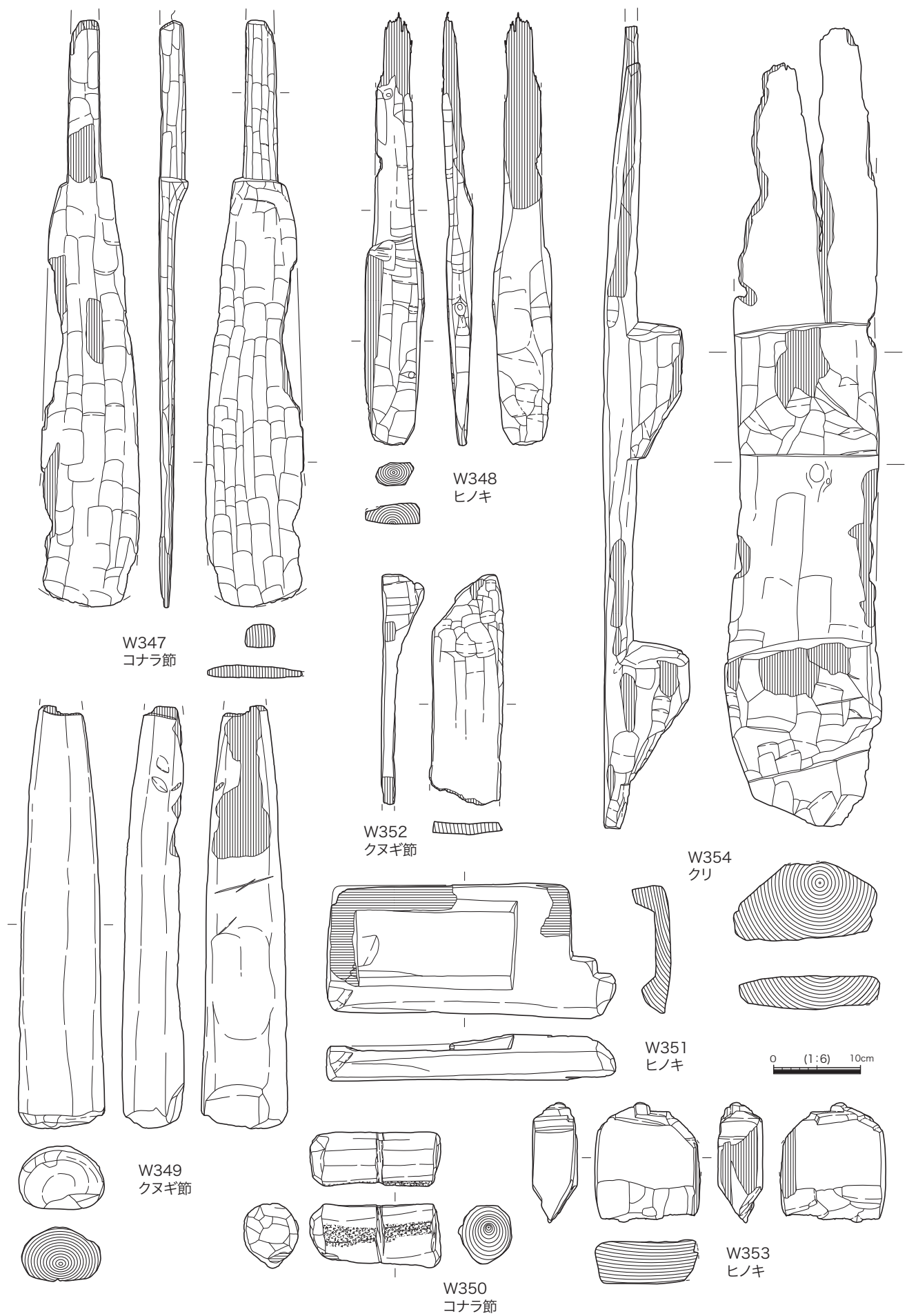
下懸遺跡 09C 区 001NR・136SX・011SN



下懸遺跡 09D 区 124SD

第 177 図 下懸遺跡 09C 区出土木製品 8、D 区出土木製品 (S = 1/6)





**土木材** W330・333 は杭で、樹種は W330 がアカガシ亜属の芯持ち丸木、W333 がヒノキの分割材。

**板** W334 ～ 336 は穿孔板で、樹種は W334 がサワラの柾目材、W335・336 はヒノキの柾目材。W339・340 はヒノキの柾目材の板。

**棒** W331・342 ～ 345 は丸棒。樹種は W331 が針葉樹の芯持ち丸木、W342 がヒノキの分割材、W323 がエノキ属の芯持ち丸木の枝分かれ箇所、W324 がスダジイの芯持ち丸木、W325 がサカキの芯持ち丸木。

**分割材** W341 はクリ、W346 はスギの 1/4 分割材。

#### **011SN (第 177 図)**

**板** W338 はヒノキの柾目材の板。

#### **136SX (第 177 図)**

**棒** W332 はヒノキの角棒で、図面上の下端部がやや尖る。

#### **遺構外 (第 177 図)**

**工具・雑具・調度** W327・328 は燃えさし。樹種は W327 がアスナロで、W328 がマツ属複雑管束亜属。

### **平成 21 年度調査 (09D 区 第 177 図)**

#### **124SD**

**板** W337 はアカガシ亜属の柾目材の板。

### **平成 25 年度調査 (13B 区 第 178 図)**

下懸遺跡 13B 区では、053NR の 26 層、28 層、29 層、44 層から木製品が出土している。共伴する土器の所属時期は、26 層—廻間Ⅱ～Ⅲ式期並行で、松河戸Ⅰ式期並行の土器も含む。28 層—廻間Ⅰ式期後半～Ⅱ式期並行。29 層—廻間Ⅰ～Ⅲ式並行期。44 層—廻間Ⅰ式期後半～Ⅱ式期並行。

#### **053NR-44 層**

**農具** W349 はクヌギ節の芯持ち材を用いた竖杵の搗き部。

**容器・食事具** W351 は浅い方形の槽で、片側に把手状の突起を設ける。樹種はヒノキの横木取り。

**運搬具・漁撈具** W348 は櫂状の木製品で、樹種はヒノキの芯持ち材。

#### **053NR-29 層**

**建築材** W354 は梯子の下端部で、ステップが 2 段分残る。下のステップから下端部までが短い。樹種はクリの芯持ち材。

#### **053NR-28 層**

**掘削具** W347 は伊勢湾型曲柄平鍬Ⅰ類で、軸部は上端が欠損するもののⅠ類と思われる。樹種はコナラ節の柾目材。

**紡織具・編み具** W350 は木錘で、コナラ節の芯持ち材の中央に一条溝をめぐる。

**容器・食事具** W352 はクヌギ節の柾目材の板で、端部が厚くなることから、槽の一部とみられる。

#### **053NR-26 層**

**容器・食事具** W353 はヒノキの板目材の厚板で、容器の未成品である可能性を有する。

## 2 五反田遺跡

### 平成 22 年度調査 (10A 区 第 179 図)

五反田遺跡 10A 区第 1 面では、SD005 から 15 世紀代の木製品が出土している。

#### S D005

土木材 W355 はマツ属複雑維管束亜属の芯持ち丸木を用いた杭の先端部。

板 W356 はモミ属の追衤目材の板。

### 平成 22 年度調査 (10B 区 第 179 図)

五反田遺跡 10B 区の攪乱から近世と思われる木製品が出土している。

#### 10B 区第 1 面攪乱

容器・食事具 W357 は漆碗で、樹種は広葉樹の横木取り。

#### 10B 区第 2 面攪乱

板 W358 はヒノキの板目材の板。

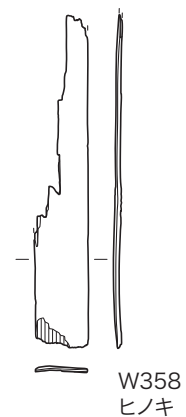
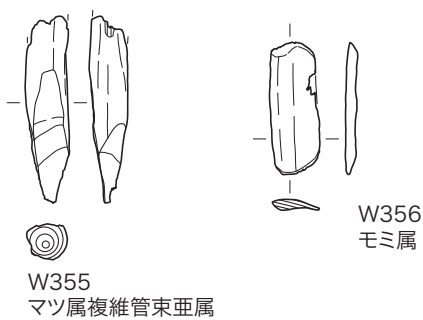
### 平成 25 年度調査 (13 区 第 179 図)

五反田遺跡平成 25 年度調査 (13 区) では、30 層と 34 層から木製品が出土している。それぞれの層位で共伴する土器の所属時期は、30 層—8 世紀代?、34 層—13 世紀代だが古墳時代～古代の遺物もある。

五反田遺跡 10A 区 SD005

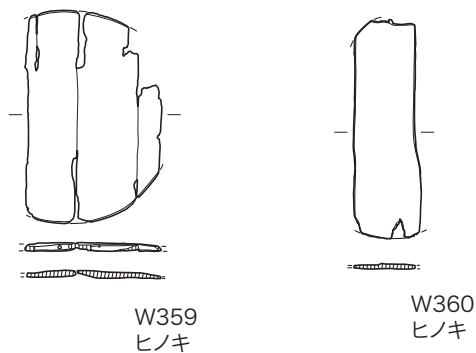
五反田遺跡 10B 区 攪乱

五反田遺跡 10B 区 攪乱



五反田遺跡 13 区 30・34 層

0 (1:6) 10cm



第 179 図 五反田遺跡 10A・B 区、13B 区出土木製品 (S = 1/6)

### 30 層

容器・食具 W359 は曲物底板で、樹種はヒノキの柾目材。

### 34 層

板 W360 はヒノキの柾目材の板。

## 3 惣作遺跡

### 平成 23 年度調査（11A 区 第 180 図）

#### 001NR

武器 惣作遺跡 11A 区では、001NR から刀把装具（W361）が出土している。この刀把装具が出土した層位に共伴する土器は廻間Ⅲ式期並行から奈良時代である。

この刀把装具は樹種にヤブツバキの芯持ち材を用いている。型式学的にはいわゆる倭系（倭風）大刀の把で、把頭が楔形を呈する置田雅昭による B 類の系譜に属する（置田 1985・山内 2003）。この把頭 B 類は、直弧紋など紋様のあるもの（B-1 類）と無いもの（B-2 類）に分けられており、本例は B-2 類に属する。

ただし、把頭の断面形状は楔形というより、滴形ないしは卵形を呈している。把頭と把間（持ち手にあたる箇所）は直角ではなく、やや傾斜して接続している。さらに把縁（鞘に接する箇所）は、把間より一段浅い段をもってすぼまる形状を示している。

穿孔は把頭に 1 カ所、把間に 3 カ所認められる。このうち、把頭の 1 カ所と把間のうち把頭寄りの 2 カ所は貫通しているが、把縁寄りの 1 カ所には目釘が遺存している。

把間から把縁にかけては、刀の茎を挿入するための落とし込みがあり、把間の穿孔は、この茎と把とを結合するために開けたものと考えられる。

前述のように、この刀把頭は無紋であり、漆などを塗布した痕跡も認められない。ただ、把間の片面には、炭化した痕が残っている。

集落や古墳から出土する刀把頭のうち、最も出土例が多いのは、本遺跡例と同様の B 類である（山内 2003）。そして、この B 類の所属時期はおおむね 5 世紀後半から 6 世紀代に属する。

ただ、この惣作遺跡では廻間Ⅲ式～松河戸Ⅰ式並行期で集落はいったん途絶え、再び人が居住するのは 7 世紀第 4 四半期であることがわかっている。つまり、この把頭 B 類が全国的に盛行する 5 世紀後半～6 世紀代の遺物が、本遺跡では皆無であるため、考古学的に実年代を確定する方法がない。それゆえ、（株）パレオ・ラボに依頼し、AMS 年代測定法によって実年代を絞り込む方法をとることとした。

その結果、年代を絞り込んだ 1  $\sigma$ （1 標準偏差）の値が 577A.D.～623A.D.（68.2%）。すなわち 6 世紀第 4 四半期～7 世紀第 1 四半期に属する。1  $\sigma$  より確率の高い 2  $\sigma$ （2 標準偏差）の値は 561A.D.～643A.D.（95.4%）で、6 世紀第 2 四半期～7 世紀第 2 四半期となる。

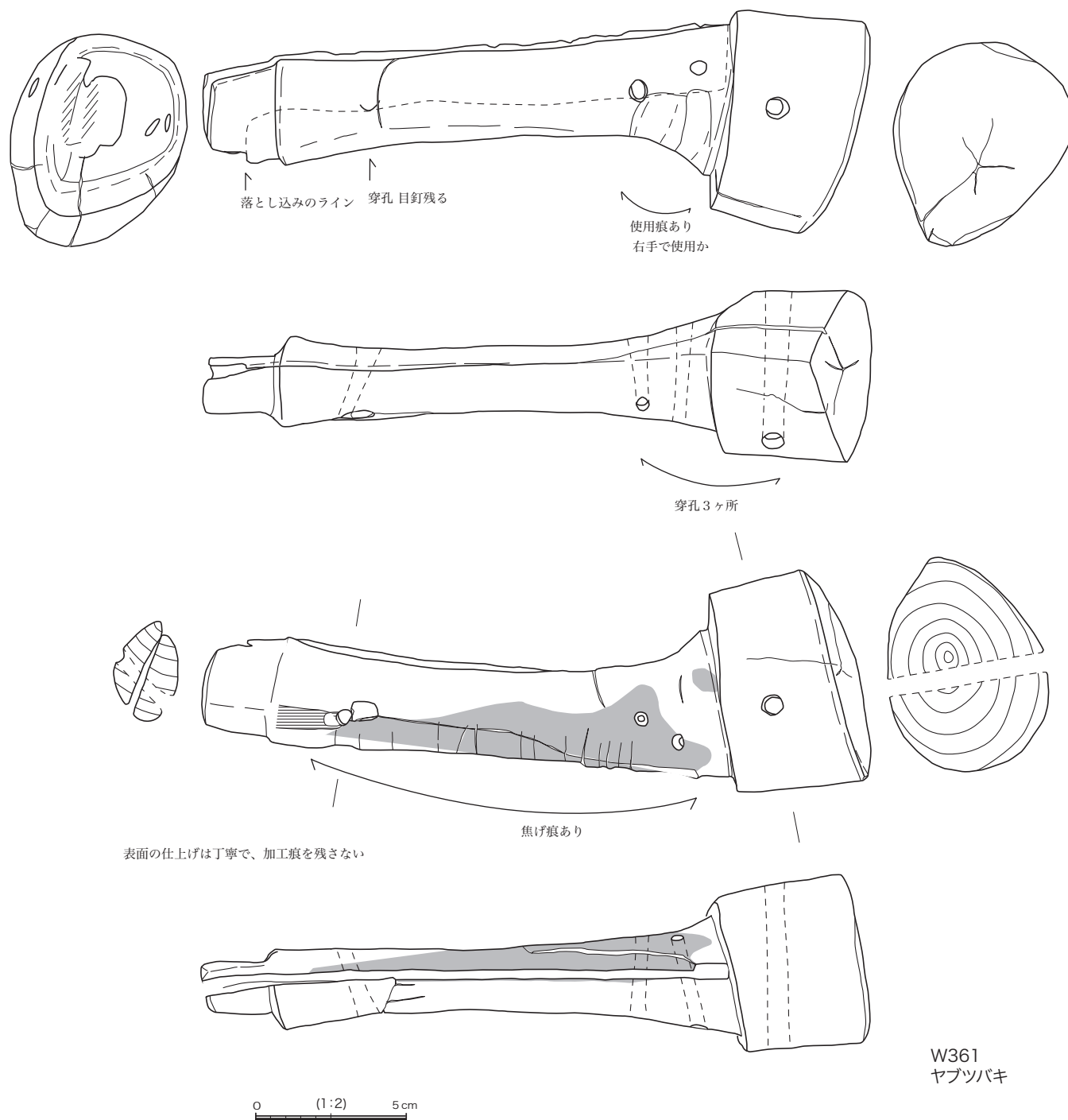
最終形成年輪がないことを考慮すれば、限りなく 7 世紀代に近い 6 世紀末頃と想定することができ、楔形柄頭の倭系大刀のなかでも最終末段階のものと考えることができる。

### 平成 24 年度調査（12 区 第 181 図）

惣作遺跡平成 24 年度調査（12 区）では、006SD の上層（3 層）および最下層（4 層）、008NR の 9 層・13 層から木製品が出土している。それぞれの遺構・層位から出土している土器の所属時期は、006SD—近世、008NR-9 層—8～9 世紀？、008NR-13 層—廻間Ⅱ～Ⅲ式期並行である。

惣作 11A 区

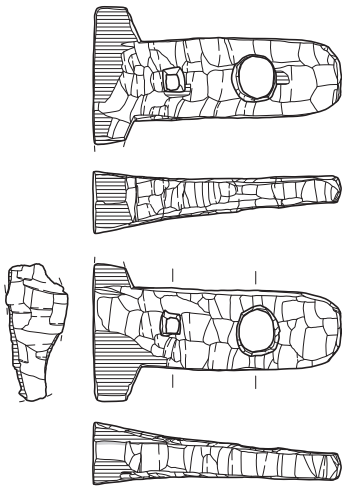
001NR(3)



第 180 図 惣作遺跡 11A 区出土木製品 (S = 1/2)

惣作遺跡 12 区

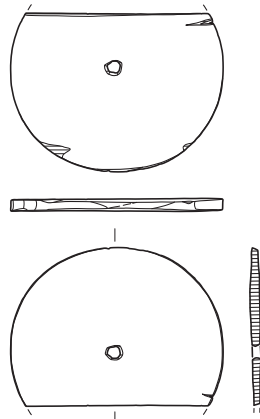
006SD- 最下層 (4 層)



W362  
ヒノキ

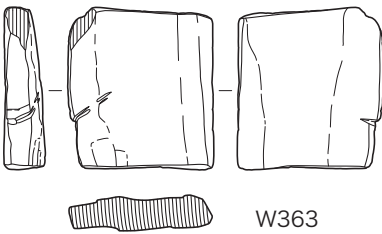
008NR-9 層

008NR-9 層



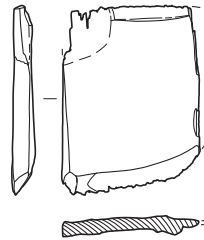
W367  
ヒノキ

006SD- 上層 (3 層)



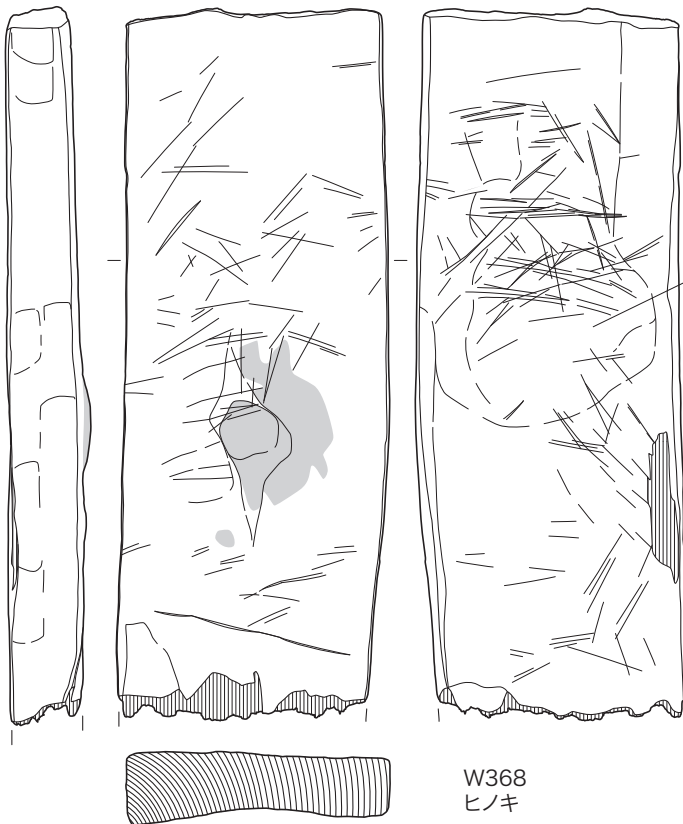
W363  
コナラ節

008NR-13 層



W365  
スギ

008NR-9 層



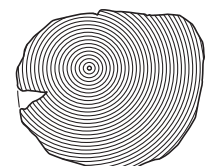
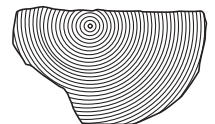
W368  
ヒノキ

008NR-13 層



W366  
ヒノキ

W364  
ヒノキ



0 (1:6) 10cm



## 006S D

**建築材** W362 は栓で、2ヶ所に穿孔をほどこす。樹種はヒノキの 1/4 分割材。共伴する遺物の時期は近世だが、古墳時代前期のものである可能性が高い。

**板** W363 はコナラ節の柵目板。

## 008NR-13 層

**板** W365 はスギの追柵目材の板。

**角棒** W366 はヒノキの角棒。

## 008NR-9 層

**工具・雑具・調度** W368 はヒノキの追柵目材による厚板で、全面に刃物傷があり、一方の面には凹みが残る。なんらかの作業台として用いられたと考えられる。

**容器・食事具** W367 は曲物の蓋で、中央に円孔があく。樹種はヒノキの柵目材。

**建築材** W364 は 2ヶ所に段を有するヒノキの芯持ち削り出し材で、建築材と考えられる。

引用文献：

愛知県埋蔵文化財センター 2009 『下懸遺跡』

置田雅昭 1985 「古墳時代の木製刀装具」『天理大学学報』第 145 輯、天理大学

永井邦仁 2011 「安城市下懸遺跡・惣作遺跡出土の木簡について」『愛知県埋蔵文化財センター 研究紀要』第 12 号、愛知県埋蔵文化財センター

樋上 昇 2000 「3～5 世紀の地域間交流—東海系曲柄鍬の波及と展開—」『日本考古学』第 10 号、日本考古学協会

樋上 昇・早野浩二 2013 「安城市惣作遺跡出土の刀把装具について」『研究紀要』第 14 号、愛知県埋蔵文化財センター

山内紀嗣 2003 「木製刀装具からみた大刀生産」『鉄器研究の方向性を探る 刀剣研究をケーススタディとして』第 9 回鉄器文化研究集会資料、鉄器文化研究会

## 第4章 総括

**宮下遺跡** 平成23年度・25年度調査の西約400mのところで行われた1974年の安城市教育委員会の発掘調査では、土坑や谷状の落ち込みが検出され、弥生時代中期から中世までの遺物が出土している(安城市教育委員会2003)。中でも古墳時代前期と古墳時代中期から古代の時期が中心となる。今回の調査では、11区から13A区にかけて古墳時代前期の西北西―東南東方向に走る複数の溝が確認されている。これらの溝は同じ場所で何回も掘り直されており、まとまって遺物が出土した。また13B区でも同方向の溝がある。さらに竪穴建物や竪穴状の遺構も検出されているが、掘り込みも浅く、はっきりとしたものではない。

**下懸遺跡** 今回は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての下懸遺跡の居住域部分(09D区、13C区、14A・B・C・D区、15区)と流路・河道部分(09A・B・C区、13A・B区)の調査を行った。下懸遺跡の居住域は南北約400mを測る寄島遺跡に比べると、南北約280mと2/3程の大きさである。さらに惣作遺跡の同時期の居住域規模は南北約80m、東西約110mとさらに小さい。また注目されることとして、流路・河道の南側にもわずかではあるが、竪穴建物が見つかったことである。寄島遺跡の流路・河道の北側で、方形周溝墓群との間でも竪穴建物が確認されている。流路・河道が、居住域(遺跡)や居住域と墓域を分ける役割を果たしていたことは明らかであろうが、その区画がどれだけ意識されていたのかははっきりとしない。また寄島遺跡では、居住域と墓域には明瞭な区画は認められず、そのまま続いているような様相を呈している。また下懸遺跡の居住域から墓域である五反田遺跡の間にも、今のところ明瞭な区画は検出されていない。集落配置がどのような考え方のもとで行われていたのか、今後の課題となろう。

09B区の026NRから7世紀から9世紀の文書木簡が出土した。この「米物受被」と書かれた木簡は、その下の「賜」と合わせ、米に関わる物資の受給・支給に関する文章と考えられ、公的機関の存在を想起させる。また同じ流路・河道からは斎串や習書木簡(平成12年度)が出土していることも、その傍証となろう。

**五反田遺跡** 10A区で5基の方形周溝墓を確認している。5基のいずれも全形のわかるものはなく、その中でも小型の114SZ最もよく残存する。削平されていることもあるが、113SZのように溝が周囲を完全な形で囲わない可能性がある。周囲より勾玉やガラス小玉が出土し、溝(土坑)より加飾手焙り形土器が正位で出土していることも、墓域であることを示している。下懸遺跡に付随するものであろうか。

**惣作遺跡** 惣作遺跡の北から西側を湾曲して走る流路・河道の北側では古代の竪穴建物群が検出されている。また流路・河道内より刀把装具が出土した。これはAMS法放射性炭素年代測定により6世紀末を中心とした年代が出されている。鹿乗川流域遺跡群の南部遺跡群では5世紀後半から6世紀は、遺跡の空白期間として認識されてきた。この刀把装具の出土により、この空白期間のも何らかの人の活動があったとも考えられるし、7世紀以降に再び活発となる遺跡の嚆矢となる遺物とも考えられる。

愛知県埋蔵文化財センター 2009『下懸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第144集

愛知県埋蔵文化財センター 2009『惣作遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第158集

愛知県埋蔵文化財センター 2012『惣作II遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第172集

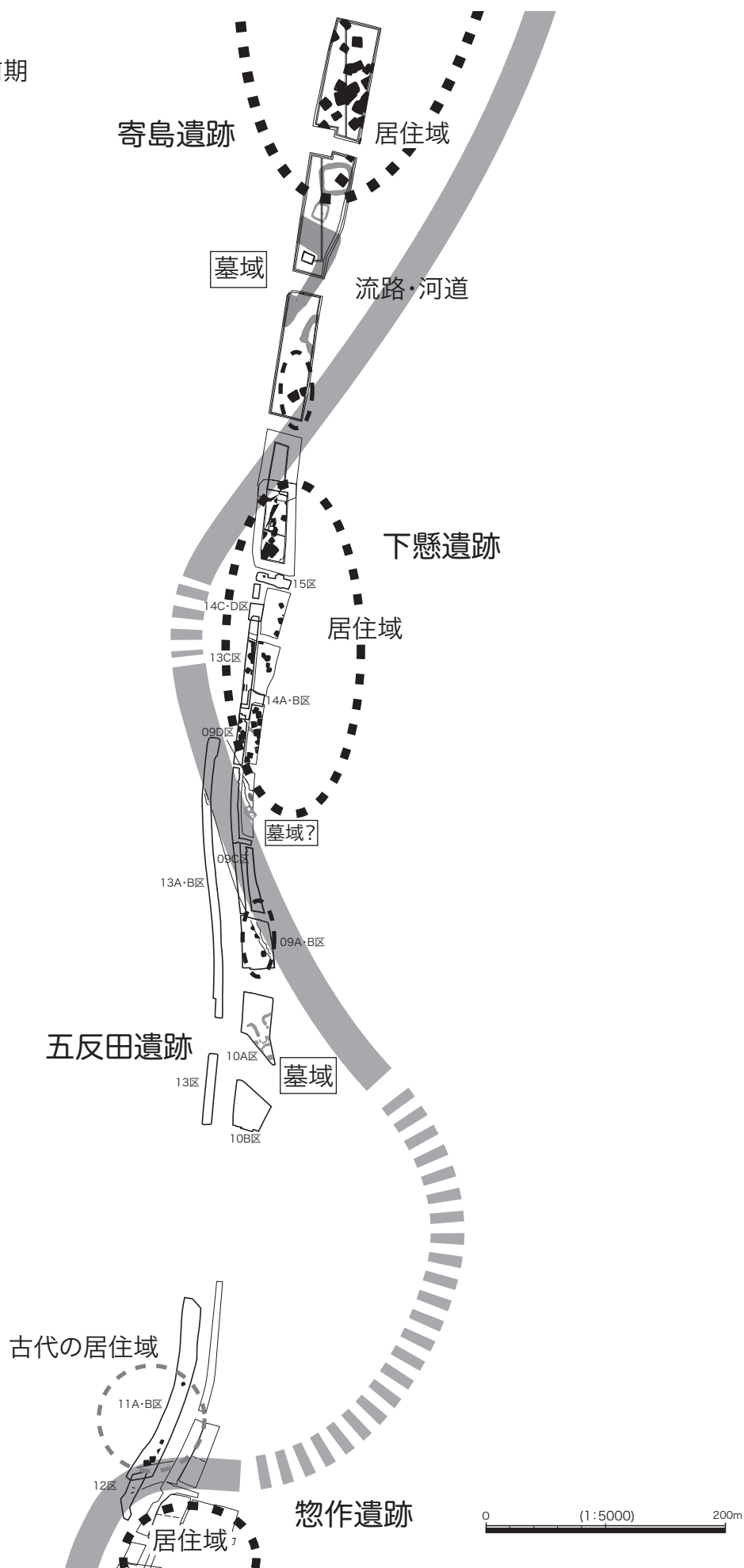
愛知県埋蔵文化財センター 2017『寄島遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第204集

安城市教育委員会 2003『宮下遺跡』安城市埋蔵文化財発掘調査報告書第11集

永井邦仁 2011「安城市下懸遺跡・惣作遺跡出土の木簡について」『研究紀要』第12号、愛知県埋蔵文化財センター

樋上 昇・早野浩二 2013「安城市惣作遺跡出土の刀把装具について」『研究紀要』第14号、愛知県埋蔵文化財センター

弥生時代後期～  
古墳時代前期



第 182 図 下懸遺跡・五反田遺跡・惣作遺跡の集落配置図 (S = 1/5000)

|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------|------------------------------------------|-----------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------|--|
| ふりがな                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | みやした　しもかけ　ごたんだ　そうさく                                                                                                                                                                    |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 書　　　名                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 宮下遺跡・下懸遺跡II・五反田遺跡・惣作遺跡III                                                                                                                                                              |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 副　書　名                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 巻　　　次                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| シリーズ名                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書                                                                                                                                                                      |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| シリーズ番号                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 第210集                                                                                                                                                                                  |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 編　著　者　名                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 宮腰健司・松田訓・樋上昇・永井邦仁                                                                                                                                                                      |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 編　集　機　関                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター                                                                                                                                                     |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 所　在　地                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町字野方802-24                                                                                                                                                          |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| 発　行　年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 西暦2018年3月31日                                                                                                                                                                           |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| ふりがな<br>所収遺跡名                                         | ふりがな<br>所　在　地                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | コ　ー　ド                                                                                                                                                                                  |                 | 北　緯<br><small>○°N</small> | 東　経<br><small>○°E</small>                | 調査期間                  | 調査面積<br>㎡                   | 調査原因                                                            |  |
|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 市町村                                                                                                                                                                                    | 遺跡番号            |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
| みやした<br>宮下<br>しもかけ<br>下懸<br>ごたんだ<br>五反田<br>そうさく<br>惣作 | あんじょうしきくらいちようこやしろ<br>安城市桜井町小社<br>あんじょうしおかむらうむかいだ<br>安城市小川町向田<br>あんじょうしおかいちちようごたんだ<br>安城市小川町五反田<br>あんじょうしきどちようそうさく<br>安城市木戸町惣作                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 23213                                                                                                                                                                                  | 540105          | 34°55'30"                 | 137°06'01"                               | 2011年9月<br>～2014年1月   | 280㎡                        | 中小河川改良工<br>事(鹿乗川)<br><br>床上浸水対策特<br>別緊急事業(鹿<br>乗川)<br><br>交付金事業 |  |
|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        | 540127          | 34°54'20"                 | 137°05'43"                               | 2009年11月<br>～2015年12月 | 4480㎡                       |                                                                 |  |
|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        | 540130          | 34°54'13"                 | 137°05'43"                               | 2010年7月<br>～2013年6月   | 2710㎡                       |                                                                 |  |
|                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                        | 540132          | 34°54'00"                 | 137°05'38"                               | 2011年11月<br>～2012年12月 | 2530㎡                       |                                                                 |  |
| 所収遺跡名                                                 | 種　別                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 主な時代                                                                                                                                                                                   | 主な遺構            |                           | 主　な　遺　物                                  |                       | 特　記　事　項                     |                                                                 |  |
| 宮下遺跡                                                  | 集落                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 古墳時代                                                                                                                                                                                   | 竪穴建物・溝・土坑       |                           | 土師器                                      |                       |                             |                                                                 |  |
| 下懸遺跡                                                  | 集落                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 古墳時代<br>～室町時代                                                                                                                                                                          | 竪穴建物・溝・土坑<br>流路 |                           | 縄文土器・弥生土器<br>土師器・須恵器・灰釉陶器<br>山茶碗・石製品・木製品 |                       | 線刻土器<br>墨書土器<br>文書木簡        |                                                                 |  |
| 五反田遺跡                                                 | 墓・集落                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 古墳時代初頭<br>～室町時代                                                                                                                                                                        | 方形方形周溝墓・溝<br>土坑 |                           | 土師器・ガラス小玉<br>管玉・勾玉                       |                       | 人面文線刻土器<br>加飾手焙り形土器<br>墨書土器 |                                                                 |  |
| 惣作遺跡                                                  | 集落                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 古墳時代<br>～江戸時代                                                                                                                                                                          | 竪穴建物・溝・土坑<br>流路 |                           | 土師器・木製品                                  |                       | 刀把装具                        |                                                                 |  |
| 文<br>書<br>番<br>号                                      | 発掘届出　（宮下遺跡：23埋せ第3号・2011.4.1、25埋せ第86号・2013.10.2）<br>（下懸遺跡：21埋せ第64号・2009.9.29、25埋せ第8号・2013.4.11、25埋せ第84号・2013.10.2、25埋せ第154号・2014.3.25、27埋せ第75号・2015.9.17）<br>（五反田遺跡：22埋せ第29号・2010.4.22、25埋せ第7号・2013.4.11）　（惣作遺跡：23埋せ第73号・2011.8.29、24埋せ第98号・2012.10.12）<br>通知　（宮下遺跡：23教生第133号・2011.4.14、25教生第1981号・2013.10.18）<br>（下懸遺跡：21教生第1436号・2009.10.9、25教生第242号・2013.4.24、25教生第1972号・2013.10.18、26教生第18号・2011.4.4、27教生第1742号・2015.9.29）<br>（五反田遺跡：22教生第290号・2010.5.7、25教生第244号・2013.4.24）　（惣作遺跡：23教生第1562号・2011.10.11、24教生第2237号・2012.10.17）<br>終了届・保管証・発見届　（宮下遺跡：23埋せ第87号・2011.9.22、25埋せ第120号・2014.1.14）<br>（下懸遺跡：21埋せ第145号・2010.3.12、25埋せ第90号・2013.10.21、25埋せ第144号・2014.3.6、26埋せ第54号・2014.7.9、27埋せ第105号・2015.12.16）<br>（五反田遺跡：22埋せ第181号・2010.11.2、25埋せ第41号・2013.6.21）　（惣作遺跡：23埋せ第176号・2012.3.23、24埋せ第104号・2012.12.12）<br>監査結果通知　（宮下遺跡：23教生第1767号・2011.11.9、25教生第2749号・2014.1.28）<br>（下懸遺跡：22教生第543号・2010.6.11、25教生第2142号・2013.11.7、25教生第3312号・2014.3.25、26教生第1248号・2014.8.26、27教生第2617号・2016.1.13）<br>（五反田遺跡：22教生第2093号・2010.12.24、25教生第2142号・2013.11.7）　（惣作遺跡：24教生第240号・2012.5.2、24教生第2511号・2013.1.19） |                                                                                                                                                                                        |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |
|                                                       | 要　約                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 鹿乗川流域遺跡群は標高7m前後の沖積低地に立地する。この遺跡群に含まれる4ヶ所の遺跡、総面積10000㎡を、6ヶ年かけ調査を行なった。その結果古墳時代と古代の集落や、古墳時代の方形周溝墓群、古墳時代から古代まで続く流路の痕を確認している。また中世の溝群も出土している。遺物としては、古墳時代初頭の人面線刻土器や6世紀末頃の木製刀把装具、古代の文書木簡が注目される。 |                 |                           |                                          |                       |                             |                                                                 |  |





1面全景（南より）



2面全景（南より）



013SK 断面・遺物出土状態（南より）



008SD・020SD・014SD（西より）



012SD（西より）



026SD 遺物出土状態（東より）



026SD（東より）



宮下遺跡（平成 25 年度）



A 区 2 面遠景（南西より）



A 区 1 面全景（南西より）



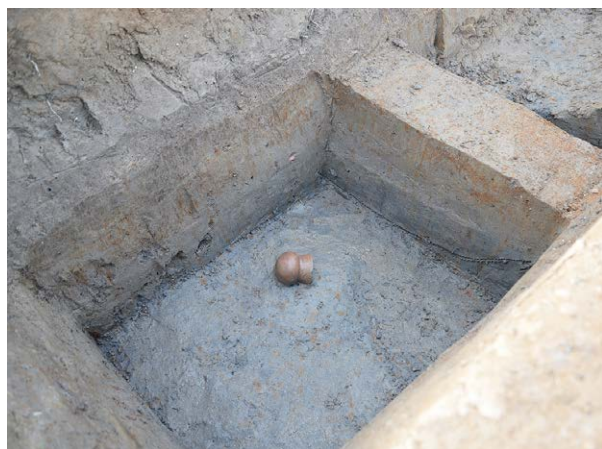
A 区 2 面全景（南西より）



A 区 020・026SD（西より）



A 区 020SD 遺物出土状態（西より）



B 区 045SD 土器 37 出土状況（東より）



B 区 2 面全景（北西より）



C 区 2 面全景（北西より）





A 区調査風景（南東より）



現地説明会風景（南東より）



A 区 1・2 面全景（南より）



A 区 026NR 2 層土器 135 出土状態（南西より）



A 区 026NR 3 層遺物出土状態（北より）



A 区 026NR 木製品 W78 出土状態（南より）



B 区 1 面全景（南西より）



B 区 026NR2a 層（南より）



下懸遺跡（平成 21 年度）



B 区 026NR2a 層木簡 W252 出土状態（南より）



B 区 026NR3a 層木製品 W99 出土状態（西より）



B 区 026NR3bc 層遺物出土状態（南東より）



B 区 026NR3b 層遺物出土状態（北西より）



A・B 区 026NR 全景（南東より）



B 区 026NR3c 層木製品 W113 出土状態（北より）



A・B 区 026NR 全景（南東より）





C 区 2 面全景（南東より）



C 区 037SU ~ 040SU（東より）



C 区 038SU（東より）



C 区 001NR 4 層土器 205 出土状態（東より）



D 区 2 面全景（北より）



D 区 4 面全景（北より）



D 区 5 面全景（南西より）



下懸遺跡（平成 25 年度）



A・B区調査前状況（北より）



A区作業風景（南より）



A区全景（南より）



A区全景（北より）



A区南部（南より）



A区北部（北より）



B区調査区遠景（北より）



B区調査区遠景（南より）





B区土器 255 出土状態（南より）



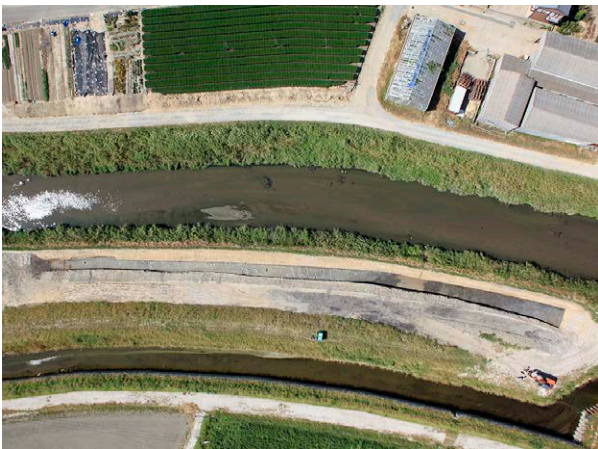
B区土器 296 出土状態（南より）



B区遺物出土状態（北より）



B区遺物出土状態（南より）



B区全景（上空より）



B区南部（西より）



B区中央部（南西より）



B区北部（北より）



下懸遺跡（平成 25 年度）



C 区調査前風景（北東より）



C 区調査風景（南より）



C 区攪拌土壌検出状況（東より）



C 区攪拌土壌検出状況（西より）



C 区攪拌土壌土層断面（西より）



C 区 068SX 最下層遺物出土状態（西より）



C 区 1 面全景（南より）

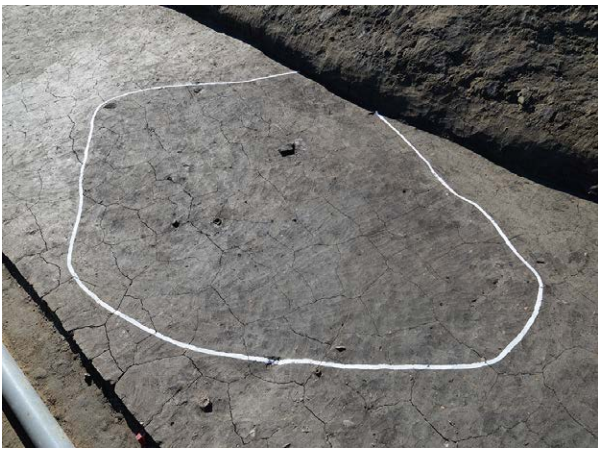


C 区 1 面全景（北より）





C 区 2 面全景（北西より）



C 区 1 面 001SI (SX) 検出状況（北東より）



C 区 1 面 001SI (SX) 遺物出土状態（南東より）



C 区 2 面 001SI (SX)（北東より）



C 区 001SI (SX) 西壁土層断面（東より）



下懸遺跡（平成 25 年度）



C 区 2 面南部（北より）



C 区 2 面北部（北より）



C 区 2 面北部焼土・炭化物出土状況（南東より）



C 区 118SX 西壁土層断面（北東より）



C 区 062・069SD（東より）



C 区 062SD 遺物出土状態（北西より）



C 区 139SX 焼土・炭化物・遺物出土状態（南東より）



C 区 139SX 西壁土層断面（東より）





A～D区遠景（南より）



A・B区遠景（北より）



A・B区全景（北より）



A・B区全景（南より）



B区遺物出土状態（西より）



B区土器 503・538・543 出土状態（東より）



B区 026SD 遺物出土状態（南西より）



B区土器 480・482 出土状態（東より）



下懸遺跡（平成 26 年度）



B 区土器 495 出土状態（南より）



B 区 028SD（東より）



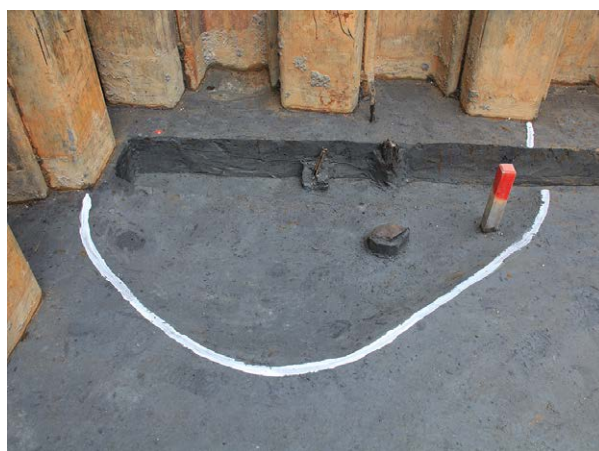
B 区 026SD（東より）



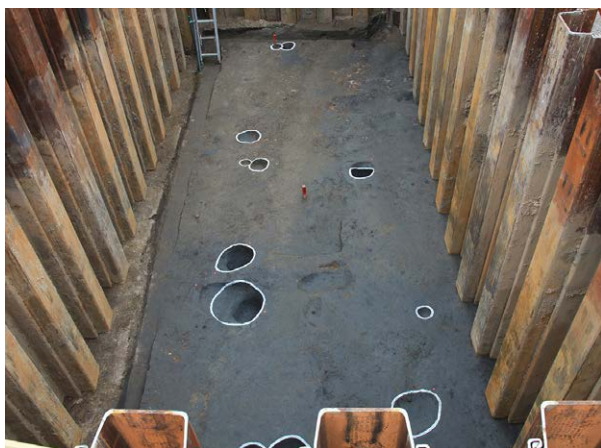
B 区 026SD（北より）



C 区全景（南東より）



D 区 014SK（北より）



D 区全景（南より）



D 区全景（北より）





調査区遠景（西より）



水田全景（東より）



1 面全景（東より）



210SI 炭化物出土状態（南西より）



210SI 炭化物出土状態（南西より）



210SI（南西より）



2 面全景（西より）



2 面全景（東より）





A 区 2 面全景（北西より）



A・B 区遠景（南より）



A 区調査前風景（北より）



A 区調査風景（北西より）



A 区 1 面全景（南より）





A 区●SZ112（北西より）



A 区 SZ113（南西より）



A 区 114・115・116SZ（北より）



A 区 116SZ：048SD 土層断面（南西より）



A 区 116SZ：048SD 土器 637 出土状態（南西より）



A 区 116SZ：048SD 土器 636 出土状態（南西より）



A 区 113SZ：025SD 土層断面（北東より）



A 区 113SZ：025SD 土器 639 出土状態（北東より）



五反田遺跡（平成 22 年度）



A 区 113SZ : 055SK 土器 640・641 出土状態（西より）



A 区 115SZ : 046SD 土器 635 出土状態（北より）



A 区勾玉 S7 出土状態



A 区ガラス小玉 S8 出土状態



B 区 1 面全景（北より）



B 区管玉 S11 出土状態



B 区 2 面全景（南より）



B 区 2 面全景（北西より）





調査前風景（南より）



表土掘削（北より）



調査区全景（南より）



調査区全景（北より）



調査区全景（南より）



調査区南部（南東より）



調査区中央部（北東より）



調査区北部（北東より）





A 区 1 面全景（北東より）



A 区 NR01（西より）



A 区 2 面全景（北東より）



A 区 3 面全景（南より）



A 区 3 面南部（北東より）



A 区 057SI（南東より）



A 区 058SI（南より）



A 区 070SI（北西より）





B 区遠景（南より）



B 区 1 面南部（南より）



B 区 2 面全景（南西より）



B 区 2 面南部（南より）



B 区 3 面南部（北東より）



B 区 145SI（東より）



B 区 069SI（南より）



B 区 069SI 土器 723 出土状態（南より）





1面全景（北東より）



1面北部（南東より）



006SD・007SA（南西より）



007SA・編物出土状態（南西より）



006SD 木器 W361 出土状態（南東より）



2面北部全景（北東より）



3面全景（南より）



008NR（北東より）







下懸遺跡（平成 21 年度）











172



201



205



214



255



259



186



238



下懸遺跡（平成 25 年度）





390



391



396



426



427



483



399



471



S3



471



S3



476



476



491



495



566



593











702-1



643



701



703

五反田遺跡（平成 22 年度）



五反田遺跡（平成 22 年度） 惣作（平成 23 年度）・（平成 24 年度）



W13



W75



W75



W28



W62



W78





W63



W76



W81



W93



W100



W101



W99





W104



W106



W111



W107



W113

W113



W107



W116



W117



W125



W126



W146



W243



W253



W254



W256



W252



W252





W257



W261



W262



W295



W297



W298



W290





W301



W307



W309



W310



W316



W329



W317



W318



W349



W350



W347



W362

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第210集

宮下遺跡・下懸遺跡II・五反田遺跡・惣作遺跡III

2018年3月31日

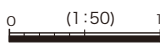
発 行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 サンメッセ株式会社

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第210集  
『宮下遺跡・下懸遺跡Ⅱ・五反田遺跡・惣作遺跡Ⅲ』 正誤表

16 ページ

<正>

スケール  を追加。

74 ページ

<誤>

10A 区 005SD・008SD

10A 区 005SD は 003SD と平行して走る溝で、幅 1.2m、深さ 0.4m を測る。008 はそれに直交す

<正>

10A 区 005SD・008SD

10A 区 005SD は 003SD と平行して走る溝で、幅 1.2m、深さ 0.4m を測る。008SD はそれに直交す

122 ページ

<誤>09B 区 022SX く字状口縁の甕。内面には頸部までケズリ調整がみられる。

<正>09B 区 022SX 54 はく字状口縁の甕。内面には頸部までケズリ調整がみられる。

124 ページ

<誤>土器番号 91 90 : 09D 区 041SI、土器番号 92 90 : 09D 区 041SI

<正>土器番号 91 91 : 09D 区 041SI、土器番号 92 92 : 09D 区 077SI

129 ページ

<誤>09D 区 041 SI 受口状の口縁を呈する壺で、端部上面に二枚貝による連続刺突が施される。

<正>09D 区 077 SI 92 は受口状の口縁を呈する壺で、端部上面に二枚貝による連続刺突が施される。

130 ページ

<誤>13A 区 001SK 細かい横位のミガキ調整がなされる鉢で、上部に2つの焼成前穿孔がみられるが、

<正>13A 区 001SK 209 は細かい横位のミガキ調整がなされる鉢で、上部に2つの焼成前穿孔がみられるが、

143 ページ

<誤>第120図 下懸遺跡13C区出土土器・土製品6、石製品(S=1/4)

<正>第120図 下懸遺跡13C区出土土器・土製品6、石製品(S=1/4、1/3)

153 ページ

<誤>112SZ 045SD から出土した高坏は、縦位のミガキ調整がなされた直線的に逆ハ字状に開く坏部をも

<正>112SZ 045SD から出土した高坏 634 は、縦位のミガキ調整がなされた直線的に逆ハ字状に開く坏部をも

174 ページ

15 行目

<誤>がクヌギ節の桁目材、W163・204 がモミ属の追桁目材、W164 がアスナロの追桁目材、W166・

<正>がクヌギ節の桁目材、W163・204 がモミ属の追桁目材、W165 がアスナロの追桁目材、W166・

23 行目

<誤>樹種は、W191・201・205・209・218 がサワラ、W192・199・200・212 がクリ、W195・202

<正>樹種は、W191・201・205・209・218 がサワラ、W192・200・212 がクリ、W195・202

25 行目

<誤>ジイ、W214・222 がスギ。W208・215・216・219~221・223・224 は丸棒。樹種は W208・

<正>ジイ、W214 がスギ、W222 がアスナロ。W208・215・216・219~221・223・224 は丸棒。樹種は W208・

写真図版 40

<誤>W361

<正>W362





W361

惣作遺跡（平成 24 年度）